

三二 文部省十等出仕稲葉文定等ヨリ久光公へノ  
建白

漢洋ヲ論セス斯道精通ノ医採用ノ件

〔包紙ウツ書〕

文部省十等出仕

福岡県士族

稲葉文定

上

閣下侍史

同 十二等出仕

戸田県士族

森 立之

医は術也、其術に精しけれハ其業驗あり、其術拙けれハ其病癒へす、此術を精うするにハ必学はずんハある可からず、其学ふ所は博きを以てよしとす、されと博きのみにてハ用を為ざる事亦多し、彼所謂多聞て疑ハしきを闕き、多く見て殆きを闕くを以て旨として、皇漢洋の三書何といふ事無く多く渉りて、其今日に切当なる者を選り用するを以て術に精しき者とす、然るを世之医者多くハ家伎を伝へ、調剤位ハ可なりに取廻せと書物といふハ見た事もなく、其上学医ハヒカ廻らぬなとム口功者ニ言こ

なし、或ハ漢医は洋を譏りて、煩瑣の死論なりとすれとも洋書を読んで後いふにあらず、又洋医ハ漢を嘲りて迂遠なる浅説とすれと、是亦漢書ハ覗きもせて言へるなり、是等ハいづれも皆口を糊するの渡世人にして医道之事ハ地を掃て弁へぬ族なり、さハ言へ、又学医にも術の拙きも無きにあらねと、本より不学の人の拙きにハ勝れりとす、不学の医にも亦術の巧ミなる間々あれとも、もし之をして学ハしめハ益巧ならんとす、されハ才力の及ぶ限りハ書籍に意を注ぎ、其善を取り悪を捨て、自在に活用なしてこそ天下の名医とも謂つへし、何を漢洋之別を此間に論する事あらむや、皇国古昔ハ隋唐より医学も段々伝来て、其後宋元明に至り、其書益盛んに其学益開らけ、医流十三科之別有に至ル、如此開け来りて今に在てハ皇国伝来之医術にて、活人之術は自から存せり、扱又中古以来、本邦經驗之諸方ハ舶来薬種を用ひすして、国産固有之薬品ニ而大抵治療に事闕けす、只龍麝・沈檀を始め大黃・甘草の類に至りてハ来舶を待ざる事を得ず、

御申上

かゝる開化の今日に至りてハ洋ハ益洋にて開らき、漢は益漢にて開らき、内外二科の差別なく、医門多族起死回生の功を顕ハす者ハ建置き、其他凡庸の拙医、薬性の寒熱ハ扱置き、猪苓ハ木やら草やら、龍骨ハ石欵土欵弁兼ぬ程の無眼の医生ハ廃業せしめても苦しからず、唯々其術に精しき者に於てハ漢洋の別無く御採用相成候様此儀奉建白候、尚御尋も候ハ、委曲可奉申上候、頓首百拜、

明治六年十一月

文部省十二等出仕

戸田県士族

森 立之

文部省十等出仕

福岡県士族

稲葉文定

文書原寸 縦一六・五種

包紙原寸 縦一七・五種

横 八九種

横 一七・七種

三三三 鹿兒島幾尾ヨリ東京御家扶へ

久光公及公子ノ御機嫌伺

(封紙ウラ書)  
「御家扶様方

まゐらせ候

幾尾

猶又御当地ニても

從三位様御初御揃被遊、ますく御機嫌御よく被為入、御同やう

於米様御初

於成様ニもいよく御機嫌よく、御勇ましく被為入

候御事、数々御めて度有難まいらせ奉存候、此よし

も御序の節、よろしく御申上被成可被下候、猶御せ

つ角く時季御大事様ニ、御いとキく被遊候やう

ニと御いのり上られ候、万く年もと、めて度かし

く、

御めて度御便りニ付、折柄御機嫌御同被遊度仰上げられ、

まつく両御地ニ而、御揃被遊御機嫌御能被為入候御事、

御めて度き時分から追々御寒サ強相成候へとも、猶

御前益御機嫌御能御寒さの御障様も不被為有、御上り等

も御程よふ御手添させられ候ハ、御勇まし様ニ被為入候

御事と、いか程か、御めて度有難思召上られ候へ、御同様

悦之助様

真之助様ニも益御機嫌御よく御勇まし様ニ被為入候御事、

御目出たく有難思召上られ、さやうニ御座候へは御便り

ニつき御めて度御機嫌御伺あそはし度、御同やうニ

於成様よりも御機嫌御伺仰上られ度、此よし何分よろし

く御取成御申上被成候やうニ御頼遊はし候、めて度

かしく

文書原寸 (折紙) 縦一六・三種 横四六種

三三 山階宮晃親王ヨリ島津従二位公へ

御礼詞

(封紙ウツ書)

一奉呈

島津二位様

玉案下

晃

フ

フ

尊書恭令拜見候、如命寒冷増加候処、益御勇健奉大賀候、  
扱不存寄水鳥数羽・御国産美鯛一折拝受深々忝厚御礼申  
入候、御入念御書中一々不能御答失敬高免可被下候、先  
は御礼迄如此候也、  
敬白、

西十二月五日

御添書畏入奉存候、不順之氣候、折角御用心々々伏

願候也、

文書原寸 (折紙) 縦一七・二種 横四九・三種

三四 税所仲五ヨリ上村源蔵へ

帰県後ノ西郷党動靜探索報告

一筆致啓上候、寒氣相催候処、先以

上様御始

御子様方益御機嫌克被為遊御座難有仕合奉恐悦候、然

は此節天下之形勢一変イタシ候由、西郷始其他奸賊等

帰県イタシ候始末ニ付、当地之有志輩賊等同腹之姿ト

相成手ヲ分ケ探索イタシ候処、左之通、

一薬師馬場住人篠崎五郎ト申羅卒頭領、但西郷脇股之者帰  
県後四日位相過キ、刀拾本箱ニ入付、感通丸より東京  
エ出府イタシ候由探索イタシ候処、刺客ト被察候但箱  
大工森田嘉太郎ロヨリ相知レ候事、

一來三月迄之内、岩倉公始其他押倒シ、朝廷之瓦解グハカニ乘  
シ、土州ト蝶蝶シ合セ大挙イタシ、天下之事々心之仮ニ  
執計ヒ、西郷自足利尊氏タラントノ心中ト被察候、西  
郷奸計首尾イタシ、一ヒ大挙イタス時ハ誰カ能ク当

之乎、其時何程歎息イタシ候共其詮有之間敷候半、下  
愚之身、恐多モ一日モ早ク

御政体御一定被為在候上ハ人氣西郷ニ離レ候上ハ王莽マウ  
如キノ大奸モ盗猫ニ等シク何様トモ可易制、古語ニモ  
先則制人、後レハ則被制人、今時ハ則不易得也、

依之成敗利鈍之所、能々御勤考ヲ以御勤可被下候、

一当地分営隊長貴島清ト申賊、西郷帰県後、急ニテ出沒  
イタシ候由探索イタシ候処、肥後鎮台ヨリ西京・東京  
鎮台エ差越候由、是ハ三営蝶シ合セ候密使ト相聞エ申

候、并東京羅卒モ同断之由、桐野信作事利秋ハ帰県後土州  
エ差越今ニ不相帰候、且亦近日中土州ヨリ三官以上之  
者、当地エ差越之由、此一条ハ土州ト蝶合シ大挙イタ  
ス計合ト被察候、田中周蔵・友野一蔵但兩人共ニ、大佐之官、当月  
五日六日比御当地エ出府イタシ候由、

一西郷信五從道・野津七左衛門等ヨリ帰県之奸賊等方エ探索  
ヲ入レ候由、然ルヲ賊等存シ居候由ニテ大挙之節ハ打  
捨出兵イタス賦之由、

一仏式ハ不宜候間、英式ニ立替不申候而ハ不宜ト、甘ク  
利ヲ以テ欺兵卒候由、依之強欲強欲之下官等利ニヒカレ同  
意之血判イタシ候由、且西郷東京エ養置候書生等モ同  
ク血判イタシ候由、

一先年ヨリ三十里外出被禁候大炮隊俗ニハグレ隊ト云、右  
之棟梁讚良清蔵ト申人之所エ西郷脇股之者児玉八實意之進  
ト申者差越、一味同心イタシ度旨相進メ候由、左候得  
共右讚良断然不応由、旁以難ニ心得一事ニ有之、且又屋  
八ツ後ヨリ武村大田大明神社ニ賊等一人ツ、会合シ、

都合拾人ニ及ヒ密談イタシ、其ヨリ西郷ガ宅ニテ終夜密談イタシ候由、是レハ我輩氣ヲ付見出シ申候、

一上様・岩倉公御同腹之様、西郷一味之者共申候由并西郷帰巢後出沒イタス有様、殆變化之者ニ等ク稀代之曲者ニ御座候、将又居家之時ハ同腹之者共集合シ、終夜合レ頭密談イタシ候由、真ニ可恐之甚者也、

一岩倉公始其他御倒レナサレ候而ハ

皇業相立間數候半、此節天下之形勢正路ニ立帰不申候而ハ、遂ニ奉<sub>ニ</sub>天孫之國ヲ<sub>ニ</sub>為<sub>ニ</sub>夷狄之人トハ此言ニ御座候、真ニ此節之變革、天孫之御血統未絶也ト乍恐奉存候、

一御參朝其外御出口等至極被入御念被下度奉頼候、且此節帰巢イタシ候者共禁酒之由、何事ヲ盟候半、右之条々志士之輩昼夜忘寢食致探索候事、真ニ

上様御盛徳ト頼母敷奉存候、将又当月七日夜四ツ後ヨリ当地分當出火ニテ大方焼失、山下御屋敷如何御座候半ト奉存候処、殊之外御無事ニテ難有事ニ御座候、有

志輩馳続キ大働之由、分當卒等ハ鳥合ニシテ役ニ立不申、方々ニ逃散候ヲ有志之面々棒ニテ散々打倒シ候由、右出火之一条付火ニテ有之候様噂有之、奸賊等分當ヲ焼払ヒ、卒等生所ニ離散イタサセ、外ニ賊等同腹之者入替分當ヲ可取手段ト被察候、篠原冬<sub>(國幹)</sub>一分當方エ一昨日ヨリ出席イタシ候由、何事ニテ候半、

一武村大田大明神社ニ西郷一味之賊等、昼八ツ後ヨリ一人ツ、集会イタシ、都合十人ニ及ヒ密談イタシ、其ヨリ西郷宅<sub>ヲ</sub>ニ差越終夜密談イタシ候由、且亦友野一藏ト申者、三日跡東京表江出府イタサセ候由、此以西郷腹心之者之由、前条申上候貴島清ト申賊、西京表エ一条伏見宮様当拾一二歳<sub>ヲ</sub>ニナラセ給ヒ余程御出来之由、右宮様ヲ取立、九州・大坂ヲ取り可奉抗東京奸謀ニテハ無之哉ト吟味イタス事ニ御座候、将亦昨夜煎<sub>レ</sub>茶西郷ガ所行如何ト咄居候処、度々叩ク時雨之音、袖寒エ渡ル冬之夜ニ不思議ニモ一雷鳴有之、世中如何成行ク事ナラント皆眉ヲヒソメ吟味イタス事ニ御座候、真ニ此

節之一変不易得也、此節天下之形勢、正路ニ立直リ不申候而ハ遂ニ神州ハ事可レ止、奉ニ天孫國ヲ遂為ニ夷狄之人トハ此言ニ御座候、此節之一変

天孫之御血統未絶所也ト奉存候、

上様ニモ右大臣ニ 御昇進被為在候様伝信機ヨリ相通

候由、当地大評判ニ御座候、左候得共愈 御昇進被為

在候御書面拜見不仕候ニ付安堵不仕候、依之御当地之

形勢遂一被仰聞度奉頼候、先は御当地之形勢

上様御機嫌奉伺度、且当地之形勢申上度如是御座候、

恐惶謹言、

十二月十一日

税所仲五

上村源藏様

文書原寸 縦一六種 横二七種

三三 伊地知正治ヨリ西郷吉之助へ

合二通

征韓夢物語并物品消費ノ比較表

(包紙ウツ書)  
一上

二二二五ノ一

其時は早々之御出立ニ而爾后云々、朝鮮史は其節直ニ外務省江致返納候間首尾申上候、今更申茂先ツ無益之様候得共、彼歴史ト略図ト征韓略ト明清史ト比較、左之通ニ御座候、

東西百五十里計、南北五六十里、凡我奥羽二ヶ国ヲ合セシ位、

但朝人ノ説ハ採ルニ足ラス、彼京城河口ニテ是ヨリ

都ハ一千里ト米人ニ答ヘシガ如シ、黒田如水ガ浦山

ヨリ鮮京ニ到ル十日程、鮮京ヨリ黄緑江支那界ノ大

河五日程ト云フ、正シカルベシ、「人口五百万位」

「田畠ノ数ト兵役并牧納ノ割合ニテ凡ノ賦兵員、乱

世ノ末「二十二万八千」治世ノ末「九万四千五百」

内八分ノ一騎兵

右ノ兵員トハ田舎ノ夫立ニ出家ヲ加ヘシモノ、内三分ノ

一ヲ先鋒ト称シ、都詰ノ者ト支那古流ノ<sup>上</sup>練調ヲ成ス事アレドモ外ハ然ラス、訓練ヲナスト唱ルモ蓋シ「三万余」ナルベシ、

水田陸田「五十万結一結」トハ、我ノ一町歩ヲ云カ如シ、日本ニテ賦レバ草高「五百万石」ニ当ル、右ヲ「成宗十一年」ノ制ニテ「一結租米二石」ヲ以テ、上中下平均ノ数トスレバ彼所謂明升ヲ用ヒタランニハ、則チ我ノ「一石」ニテ現蔵入米日本升ニテ「五十万石」

南方海辺ニ十三ノ港アリ、則チ京城ニ米石運送ノ洋口ナリ、北方ハ山多ク南方ハ平地多シ、故ニ鮮国ノ膏沢ナルハ南方ニ多シ、

支那ヨリ朝鮮ヲ討セシコト歴代都合「二十一度」ト云、毎戦鮮人敗走セシハ大小ノ勢モアルベケレドモ、一度モ朝鮮人ニ名アツテ正キノ役ナシト云、

米国人ノ押入シ河ハ、文禄度ノ征史ニ引合スルニ所謂漢口河ナルベシ、

文禄ノ役渡海陸軍「十三万」、海軍「九千二百」、四月十

三日小西行長浦山海ニ着船シ、即日浦山城ヲ攻落ス、十四日取金海府城云々、

五月二日行長京城ヲ取ル、浦山海ノ戦ヨリ都合二十日ニ当ル、是ヨリ後チ軍議不一決、且ツ孤ナルヲ以テ行長進軍遅々、

六月十三日取平城、浦山ノ役ヨリ六十日ニ当ル、

満清ヨリ朝鮮初度ノ征「聡元年正月十四日平壤ヲ取ル、

二月五日黄州ヲ取ル、三月三日朝鮮王降和成ル、義州ノ

初戦ヨリ五十日ニ当ル、

同再度征、初度ヨリ十一年ニ当ル、「崇法元年十二月十

二日平城ヲ攻陥ス、十四日進テ——ヲ取ル前ニ当月三日、

清帝馬服塔茅ニ命シ、三百ノ兵ヲ授ケ偽テ商人姿ニテ星

夜兼行、朝鮮王ノ京城ヲ囲マシメ、引続テ親王一人・將

軍一人ニ一千ノ兵ヲ授テ進マシムル、四日鮮兵六千ヲ

攻破ツテ王城ニ至レバ鮮王詐計ヲ以テ遁レ出シヲ四十里

ノ路ヲ追打シ、遂ニ朝鮮王ヲ南漢城ト云ル処ニテ攻囲ム、

二十五日清帝自ラ南漢城ノ攻手ニ加ル、

二年正月二日朝鮮ヨリ来会スルノ援兵ヲ打破ル、同二十三日ヨリ鮮王降伏ノ掛合加ル、同二十九日朝鮮清帝ノ陳門ニ来テ降ヲ乞フ、初戦ヨリ四十八日ニ当ル、

右ニ依テ比較スレハ、文祿度ノ征韓ハ清人ノ軍ヨリ一層速ナリトス、然レトモ征韓ノ功否、勢懸隔スルモアルハ何ソヤ、我ハ百戦ノ練兵ト雖モ海外ノ征討ハ初戦ナリ、況ヤ朝鮮ヲ極寒ノ地ト誤視スル故ニ、夏四月ニ至テ征討ヲ始メタリ、此朝鮮ノ寒氣「北越」「奥羽」ニ甲乙ナキヲ知ラサルヤ、而テ鮮人諸道ニテ遁ル、モノ、往々山ヨリ出テ我軍線ヲ妨ク、清人ノ征韓ハ十二月・正月ニアリ、故ニ鮮人雪ニ障ラレ、山地ニ出入スルコトヲ得ス、我ハ海路ノ暗キヲ以テ百里外ノ浦山ヨリ入ル、故ニ彼奔逃スルニ便ナリ、清人ハ元来地勢ノ便ナルト雖モ彼偽テ商人隊ヲ作り、不意ニ侵入ノ策ヲ見レバ唯鮮王遁レテ海外ニ奔リシ、或ハ加勢ノ来ランコトヲ慮ル、深ト云ベシ、我当日ノ兵鋒ヲ以テ疑念ナク討入ラバ、明軍実ハ恐ル、ニ足スシテ、当時ノ人々明ハ大国大軍也ト聞懼テ退避ノ勢

ヲ免レス、遂ニ七年ノ久シキニ至ル、所謂小西ノ講和ヲ説コトヲ誤ルノミニ非ルナリ、

今按スルニ唐ノ李統ノ征朝兵「五万」ヲ用ユ、衆寡ノ用ヲ知ト云ベシ、

韓人ノ武備ヲ探知スルニ、我ノ征銃ハ所謂「ミニヘル」ニテ適當スベシ、征兵ト新募ニテ宜シカルベシ、然後「魯西亞」ト戦フニ当テハ堂々タルベシ、常備兵先生方ニ次渡申カ、又ハ針打七連良筒ヲ申請テ我ノ兵氣ヲ一振シテ快戦ン乎、

先達而朝鮮征伐事咄シ、旁荒々如斯御座候、頓首、

西十二月十五日

伊地知正治

西郷吉之助様

冊子原寸 縦三・八櫃 横一六・八櫃 三枚

二二五ノ二

物品ト消費トノ比較表

皇国ノ人口総計 三千五百万



製造スル人 三千五百万ノ  
十カセラ取 二千四百万 コノ一人毎ニ平均シテ百品  
宛ニ造リ出ストスレハ二十  
四億万箇トナル

単ニ消費一辺ノ人 (マ) 千二百万人 合併シテ

自ラ製造シ自ラ消費スル人二千四百万人 三千五百万人

百工也 百農也 製物ト産物トノ二品 二十四億万箇 コノ一箇ノ品ヲ  
一人ノ消費トス

三千五百万ノ人口ヲ凡ソ七十倍シテ、二十四億万人ト

ス、故ニコノ二十四億万箇ノ品ヲ一人毎ニ一品ヲ消費

スルトコロノ配当ナレハ、三千五百万人ヲ一組トシ、

コノ三千五百万人が七十組ナケレハ、コノ二十四億万

箇ノ物品ヲ消費シ尽スコト能ハス、然ニソノ一組ノ三

千五百万人ハ今コ、ニ存スレドモ、ソノ余ノ六十九組

ノ三千五百万ノ人不足スレハ、二十四億万箇ノ内、僅

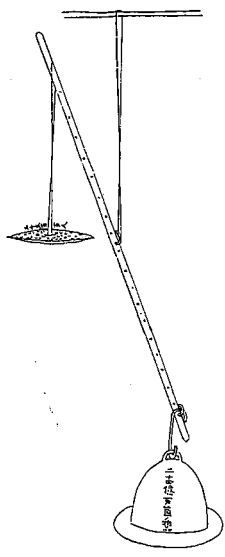
ニ三千五百万箇丈ケノ物品ヲ消費ノ道アリテ、残ルト

コロノ二十三億六千五百万箇ノ物品ヲ消費スル道欠ゲ

タリ、何ヲ以テコノ二十三億六千五百万箇ノ物品ヲ消  
費スヘキ道ノ足ラサルトコロヲ補ハンヤ、若シコノ不  
足ヲ補ハント欲セハ、六十九組ノ三千五百万人ヲ別ニ

設クヘシ、ソノ方法如何、

此ノ廿四億万箇ノ物品ヲ消費スルニハ、三千五百万人  
ヲ一組トシテ、之ヲ七十組合ハセザレハ、廿四億万ノ  
物品ヲ消費シツクスコト能ハス、故ニソノ廿四億万箇  
ノ物品ト七十組ノ中ノ一組ノ三千五百人トヲ權衡ニカ  
ケ分クレハ、ソノ輕重ノ差ヒアルコト図ノ如シ、



製造ノ品ト消費スル人ト比較スレハ、造リ出ス品ハ、  
消費ノ人ヨリ多キコト、或ハ千倍或ハ万倍ス、タトヘ  
ハ扇ヲ造ルモノ一年ノ内三百日ヲ勤業ノ日トシテ、毎  
日造リ出ス扇ヲ五十本ツ、トスレハ、一年ニ製スル扇  
一万五千本トナル、コノ扇ヲ消費スルモノ一年ニ一人  
宛ニ一本トスレハ、製スルモノハ一人ニテ、消費スル

モノハ一万五千人ナケレハ消費シ尽サズ、又烟管ヲ造ルモノ一日ニ二十本宛造ルトスレハ一ケ年三百日ヲ勤業トスニハ六千本ナリ、是レ亦作者一人ニテ消費スルモノハ六千人ナケレハナラズ、樵夫カ一日ニ一荷ノ薪ヲ採レハ百人ノ食ヲ炊クヘシ、野菜売リカ一荷ノ野菜ニテハ百人ノ食ヲ賄フヘシ、漁人カ一荷ノ魚貝ヲ捕レハ、是レ亦百人ノ食トナルヘシ、万品都テコノ理ニテ製スルモノ一人ト、消費スルモノ或ハ百人、或ハ千人、或ハ万人ト釣り合フヘシ、ソノ中ニ精細ナル品ハ日数カ、レドモ、ソノ代ハリニハ精細ナル品ハ日々用ヒツクスモノニハアラス、或ハ五年ニ一品、或ハ十年ニ一品、或ハソノ身一代ニ一品、或ハ二代三代ニ持チ伝ヘルモノモアルヘシ、真鍮（マテ）ヤ唐金細工ノ如キハ年々求ル品ニハアラス、然レハドモ金物細工ノ職人ハ元日ヨリ廿九日マデ日々造リ出スモノナレハ、製作者一人アレハ消費スルモノハ千万倍多カラザレハ、物品余リアリテ国家困究セザルコトヲ得ズ、故ニ経済ノ真術ハ先ツ消費ノ

道ヲ始メトシ、製作産出ヲ後ニスヘシ、

文書原寸 縦四〇種 包紙原寸 縦三一・八種

横二八種 横四四・五種

三六 佐賀県土族田中好彝ヨリ岩倉右府ヘノ呈書

左大臣欠員ノ理由ヲ問フ

是は六年十二月十七日朝岩倉卿邸ヘ参候処、御同人儀御所勞之由ニ付、右家令三好某ヘ頼差出置候控、同十九日朝又々参候処、同断御所勞之由ニ付空罷帰候、別紙歎願書一通、乍恐御内々差上候条、宜敷御英断被下候様奉願候、仍敬白、

明治六年十二月十七日 田中、

右大臣岩倉卿

閣下

乍恐敬奉疏書

曩ニ数百年因襲之久キ、或ハ其名有テ其实挙ラサル者ア

ルヲ深く慨セラレ、御更始以来、大小ト無ク種々有名無  
実ノ弊ヲ除キ、政令多岐ノ憂無ラシメ、内以テ億兆ヲ保  
安シ、外以テ万国ト対峙セラレント

御勅言之旨、忝クモ敬テ奉拝承候、兼テ

皇道益御興隆相成度儀ハ、朝ト無ク夕ト無ク肝胆ニ銘シ  
以テ天神地祇ニ祈願仕候、夫レ人之君トシテハ仁ニ止リ、  
人之臣トシテハ敬ニ止ル、故ニ人君トシテ衆ヲ得レハ則  
チ国ヲ得ル、衆ヲ失ハ則チ国ヲ失フト、古語ニコレ有り、  
是必然之理也、臣不肖ニシテ学古今ニ乏シク、且ツ方今  
之御政体モ細事ニ至テハ能ク存知シ難ク候得共、菅家遺  
書ニモ人君之要政ハ民ヲ撫スルヲ以テ本トス、民は神明  
之寶也ト云云、恐多クモ今也文武百工法令等ノ筋ハ余程  
御手厚キ様ニ存シ候得トモ、却テ億兆保安之儀ハ未タ御  
手薄ク様ニ相見候、譬億兆安土ヲ得スシテハ、外万国ト  
対峙セラレ給フ道モ相立難ク候条

御内外共相応之御所置遊ハサセラレ度、前ニ億兆安堵之  
儀、未タ御手薄ク様相見候ト申ス訳ハ、臣明治辰冬、同

午春、同未夏ツ、東海道筋へ参リ候、度々貧民ト相見路  
傍ニ倒死致シ居、去迎其懸リ宿村ノ人民共視ソキ見ル者  
モコレ無ク趣キ、且又近来新聞誌浜横之内、遠州浜松県土  
族中根底吉貧窮ニ迫リ、終ニ家族七人共餓死ストコレ有  
リ、実ニ可憐之甚シキ事也、臣不肖ナレトモ常ニ憂ニハ  
先ツテ憂ヒ樂ニハ後レテ樂ム心ハ有レトモ、未タ憂ニ臨  
ミ其道ヲ尽ス能ハス、抑モ国之盛衰存亡之基ハ其大臣ニ  
有リト、大臣之基ハ人君其人ヲ得ルト得サルトニ有ト、  
嘗テ之レヲ先師ニ聞ク、其大臣トハ何ソ、太政大臣・左  
大臣・右大臣是也、而シテ太政大臣ハ実ニ  
御国家之棟梁大臣ニシテ、左大臣・右大臣ハ常ニ  
聖上之左右ニ有テ万機ヲ輔佐スル大臣ト存シ、故ニ三職  
之大臣方一員モ闕セラル可カラス、然ルニ 御更始以来  
今既ニ六年臘月中旬ニ至レトモ未タ一度モ左大臣之其職  
ニ有ルヲ聴ス、全体左大臣御欠官ノ子細ハ御当用之人無  
之訊ニ候哉、或ハ御滅略ノ御事ニ候哉、本立而道生スル  
道理ニテ万機帰一ノ御政府ナレハ、第一三職之大臣御欠

員無ク、且ツハ

叡慮之通、億兆保安之道、尚又御盛大ニ被為立候様、旁  
幾重ニモ奉歎願候、依之身命ヲ顧ス、誠惶誠恐頓首敬白、

明治六年十二月十七日

佐賀県士族

田中好彝<sup>④</sup>

正院御中

尚以當時從二位島津<sup>□</sup>卿実ニ  
皇國之大臣ト相觀候ニ付  
御國家之為メ不日ニ御用ヒ被遊度奉存候也、

冊子原寸 縦二七・三釐 横一〇釐 三枚

### 三二七 大久保参議久光公訪問記事

去十七日午後四時頃より大久保内務卿<sup>(利通)</sup>独歩ニ而 島津公  
御邸江罷出、夜七時頃迄御話申上候由、右は即今天下之  
形勢斯迄押崩れ候上ハ、此假ニ而ハ迎も往々治平之見込  
無御座候、就而ハ公明正大之目途ヲ立、官員進退黜陟等  
公平至当之処ヲ以、大御変革無御座候而相濟不申ニ付、  
何卒公之御主意奉戴尽力仕度、殊ニ自身見込之次第も夫  
々申上候処、公ニハ拾四ヶ条御建白之外、更ニ御見込

無御座旨被仰聞候趣ニ御座候得共、大久保見込之処も定  
而其辺に就而見込ヲ付言上仕候事と相見得至極尤ニ被思  
召候由、乍併兼而狡黠之人物ニ付、愈以心中悔悟相改居  
候哉、屹度其辺御見留にハ不被為在候趣ニ御座候得共、

言上之趣ハ先理ニ当リタル事故、然ラハ其見込ヲ以施設  
致シ可申旨被仰聞候由、乍去兼而御病体之義ニ付、此嚴  
寒ニ向ヒ御連勤ハ被成兼候趣被仰聞候処、夫レハ是非御  
日勤相成不申候共、御用向ハ私時々罷出相伺可申、又御  
出仕無之候而相濟兼候節ハ、其時々御沙汰ニも相成可申、  
何卒御尽力偏ニ奉希候旨申上退出仕候由、先日右之振合  
ニ御座候得は御引入被遊候思召ハ更ニ不被為在候旨兼池  
迄御咄御座候由、

文書原寸 縦一六釐 横五四・五釐

### 三二八 伊達宗城松平慶永ヨリ麝香間一同へ

祝賀参内ノ件

写し

以回章申入候、抑昨十九日隅川橋場辺

行幸、為 御小休、慶永・宗城邸へ

臨御被為在深奉謹畏候、

還幸後兩人為御礼参

朝之處、本日

皇太后宮新御所へ

移御被為在恐悦申上之儀、(徳大寺実則)宮内卿殿へ相伺候處、麝香間

詰之面々参賀候様被申聞候ニ付兩人へ御礼後 移御恐悦

申上退出仕候、此段申入候、各位ニも一兩日之中恐悦御

申上可然と兩人申談候、此段申入候也、

明治六年十二月廿日  
午前第七時

宗城  
慶永

本文書ハ二一九号文書ト同紙ニ付原寸略ス

三二九 大原重徳卿ヨリ久光公へ

祝賀参内ノ件

麝香間詰一同名当貴名も御座候、小子忘却仕不申入候、

右之趣被示候、昨日回章御到来之砌、衣体之事ニ而小礼

所持無之ニ付不参仕、名代可申上と御話シ申候、小生ニ

も触ニ衣体之事迄ハ無之、慶殿ともニ御礼参上之便ナレ

ハ、元より小礼服可被着筈も無と察し候へハ羽折ニても

子細なくとハ存候へとも恐悦申上候儀ニ羽折ニても有之

間敷と存候へハ不参之方無難と存候間不参仕、且近来名

代と申事ハ無御座候、尤以書取所勞ニて不参之事、宮内

省へ申入候心得ニ御座候、此段申入候、昨日とハ相違候

へは一寸申入候、且松岡之申参り候振合之書取写し進呈

候、尤御返しニ不及候、早々不典、

十二月廿一日 落字書損之原  
御海怒是祈

重徳

二白、昨日ハ乍毎度大ニ長座、嘸御困りと乍察矢張

入夜ニ近御久座、御当りも無之哉とあんし申候、

用向ノ趣意も前後いたし全老衰、御一笑可被下候、

従二位島津公

文書原寸 縦一六・四種 横五二・三種

三三〇 鹿兒島御家令御家扶ヨリ東京ノ御家扶へ

久光公等ノ御機嫌伺

於其御許

(島津久光)

從二位様益御機嫌能

(島津久封)

悦之助様

(島津忠濟)

真之助様愈御安康被為成御座恐悦御儀奉存候、

於爰許

(島津忠義)

從三位様

御前様益御機嫌能

清姫様

充姫様其外

御物容様愈御安康被為成御座恐悦御同慶奉存候、明日晝

田新平出立ニ付、右御左右申上越候条宜被申上候、以上、

十二月廿二日

御家令  
御家扶

東京

御家扶

文書原寸 縦一四・二種 横六六・三種

三三 久光公へノ御召状

御用候条、明廿五日午前十時、礼服用参官可有之候也、

明治六年十二月廿四日

式部寮

從二位島津久光殿

文書原寸 縦一八種 横一四・五種

三三 内閣顧問任命ノ辞令

從二位島津久光

任内閣顧問

太政大臣從一位三条実美奉

(朱「天皇御覽」)

明治六年十二月廿五日

文書原寸 縦三・六種 横三〇・六種

三三 国事御評議参列ノ辞令

從二位島津久光

親臨国事御評議之節参候被

仰付候事

但大臣ノ次席タルヘキ事

明治六年十二月廿五日

太 政 官

文書原寸 縦二・八種 横二八・五種

三三三 勝安芳ヨリ大久保利通?へ

近衛将士婦国ノ件等

拜啓雨催候、村田巳三郎被参候、一昨夕着府旨、今日は

休日故明日御届仕候心得ニ御座、(候脱之)久々にて段々相話、此

度は尊君江御依頼申、是非勉励いたし候方可然と考候旨

申聞せ置候、当人も先拜参可致哉と存候、

今朝奈良原・海江田両先生御出、(信義) 従二位殿(島津久光)ニも御参、

先宜敷且左輩衆も安心追々帰国之旨ニ御座候、是ニ而折

合候ハ、公私大仕合と相考候、過日已来村田氏出府御待

之事故、不取敢此段申上置候、

十二月廿六日

安芳

文書原寸 縦一七・七種 横五三・八種

三三五 久光公へ御馬車下賜

御馬車

文書原寸 縦三八・八種 横五二・二種

老輔

三三六 伊東長辭ヨリ島津従二位公へ

歳暮御祝儀

(封筒) 一従二位島津公閣下 伊東長辭

(封筒ウラ)

一輪拜呈仕候、歳杪寒威倍進栗烈候候、先以益御勇健被

為涉奉賀候、当年ハ格別特寵相蒙千万奉拜謝候、歳暮御

祝儀以参可申上候処、塵紛冗々参堂仕兼、使ニ付御祝儀

申上候徴迄ニ、乍不腆梅樹一盆進上仕候条御莞存奉仰候、

他事新年芽出度可申上候、誠恐頓首、

十二月廿七日

長辭

二位殿下

侍史

文書原寸 縦一六・五種

封筒原寸 縦一八・五種

横四四・二種

横 四・七種



三三七 三条実美公ヨリ島津久光公へ

宮内省達触

〔封筒〕  
島津久光殿

三条実美

御披露

〔封筒ウツ〕  
十二月二十七日

〔封紙ウツ書〕  
島津久光殿

三条実美

御令扶中

從宮内省達触御通申候也、御加判之上宮内省江御返シ可

給候也、

十二月二十七日

三条実美

島津久光殿

文書原寸 縦一七・五種 封筒原寸 縦三三・五種  
横四三・一種 横一一・三種

三三六 長崎県士族楠本覚蔵ヨリ岩倉右府へ

我国体ノ尊嚴ヲ論ス

〔包紙ウツ書〕  
上

楠本覚蔵

明治六年十二月念七日、西海楠本後覚頓首再拜、

上書於右大臣岩倉公閣下、覚素海浜之一布衣、幼而誦字  
内之書、長而志豪傑之事業、曩者堯藩制之始、謬拜奏任  
之命、已而及合諸県、受九等之任、至於今茲一月之末而  
黜廢矣、覚齡踰強仕、志大縱狂、終無所成、不知所学不  
得其正邪、抑時不得其用也、噫天命維新、王化隆興、已  
黜權臣之跋扈、又取列藩之弊政、天子明々在上、賢相和  
輯執柄、群材彙進供事、四海寧一、百姓按堵、今日之隆  
盛可復謂四三皇六五帝者矣、然則覚之時不得其用者、果



所學不得其正也、安分俟命、于農于農、固守其素、而歿身焉、固其所也、復何怨咎之有、覺廢人也、決不可言天下之事、縱令欲言之、天下之人、決不可聞覺言也、然而報國之深、憂世之切、猶欲敢開口者、覺之不知其分、而狂愚可亦謂太甚矣、覺聞知者千慮必有一失、愚者千慮必有一得、又聞善為民者、宣之使言、狂妄之言、明者挾焉、此覺所以敢欲為國家發一言、而不得亦已也、覺伏以天道流行、陽中含陰、陰中孕陽、極治釀亂勢、至安伏危機、此必至之理也、然則治安之世、謂之禍亂交發可也、謂之危急存殲亦可也、故古之君子、兢兢業業、日慎一日、制治於未亂、求安於未危、默消禍於冥々未形之際、感化憂於隱々莫見之中、今日乾綱鼎新、治化隆盛、不可決言無至禍至危之事、已既有危禍之憂、斯不可不予講備防之術、而求消化之方也、覺狂愚請謹條之曰、予防之術、在行三可、默消之方、在去六不可、夫方今天下之急務、可必崇朝廷之規模、則不可輕改画一之成憲、不可已改画一之成憲、則不可輕務命令之紛更也、可必慎百官之撰舉、則不

可輕陷黨類之熒惑、不可已陷黨類之熒惑、則不可輕恃輕俊之幹弁也、可必寬租賦之規制、則不可輕逐商壳之末業、不可已逐商壳之末業、則不可輕倣外國之法度也、抑吾神州、開外國之交際也、其始出於不得已、其出於不得已者、蓋知天道一視同仁、無彼我之別也、蓋知時勢彼漸變夏、我不夷視之也、已而彼珍枝奇巧、愕目聳耳、富強妙麗、落胆喪氣者、日至月盛、始謂採彼長、終至於忘其短、而並採之、天下滔滔、翕然嚮之、口說禮義廉恥、自謂文明之人、而其所勸非販鬻之事、則理財之巧、尺寸之地、無不有稅、而毫釐之利無不有征、損彼而益此、舍此而加彼、租法日細、收納月煩、於是輕銳之士漸舉、奮其材幹、逞其俊弁、新說奇論、剖毫毛、析糸忽、喋々囁々、非英則米、非普則仏、為朋為党、不復可弁朱紫苗莠、則將何以得公百官之任、而慎其撰舉之法耶、已採彼西法、用彼西學、則不可不事々模之、件々倣之、模之倣之、則不可不更本邦承襲之制、其本邦承襲之制、行之者已踰千年、則適其地宜民利者固也、欲苟更之、掣彼得此不亦少矣、於

是已更而復紛之、不可不朝令而夕改也、已紛更而紛更之後、祖宗画一之成憲、蕩然掃地而尽矣、甚可寒心、吾神州君尊臣卑、秀出於万国之定体、不可不漸替也、此所以可必崇朝廷之規模也、閣下奉大命、周歷地球、米国之合衆、歐洲之各立、目視而足踐之、則各国之風土、諸洲之情偽、因設方法、因施制度、大而礼案刑政、小而牧畜樹芸、已洞然於心胸之際、而得其要領、於是量彼視我、審我視彼、適於風土之政、中於情偽之方、独有默運於方寸、而已得其肯綮、一定之權度、如庖丁見牛、閣下今日以其巨大之權度、輔佐明天子、握大政、執大柄、發大号、出大令、則固有非常之大舉、而必知不可外国之法輕倣、而商壳之末苟逐、而租賦之制可漸寬矣、必知輕俊之士不可輕信、而朋党之禍可畏、而百官之撰可漸公、矣必知命令之更可危、而承襲之憲不可苟棄、而朝廷之規模可漸崇矣、何謂崇朝廷之規模、恭惟太古天孫降臨、手握三種之神器、身駕六龍之鸞輿、措皇基於盤石之安、利群黎於瑞穗之樂、列聖守文、臣庶服命、礼案教化、粲然炳明、幾千年於茲、

噫亦烈矣、噫亦嚴矣、詒厥孫謀、以燕翼子、明主代出、碩輔互出積年之久、經慮之熟、審彼量此、視風土之宜、察人民之情、重義節尚廉恥之風漸成、而正紀綱立品制之政漸定、非一朝一夕之故也、但由今日外国交際之開觀之、則人文日著風氣月澆、固不可不加損於其間、而斟酌其制度也、至其大經大法、則為臣子者、遵奉繼述之不暇、豈忍凌替之哉、況乎於人非古之聖賢、知下古之聖賢、閱世故淺、熟民宜短、而一旦遽然、容易改之乎、故曰、守租法者存、破租法者危、此所以崇朝廷之規模、而不可務命令之紛更、改画一之成憲、為今日急務之一也、何謂慎百官之撰舉、古語有之云、天工人其代之、百官之事、固皆天之所為、天不能自為、人代為之、百官已奉天職、則不容假一毫私意、其為任甚公、又云、天視自我民視、天聽自我民聽、天固無声象、天下之公議、即天之視聽、奉天職之百官、不可不依天下之公議、以此也、此以古有鄉举里撰之法、有衆官論弁之式、有三載考績之制、其公詮鄭重亦至、猶有壳姦銜詐於其間者、況乎於輕慢粗卒、只党類

率擾之聽從乎、夫天下之學者、皆無不有材、皆莫不欲仕、雖然固有長於彼、而短於此者、又有詳於此而略於彼者、苟用而各中其器、則皆得其用、是故良工無遺材、但問其材之能否、察其德之良否、廓然大公、莫惡其異而喜其同、則野無遺賢、而天下之用拳焉、合衆異為大同、合小明為大明、天下之公議行焉、老成遠謀之士出、而黨類偏諛之論黜、賢能推讓之道行、而群小奔競之風息、天工或庶乎治矣、此所以慎百官之撰舉、而不可恃輕俊之幹弁、陷黨類之熒惑、為今日急務之二也、何謂寬租賦之規制、夫邦以民為本、民以衣食為天、然而食出於田、衣出於宅、一夫耕而一家不飢、一婦織而一家不寒、匹夫匹婦、所出有限、而上供公家之稅、下給老幼之資、其業可謂慘矣、故仁德之主、制其產、輕其租、寬其法、使綽々有余裕、而不敢尽其力、於是公家尚節儉之風、守忠質之素、量其定額之入、節其所出之度、以供宗廟社稷之粢盛、以制百官有司之祿食、不敢濫用之、惟民邦之本、本國邦寧、知其所畏也、珠玉不以可食、有之不足以充飢、珍玩不以可衣、

有之不足以禦寒、夫盛德之君、有見於此、抑末重本、汲々然、只愛民力、興庶功、兢々然、只寬租賦、教樹畜、使彼菽粟布帛、如水火之多、則風氣日淳、義節日崇、或庶乎稱吾瑞穗之名矣、覺嘗誦古令、有深感於其租賦寬簡而貢其土宜方物之義、噫先王愛民之至、一至於屯哉、夫民不產金玉、而生衣食、以其所生之物、貢獻公上、亦情之不可已者、而忠敬之至也、上愛下敬、上下交而為泰、此古昔先王之定制、而列聖承襲之、故曰無念爾祖、聿脩厥德、此所以寬租賦之規制、而不可做外國之法度、逐商賈之末業、為今日急務之三也、闔下身歷地球、明弁今古智通內外、群賢彙集、衆材羅列、咨彼詢此、洞然莫所惑於心、則固不須狂愚如覺者、饒古剩說也、但覺有一片丹誠、報國之念、不能自己者、敢陳於明公闕下之前、猶賴愚者之一得、万一有裨補於國家、而明者能納容耳、闕下幸留意焉、或庶幾乎軫危消禍矣、若或有訑々声音顏色、一毫露於外者、則如覺狂愚不足言、而終智士反顧謀夫却立於千里之外、言路閉塞、國家之事、或至於廢、不但廢、

而危禍亦隨至矣、覺作此書、踟躕久之、謂其涉嫌疑、触忌諱者、亦多、或恐懼大禍、已而奮曰、不罪言者、古先聖王之令典也、於是決意上陳、敢布忠悃、閣下幸亮納焉、臨楮不任戰惕之至、楠本後覺再拜、

冊子原寸 縦二七・八櫃 包紙原寸 縦三二・八櫃

横二〇・三櫃 七枚 横二三・七櫃

三三 松平慶永公ヨリ島津久光公へ

内閣顧問任官ヲ祝ス

〔封紙ウツ書〕〔欠損〕  
〔慶永〕

寒冷増進之処愈御安全、就中今般は被任内閣顧問、為皇国奉恐賀候、扱は爾後御無音打過、背本意多罪御海容可被下候、僕も先日小兒不幸、引統愚妻重病、其後行幸等にて無寸暇候、何分来月は是非参上仕度候、此菓子乍輕少今般御拜命之御祝賀申上候印迄に奉呈上候、御祝受被下候ハ、幸甚存上候、別而寒氣嚴肅、御保愛是祈

頓首拜、

十二月廿八日

文書原寸 縦一七・二櫃 横七七・二櫃

三三 山階宮晃親王ヨリ島津從二位公へ

歳暮御見舞

〔封紙ウツ書〕  
「島津」二位様  
侍史中

晃

ノ

〔墨引〕

寒霜日々増加候所、益御安全奉大賀候、愚老無事、乍憚御安慮可被下候、抑此二折甚不珍失敬ニ奉存候へ共、時令御見舞申入候印迄ニ令進上度、御叱納被下候ハ、深々畏入奉存候、年内無余日万喜来春と令書略候也、

敬白、

十二月廿九日

再陳、過日は内閣顧問被仰出候由、奉為国家令慶賀候、乍去神州多事ノ秋、万々御心痛ト恐入候、参拜

之節ト申遺し候者也、

文書原寸 縦一七・五種 横四九・三種

三三 三条実美ヨリ久光公へ

土佐ノ士小南五郎右衛門へ賞賜ノ件

弥清康大賀候、然ハ井上馨より別紙差越候間極密入覧候、尚熟考有之度候、将別冊ハ高知県小南五郎右衛門義、抑一新之前ニ当リ国事ニ尽力、高知藩之勤王ニ従事致候も其実同人之主唱不少、然ルニ御一新已来ハ、老衰ニ而奉務も難致、其伉退隠致候義ニ候得共、最早老年ニ及候事故、何とか御賞与ニ相成候ハ、可然比例も有之候事ニ而當春取調申候処、実ハ板垣(退助)トハ不合之人物故、板垣在職中異議も有之、其伉ニ相成候へ共、小生も御一新前在職中、当人之周旋致候義目撃仕候事故、何卒御内分ニ而も御賞賜有之度存候事ニ候、別冊熟覧有之度差廻申候、尚期面上候、草々不具、

十二月廿九日

実美

文書原寸 縦一七・五種 横八三・五種

三三 東京府尾藤文助ヨリ政府へノ建言

風俗矯正ノ件

(表紙)  
一献 芹

御維新以来之御盛事不及奉申上、就中テ千古卓絶之言路御洞開、芻蕘之言迄上達仕候と承及候、此御盛時ニ当リ献芹之微意、不顧忌諱奉申上度奉存候、夫レ富国強兵は、天下之基礎御座候得共、辰年以来、奥羽之事件ヨリ廃藩立県等御改政、御国費不容易義、且旧幕以来外国之負債莫太之御所置、是等は不得止義ニ候得共、近頃横浜通路之鉄道、或は官庁市店之煉化石・馬車・目鏡橋、又其上外国人御雇入無益之御国費相嵩ミ、終ニハ人心は惑乱シ御国之疲弊ヲ醸シ候義、乍恐苦心此事ニ御座候、治国肝要ハ安民之政ヨリ外は無之候、従来四民區別之事情、士族は世祿ニ而文武之

道を修行シ、義理を重シ、利慾を卑之廉恥を存シ、国難ニ死スルヲ職トス、民は耕作シ、工商ハ工商之業ヲ励ミ国家之道を心懸来リ候、然ルニ外夷御交際之後、人才御技拳は盛大之美事ニハ候得共、其義は衆庶覚悟不仕、殊更先般家祿節制被仰出候ニ付、土族有財之輩ハ帰農商致候モ、元耕作商家之道ニ暗クトハ乍申、十二八九は活計ニ差迫リ、父母兄弟離散、凍餒之憂ニ係リ候者不少、加之ニ旧来之商家モ、新商人巨多ニ相成、同商軒ヲ連、其利潤無之共々及滅亡候者追々相見、近頃道路之言ヲ承リ候而モ長大息仕候、畢竟田野不辟貨財不聚之故ニ無之、乍恐上ニ無道揆下ニ無法守、仍テ下民種々之奸曲相巧、婦女子迄悉ク利慾ニ溺レ、淫乱之風俗ニ流レ、禽獸ニ鈞シキ有様何共歎ケ敷奉存候、帰スル処、上は

天朝之御徳ニ戻リ、下は五常之法を忘レ、終ニ夷賊之奸計ニ陥リ、彼之指揮ヲ受候様可相成昼夜苦心泣血仕候、何卒断然、今日之風俗ヲ改正シ、

皇国神代之御政体ニ分明ニ尚論敬神之道ヲ確守シ、堂々タル御中興之御盛業被為遂候様泣血頓首奉仰望候、不顧分際建言仕候条、斧質之誅難逃、誠恐誠惶頓首再拜、

第二大区六小之区

西久保城山町

明治六年十二月

尾藤文助〇愚

冊子原寸 縦二四釐 横一六・五釐 六枚

三三 内閣顧問トシテノ久光公ノ意見書

学制ハ十四条之中、正學術ノ条ニ申述候通、此制ハ洋学基本ト相見得候、先夜ノ御論ト相違仕疑惑不一方候事、樺太島ノ事、黒田清隆上書至当ト存候事、

皇居御造營之義ハ、小野・丸岡之猷白ヘ被為基度事、

但御造營は愚意外ニも有之事、

集議院規則之義ハ、愚意可否疑惑仕候、諸県ハ各地方風土人情ニ依リ、迥も一途之御処置難相成ト奉存候、是巡察使之所可被役欵ト奉存候、地方官被召寄、於都下會議

有之而ハ、紛擾無限不都合之義と奉存候、

井上之建言、歳入歳出之異同、細詳御糾シ、若申出ニ相

違之節ハ、屹と御咎可有之義と奉存候、

第一条、先太政官之御目的承知仕度、

二条、極重事、

三条、前ニ在、

文書原寸 縦一六・八種 横五九種

三書 土佐池月党ノ所論

退職五参議ノ動静ニ就テ

土佐の池月党の論

青森県津輕の山田登より出ス書付如左、当今彼の池月党江津輕土族兩名差出置候、就而彼方より探索ノ条々あらましの由なり

二位公拜命之折、上下ヲ着スルハ違令トノコト、

青森県元弘前旧大参事の内、板垣へ左袒ノ者二名有之ト

ノコト、

近頃土州ヨリ五十名位出京トノコト、

一ノ小乱ヲ醸シ、大出ヲ期スヘシトノコト、

板垣派遣々辞職スヘシト、向後奉職ノ面々極テ新政府派

ト敵視スヘシトノコト、

後藤旧参議ハ會計ニ長スト雖トモ踏難に拙ク、同論ト雖

トモ頼ム処ニアラストノコト、

西郷帰省ノ際、後藤・板垣(退助)・江藤(新平)・副島(種臣)ト共ニ誓約シ、

右大臣ト共ニ奉職セサルトノコト、

薩ノ陣營放火ノ折、五名位外ヨリ抜刀切入ル者アリタル

トノコト、

肥後陣營、放火烧失ニ至ラスシテ消防ストノコト、

今日之朝廷ハ其派三ツニ分ル、トノコト、

旧知事公方ヲ談合働動シテ入費出金セシムルトノコト、

佐竹・南部・庄内・仙台・斗南・米沢其外中国教ケ国ノ

士、左袒尽力ノ者有之トノコト、

二位公内閣顧問ニ被任タルハ大久保之尽力ニシテ、政府

之論ニハアラストノコト、

板垣ハ近日帰省スルトノコト、

北代ハ輕家ニテ、戊辰之際僥倖ヲ得シ者トノコト、尤近

キニ辞表スヘシトノコト、

已下ハ、佐藤友彦聞取処なり、其外殺話多端あり、(雜)

十二月廿五日二位公任叙之日、三条公江三度使節を立御呼出シノコト、出願ノ処申出シ処、尤ノ議ニ被思召候得共、内外を叡慮スルニ、人心相和セスシテ、叡断不決ト雖トモ聊憤ル処ナリ、朕カ国家ノ為尽力セヨト、又股肱ト所頼ノ面々悉ク辞職退朝シテハ、朕カ意ニアラストノ由、故ヲ以テ則答ニ及フト雖トモ、素懷ニアラサレハ病氣ヲ唱ヘ引籠居ルト、

板垣・後藤・副島・江藤之四名、御用滞在被仰付候コト、板垣・江藤・副島・後藤ハ、断然今新政府ノ為メ不奉用務トテ辞退ノ処、御採用ナク御返しノコト、乍併板垣・後藤・江藤は御用初メ後又々辞退ニ及ヒ、断然奉職ノ意ナシト、若シクハ変心ニ及候哉ト疑フ者ハ副島ナリトノコト、肥後小笹退八の説十二月廿一日夜、肥後鎮台ハ二大隊入營す、其中ニ異心有之、營内江火をかけ鬨声をあけて暴動す、其中ニハ洋剣を以て突もあり、又小銃の台尻を以てうつもあり、中

々大混雜の由也、第一隊長輩を亡さんとすれとも、隊長者皆恐れて營中を逃出民戸潛伏いたし、翌日隊長輩、二小隊計の兵を募り、皆玉葉をこめ合、一時に營中江押入、手向する者ハ打斃せと令を下し候処、其節ハ至極しつまり居候ニ付、其勢に乗し六十人余捕縛せしとなり、此一条に、昨々日鎮台の少尉某着する由也、

右燒失ハ半位の由也、

此起りハ、兼而隊長輩を惡ミ、若や変ありて出兵ノ節ハ隊長を先殺し、いつ方ニ而も正義の方江寄り、戰爭をするなどいふ折からのことなれハなり、又以前鹿兒島鎮台燒亡の後、兵士肥後鎮台江入營すへき処、一人も入營不致、皆在処ノ江分散の由を聞、大かた是に依りてかく謀りしならん、

第一大区警部等の説に

此節警部・羅卒帰県之事は、旧五人の参議を復役させん為に、議論大に起りし由也、是に付昨年末より国分某・坂元某・川路某共、三条公・岩倉公・大久保江参り、此



節ニ至りてハ、是非〱一日なりとも早く旧五参議を復せすハ御政体立兼、当今余程危く、急束(速)此の人才御採用被遊、如此打捨てハ不相成趣を募り候得共、政府之論上にハ征韓論ハ先擬置、五参議皆々故障申立辞表差出し免許を請候面々、只今御召ニ相成候とも、直ニ出仕ハあるましと(符)と存る也と被仰、先折角と、四月のものハ三月に、三月のものハ二月となるなと被仰事ニ而、国分・坂元・川路等ハ、此暴動に余程心配の由也、就而は区長・羅卒等江強て辞表を出させ、周旋して帰県を進る者共あり、是等ハ篠崎・鈴木等拾五六名之由也、大方当月中にハ、惣而二百人余も帰県由承り、

冊子原寸 縦二七・六極 横一九極 二枚

二五 愛知県士族林又六ヨリ久光公へノ建白

征韓不可論

(包紙ウツ書)  
一 鄙章

林 又六

辱昧庸愚之小臣共、軍国ノ大事輕易ニ申上候ヨウニテ、僭越之罪不可遁ト奉(存)奉候、然而テ杞憂ノ余リ、自ラ不揆狂愚所存左ニ陳述仕リ候、道路ノ言ヲ承リ候処、朝鮮国曾テ我使人ヲ辱シ、其外不恭之挙動御座候ニ付、動スレハ、問罪ノ師御差向ケニ相成リ候趣、已ニ御評決ニモ相成リ候由風聞仕リ候、廟堂深淵不測、遠見卓識、英譟雄算、参議大臣等衆議御評定ノ上ニテ、万々一御遺算等無之事申迄モ無之ト奉存候得共、此事果シテ実事ニ御座候得は、鄙情窃ニ謂、恐ハ天下ノ末策、生民ノ大患、宗社ノ存亡ニ係リ、御国辱ノ甚シキ天下後世四夷八蛮ノ阪迄モ奈何相議候ラハン、暗ニ愚弄ヲ速ク而已ナラス、噬臍ノ禍ヲ生可申、曾テ聞、王者之師加有罪、今や朝鮮之蠢動スル侮慢ノ罪在不赦、然孟軻有言、人自ラ侮リテ而テ人之ヲ侮リ、国必ス自ラ伐テ而テ人之ヲ伐ツト、退テ考フルニ、国家之レカ輕侮ヲ速ク、蓋シ其ノ緣由ナキニ非ス、徳川氏ノ衰末ニアタリ、米里国人軍艦ヲ擁シ要津ニ闖入シ、驕傲不遜ノ語ヲ出シ以テ互市通商ヲ乞、倭羅国

人亦来リ、互市ヲ乞国家国法ヲ主張シ倭羅斯国使人ヲ備服ス、独リ米里国人ニ至リテハ傲慢放恣、兵威ヲ示シ以テ我ヲ怵ス、幕府宰臣恒怯畏懦、虚喝ノ欺ク所トナリテ倉皇自ラ失シ、国体ヲ失シ国辱ヲ忍ヒ、甘シテ城下ノ盟ヲナシ怪シマサルニ至ル、時運ノ消長此ニ至ルト謂フト雖モ、堂々タル帝王ノ国信義ヲ万国ニ失ナイ、何ヲ以テ倉生ニ面シ、何ヲ以テ天下ニ立ン、嗚呼、我帝国ノ安危存亡、実ニ此ノ時ニ萌蘖ス、幕府ノ權柄ヲ失ヘ乱ヲ速クモ此ノ時ニ決セリ、天下ノ英豪有識、咨嗟憤嘆セサル者ナシ、各国ノ環視スル者、亦是ヲ以テ帝国ノ強弱盛衰ヲ測量スルニ足ル、爾来二十年之今日ニ至リ、国辱盛衰ノ何処ニ伏スヲ不知、举上下存亡ヲ度外ニ置ク者ニ似タリ、士氣日衰ヘ、忠言無聞、国力疲弊シ、天下匈々、威福暗ニ移リ、人心潜ニ離レ、邦本效ニ動揺ス、朝鮮ノ我ヲ侮ル一ナリ、又道路ノ言ニ云、往年法国發兵伐朝鮮、々々遣使告急而国家之ヲ高閣ニ束ネ報答セズト、隣交ノ義安ニ在ル、朝鮮ノ我ヲ怒リ我ヲ輕ンスルニツナリ、維新ノ

際国家遣使赴朝鮮、々々我國書札ナシト言テ支吾不服、使者反テ彼ノ責問スル処トナリテ不能置一辞、朝鮮ノ我ヲ侮ル三ナリ、噫、我帝国ニシテ此ノ不義ノ行アル讐ナシノ国ト謂ヘカラス、朝鮮ノ猖狂スル、理勢之必ス至ルベキ処ナリ、国威ノ不振や如斯、宜シク内自ラ徳ヲ修メ、人民ノ親睦不可不料ナリ、朝鮮ノ旧交不可不収ナリ、大公至誠磊落襟度不出、於此区々タル恥辱不能忍、其怒リヲ干戈ノ末ニ洩ラサント欲ス、恐ハ廟算之得ル者ニアラス、古人ノ言ニ曰、威ヲ恃メハ徳身ニ亡ブ取敗之道ナリ、今や国家之強大兵力之雄盛、之ヲ以テ彼ノ国人ヲ圧セント欲ス、彼弥益輕侮ノ心ヲ生シ、同心戮力、險阻ニ抛リテ我兵ヲ防禦ス、恐ハ勝負之數未可知、帝王ノ区宇ヲ制御スル、宜シク人ニ示スニ深遠不測之量ヲ以テスヘシ、人ヲシテ伺イ量ラシムヘカラス、今や国家深く自ラ慮ラス、大軍海ヲ渉ル、天下ノ奸雄巨猾、我ヲ輕重スル、果シテ奈何、豈不可惜哉、昔者張良黄金四万斤ヲ散ンシ、以テ楚国君臣ヲ離間ス、劉邦遂ニ楚ヲ傾ク、毛利氏ノ尼

子氏ヲ凶ル、族將国久士馬精強不易動也、元就陰計ヲ設ケ其骨肉ヲ間阻ス、国久死ス、元就果シテ志ヲ雲州ニ得タリ、伏テ思フ、日本・清国・朝鮮ハ乃同種一種ニシテ、人氣風俗粗相髣髴ス、豈兄弟ノ邦ナラスヤ、宜シク相親睦シ、唇齒相救相助クヘシ、猜嫌ヲ生シ、罅隙ヲ開クヘカラス、然ルニ頻年三国殆ント不相容、禍端ヲ開ント欲ス、嗚呼、是何日不識不知西人陰計中ニ在リテ、自ラ知ラザルナリ、其跡甚深ク其機甚密ニシテ、衆庸士庶ノ悟リ知ル処ニアラス、明人ノ言ニ曰ク、西洋機深謀工ミニシテ、一国ニ至ル必ス一国ヲ破ル、先其国ニ就テ其国ヲ攻ルト、有識見ノ語ト云ヘシ、抑通商以來歲月ノ日久シキ、浸潤之譖計漸々其間ニ行レ、上下ノ耳目ヲ蔽壅シ、其陰謀密計已成就スル者ニ似タリ、其術甚工巧ナリト云ヘシ、我其ノ術中ニ陥リテ不悟、豈不悲哉、此是早く覺悟セシムハアルヘカラス、宜ク改慮回図、含弘广大、容納拊循、朝鮮不恭之小罪置不論、虚懷ヲ以テ不待彼哉、雖仇讎心膺トナラサルノ理ナシ、劉淵五胡之雄傑ナリ、

鮮卑・烏桓ヲ伐ント欲ス、劉宣諫メテ曰、鮮卑・烏桓ハ我気類ナリ、以テ援トナスヘシ、不可伐ト、劉淵其計ヲ用ヘテ洪基ヲ創造ス、晋氏八王夷狄窺竅之際ニ当リテ遠大ノ策ナリ、骨肉相残害ス、版輿之地半ハ夷狄ニ没ス、袁氏兄弟相闘キ、曹瞞其虚ニ投スルヲ得タリ、劉備ノ雄才関羽之死不能忍、起兵伐呉孤亭之敗軍、中興大業遂ニ地ニ墜ルヲ致ス、幕府ノ長州ヲ伐、天下怨叛、威權地ニ落、霸業衰フ、近年米里堅国南北ノ争、法人英人合兵玉薬兵艦ヲ南部ニ贈リ、話聖頓府ヲ削弱セント欲ス、大統領非常之英識アリテ、英法思慮ノ外ニ出、大統領自屈シテ南部酋長ヲ容納拊循シ、遂ニ合衆国封土ヲ全フス、而シテ罰金ヲ二国ニ徵スニ至ル、大体ニ達スル者ト云ヘシ、桓公ノ管仲ヲ挙ケ、唐宗ノ魏徵ヲ容ル、是皆非常ノ大器大業ヲ瓶ル、亦不宜哉、我帝国ニシテ一大統領ニ不及シテ可ナランカ、今日時世ノ沿革十六合ニ志アル者、劉淵・桓公・太宗・大統領ノ器宇雄資ナカルヘカラス、北宋ノ童貫・王黼等鄙暗ノ小人、百年ノ交ヲ絶チ、虎狼之金虜

ト相結ヒ契丹ヲ攻滅シ、又金虜ノ愚弄スル所トナリテ、南渡ノ禍ヲ速ニ效フヘカラス、又南渡ノ末、史彌遠・趙范・趙葵・孟珙之輩、廟堂ノ大略ナク、金虜方ニ衰イ蒙古ノ漲ルニ当リテ、唇齒相結、宗社ヲ保存スルノ策ナク、強盛ノ蒙古ニ結ンテ以テ金国ヲ滅シ、復蒙古ニ呑ルルニ效フヘカラス、噫、太閤ヲシテ今日生レシメハ、朝鮮ノ不恭、使者ヲ辱スル數輩、艦ヲ奪フ數艘ノ多キモ、公ノ雄略遠図、必ス此同氣類ノ邦ヲ伐チ、自ラ羽翼ヲ殺キ、心ニ慊ヨシト謂フヘカラス、公曾テ織田(信忠)右府甲斐ヲ滅スト聞キ、嘆シテ曰、我レ若シ有ラハ、百諫シテ此ノ挙ヲ遏メ、勝頼ニ与フルニ甲信ニケ国ヲ以テシ、他日驅テ東征ノ先鋒ニ充ン者ヲ、殿ニハ思慮ナキ事ヲシラル、者哉ト、稍慨然タリシトゾ、含弘廣大、不測ノ器宇ト可申、今ノ世ニアリ大閤ヲシテ国ニ当ランメハ、朝鮮ヲ拊循シ、教ルニ兵略陣法ヲ以テシ、乘機雲蒸龍變、北倭羅斯ヲ萃ケ、兵ヲ海南ニ用諸島ヲ綏懷シ、西英法等國々ヲ芟夷シ、威名ヲ寰宇ノ中ニ輝サン事恐クハ不難、吁、國家今日ノ

策、劉淵ノ鮮卑・烏桓ヲ存シシ、太閤ノ甲州ヲ全フシ、大統領ノ南部酋長ノ叛逆ヲ容ル、ノ大度偉器ナク、不顧己不慎徳、唇齒相斬伐スルニ至リテハ、各國陰ニ其ノ大略ナキヲ嘲ケリ、晋氏八王兄弟相魚肉スルニ比較セントス、劉淵ノ鬼地下ニアリ、其帝王ノ量ナキヲ笑ント欲ス、太閤ノ英魂浩氣、嗚咽流涕、無窮ノ感慨ニ堪ヘサラントス、豈不堪浩嘆哉、況朝鮮未タ孤弱ヲ以テ不可侮也、往時我兵ノ三都ヲ蹂躪スル、兵民死者二十万余人、生類正ニ尽キナントスル程ノ大乱ナリ、然ルニ彼レ意氣少モ屈撓セス、恢復之念日益熾ナリ、明李如松、我兵ノ勇武ヲ畏レ和ヲ求ルノ意アリ、韓人泣テ其不可ヲ諫ム、其忠勇義烈、他邦國ノ難及所ト奉存候、曾テ英人法人合兵其國ヲ攻ルヤ、其挫衄スル所トナリテ再ビ不能挙也、米里堅人兵艦ヲ発シテ撃之、復其ノ破ル所トナリテ、意氣索然トシテ、復不得伺刃、英法米富強文明ノ邦ト称ス、我帝國畏之如鬼神、然ルヲ彼レ一戰之ヲ破リ、蔑如与ミシ易キ者ノ如シ、而シテ主客劳逸ノ威ヲ養、三大國ヲ讎視シ、其勢自若タ

リ、豈可謂不知兵哉、我國仁義之邦ト称ス、此ノ忠勇義烈ノ國、隣交ヲ破リ自ラ兵端ヲ開キ唇齒相斬伐ス、仁人智士之非忍為所也、唐藩鎮ノ乱、陸贄諫曰、當時之要、雖仇讎不得不容、雖罪惡不得不用偉哉、此ノ言也、方今万国ノ大勢ヲ通覽スルニ、倭羅斯國等雄盛鷗張之際、強弱難易唐藩鎮ノ比ニアラス、朝鮮ノ不恭、楚琳戎師ヲ賊害スルト形情甚異ナリ、彼釁ナク、我釁アリ、競々兢々自ラ全フス、猶恐不及、胡為彼ヲ図ルニ遑アラン、國家慮リ不及、此屹々乎相讎視ス、不信不義、不智不勇、天人ノ所不与必ス不測之殃ニ嬰ラント欲ス、曾聞、英主必ス先治其國、而後治外、小臣ノ肉眼内政外虞未タ全備ト謂フヘカラス、然而テ師旅ヲ隣邦ニ用ンス、臣恐ハ朝鮮未及、拳國內先ツ騷動セン、抑癸丑以來、諸國ノ締盟スル者殆ント幾國為有義乎、為有礼耶、驕慢無礼、凌辱百端、國人ノ所憤也、胡為朝鮮ノ無礼之咎ンヤ、然而シテ無識之輩ニ至リテハ、何日カ不知其意氣、微恩ノ噢咻スル所トナリテ、臣子ノ大義ヲ忘却シ、國辱世讎ノ何物ヲ

不思、尊崇貴重無不至也、礼義廉恥安在焉、源右大将ノ於平氏、燕慕容垂父子ノ於符秦、臣子ノ大義ニ明ナル者ト云ヘシ、今也國家此ノ大義名分ヲ不正、罪ヲ朝鮮ニ問フ、果シテ為義兵乎、為応兵乎、為忿兵乎、為驕兵乎、為貪乎、天下ノ英雄窃ニ疑懼スル所也、國家今日之勢宜務包含、苟モ己ヲ枉ケテ以テ彼ヲ容レ、自ラ屈シテ以テ彼ニ下ル、投スルニ款誠ヲ以テシ、接スルニ礼讓ヲ以テス、不示威而シテ人畏之、不勉德而人仰之、吸呼之際安危存亡禍福死生係焉、符秦ノ伐晋、太宗ノ遠ク駕遼、元世祖ノ撃日本、大閭ノ伐朝鮮一統之功、侈心一ビ萌シ、皆後侮ヲ貽サ、ル者ナシ、皆英雄ノ慢心ヨリ出レハナリ、大閭ノ闢達英果、世祖ノ神武雄盛、太宗ノ仁明威武ヲ以テ猶且然リ、師旅ノ慢リニ不可動ヤ如斯、今也從二位源公、威望高於天下、上朝廷ヲ諫メ、下將士ノ發憤激励スル者ヲ制御シ、征西ノ兵ヲ罷メ、國家ノ禍難ヲ匡救ス、老成資望、平素衆ニアラハル、者ニアラスンハ、聖上ノ威不可霽、海陸軍士ノ怒不可解、夫源公之在帝都、恰モ

龍虎之深山大沢中ニ在ルカ如シ、四海万国陰ニ公ノ挙動ヲ伺ヘ以テ我神州ノ安危ヲトセントス、公ノ一言一行、当否得則我國重シ、不得則我國輕フシテ底止スル処ナカラント欲ス、愛國ノ意ニ不堪、不憚狂愚ヲ吐肝胆者如斯、誠恐頓首百拜、

十二月

愛知県管下參州碧海郡上重村

士族林 又六拜

冊子原寸

縦三・二種

包紙原寸 縦三四・五種

横一五・八種 一二枚

横二五・二種

三三 白川県士族大矢野十郎ヨリ政府ヘノ建白

封建制度復旧ノ議

(表紙)  
一上

建白

凡天下ノ治乱ハ天運ノ期数ト人事ノ得失ニ有リ、元龜天正ノ際、徳川氏三河ヨリ勃興シテ天下ヲ経緯シ、遂ニ三百年ノ治ヲ為ト雖モ、柄權一タヒ弛テ人心乍チ睽離シ天

下ノ騒乱トナル、是人事ノ得失ニ因ラサルコトヲ得ンヤ、此時ニ当ツテ志士仁人

天皇ノ聖徳ヲ欽慕シ奉リ、

天皇乃チ神武ノ創業ニ基キ維新ノ政ヲ施シ玉ヒ、一タヒ

淀鳥羽ニ 皇師ヲ出サレテ、徳川氏罪ニ伏シ、亦奥羽ヲ

征伐セラレテ二州須臾ニ平治ス、侯伯身命ヲ抛テ 王事

ニ奔走シ、千載ノ古ニ恢復スルコト、何ソ其速ナルヤ、

昔阿倍頼時彼ノ地ニ抛テ 王命ニ背キ、官軍ニ抗敵スル

モノ前後十有二年、源頼義父子仁彊勇悍ナルヲ以テ敵勝、

平治ニ至ルコト、何ソ其遅キヤ、是二ツノ者ハ天運ノ期

数ニ因レリト言ツヘシ、今徳川氏衰運ノ弊政ヲ見テ、封

建ヲ以テ害アリトシ、中古 王制ノ盛治ヲ見テ、郡県ヲ

以テ利アリトシ、更ニ变革、丕新ヲ以テ天下ヲ循環セラ

ル、表ハ事無キニ似タリト雖モ、其実ハ然ラス、戊辰以

来纔ニ六年、党民不廷ノ徒並起ル、臣愚カ風カニ聞ク所、

曰人舎、曰天草、曰豊後、曰筑前、曰筑後、曰長門、曰

美作、曰播磨、曰陸奥、其他細事件ニ至テハ多端ニシテ

挙ルニ堪ヘス、其筑前ニ於ル最大ナリトス、老幼婦女ヲ  
 除クノ外、刑ニ遭者概十万人ニ及ヘリト言ヘリ、古来未  
 タ斯ノ如キ大刑アリシコトヲ不聞ナリ、戊辰維新ノ初ニ  
 於ルヤ、風雨順ニシテ五穀実リ、志士争ヒ競テ 王事ニ  
 勤ム、万民目ヲ拭ヒ耳ヲ洗テ、其仁政ヲ仰クコト、実ニ  
 大旱ノ雲霓ヲ望カ如シトモ言ツヘシ、如是ニシテ国民順  
 ハス、天下刑多キモノハ何ソヤ、是恐クハ天運ニ傾ク所  
 無ク、人事ニ欠ル所有ルニアラサルコトヲ得ンヤ、若天  
 運ニ傾ク所有リトモ、天運ハ人事ヲ以テ斡旋スルニ足レ  
 リ、夫人ハ天ト一体ナリ、故ニ舜禹ニ戒テ曰、天ノ歴數  
 汝ノ躬ニ在リ、或曰、陰陽ヲ調和シ四時ヲ順ニスルハ宰  
 相ノ職ナリト、是ヲ以テ之ヲ見レハ、偏ニ天運ニノミ委  
 スヘカラスシテ、人事ハ尽サスンハアルヘカラサルナリ、  
 其人事ノ大ナルモノハ政体ニシテ、封建ノ法ト郡県ノ制  
 ニアリ、封建ト雖モ其久キニ至テハ弊無キコト能ハス、  
 周ノ赧王政体ヲ失シテ六国迭ニ起リ、徒ニ封疆ヲ争ヒ天  
 下麻ノ如クニ乱ル、然モ是封建ノ弊ニアラスシテ、其当

路ノ人ノ不肖ニシテ、紀綱張ラス法制緩縦スルニ因レリ、  
 亦曰、漢ハ封建郡県並ヒ用ユ、文景相繼テ賢ナリ、依テ  
 天下大平ヲ歌フ、賢良ハ国ヲ興シ不肖ハ国ヲ喪フ、倭漢  
 古今一轍ニシテ史冊瞭然タリ、故ニ賢不肖ヲ以テ論スレ  
 ハ、封建モ郡県モ法制ニ於テニツナカカラ優劣損益無キニ  
 似タリト雖モ、強弱ヲ以テ論スルトモハ、<sup>(キカ)</sup>封建ヲ以テ強  
 トシ郡県ヲ以テ弱トス、封建ハ各其土ヲ土トシ其民ヲ民  
 トス、民ノ力ニ倚リ土ノ毛ヲ食フ者水土下情ニ習熟シ、  
 主従常ニ親睦共ニ相愛ス、恩信誠ニ厚シ、其危キニ臨ム  
 ヤ、身命ヲ以テ之ニ代ランコトヲ欲シ、寇来レハ逸ヲ以  
 テ勞ヲ待チ、主ヲ以テ客ヲ制ス、郡県ハ是ニ反ス、諸侯  
 非サレハ、土ハ其土ニ非ス、民ハ其民ニ非ス、有事ノ日、  
 令尹將帥有リト雖モ恩信素ヨリ薄シ、焉能主従親睦相愛  
 シ、攻撃防禦身命ヲ以テスルニ比センヤ、郡県ノ時ニ当  
 ツテハ、屯戍無キコト能ハス、屯戍ハ処トシテ無キコト  
 有リ、時トシテ無キコト有リ、西虜大艦ニ長セリ、彼若  
 シ入テ寇シ、東ニ侵シ西ニ掠メ、出沒時無ク方所無クン

ハ、我徒ニ東転西輪、未タ寇ヲ見スシテ奔命ニ勞費セン、是則彼ヲ利スル而已ニシテ、封建郡県ノ利害、防辺ノ便否、此ヲ以テ決スルニ足レリ、況ヤ今外患燃カ如キニ方ツテ、如何ソ封建ノ強キヲ捨テ、豈郡県ノ弱キニ居ル事ヲ為シ玉フ可シヤ、秦ハ六国ノ弊ニ懲テ賈生ヲ竄シ、淳于越ヲ坑ニシ、遂ニ天下ヲ以テ郡県トス、然モ陳<sup>(勝)</sup>・呉<sup>(勝)</sup>・鄢布カ徒其餘盜並ヒ起リ、漢楚風動シテ秦忽ニ亡フ、我 朝源頼朝伊豆ノ配所ヨリ起リ、封建ヲ以テ天下ヲ平定セシヨリ、歴代ノ武將相繼テ此制ニ效フ、建武ノ比暫王政ニ復セシ時、楠氏ノ武烈後世ニ輝キ、其誠忠ニ至テハ、日月ト光ヲ争フ、然トモ

朝廷其人ヲ得ラレスシテ、黜陟賞罰其正ヲ失フ、国民復武家ノ政ヲ慕フテ、王政ノ治ヲ久フスル事能ハス、然ハ則郡県良制ト言ヘカラス、亦弊無シト言ヘカラス、足利氏ノ如キ、賢良ノ主ニ非スト雖モ賞功施恩賜与惜マス、復封建ノ制ヲ用ヒテ權勢盛大、以テ十三世ニ及ヘリ、堯舜封建ノ制アリシヨリ、商周ノ明王、悉是ニ因ラサルハ

無シ、誠ニ封建ハ堯舜以來聖人ノ良法ニシテ、我 朝頼朝以後武將ノ善制ナリ、今ヤ天下ノ民、旧主ノ恩ヲ受ルコト三百年乃至六七百年ノ久キヲ歴ルモノ有リ、中心豈之ヲ忘ルヘケンヤ、然ルニ其主ノ顔ハセヲ見サルモノ效ニ三年、実ニ依ル所ヲ失ヘルカ如ク、童蒙ヲシテ父母ノ膝下ヲ離レシムルニ似タリ、故ニ懇々トシテ旧恩ヲ慕フ者天下甚多シ、且損上益下ノ事アリト雖モ、庶民モ感佩信服ノ実情ヲ見ス、是前ニ所謂党民不廷ノ徒ノ起ル<sup>(マ)</sup>以所ナラスヤ、嗚呼、人心惟危ク道心惟微ナリト、畏ルヘキハ民心ナリ、民心一タヒ合スレハ勢生ス、勢生スレハ謀固シ、其固キニ至ヤ、賢相英將有リト雖モ、之ヲ如何トモスルコト無カルヘシ、今年春ハ火

皇城ヲ燒キ、夏ハ旱魃田疇ヲ亀<sup>(裂)</sup>折シ華菜ヲ焦シ、秋ハ大風屋ヲ倒ス者アリ、是天交災眚ヲ下シテ告スト言シヤ、我 朝門閥ヲ尊信スル、古来自然ノ風習、能ク人心ノ安堵スル所ニシテ、世態ノ變転盛衰常無シト雖モ、神祖ノ一系連綿トシテ万州ニ勝レ、今日ニ至ル以所ノ者



実ニ然リ、今故ラニ門閥ヲ廢シ、独

天皇神祖ノ祚ヲ踐セ玉フ、是恐クハ後世不軌ヲ謀ル者、

忠恕ノ論ヲ起シ、以テ廢帝ヲ唱フル階梯トスルニ足ラン

カ、故ニ今願クハ、古史ヲ考ヘ近事ヲ察シ能ク天下ノ民

心ヲ操リ、以テ王政悠久堅固ノ謀ヲ成シ玉ハンコトヲ、

其制他無シ、御史ヲ設ケ、彈台ヲ復シ、蔽ニ諸省ノ是非

曲直ヲ正察シ、

朝廷直隸ノ地ヲ廣大ニシ、其地而已猶郡県トシ、才能忠

誠ノ人ヲシテ政令ヲ司ラシメ、兵事ヲ練リ非常ニ備ヘ、

旧諸侯ヲ旧藩ニ封シ、鎌倉ノ制ニ倣ヒ、土ヲシテ各所ニ

地着セシメ天下ノ藩屏トナシ、務テ海陸二軍ヲ大ニ奮ヒ

起シ外患ニ備フヘシ、是則今日 朝廷維新ノ封建ニシテ、

諸侯ハ封内士庶ヲ頒チ、庶人ト雖モ兵事ニ堪ユヘキ者ハ

撰テ集散進退炮戰ノ法ヲ教ヘ、習熟ノ後各其職ニ帰シ置

カハ、年久シカラスシテ天下ノ男子皆兵トナランコト必

然タルヘシ、天下各藩ノ主従士庶ニ至ルマテ觀喜感服シ、

相共ニ協力同心シテ 皇室ヲ維持シ、勤王ノ心怠ル事無

ク、侯伯令尹志ヲ一ニシ、交ル々禁闕ヲ保護シ、政令一

途ニ出テ文武ヲ励マシ、出納ヲ審ニシテ天下ヲ富サハ、

豈昇平治安ヲ致サ、ル可ンヤ、天子ハ民ノ父母タリ、万

民ヲ子トシ、四海ヲ家トス、諸侯モ 王臣タリ、藩土モ

王臣タリ、僕隸庶人モ 王民タリ、何ソ其土地封疆ヲ惜

マセ玉ハンヤ、是則人事ヲ以テ天運ヲ斡旋スルノ機ナラ

シカ、如是ニシテ、若割拠不廷ノ徒アラハ各藩ノ兵ヲ募

リ、親兵是ニ繼キ

天皇是カ元帥トナツテ其罪ヲ問ハセ玉ハ、誰カ從伏セ

サル者アルヘケンヤ、仁ヲ以テ不仁ヲ征スルハ理ナリ、

理ニ乖戾スル者ハ必ス亡フ、内乱何ソ憂フルニ足ンヤ、

外患何ソ畏ル、ニ足ンヤ、墨夷浦賀入港以來殆輕侮セラ

ル、モノ二十年、臣愚鬱々トシテ慨嘆ノ至ニ堪ヘス、仍テ

尊敵ヲモ憚ラス、昧死シテ聊前言ヲ建白ス、智者モ千慮

ニ必一失アリ、患者モ千慮ニ必一得有リト聞ケリ、伏テ

冀クハ採用セラル、所有ラハ、何ノ幸カ之ニ如カン、以

テ不忠トセラレハ、臣愚ヲ刑典ニ処シ、天下ノ人ヲシテ

再封建ヲ言事勿ラシメヨ、誠恐誠惶死罪頓首謹言、

明治六癸酉年十二月  
白川県士族  
大矢野十郎(黒)

冊子原寸 縦二四・八種 横一七・三種 九枚

三三三 東京府徳田寛豊ヨリ新治県中山参事へノ

建白

建白書ナシ

(表紙)  
「從

筑波山嵌新治県江指出候書写

徳田寛豊ヒロアツ

東京府九大区三小区

徳田寛豊

恐作ラ欽テ白ス、抑宇内ノ事定ヲ愚考仕ニ、凡教導程恐  
ル可クハナシ、俯テ慮ルニ、既ニ三千有余年間連綿トシ  
テ国威海々ニ光耀セシ我日本国是カ非カ、起元千八百余  
年西洋各邦是カ非カ、夫レ未タ政治裨益ノ活論ヲ嘗テ聞  
カス、臣無学ニハ候得トモ、空天定大ノ四理ヲ弁別シ、

実ニ国家ノ危難ヲ散害シ、天然ノ御国体ヲ上言シ奉ラ  
ント日夜苦慮スト雖トモ、不幸ニシテ終ニ

天顔ヲ得奉ラス、之ニ依テ本書建言、并ニ西洋万邦ノ教  
師ト不日政治裨益ノ勝少ヲ御檢査成下置レ度旨ヲ強願奉  
リ、先般其筋江建白書并ニ云云書キヲ指出シ置候間、  
何レ可否ノ御沙汰之レ有可クト存奉リ候ニ付、当筑波山  
ニ謹籠罷在リ度旨、去々月以來数度 御県へ迫ト雖トモ、  
御聞届ケ之レ無ユエ止ヲ得ス強籠、目前ノ通ニ候、臣苟  
モ数十年ノ今日、生死ノ兩端ニ相極ト御明覽ノ上、適宜  
キ御取計ノ様伏テ願奉リ候也、

東京府

明治六年癸酉十二月  
九大区三小区  
徳田寛豊判

新治県中山参事殿

冊子原寸 縦二四・八種 横一七・二種 三枚

三三六 久光公内閣顧問任命

条公一同江示諭ノ文

今般内閣顧問ヲ被置、皇居及ヒ正院ニ於テ主上臨御、国

事御評議ノ節、参候被仰付候事、

但顧問ハ一等官タルヘキ事、

從二位久光

任内閣顧問

余御口達ノコト

文書原寸 縦一七・五糎 横三八糎

三三 山階宮制度改革御意見廿八ヶ条

(包紙ウツ書)  
「山階宮御説」

備忘

一人類三等ニ別チ、皇族・貴族・四民ト被定度候事、

従前華族輩則可称貴族被

仰出度候事、

一士族号ハ被廢度候事、

一撰家清華等之号被廢、男女子供君号、公然不都合被廢

度候事、

一言路ヲ開キ不憚忌諱下情上ニ通シ候様仕度時節、新聞

板行伺之上ト被

仰出候儀如何、更ニ不憚忌諱世評発兌候様被

仰出度候事、

一有栖川二品宮陸軍等外出仕、東伏見二品宮海軍等外出

仕被

仰出度候事、

一皇族参 内之節、必御対面被為在度、若御差支之節ハ

皇后様御対面、猶御差支之節ハ典侍中面会、御場所御

常御殿、又ハ御学問所之中ニ而被為在度候事、

外国親王ハ御親睦、内国親王ハ反テ御疎闊、内外之

辺如何ニ御座候事、

一大礼服着用、来十月云々之处、出格以

御憐愍着用随意ト、更ニ被

仰出度候事、

大礼服新調ニ付、御金拝借可願云々、又ハ西洋風奇

怪等世論候事、

一大礼服新調迄ハ、鍔直垂紗帽ヲ以テ礼服ト可心得、但  
朝廷ニ而貴賤無差別ハ不宜候間、直垂付紐ニテ可別上  
下、一・二・三位ハ紫紐、四・五位緋紐、六位已下ハ  
緑紐ト被 仰出度候事、

一羽織袴又ハ普通西洋服、平日之服ト可心得被 仰出度  
候事、

一武官官員等ハ既ニ大礼服新調之輩ハ着用不苦候旨、被  
仰出度候事、

一带劍脱刀・西洋髪・医者髪・奴頭・茶筥髪等随意之儀  
心得違無之様被 仰出度候事、

一神職祠官之輩、束帯・衣冠・狩衣・祭服・浄衣等所用  
之人ハ、元鳥冠下地如旧式不苦候様被 仰出度候事、

一皇族以下公用公行之時ハ、従僕儀杖等其格式ニ応シ可  
為嚴重、私用私行之節ハ、可成丈ケ質素簡易ニ致シ候  
様被 仰出度候事、

一皇族中七八等令被付候儀被廢度候事、

天朝御費多ク、加之皇族修学被 仰出候儀、所詮何

ノ為ニ候哉云々、

一皇族ハ格別之御意味被為在候ハ、宮内省中ニ而用掛  
被定置度候事、

一皇族云々、先達而ノ御布告御取消、更ニ家主自身家事  
向万端心配致シ、

天朝之御趣意ヲ奉シ、華族已下ノ鏡トモ相成候様可致  
被 仰出度候事、

一皇族中

天朝御賄云々被廢、更ニ如左被 仰出度候事、

一品正米千石 二品正米六百石 三品正米五百石

四品正米四百石 賜姓列臣正米貳百石

修学之上人撰ニ遇候節ハ、旧臣下同様貳百石之上、

官職相応ノ被下物被 仰出候事、

隠居親王正米三百石

熾仁親王・嘉彰親王御軍賞米ハ、一世涯無相違被

下度候事、

一内親王ハ人体ニ依リ廟議之上、時々被下米被定度候事、  
一元諸門跡・諸院家其外共寺祿米、又ハ無年貢寺地等被  
度候事、

一元諸門跡等ニハ、法皇・法親王・皇女尼等ノ靈牌塚等  
候間、祭典掃除料トシテ毎冬正米拾式石宛一寺江被下  
度候事、

事、  
每冬地方官ヨリ、其村々村老ヘ可渡様被 仰出度候  
事、

一元諸門跡・住持・僧其外共飛錫・行乞、出家・沙門ノ  
本色ニ候間、失念有間敷被 仰出度候事、

一元諸門跡其外、山々寺々之寺祿米、更ニ大小教院入費  
料ニ被 仰出度候事、

一諸宗僧尼衣体(鉢)、公私兩途之定、并ニ教院月給等教部省  
中ニ而評定被 仰出度候事、

一山々寺々、三宝供養有無ハ、夫々壇越ニ打任セ候様被  
仰出度候事、

一寺院新規建立ハ如旧停止、或ハ大破、或ハ仏堂而已ニ

而、無庫裏或ハ庫裏而已ニテ無仏堂之分取弘ヒ、地面  
ハ良民ニ歛下長ニテ開拓被 仰出度候事、

一大小社々、正祀淫祀、正祭邪祀等於地方官吟味、神国  
神威不穢様被 仰出度候事、

一神書ニ偽書多ク、神祭ニ奇怪ノ事ヲ伝候儀、地方官ニ  
於テ吟味、神国神威不穢様被 仰出度候事、

一大小祠官之輩、神道不学遊民同様ニ不相成様被 仰出  
度候事、

右合テ廿八箇条

冊子原寸 縦三一・八種 包紙原寸 縦三一・七種

横二一・五種 六枚 横四四・五種

三〇 聖上御学問御日課 二通

二四〇ノ一

一ノ日 御休日

二ノ日 国史纂論 福羽元田

三ノ日 西国立志編 加藤福藤

御歌会

〔福羽西 三条西〕

四ノ日 国史纂論

〔福羽 元田〕

五ノ日 西国立志編

〔加藤 元田〕

六ノ日 御休日

七ノ日 国史纂論

〔福羽 元田〕

八ノ日 西国立志編

〔加藤 元田〕

九ノ日 国史纂論

〔福羽 元田〕

十ノ日 西国立志編

〔加藤 元田〕

御休日之外、毎日独乙語・御操練・御算木御隔番ニ被

為在候事、

文書原寸 縦一九・五極 横五五・八極

二四〇ノ二

一ノ日 御休日

〔朱、以下向シ〕

日本政記

〔福羽美静 元田永孚〕

二ノ日 字十一 論語

御操練

〔元田永孚〕

御習字

〔長茂〕

三ノ日 午後 日本政記

〔福羽美静 元田永孚〕

御歌会

〔三条西季知 八田知紀〕

四ノ日

日本政記

〔福羽美静 元田永孚〕

算木御操練

五ノ日 午後 日本政記

〔福羽美静 元田永孚〕

六ノ日 御休日

七ノ日 午後 日本政記

〔福羽美静 元田永孚〕

御習字

〔長茂〕

八ノ日 字十一

日本政記

〔福羽美静 元田永孚〕

日本紀

〔福羽美静〕

御操練

九ノ日 午後 日本政記

〔福羽美静 元田永孚〕

日本政記

〔福羽美静 元田永孚〕

十ノ日 午後 算木御操練

国法汎論

〔加藤弘之〕

御休日之外毎日独乙語

〔異筈〕  
〔加藤弘之〕

皇后御会

三八 輿地誌略

〔加藤弘之〕

五十 古事記

〔福羽美静〕

隔日 烈女伝  
帝鑑図説

〔福羽美静〕  
〔元田永孚〕

文書原寸 縦一九・五種 横九〇・二種

三四 慶応元年度神道略曆考

〔表紙〕  
〔神道略曆考〕

神道略曆考

元治二乙丑年 木 房宿值年 凡三百八十四日

年德神 庚ノ方

大藏神 丑ノ方

大將軍 酉ノ方

大陰神 亥ノ方

歲刑神 戌ノ方

歲殺神 辰ノ方

歲破神 未ノ方

黃幡神 丑ノ方

豹尾神 未ノ方

金神 辰巳ノ方 金神間日春丑 夏申 秋未 冬酉

		神前日 日十八		正月大		建戌寅 魚 角宿值月 婁宿金曜值朔日	
國十廿越		國十廿越		元日丁酉		草成 婁金四	
四日庚子		三日己亥		二日戊戌		木納 胃土三	
五日辛丑		四日庚子		三日己亥		虫閉 昴日二	
六日壬寅		五日辛丑		四日庚子		魚閉 畢月一	
七日癸卯		六日壬寅		五日辛丑		鳥建 觜火九	
甲滿井木七		獸除參水八		甲滿井木七		甲滿井木七	

圖十		圖十一			圖十二			圖十三			圖十四								
雨水	廿五辛酉	廿四庚申	廿三己未	廿二戊午	廿一丁巳	二十丙辰	十九乙卯	十八甲寅	十七癸丑	十六壬子	十五辛亥	十四庚戌	十三己酉	十二戊申	十一丁未	立春	十日丙午	九日乙巳	八日甲辰
正月中 登午初刻	草危危月七	貝破虛日八	甲取女土九	獸定牛金一	鳥平斗木二	魚滿箕水三	虫除尾火四	木建心月五	草閉房日六	貝開氏土七	甲納亢金八	獸成角木九	鳥危軫水一	魚破翼火二	虫取張月三	正月節 明卯四刻	木定星日四	草定柳土五	貝平鬼金六

圖十五		圖十六		圖十七		圖十八		圖十九		圖二十									
十三己卯	十二戊寅	十一丁丑	啓蟄	十日丙子	九日乙亥	八日甲戌	七日癸酉	六日壬申	五日辛未	四日庚午	三日己巳	二日戊辰	朔日丁卯	二月小	廿日丙寅	廿九乙丑	廿八甲子	廿七癸亥	廿六壬戌
虫建亢金七	木閉角木八	草開軫水九	二月節 申六刻	貝納翼火一	甲納張月二	獸成星日三	鳥危柳土四	魚破鬼金五	虫取井木六	木定參水七	草平觜火八	貝滿畢月九	甲除昴日一	建巳卯 鳥亢宿值月 昴宿日 曜值朔日	獸建胃土二	鳥閉婁金三	魚開奎木四	虫納壁水五	木成室火六



川十一日		川十日			川十日			川十日			川十日			川十日						
二日丁酉	朔日丙申	三月小	廿九乙未	廿八甲午	廿七癸巳	廿六壬辰	春分	廿五辛卯	廿四庚寅	廿三己丑	廿二戊子	廿一丁亥	二十丙戌	十九乙酉	十八甲申	十七癸未	十六壬午	十五辛巳	十四庚辰	
鳥破衝火七	魚取畢月八	建庚辰	虫定昴日九	木平胃土一	草滿婁金二	貝除奎木三	二月辛亥三刻	甲建壁水四	獸閉室火五	鳥開危月六	魚納虛日七	虫成女土八	木危牛金九	草破斗木一	貝取箕水二	甲定尾火三	獸平心月四	鳥滿房日五	魚除氏土六	
		魚 氏宿值月																		
		畢宿月曜值朔日																		

長		川十日			川十日			川十日			川十日			川十日						
廿一丙辰	二十乙卯	十九甲寅	十八癸丑	十七壬子	十六辛亥	十五庚戌	十四己酉	十三戊申	清明	十二丁未	十一丙午	十日乙巳	九日甲辰	八日癸卯	七日壬寅	六日辛丑	五日庚子	四日己亥	三日戊戌	
貝建虛日六	甲閉女土七	獸開牛金八	鳥納斗木九	魚成箕水一	虫危尾火二	木破心月三	草取房日四	貝定氏土五	三月節今晚丑八刻	甲平亢金六	獸平角木七	鳥滿軫水八	魚除翼火九	虫建張月一	木閉星日二	草開柳土三	貝納鬼金四	甲成井木五	獸危參水六	

十一日經		十一日經			十一日經			十一日經			十一日								
十日甲戌	九日癸酉	八日壬申	七日辛未	六日庚午	五日己巳	四日戊辰	三日丁卯	二日丙寅	朔日乙丑	四月大	廿九甲子	廿八癸亥	穀雨	廿七壬戌	廿六辛酉	廿五庚申	廿四己未	廿三戊午	廿二丁巳
木破角	草取軫	貝定翼	甲平張	獸滿星	鳥除柳	魚建鬼	虫閉井	木開參	草納觜	建辛巳	貝成畢	甲危昴	三月中辰五刻	獸破胃	鳥取婁	魚定奎	虫平壁	木滿室	草除危
木六	水七	火八	月九	日一	土二	金三	木四	水五	火六	甲房宿值月	月七	日八	土九	金一	木二	水三	火四	月五	
										房宿值月									
										紫宿火曜值朔日									

十一日經		十一日經			十一日經			十一日經			十一日經		十一日經						
小滿	廿八壬辰	廿七辛卯	廿六庚寅	廿五己丑	廿四戊子	廿三丁亥	廿二丙戌	廿一乙酉	二十甲申	十九癸未	十八壬午	十七辛巳	十六庚辰	十五己卯	十四戊寅	立夏	十三丁丑	十二丙子	十一乙亥
魚閉畢	虫開昴	木納胃	草成婁	貝危奎	甲破壁	獸取室	鳥定危	魚平虛	虫滿女	木除牛	草建斗	貝閉箕	甲開尾	獸納心	四月節未二刻	鳥成房	魚成氐	虫危亢	
月六	日七	土八	金九	木一	水二	火三	月四	日五	土六	金七	木八	水九	火一	月二	日三	土四	金五		

明治六年 (1873)

十			十			十			十			十								
十六庚戌	十五己酉	十四戊申	芒種	十三丁未	十二丙午	十一乙巳	十日甲辰	九日癸卯	八日壬寅	七日辛丑	六日庚子	五日己亥	四日戊戌	三日丁酉	二日丙申	朔日乙未	五月小	廿日甲午	廿九癸巳	
獸定牛金六	鳥平斗木七	魚滿箕水八	五月節子四刻	虫除尾火九	木除心月一	草建房日二	貝閉亢金四	甲開亢金四	獸納角木五	鳥成軫水六	魚危翼火七	虫破張月八	木取星日九	草定柳土一	貝平鬼金二	甲滿井木三	建壬午	獸除參水四	鳥建觜火五	
																	具	心宿值月	井宿木曜值朔日	

十		十		十		十		十		十									
五日戊辰	四日丁卯	三日丙寅	二日乙丑	朔日甲子	閏五月大	夏至	廿九癸亥	廿八壬戌	廿七辛酉	廿六庚申	廿五己未	廿四戊午	廿三丁巳	廿二丙辰	廿一乙卯	二十甲寅	十九癸丑	十八壬子	十七辛亥
貝開翼火六	甲納張月七	獸成星日八	鳥危柳土九	魚破鬼金一	隨節用草	五月中卯初刻	虫取井木二	木定參水三	草平觜火四	貝滿舉月五	甲除昴日六	獸建胃土七	鳥閉婁金八	魚開奎木九	虫納壁水一	木成室火二	草危危月三	貝破虛日四	甲取女土五
					鬼宿金曜值朔日														

滿四十				滿三十				滿二十			滿十			滿					
廿四丁亥	廿三丙戌	廿二乙酉	廿一甲申	二十癸未	十九壬午	十八辛巳	十七庚辰	十六己卯	小暑	十五戊寅	十四丁丑	十三丙子	十二乙亥	十一甲戌	十日癸酉	九日壬申	八日辛未	七日庚午	六日己巳
虫	木	草	貝	甲	獸	鳥	魚	虫	六月節巳六刻	木	草	貝	甲	獸	鳥	魚	虫	木	草
定	平	滿	除	建	閉	開	納	成		危	危	破	取	定	平	滿	除	建	閉
昴	胃	婁	奎	壁	室	危	虛	女		牛	斗	箕	尾	心	房	氏	亢	角	軫
日	土	金	木	水	火	月	日	土		金	木	水	火	月	日	土	金	木	水
五	六	七	八	九	一	二	三	四		五	六	七	八	九	一	二	三	四	五

滿四十				滿三十				滿二十			滿十			滿					
十二乙巳	十一甲辰	十日癸卯	九日壬寅	八日辛丑	七日庚子	六日己亥	五日戊戌	四日丁酉	三日丙申	二日乙未	大暑	朔日甲午	六月大	廿日癸巳	廿九壬辰	廿八辛卯	廿七庚寅	廿六己丑	廿五戊子
鳥	魚	虫	木	草	貝	甲	獸	鳥	魚	虫	六月中今晚子五刻	木	建	草	貝	甲	獸	鳥	魚
開	納	成	危	破	取	定	平	滿	除	建		閉	建	開	納	成	危	破	取
斗	箕	尾	房	日	氏	亢	角	軫	翼	張		星	未	柳	鬼	井	參	驚	畢
木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月		日	木	土	金	木	水	火	月
五	六	七	八	九	一	二	三	四	五	六		七	八	九	一	二	三	四	五

明治六年 (1873)

潤四十日		潤三十日			潤二十日			潤十日			潤十日								
七月小	廿日癸亥	廿九壬戌	廿八辛酉	廿七庚申	廿六己未	廿五戊午	廿四丁巳	廿三丙辰	廿二乙卯	廿一甲寅	二十癸丑	十九壬子	十八辛亥	十七甲戌	十六己酉	立秋	十五戊申	十四丁未	十三丙午
建甲申	甲平張月五	獸滿星日六	鳥除柳土七	魚建鬼金八	虫閉井木九	木開參水一	草納醬火二	貝成畢月三	甲危昴日四	獸破胃土五	鳥取婁金六	魚定奎木七	虫平壁水八	木滿室火九	草除危月一	七月節戌八刻	貝建虛日二	甲建女土三	獸閉牛金四
虫	箕宿值月																		
	翼宿火曜值朔日																		

潤十日		潤二十日			潤三十日			潤二十日			潤十日			潤十日					
十八辛巳	十七庚辰	白露	十六己卯	十五戊寅	十四丁丑	十三丙子	十二乙亥	十一甲戌	十日癸酉	九日壬申	八日辛未	七日庚午	六日己巳	五日戊辰	四日丁卯	三日丙寅	二日乙丑	処暑	朔日甲子
草成婁金五	貝危奎木六	八月節辰一刻	甲破壁水七	獸破室火八	鳥取危月九	魚定虛日一	虫平女土二	木滿牛金三	草除斗木四	貝建箕水五	甲閉尾火六	獸開心月七	鳥納房日八	魚成氐土九	虫危亢金一	木破角木二	草取軫水三	七月中寅四刻	貝定翼火四

滿日十四				滿日十四			滿日十四			滿日十四			滿						
七日己亥	六日戊戌	五日丁酉	四日丙申	三日乙未	秋分	八月甲午	朔日癸巳	八月大	廿九壬辰	廿八辛卯	廿七庚寅	廿六己丑	廿五戊子	廿四丁亥	廿三丙戌	廿二乙酉	廿一甲申	二十癸未	十九壬午
虫滿尾	木除心	草建房	貝閉氏	甲開亢	八月中午六刻	獸納角	鳥成軫	建乙酉	魚危翼	虫破張	木取星	草定柳	貝平鬼	甲滿井	獸除參	鳥建鬻	魚閉畢	虫開昴	木納胃
火五	月六	日七	土八	金九		木一	水二	魚	火三	月四	日五	土六	金七	木八	水九	火一	月二	日三	土四
								斗宿值月											
								軫宿水曜值朔日											

滿日十六				滿日十六				滿日十六			滿日十五			滿日十四					
廿六戊午	廿五丁巳	廿四丙辰	廿三乙卯	廿二甲寅	廿一癸丑	二十壬子	十九辛亥	十八庚戌	寒露	十七己酉	十六戊申	十五丁未	十四丙午	十三乙巳	十二甲辰	十一癸卯	十日壬寅	九日辛丑	八日庚子
獸成星	鳥危柳	魚破鬼	虫取井	木定參	草平鬻	貝滿畢	甲除昴	獸建胃	九月節西三刻	鳥閉婁	魚閉奎	虫開壁	木納室	草成危	貝危虛	甲破女	獸取牛	鳥定斗	魚平箕
日四	土五	金六	木七	水八	火九	月一	日二	土三		金四	木五	水六	火七	月八	日九	土一	金二	木三	水四

明治六年 (1873)

滿三十日				滿二十日				滿十日				滿十日				滿十日			
十四丙子	十三乙亥	十二甲戌	十一癸酉	十日壬申	九日辛未	八日庚午	七日己巳	六日戊辰	五日丁卯	四日丙寅	三日乙丑	霜降	二月甲子	朔日癸亥	九月小	廿日壬戌	廿九辛酉	廿八庚申	廿七己未
貝	甲	獸	鳥	魚	虫	木	草	貝	甲	獸	鳥	九月中今夜子初刻	魚	虫	建丙戌	木	草	貝	甲
滿	除	建	閉	開	納	成	危	破	取	定	平	滿	除	建	建	閉	開	納	張
奎	壁	室	危	虛	女	牛	斗	箕	尾	心	房	土	亢	角	角	軫	翼	張	月
木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	七	八	木	木	水	火	二	三
四	五	六	七	八	九	一	二	三	四	五	六	九	八	九	九	一	二	三	三
														牛宿值月					
														亢宿金曜值朔日					

滿三十日				滿二十日				滿十日				滿十日				滿十日			
三日甲午	二日癸巳	朔日壬辰	十月大	廿九辛卯	廿八庚寅	廿七己丑	廿六戊子	廿五丁亥	廿四丙戌	廿三乙酉	廿二甲申	廿一癸未	二十壬午	十九辛巳	立冬	十八庚辰	十七己卯	十六戊寅	十五丁丑
木	草	貝	建丁亥	甲	獸	鳥	魚	虫	木	草	貝	甲	獸	鳥	十月節寅五刻	魚	虫	木	草
危	破	取	建丁亥	定	平	滿	除	建	閉	開	納	成	危	破	十月節寅五刻	取	取	定	平
心	房	氏	女宿值月	亢	角	軫	翼	張	星	柳	鬼	井	參	觜	十月節寅五刻	畢	昴	胃	婁
月	日	土	氏宿土曜值朔日	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	九	月	日	土	金
四	五	六		七	八	九	一	二	三	四	五	六	七	八		九	一	二	三

十月十日		十月十日		十月十日		十月十日		十月十日		十月十日		十月十日						
廿一壬子	二十辛亥	十九庚戌	十八己酉	十七戊申	十六丁未	十五丙午	十四乙巳	十三甲辰	十二癸卯	十一壬寅	十日辛丑	九日庚子	八日己亥	七日戊戌	六日丁酉	五日丙申	小雪	四日乙未
魚建	虫閉	木開	草開	貝納	甲成	獸危	鳥破	魚取	虫定	木平	草滿	貝除	甲建	獸閉	鳥開	魚納	十月	虫成
鬼井	木五	參水	芻火	畢月	昴日	胃土	婁金	奎木	壁水	室火	危月	虛日	女土	牛金	斗木	箕水	中	尾火
金四	木五	水六	火七	月八	日九	土一	金二	木三	水四	火五	月六	日七	土八	金九	木一	水二	巳	三

十月十日		十月十日		十月十日		十月十日		十月十日		十月十日		十月十日		十月十日		十月十日			
九日庚午	八日己巳	七日戊辰	六日丁卯	五日丙寅	冬至	四日乙丑	三日甲子	二日癸亥	朔日壬戌	十一月大	廿日辛酉	廿九庚申	廿八己未	廿七戊午	廿六丁巳	廿五丙辰	廿四乙卯	廿三甲寅	廿二癸丑
獸破	鳥取	魚定	虫平	木滿	十一月	草除	貝建	甲閉	獸開	建戊子	鳥納	魚成	虫危	木破	草取	貝定	甲平	獸滿	鳥除
室火	危月	虛日	女土	牛金	中戊	斗木	箕水	尾火	心月	甲	房日	氏土	亢金	角木	軫水	翼火	張月	星日	柳土
四	五	六	七	八	四刻	九	一	二	三	虛宿值月	四	五	六	七	八	九	一	二	三
										心宿月曜值朔日									



四十一日				四十二日				四十三日				四十四日				四十五日			
廿八己丑	廿七戊子	廿六丁亥	廿五丙戌	廿四乙酉	廿三甲申	廿二癸未	廿一壬午	小寒	二十辛巳	十九庚辰	十八己卯	十七戊寅	十六丁丑	十五丙子	十四乙亥	十三甲戌	十二癸酉	十一壬申	十日辛未
草	貝	甲	獸	鳥	魚	虫	木	十二月節丑一刻	草	貝	甲	獸	鳥	魚	虫	木	草	貝	甲
建	閉	開	納	成	危	破	取		定	鬼	平	滿	除	建	閉	開	納	成	危
房	氏	亢	角	軫	翼	張	星		柳	金	井	參	糞	畢	昴	胃	婁	奎	壁
日	土	金	木	水	火	月	日		土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水
三	四	五	六	七	八	九	一		二	三	四	五	六	七	八	九	一	二	三

四十六日				四十七日				四十八日				四十九日				
十三甲辰	十二癸卯	十一壬寅	十日辛丑	九日庚子	八日己亥	七日戊戌	六日丁酉	大寒	五日丙申	四日乙未	三日甲午	二日癸巳	朔日壬辰	十二月小	廿日辛卯	廿九庚寅
貝	甲	獸	鳥	魚	虫	木	草	十二月申卯六刻	貝	甲	獸	鳥	魚	貝	虫	木
平	滿	除	建	閉	開	納	成		危	破	取	定	建	已	滿	除
畢	昴	胃	婁	奎	壁	室	危		虛	女	牛	斗	丑	具	尾	心
月	日	土	金	木	水	火	月		日	土	金	木	月	具	火	月
六	七	八	九	一	二	三	四		五	六	七	八	九	一	二	二

危宿值月 箕宿水曜值朔日

区十	区十川				区十				立春	区十				区十			
廿九庚申	廿八己未	廿七戊午	廿六丁巳	廿五丙辰	廿四乙卯	廿三甲寅	廿二癸丑	廿一壬子	立春	二十辛亥	十九庚戌	十八己酉	十七戊申	十六丁未	十五丙午	十四乙巳	
貝	甲	獸	鳥	魚	虫	木	草	貝	正月節午三刻	甲	獸	鳥	魚	虫	木	草	
破	取	定	平	満	除	建	閉	開		納	納	成	危	破	取	定	
箕	尾	心	房	氏	亢	角	軫	翼		張	星	柳	鬼	井	參	觜	
水	火	月	日	土	金	木	水	火		月	日	土	金	木	水	火	
八	九	一	二	三	四	五	六	七		八	九	一	二	三	四	五	

皇国神道八品ノ考ハ、或書ニ曰、  
 人皇十一代孝安天皇十一己亥年冬至<sup>トッ</sup>ヨリ相用ヒ候由有之  
 候得共、睨ト不相知申候、  
 右ハ日々吉凶ノミナリ、人事性質ノ考ハ別書ニアケタリ、  
 亦八品ノ中六品ハ有性ノ物ナリ、二品ハ無性ノ物也、人  
 間ハ不及申上ニ禽獸ニ至ル迄、八品ヲ共々相喰ヒテ其命  
 ヲ生育ス、人ハ猶万物ノ靈成ニ依而、万物ヲ以、食服住  
 ノ三道モ万物ナリ、故ニ万物ハ万物ニアヤカルナリ、人  
 性モ是ヨリ生ルナルベシ、  
 綾津日酒御靈ハ唱ル書ニ委クアリ、  
 元治二乙丑年正月写ス  
 中段ハ官曆ニ随ヒ、下段ノ種々吉凶ハ略ス、  
 九星ハ漢土ノ曆ニアリ、二十八宿・七曜星ハ官曆ニ有之  
 候得共吉凶付ハナシ、外異国ハ七曜星ノミノ由也、去  
 ル西戌ノ年頃、横浜ニテ異人共ニ曆日ヲ相タツネ候処、  
 七曜星ノ中日曜星ヲ先ニカソイ、其日ハ休日ナリ、  
 皇国ノ曆ニ相合フナリ、依之當時ノ曆ハ世界中同物ノ様

子ナリ、相違ハ大小日月蝕望ト、二十四節、春秋ノ氣候、皆差違ル由ナリ、

八品吉凶考

夫天下ノ品物、甲貝草木虫魚鳥獸等ノ自然ニ備ハル活用ヲ以テ、年月日時ノ数ツニ配当シテ、是ヲ推ニ能ク其吉凶ヲ示スト云ベシ、左レハ○甲貝ノ日ニアタレバ武事ニ用ヒテ大吉ナリ、此外諸事決着ノ談ジ事極テ整フ日也、并ニ旅立出船柱建及ヒ神事等ニ最上吉也、亦日和ハ晴ニ属シテ雨ハ稀也、然レドモ月ニ当ル品物ト、時ニ当ル品物トニ吉凶アレバ、其子細委曲下ニ云フベシ、合セ見ルベシ○次ニ草木ノ日ニアタレバ、婚姻ニ最上吉也、此外諸事和談事ニ用ヒテ吉也、并ニ移徙店開ギ及ヒ神事等ニ大吉也、亦日和ハ晴ニ属シテ静也、何事モ穩ニシテ不難ナル日也、於是旅立出船柱建等ニ用ユルモ吉也、然レトモ月ニ当ル品物ト、時ニ当ル品物トニ吉凶アレハ、是モ委曲下ニ著ス処ヲ同断見合知ルベシ○次ニ虫ノ日ニ当レバ、慎ヲ専用トス、故ニ何事モヒカイメニスルカタ吉、

若不得止用事アラバ、其日ノ中ノ能キ時ヲ用ヒテ叶フ也、此ハ下ニアラワス処ヲ同断見合知ルベシ、但シ此日ノ中ニ虫魚鳥獸ニ当ル時ハ、別シテ火ノ元ヲ慎ムベシ、此外ヤ、モスレバ、喧嘩口論人殺シ、或ハ怪我過デ災難等アル時也、於是深ク慎ムベギ也、又日和ハ不定ナリト知ルベシ、然シ月ニ当ル品物、時ニ当ル品物ヨロシケレバ、凡テ何事モ少々ハ輕シ、タメシ見ルベシ○次ニ魚ニ当ル日ハ、陰徳ヲナスニハ吉、統テ儲引ニハ損アリ、此外諸事行違ヒテ整ハズ、何事モ延々ニナル日也、シカシ此日ノ中ニ甲貝草木ノ時アリ、此時ノ中ヲ用ヒハ用弁整ハン欵、何レ慥カナラザル日ト知ルベシ、將此日ノ中ニ虫魚鳥獸ニ当ル時アリ、此時ノ中ニヤ、モスレバ過及ビ災難等アリ、故ニ取分火ノ元ヲ慎ムベシ、猶其子細委曲下ニ云ヘリ、見合セ知ルベシ、但シ日和ハ雨ニ属シテ、或ハ曇或ハ風立等ニシテ、快晴ノ日稀レナルベシ○次ニ鳥ニ当ル日ハ、仏事ヲナスニ吉、此外諸事惡シ、然レトモ此日ノ中ニ甲貝草木ノ時アリ、故ニ此時ノ中ヲ用ヒテ、殊

ニヨリ成就ナラン、於是半吉半凶ト知ルベシ、但シ此日  
ハ人氣穩カナラザル日ナレハ、喧嘩口論其外怪我過災難  
等アリ、付テハ火ノ元ヲ慎ムベシ、猶此ヨシ委曲下ニ著  
ス処ヲ同断見合セ知ルベシ、并ニ日和ハ雨ニ属シテ、或  
ハ曇或ハ風立テ騒ガシギ日多シ、於是穩カナル日ハ甚稀  
ナルベシ○次ニ獸ニ当ル日ハ、諸事大凶ニシテ口舌事多  
シ、殊ニ此日虫魚鳥獸ニアタル時、騒ガシキ事アルモ量  
ルベカラズ、故ニ火ノ元ヲ慎ムベシ、此外人込ノ場イ立  
寄バ、万一災難怪我等アルモ量ルベカラズ、如斯騒カシ  
キ日ナレハ、万事ノ用弁行違ヒテ整ヒガタシ、サリナガ  
ラ此日ノ中ニ甲貝草木ノ時アリ、故ニ此時ヲ用ヒバ、殊  
ニヨリ整フ事モアルベシ、ナレド覺束ナシ、亦日和ハ雨  
ニ属スレド、其中折々ハ晴ル、日モアルベシ、然シ大方  
ハ雨天ニシテ、或ハ風立或ハ曇ル等ノ日多シ○上凡テノ  
条々ハ日ノ吉凶ヲ論ジタル也、猶此以下ハ時ノ吉凶及ヒ  
年月ノ吉凶ヲ云、タメシ見ルベシ○甲ニ当ル時ハ堅也○  
貝ニ当ル時ハ固也、但シ甲貝ノ時ニハ殊ニヨリ雷震アリ、

タメシ見ルベシ○草ニ当ル時ハ穩也○木ニ当ル時ハ静也、  
右四品各諸願成就ノ時也、虫ニ当ル時ハ不吉也、其故ハ  
変死ヲ主ル時ニシテ種々ノ怪異アリ、心得ベシ○魚ハ病  
ヲ主ル時也○鳥獸ニ当ル時ハ火災アリ、用心アルベシ、  
此外年月ノ八品ハ上ヲ合セ知ルベシ、但シ、甲貝ノ時出  
火アルトモ、実ハ獸ノ時催シタル也、猶能タメシ見給フ  
ベシ、  
將雷震ハ、大方甲貝ノ日カ同ク刻ニ属ス、虫日同ク刻ニ  
雷震アレハ、不順ノ兆ナリ○甲貝ノ日カ同ク刻ニハ、大  
方晴ル、○虫魚ノ日カ同ク刻ニハ、大方降ルベシ○亦鳥  
獸ノ日カ同ク刻ニハ、大方風アルベシ○草木ノ日カ同ク  
刻ニハ晴、殊ニヨレハ雷震アルベシ、亦火災喧嘩口論變  
死ハ、虫獸ノ日カ同ク刻カニアリ、又木ノ日カ同ク刻ニ  
アル例モアレバ、右ヲモ用心アルベシ、  
日ノ下ニ甲貝草木虫魚鳥獸ト横ニ双フ頭字ハ日ニ当リ、  
亦刻ノ始ニアタルナリ、故ニ其一字ヲ日ト刻トニ兼用ユ  
ルト知給フベシ、

年中吉凶日ト刻トヲ御タメシ可給フ候、左ニ

九	獸	鳥	魚	虫	木	草	貝	甲	子
八	甲	獸	鳥	魚	虫	木	草	貝	丑
七	貝	甲	獸	鳥	魚	虫	木	草	寅
六	草	貝	甲	獸	鳥	虫	木	虫	卯
五	木	草	貝	甲	獸	鳥	魚	虫	辰
四	木	草	貝	甲	獸	鳥	魚	虫	巳
九	虫	木	草	貝	甲	獸	鳥	魚	午
八	魚	虫	木	草	貝	甲	獸	鳥	未
七	魚	虫	木	草	貝	甲	獸	鳥	申
六	鳥	魚	虫	木	草	貝	甲	獸	酉
五	獸	鳥	魚	虫	木	草	貝	甲	戌
四	獸	鳥	魚	虫	木	草	貝	甲	亥

二十八宿并七曜星	
東ノ領北ノ領西ノ領南ノ領	七曜星吉凶
角 木 斗 木 奎 木 井 木	風或晴

充	金牛	金婁	金鬼	金	曇リ風アレハノチニフル	
氏	土女	土胃	土柳	土	曇リ風ニテ晴	
房	日虚	日昂	日星	日	晴 風アレハ雨ヲモヨフス	
心	月危	月畢	月張	月	晴	
尾	火室	火觜	火翼	火	晴テ風ヲ催ス	
箕	水壁	水參	水軫	水	雨 風アレハ吹ハラヒ	
異国ニテハ七曜星ヲ用ヒ候由、日曜日ハ俗ニゾンタクト申テ休日ナリ						
日	月	火	水	木	金	土
ソソ	エー	チウ	ウ	ソ	フ	セ
ン	モ	ウス	ス	ル	ラ	ル
デ	ン	ス	ス	ス	イ	ル
エ	デ	エ	ス	ス	イ	ル
ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ
二	二	二	二	二	二	二
十	十	十	十	十	十	十
八	八	八	八	八	八	八
宿	宿	宿	宿	宿	宿	宿
并	并	并	并	并	并	并
七	七	七	七	七	七	七
曜	曜	曜	曜	曜	曜	曜
星	星	星	星	星	星	星
ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ
出	出	出	出	出	出	出
セ	セ	セ	セ	セ	セ	セ
リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ

孫子ノ卷ニ、箕壁翼軫ニ必風起ルト有之候得共、未タメシ不見、尤宿曜ノ事ハ諸書ニ委ク有之、亦宿曜共、貞享元甲子年改曆有之、同乙丑年ヨリ改リ、其以前ハ相違有之、今時ハ宜シ、

洛書九星并ニ方位

一白水	坎北子	坎ノ水ハ雨ニ属シ、或ハ風
二黒土	坤未申	坤ノ土ハ曇ニ属シ、或ハ吹ハライ
三碧木	震東卯	震ノ木ハ風ニ属シ、或ハ晴
四緑木	巽辰巳	巽ノ木ハ風ニ属シ、或ハ晴
五黄土	中央	中央ノ土ハ曇リ、或ハ雨
六白金	乾戌亥	乾ノ金ハ晴ニ属シ、或ハ風
七赤金	兌酉酉	兌ノ金ハ晴ニ属シ、或ハ曇
八白土	艮丑寅	艮ノ土ハ曇ニ属シ、或雨
九紫火	離南午	離ノ火晴属シ、或ハ風

右ハアル書ニ有之候得共、未シカトタメシ不見故ニ不存、漢土ノ曆ニ有之、皇国ノ官曆ニ無之、當時方位家ニ流布仕候、亦人事ノ進退吉凶ノ考ハ、九星ニヨリ命星断ト申書ニ委シ、尤八門遁甲人事進退吉凶ハ九星ニヨレリ、晴雨考ヲボツカナシ、年中行事晴雨風雷震等外、種々ノ吉凶日々相知ル事ハ、運氣考・国所ノ山海川野土地考無

之候テハ、委ク誌事ハ不相存候、

冊子原寸 縦二八・七種 横二〇・八種 一九枚

三三 久光公天下ノ弊政ヲ論ズル手記

方今政權ノ歸スル所ヲ察スルニ、上ミ帝室ニ在ラズ、下モ人民ニ在ラズ、独有司ニ歸ス、夫レ有司上ミ帝室ヲ尊ブト曰ハザルニ非ズ、而シテ帝室漸ク其尊榮ヲ失フ、下モ人民ヲ保ツト云ハザルニ非ズ、而シテ政令百端、朝出暮改、政刑情実ニ成リ、賞罰愛憎ニ出ツ、言路壅蔽、困苦告ルナシ、夫レ是ノ如ニシテ天下ノ治安ナラシムラ欲ス、三尺ノ童子モ猶其不可ナルヲ知ル、因循改メズ、恐クハ土崩ノ勢ヲ致サン、

文書原寸 縦一六種 横四〇・八種

三三 桜田邸ニ於ケル久光公ノ諭示

今般奉

勅命致上京候処、別段之御待遇、別而恐縮之至候、雖然

未趣意

御採用ニモ至兼、此末如何之形勢可相成哉、日夜致苦慮候、就而邸中之面々、自勘弁は有之筈と存候得共、猶又

一同致謹慎、酒会等相催候義無之様可致告諭事、

文書原寸 縦一六・八釐 横三四・七釐

### 三器 佐土原士族乾滿昭ノ時弊論

治ト道ヲ同スレハ興ラサルナシ、乱ト道ヲ同スレハ亡サルナシ、方今ノ同フスル所ハ、果シテ何レニ在ルヤ、窃ニ諸官ノ風習ヲ察スルニ、全ク旧幕衰季ノ時ニ似リ、人々得ヲ患ヘ失ヲ患フルノ心ヲ以テ、徒ニ今日ヲ送ルノ計ヲナスノミ、豈恐レ戒ムベキニ非スヤ、若其細詳ヲ議セハ、筆紙ノ尽ス所ニアラス、今姑ク其一端ヲ挙論スルモノ左ノ如シ、

一方今諸有司ノ通弊ハ、口ニ開化ヲ唱ヘ心ニ開化ノ実ナク、表ニ開化ノ趣ヲ為テ内ニ開化ノ効ナシ、特ニ其実其効ナキノミニ非ス、却テ多少ノ損耗ヲ生シ、或ハ外

人ノ嘲リヲ招キ、或ハ細民ノ怨ヲ来スコト多シ、是大ニ戒ヘシ、又一ツニハ諸省各々自己ノ勢ヲ張リテ実理ヲ察セス、国家ノ損益ヲ問ハス、相争相軋ルノ風アリ、遂ニハ国用ノ不足ヲ問ハス、強テ意見ヲ立通サントス、是大ナル悪弊ナリ、先実意忠直ノ人ヲ挙用シ、右等ノ悪弊ヲ改ムヘシ、

一衣食貨財ハ天下日用ノ急務ナリ、サレトモ貨財アレハ衣食百事トモ弁スヘシ、故ニ會計大藏ノ任ハ天下ノ大任ナリ、況ヤ帑藏耗竭ノ日ニ当リテハ、其作用極メテノ大事ト云ヘシ、区々ノ名聞ニ拘リ自己ノ才能ニ誇ルノ人、決シテ其任ニアラス、殘忍刻薄収斂ヲ先ニスル人、又其任ニ非ス、何トソ忠懇剛直ニシテ才幹アル人ヲ撰ヒ、其位ヲ尊クシ、其任ヲ重クシテ、大ニ委任アルベシ、然シテ其下々ノ冗員ヲ大ニ省減アリタキコト、一兵ハ国ヲ護シ民ヲ衛ルノ至要、一日トシテ忽カセニスベカラス、サレトモ太平ノ日ニ当リ、無用ノ兵ヲ多ク養フハ、其害亦少カラス、財ヲ費ヤシ民ヲ悩マスコト

容易ニ非ス、実着ノ議ヲトゲ自己主張ノ論ヲヤメ、大ニ減省アリタキコト、

但シ、今日ノ如ク兵隊・教師必ス洋人ヲ雇ヒ用ユ

ルコト、大ニ怪ムヘシ、能々商議アリタシ、

一 北地開拓ノ入費ハ莫大ナルコトト聞ク、此ハ魯國ノ境ニ接シ、不得止ノ勢ナラン欤、サレトモ前途ノ目的モナク歳々ニ洪費ヲ出サハ、其功成ラスシテ其本竭ルノ患アラン、其局ニ任スル者ハ、只其事ヲ誇大ニシテ己ノ為ヲ謀ルモノナリ、忠懇実着ノ議ヲ遂ケ洪費減省ノ策アリタキコト、

一 工部ノ諸事ハ民生日用ノ要務ナルヘシ、サレトモ国力不相応ニ大事ヲ謀ルハ其弊亦多シ、<sup>(裕カ)</sup>敵ニ節減ノノ方ヲ用ヒ、別ニ一省ヲ立テズ、大蔵中ノ一寮ト為シテ可ナラン欤、

一 司法ハ刑罰ノ大権ヲ執ル專要ノ官ナリ、サレトモ今日ノ如ク府県へ出張テ諸事ヲ断スルハ、西洋ニテハ当レリトスル欤、我国ニ於テハ失体ナラン、府県ハ自ら府

県ニ任シ、裁判アリテ然ルヘシ、司法ニハ数人ノ官ヲ置キ、法律ヲ調ヘ府県ノ問ヲ待チ府県ノ欠ヲ補テ可ナラン欤、

一 教部ノ功要專一ナレトモ、今日ノ教法ノ如ク三条ノ教則ノミナレハ、府県ノ役員又ハ区長・戸長ニテ、月ニ兩三度ヅ、読キカセテ可ナルベシ、

但シ、外教ヲ防キ、又ハ人民天有ノ直道ニ基キ、人道明良專一トスルナレハ、三道得意ノ人檢職トシテ、方今教正ヨリ試補ニ至ルマテ檢査ノ上、其任ニアラサレハ速ニ革正アリタキコト、

一 式部ノ無用タルコト、議論ヲ待タス、二三ノ官員、祭祀ノコトニ習ヘル者アリテ足ルヘシ、太宮司・少宮司ノ兼勤ニテ可ナラン欤、祭祀ノ本意ハ、主上ノ自ら遊ハサル、コトナラン、

一 議院ハ天下ノ大事ヲ議スル職ナレハ、要職ト云ヘシ、サレトモ今日ノ議院ノ如キハ、全ク正院ノ指揮ヲ受テ小事ヲ取調ル程ノコトト聞ク、大祿ヲ受テ養病坊トス



ルノ類ナリ、速ニ止ムベシ、

一 外務ノコトハ、旧幕以来不得止ノ弊風モアル歟、但シ今日ノ如キハ、内外ノ別ヲ失ヒ、国家ノ失体タルコト少カラス、能々革正アリタキコト、

一 文部ハ如何ナルコト歟、一定ノ法則、数々変シテ、諸国ノ学校モ総テ廃絶ノ姿ナリ、人才教育ノ説モ皆虚談ニ近シ、東南校ノ教師モ何程ノ補アルヤ、唯々国家ヲ費スニ似タリ、屹ト革正アリタキコト、

一 外国雇入ノ教師モ追々返却アリタシ、無用ノ徒多シト聞ク、外国修業ノ諸生ハ、追々帰国ヲ命セラレントト聞ク、但シ、其令出テモ其事行ハレサルコト多シ、是旧幕以来ノ弊習ナラン歟、

一 華族ハ自ラ其禄ヲ奉還シタル者ニテ、今日可憫ノ一ツナリ、サレトモ終年一事ノ勤モナクシテ大禄ヲ賜リ居ルコト、天理人情ニ於テ其謂レナシ、大中小三等ニ分チ、永禄ヲ定メ大ニ減省ノ法ヲ立ラレタシ、  
一 天下ノ士族其數夥シ、其産ヲ授ルコトモ難カルヘシ、

一時ニ其禄ヲ取り上ケ、眼前饑民乱民ヲ多クスル事モ亦忍ヒ難カラシ歟、士族ニ於テモ一点ノ公務モナク、安閑トシテ禄ヲ貪リ居ルモ亦耐ヘ難カラシ歟、是又一等ノ減禄法ヲ立テ、万一非常ノコトアル節ハ一同相集マリ、県庁ノ用ヲ助クルノ法ヲ定メ、一年ニ一度ニテモ、令・参事ニ謁スル程ノ事モアリテハ如何アラシ、是亦不得止ノ処置ナリ、

但シ、旧来ノ郷土ノ如キ者ト為スヘシ、  
府県ノ官員ハ、大小トナク皆牧民急務ノ任ナリ、其人ヲ撰用スルコト簡要ナリ、但シ数々其人ヲ換ルハ良法ニ非ス、又余リニ長任モ惡シ、大抵三四年ヲ以テ限ト為スヘシ、

右件々多ク節約減省ヲ以テ主トス、新增ノ事ヲ要セス、方今ノ勢、節約ナラサレハ支持シガタキヲ以テナリ、開化ヲ唱フル人ヨリ見ハ、必旧習固陋ト云シ、其折衷ハ真活眼ノ人ヲ待ツノミ、  
開化ノ説ハ今日ノ至要ト称ス、サレトモ開化ノ弊

大ニシテ説ニ堪エサル事モアルナリ、此意唯識者

ト共ニ語ルヘシ、敢テ妄ニ筆セス、

有志士識

冊子原寸 縦二七・八種 横二〇種 七枚

三聖 東京医師金丸恭順ヨリ久光公へ

短冊四枚(内 和歌二首)

(短冊①) 前漢賈誼過秦論首所述者、宜鑑矣、

皇朝靖獻遺言新出、君見之乎、

楊万里千慮策論人才篇、宜味矣、

奈李斯逐客上書、亦可以鑑矣、

□(朱) □

(短冊②) 誠心を國に尽さむ百千重に

我身一は神の随意 忠明

(短冊③) 赤泉州周末諸侯皆有賓、以輔其智略、所謂孟嘗・申陵・

春信・平原四君之類也、我 邦慶元以來、諸侯寡賓客、

故罕有匡輔、偶若水府義公・備前芳烈侯、皆有所師尊者、  
具英明特著者也、 □(朱) □

(短冊④) 慨世之情切迫、且貧窶窮焉、將赴水、倣楚屈平之為、冀

一見、君一言而后死耳、若以賓客待吾、則吾亦存生爾、

□(朱) □

(短冊⑤) 楠公御歌

楠公御歌

身の為に君を思ふも忒心

君の為にと身をも思はて

短冊原寸

縦三六種

包紙原寸

縦四〇・七種

横 六種 四枚

横 二七・五種

三聖 京都府宇都宮政成ヨリ久光公へノ建白

士氣廉恥心ノ作興

方今時勢 皇國ノ士氣日々ニ衰頹、散髮脱刀ノ風ヲ善シ

トシ、人心義ヲ忘レ、各自己ノ生活利欲ニ区々トシテ、

敢テ天下ヲ憂フルノ人ナク、随テ兵力微弱、仮令ヒ郡県

ノ制ヲ立テ、一時諸藩ノ兵ヲ募リ、尽忠一塗ニ報セシメント欲スト雖トモ、其大本既ニ失シ、人心離夷、敢テ国家ノ大患ヲ慮リ、予メコレヲ保護スル杯ノ事ハ、思ヒモ寄ラスコトト相成リ、僅カニ近衛鎮台ノ兵ヲ置レタリト雖トモ、其兵士ノ志操如何ヲ知ラス、元來我カ神州ノ國ヲ建ル、武ヲ以テ本トナシ、廉恥志氣ノ盛ナル、實ニ海外各国ニ懸絶スルコトハ、既ニ洋人モ能クコレヲ知り、彼レノ編籍ニモ載セタリト、是レ我カ国體ノ因テ以テ立ツ所以ニシテ、小國ト雖トモ千有餘年來、未タ曾テ海外ノ大國ニ從屬セサル所以ノ者、独リ斯ニ在リ、故ニ我カ皇國ヲ平治セント欲セハ、第一志氣廉恥ヲ鼓舞策勵スルニ非スシテ、豈ニ又タ先ンスル所アラランヤ、而シテ若シ能ク作興ノ宜シキヲ得ルトキハ、必ス我カ國民、自ラ本性ニ復セサルヲ得ス、遂ニ人心一致、憤激策勵、国家ヲ憂ヒ 朝意ト交々一体シ、各必死ヲ決シ、常ニ溝壑ニ在ルノ勢ヲ成スヘシ、然ルトキハ 皇國ノ國體頗ル堅精、加フルニ 朝廷深ク外國ノ交際ヲ慎ムトキハ、則チ各國

ノ僅カニ機械ノ工及ヒ土地人民ノ多キヲ挾ミ、富國ニ誇ル者モ聊カ恐畏ヲ醸スヘキコト必セリ、然ルニ上文ノ如ク、近来ニ至リ士氣頗ル陵夷シ兵勢日ニ衰頽ス、此ニ於テ 朝廷始メテコレヲ憂ヒタマヒ、種々徵兵募制ノ令ヲ頒布シタマフト雖トモ、乍恐其因テ然ル所以、皆是レ朝廷ノ御処置其宜シキヲ得サルニ因ルナリ、故ニ今一日事アレハ、日本ノ兵何ヲ以テコレニ滿テン、且ツ當今ノ御政體、恐レナカラ外夷ノ作為規程ノミヲ倣ヒ、却テ彼レノ富國強兵ヲ致ス所以ノ術ヲ察セス、加フルニ邪蘇ノ教師、近頃我カ 神州ニ渡來シ、衆庶ニ其教ヲ施サントス、實ニ 皇國ノ盛衰、此ノ機ニ存スヘクト存候、然レトモ當今ノ時勢、迎モ一微力ノ能ク救フヘキニ非ス、而シテ又知テコレヲ睨視スルニ忍ヒス、依而今一書ヲ閣下ニ呈シ、頗ル希フ所アラントス、請フ、幸ニ少シク此ノ意ヲ哀憐セヨ、聞ク、 閣下已往戊辰以前ヨリ、大ニ国家ニ憂フル所アリテ、屢々言ヲ 廟堂ニ獻シ、又他ニ諸方ノ義士慷慨憤激、遂ニ其功成リ、以テ戊辰ノ交革ヲ

為シ、而シテ閣下敢テ政務ニ与ラス諸吏議評シ、専ラ  
国政ヲ維持シ、而シテ今日ノ形勢ニ趣ク、然ルニ此形勢  
閣下ノ貴意ニ適スルカ、將タ又適セサルカ、恐レナカラ  
愚窃ニ惟ミルニ 皇国ヲ維持スル此ノ如キ 御政体ニテ  
ハ、迺モ永久ヲ平治スルハ出来難クト存候、且ツ第一ニ  
志氣振ハス、随テ兵威弱ク、及ヒ邪蘇教ノ我カ国ニ入  
ルヲ以テ切ニ昨今ノ患トナス、故ニ此ノ頽敗ヲ救ハント思  
ハ、今ノ機会ニ乗シ、未タ拘泥固着セサルノ先ニ於テ  
シ 上ミ先ツテ士氣ヲ励マシ、外国交際ノ条理ヲ正スニ  
非レハ、殆ント臍ヲ嚙ムトモ必ス能ハサルノ時日至ルヘ  
クト存候、依而今 閣下ニ対シテ、切ニ希フ所ハ、何卒  
愚カ微志ヲ補助裁正シ、 廟堂ニ到リ、与ニ大議ヲ 御  
前ニ献シ、他人ノ補裁ヲ要セス、帝国当然ノ条理ニ因リ、  
真ニ 聖断ヲ請ヒ、其是非曲直ヲ奏聞シ、以テコレヲ救  
ハンコトヲ、若シ然ラスシテ、通例ノ建議ニテハ、他人  
ノ喋々ニ拘泥シ、迺モ善白モ行ハルヘカラサル必セリ、  
若シ行ハレサルトキハ勞シテ功ナク、無益ニ力尽サンヨ

リ、寧ロータヒ談議ヲ確定シ、必ス国家ヲ救フヘキノ良  
策ヲ設ケテ可ナリ、実ニ此時ニ当リ、諸吏ヲ輕シトシ、  
社稷ヲ重シトスルノ時ト存候、併シナカラ 廟堂ニ勅裁  
ヲ請フモ、中々通例ノ手續リニテハ其志遂ケ難ク、却テ  
後害ヲ引出スヘク候間、余程ノ良策ヲ設ズ候テハ叶ハサ  
ルコトト愚日夜心思ヲ焦シ、此策ヲ考フルニ、全ク一策  
ナキニシモアラス、又退テ愚カ浅学ヲ顧ミテ以為ラク、  
迺モ固陋不才ノ企テ、能ク及フヘキ所ニ非スト、然レト  
モ仁ニ当テ師ニ讓ラサルノ類ニシテ、此時ニ当リ憤發コ  
レヲ救フニ非サレハ、後チ悔ユトモ及フ間敷クト存シ、  
且ツ愚カ叔父ナル者既年病ニ臥シ死ニ臨ミ、愚未タ幼ナ  
キカ故ニ一書ヲ筆シ、コレヲ愚ニ遺セリ、二三年情ヲコ  
レヲ視ルニ、其言皆ナ愚カ胸ニ適セリ、此ヲ以テ傍ラ此  
遺命ヲ荷ヒ、何分此意ヲ遂ケスシテ、左衽蟹文ノ風ニ変  
シ、以テ生ヲ没フルトキハ、黄泉ニ至テ又何ノ面目アラ  
ント朝夕憂苦、乃チ今茲シ方ニ機会ノ見ルヘキアリ、依  
而身ヲ潜メ体容ヲ革メ、世人ノ疑惑ヲ避ケ、父母親戚ニ

モ敢テ其意思ヲ語ケス、独リコレカ故ニ当地ニ来リ、窃  
カニ形勢ヲ窺フナリ、伏テ願クハ 閣下文字ノ拙キヲ以  
テ意ヲ害セス、聊カ愚カ微志ヲ憫ミタマヒ、此ノ上策御  
勘考ニテ御相談申上度、尚ヲ二三日ノ内愚躬ヲ参殿可仕  
候間、御面会之程偏ヘニ奉願候、何分此一条ハ一時忽々  
ニ企テ候事ニハ無之、積月憤激思慮ノ儀ニ付、此時機到  
リ一日モ早ク勘考不仕候テハ、必ス後悔ヲ可醸ト存居候  
也、恐惶頓首、

京都府管下  
宇都宮政成



從二位島津久光君老大閣下

冊子原寸 縦一七・五種 横一九・五種 五枚

三〇〇 城井寿章ヨリ久光公ヘノ呈詩三首

二二四七ノ一

風

一逢景略始揚名  
蘇子秦生論未平  
曾在相鬚經御覽  
世間維似爾多榮  
半風 寿章  
未定稿

叱正

文書原寸 縦一四・五種 横三一・二種

二二四七ノ二

紙薦

楮身竹骨輕如葉  
頤頤隨風遂爲群  
纔頤兒童手中糸  
飄然白在入青雲  
得道上  
寿章

叱正

文書原寸 縦一六・二種 横三一・二種

二二四七ノ三

杞憂注出万言章

一片婆心如筒長

燈前投筆時一嘆

為人還作嫁衣裳

自題上疏稿本後

章未定稿

叱正

文書原寸 縦一六・二種 横二九・五種

二二四七ノ四

わかたのむことしらぬひのつくし人、つくさむこゝちは  
ふみなたかへそ、と仰して、これをかの人に伝へよとい  
ふ辭に、うちおとろけは夢なりけり、過し四日の御気色  
をうかゝひ奉りしより、かくては 神慮いかゝあらんと

おもふあまりに、われなから夢見けむやとおもひ侍れと  
いとかしこければ、

神こゝろよるへの水のかゝみには人のこゝろもうつれと  
そおもふ

たのむへき神にたのみをかく人のかしこしとなとおほさ  
らるらん

文書原寸 縦二七・三種 横二二種

二二四七ノ五

言拳セス 皇国フリヲ忘レテ幽理ヲ記シ、現今

ノ確証ニソナヘン事、 神慮憚アレハ、事実御

覚悟ノ後ハ此書白紙ニ歸ス事ヲ要ス、

去ル十四日、御寿算書・賜物ヲ拜受シテ、故郷ニ歸ン

ト三菱商社ニ便船ヲ問フ、昨日出港シツレハ、来ル十

九日ノ飛脚船ノ外幸便無ト云、依マツ御寿算書ヲ郵便

ニ出シテ、御足痛ヲ除カン事等ノ祈念ヲ勝浦ニ告テ、

神ノ冥助ヲ乞フ、

十九日午後五字横浜出行、廿日夜神戸着、廿一日上陸

大坂行、同夜淀川上り、廿二日京師ニ着ス、即刻神カ、リヲ迎テ、事ノ次第ヲ賀茂皇太神ニ奏上ノ神ヲ乞フ、賀茂ノ客神金光明神来臨、依之事ノ次第ヲ述フ、明神ノ曰、其旨東行シテ及披露、御返答ヲ伝フヘシト云ヒテ、上ラセ玉フ、

暫アツテ、讃州象頭山ノ守護神三島明神来臨、コレモ賀茂ノ客神ニテ、兼テ東行 玉体守護ノ一神ナリ、此度小生帰西ヲ知ツテ東京ヨリ来レリト告玉フ、廿二日薄暮ヨリ廿三日暁マテ、御物語ノ要ヲ撮テ左ニ記ス、

尤御断中ノ一端ナレハ、其心シテ見ルコト肝要ナリ、  
○神ノ心ハ広大ニシテ事咎メシ玉ハスト雖、当時ノ官人ノ事ハ堪難シトテ、善ハ善、悪ハ惡ト夫々札付ニ成タレハ、遠カラス善惡邪正明白スヘシ、最早彼是心配スルニ不及トナリ、

○何程洋ニ癖シテ自主自由ノ權ヲ恣ニスルトモ、少シ茂構フ不可、今日ノ官人ハミナ氣狂ヒナリ、馬車ハ則カ

レカ地獄行ノ火ノ車ナリ、

○利欲ニ迷ヒ、廉恥ヲ忘レ、洋人ニ媚ヒ、神州ノ基礎ヲ乱シ、先王ノ国憲ヲ破リ、日本全州ヲ洋風ニ吹ナヒカサントスル輩ハ、外夷ヨリモ甚シク忌ミ嫌テ、神々ノ深ク惡マセ玉フトナリ、

○神ハ慈悲ノマナ尻ヲタレテ、凡夫ノ犯セル罪トカヲ見ノカシ玉フト雖、重罪自ラ其身ニ迫リ天罰近キニアリ、是レマテ何ホド心安キ者ニテモ、此度天ノ咎メニヨリテ、身ノ置所ナキヲ救フ不可、モシ日頃ノヨシミヲ思ヒテ助ルトキハ、同罪ノ御咎メヲ受レハ兼テ心得オクヘシ、勝浦ナトハ、老人ノ事ナレハ忘ル、コト勿レ、女ナレハ必慎テ誤ルコト勿レト再三戒メ玉フ、

○人コソシラネ、国家ノ安全ヲ主宰シ玉フ 神々ノ神慮ヲナヤマシ玉フ事ハ、亞米利加初テ渡来前ヨリ一方ナラヌ御事ニテ、一朝一夕ノ御尽力ナラス、サレトモ時節至来ノ国難、ノガル、ニ道ナフシテ、終ニ今日ニ及ヘリ、是ヲ知ラスシテ神ト云フハ世ニナキ物ト云ヒ、

人智ヲ以テ猥ニ神ヲソシリ神慮ニ背キ、洋説ニ癖シテ  
国害ヲ醸シ、札付トナル者ハ、東西南北其形チノ表ス  
ル所江見ハリヲ付テ、一六ノ休暇ナク、昼夜ノ差別ナ  
ク守ラセ玉ヘハ、天ノ網ノカレ難シト知ルヘシ、

○トヤカクト民ノ汗ノ油ヲ絞リ取テ、身ニツケントスレ  
ト、少シモ身ニ付ク物ナシ、彼レ等カ身ニツク物トテ  
ハ、自分々々ニ犯セル罪ノ報ヒノミナリ、心アル者ハ  
慎マスンハ在ル不可、

廿三日曉ニ至レハ、金光明神婦ラレタリトテ上ラセ玉ヘ  
ハ、金光明神スグニ下リ玉フテ、昨日奏上ノ御返答ヲ告  
玉フ詞ニ曰、

○事ノ次第事情ノ趣ハ尤至極ナレト、何分不出ノ隙ヲ得  
テカレ蔓延スレハ、是レヲ払フニ暇ナフシテ、事ノ運  
ヒ遅々スレハ、シハラク進テ職ニ出仕アランコトヲ乞  
フナリ、ワサ々々遠方ニ汝ヲヤリテ、神ヨリ人ニ頼事  
ヲスルハ止ム事ヲ得サル事アレハナリ、此情ヲ察スヘ  
シ、

○事ノ思フヤウニ運ハサルト、積年ノ病ニ付テ事務ニ倦  
ミ氣力ツカル、ト雖、志ヲ貫<sup>ツラメカ</sup>ントスル勢ニ乗テ、進  
マント思フ心発スレトモ、病ニヨツテ又退カント思フ  
心起リ、頼ミ少シ、サレト此人ヲ置テ外ニ国家ノ為ト  
セン人ナシ、モシ病ニ勝ツテ進ム心発スルナラハ必前  
後ニ守護神ヲ付テ助クヘシ、

○敵ハ今時ヲ失フ時、味方ハ得ル時ナレハ、倦<sup>ツ</sup>マスタユ  
マス、此機ニ乗シテ事ノ成就ヲ計ルヘシ、時ハ今ソ怠  
ル勿レ、今一度東行シテ此事ヲ伝ヘ必ス出仕アランコ  
トヲ乞ヒ、汝モ在留シテ事ノ成ルマテ尽力セヨトアレ  
ハ、再ヒ東行ノ事ヲ決ス、

○病ノ根元ハ痼ナリ、コレニ風毒ノ纏レコリトゞコホリ  
テ當時ノ体トナル、病モ年ヲ経タレハ速功カタシト雖、  
コレヲ治セサレハ、今日ノ急務ト、コホリテ墓<sup>ハカ</sup>ドラス、  
故ニ神慮ヲ尽シテ平癒ヲ急クニ、遠路ニシテ思フニ任  
セス、先ツ撫物ヲ迎テ是ニ加持セント告<sup>ツ</sup>玉フ、

廿五日午前九字ノ頃、人力車ヲ飛シテ神カ、リノ女来ル



ニ、常ノ体ナラザレハ、何事ニヤト問フニ、イラヘ無シテ唯賀茂トノミ告、サテハ 太神ノカ、リテ来マセルナリト打驚ツ、長縮シテ御気色ヲ伺ヘハ、堪ガタキコトノイデキテ来リタリ、最早此世ノ事ハワガ力ニ及ハス、今ハ天上ニ上リテ事ノ訳ケヲ言ヒ、天皇守護ノ事ヲ断リ、賀茂ノ山ニ隠レ入ント思ヘハ、先ノ日、其方ヲ以テ島津ニ依頼セシコト、亦一昨日、金光ヲ以テ告シ事ヲホドカントテ来レリト告玉フ、御怒ノサマ何事カ 神慮ニ叶ハセラレヌ事ノ俄ニ在シト知ラレタリ、今朝同志ノ者参リテ云云ノ事ヲ申セリ、皇族方ノ御輔佐在セラレテハイカ、此間東京ニテ伝承任ルニ、有栖川ノ宮云云ノ御尽力アリト伺ヒ奉レハ、此御方ナトノ撰政在セラレテ、少シ 神慮ニモ叶ハセ玉フラント申セハ、金光ニ問ヘトノリ捨テ上ラセ玉フ、金光明神ヲ待テ事ノ次第ヲ告ルニ、太神ノ御怒ノ事実ハシラネト、何分事情切迫、等閑ノ時ニ非ス、急キ東行シテ兼テノ儀尽力アラマホシトアリケレハ、皇族方ノ御名ヲ書テ伺フニ、○有栖川ノ宮ハイ

ハ、有名無実ノ形チニテ今少シナリ、○元中川ノ宮ハ胸ニ物アレハ後ヲダヤカナラス、○東伏見ノ宮ハ出端ハヨケレト、中空ニ雲起リテ月ノ影明ナラス、○伏見ノ宮ハヨリ所サダマラス、浮ヘル雲ノ如シ、

○花頂宮、是コソト思ヘト身ニ病アリ、之ヲ治セサレハ用ニ立チ難シ、当時洋行中ナカラ、人ノ誉ムルハ

○北白川ノ宮ト申セハ、シハシ考ヘテ冷水ニハ魚住ストハ、是等ヲヤ云フナラン、我考ニハ、花ニシクハナシトクリ返テ誉美唱シテ、満面ニエミヲ含マレタレハ、花ニ風ノ憂ヒイカ、ト問ヘハ、病ヲ治スル法アリト告玉フ、

○左公御老体ト申御所勞中、進歩ノ事補翼ナクテハ如何アラト問フニ在ルニシクハナシ、サレド公ハ五十九歳ニシテ本星木星ナレハ、水土星ノ人ヨシ、金火星ノ人アシ、○年老テ事ノ運ハサルニウムト、積年ノ病人カラマル、トニ心安カラサレハ、此意ヲ汲テ事ヲ計ヒ反対セヌヲ要トス、氣ニ逆ヘハ事必ナリカタシ、

○公ハ実ニ国家ニ必用ノ人ナリ、太神再三ノ頼ミアルモムヘナリ、モシ病ヲ犯シテ進歩無トキハ、此マ、大変革成カタシ、然ルトキハ非常ノ神策ヲ施シテ、改政アランモ計カタシ、天下変遷ノ際ニ当ツテ、国家必用ノ人民ヲ痛マシムルハ無理ナル事ナレハ、公ノ出仕無トキハ、後ノ要人東京ヲ去テ他方ニ在ラン事ヲ周旋セヨトナリ、

○時勢切迫トハ申セトモ、神ハ万世不朽ノ寿ヲ保チ玉フ、故ニ御心モ長大ナリ、人ハ百年ノ寿ヲ保ツ少ケレハ、必ス心狭小ナリ、サレハ人ノ心ヲ以テ 神議ノ遅速ヲ論ス不可、唯教ヲ守テ正直ニ人事ヲ尽シ、時ノ至ルヲ待事肝要ナリ、用意ハ速キヲ吉トス、

文書原寸 縦一七・三種 横一九種 二枚

縦一七・三種 横八・三種

三穴 浅田宗伯ヨリ久光公ヘノ建言

人選登庸氏名書

〔包紙ウツ書〕  
人名封書

浅田宗伯拜

○(黒)

元柳川侯立花氏

元川越侯松井氏

元吉井侯三猿子

士族

松平権十郎

辻七郎左衛門

轟 武兵衛

赤井次郎

豊田謙蔵

静岡隠士

駒井相模

元庄内  
元松山  
元限本  
元高松  
元鶴牧

糟屋筑後

其他御一新ノ時、登庸議論不相合、退隱ノ者及愛宕家ノ

義党ト称シ、当時禁錮ノ者頗人物アリ、宜ク可選挙、

文書原寸 縦一五・五種 包紙原寸 縦一四・三種

横 三・八種 横三三・三種

三究 無名氏ヨリ久光公ヘノ建言

廟議久光公ノ建言採用ノ有無ニ就テ

(表紙)  
「欽上」

臣某血泣して恭敬白、過日到密之事を以て上言仕、夫れ以来促し奉る事甚滋し、是れ屢すれハ疏せらるの聖戒を犯す、豈恐れざるへけんや、乍去事甚急迫に及ふ、寸刻も遷延遊され難し、若此機会を失ひ玉ハ、百叫万転して悔ひ玉ふとも及ばざるへし、其仔細を可奉申上、凡ソ御建白を拒む者両派有り、一ハ朝官、一ハ西板派、其西板派の語に曰、島津三郎ハ奸賊にて、其主張する処の建

言、大ニ時世を妨る固陋の説なり、故に何処迄も我輩ハ

三郎ニハ組し不申と唱へる由、因て此両派共ニ御建言之

御趣意ハ、何処迄も御邪魔申上候儀ハ申迄も無之、然処

其西板派の暴挙して奸吏を(行カ)を除くノ事、甚近きに差迫候、

若し西板派は暴挙の成功を奏セハ、必ず徳川家を倒した

る前轍を踏て、忽

朝廷を乗取り、権を取威を擅にすれハ、御建言を進め玉

ふ処の道、寸も無き事に必ず閉塞すへし、若し西板派暴

挙を誤り候ハ、朝威弥々強ク相成、尚弥々御建言差

拒ミ可申事手強ク相成、御尽力の道倍々難き方に向ハセ

らるへし、先者制人、後者被人制の理なれハ、彼暴挙方

々に後れさせられ候ハ、果して彼西板派に制せられ玉

ふ事に可相成、左様成行候而は折角の御建白も水の泡と

相成可申、因て御建言の御趣意、明に御貫徹可被遊様の

御運ひ入れの機会も、僅爰数日の間に出ざるへし、此数

日の間なれハ、彼西板派の暴挙に先ンし玉へハ、亦彼れ

を制し玉ふ事ニ相成、尚又今日の朝官ハ、西板派の暴

孝且つ又世間一体の動靜に恐怖も懐き候へ、此機会に  
乗し、御建白弁辭書を御運ひ入れ遊され候へ、廟官  
の面々へ其御弁辭書の御督責が一入強ク答へ可申、都て  
何事たりとも、己れが勢盛なる時へ、私情へ引付ケ候故、  
他の督責も答へ不申<sup>(候脱之)</sup>へども、己れが勢ひ弱りたる時へ、  
心気疲れて物に驚き易き故へ、人の過失を責め候にも、  
一寸破て一丈の崩れにも到るへし、故ニ顯過破を以て御  
建言の御趣意相顯へれ候様の御運入も、爰数日の間を以  
て、真に好機会欤と奉伺候、加之此度新に御別立ニ相成  
内務所にて、近年來の御政事御改正に相成、其御布令、  
近日に御発しニ相成候由、右ハ如何様の御改正振欤ハ承  
知仕らず候へとも、政事の過ちを改め事に相違ハ有之間  
敷、仮初にも過と知て改め玉ふと申名義が相立候而は、  
顯過破を以て、折角彼開化癖の失錯を御咎め遊され候而  
も、十が中に三分程も強ク中り申間敷、右様の数々の訳  
柄ニ寄、片時も神速ニ御運ひ入れ遊され度、寸日も御遷  
延ニ不相成様奉祈上候、蓋し世上の人ハ御建白御採用之

御催促御申立之儀を急ぐ議論も間々有之候へとも、某か  
議論ハ大に異なり、先ツ其御建白の御品柄さへ結構なる  
御趣意と申が明了に廟堂上に貫徹致し候へ、御採用ハ  
御催促を俟ずして可被為在、然ニ第一肝要たる御建白之  
御品柄が、時世後れにて頑固物と相成、或ハ賈金同様に、  
廟官より詠めて其品柄が結構と申事を知るもの無き時ハ、  
雨の降ほど御催促ニ相成候とも御採用ニ可相成道理無し、  
因て今日の御急務たるハ、御採用有無の御催促ハサツパ  
リ被為差休、御建白の御趣意の貫徹仕候様、只管御尽力  
一边に被為在候欤と奉伺上候、故ニ一度の御趣意書にて  
通徹難仕旨、御下答被為在候ハ、又御再趣意書御差出  
ニ相成、若又御再趣意書にて通徹難仕旨、御再下答ニ相  
成候ハ、又復御再々御趣意書を御差出ニ相成、何処迄  
も御政事の過失を御問詰ニ遊され、一言の御下答無之場  
に到候迄、御難殺遊さるへき御決心被為在度、決而右様  
の御手数数の可被為掛儀ニハ到不申候へとも、仰願ハ右様  
迄御憤敷被為在度、素より彼れハ邪、此れハ正、彼れハ

非理、此ハ条理、彼れハ過チ、此ハ非過なれハ、百ハ百、  
一として廟官勝利を得る理無し、大丈夫御安心被為遊度、  
右之通、再上問再々上問にも被為及、廟答屈究ニ到、御  
建白之御趣意、天下四海ニ輝カセられ候ハ、御採用の  
御責を俟ず、自然ニ御採用ニ到るへき必然の理なり、左  
様相成候ハ、黜陟の御責を俟ずして、奸吏ハ盜鼠の穴  
に竄るゝが如、自ラ愧て退クへき事ハ目ニ見るか如し、

又又西板派ハ御建白の正論然たる条理ニ驚き怖れ、暴  
拳の望を失ひ、自退ん事、是又必ず目ニ見か如し、是れ  
一箇の御良法を以、両奸を攘斥し玉ふ、喩へハ一弾を以  
て両虎を斃し、一箭を以て両鷗を貫くか如し、不戦而勝  
不破而獲国といふハ是此謂歟、実に大愉快と称すへし、  
時に某たゞ遺憾とすへき処ハ、御威力の薄きに在り、  
廟官、聖人君子ならハ、御誠実ニ辺にて通貫すへき理も  
あれども、堯舜周孔再生すとも、今日の 廟官を化する  
事能ハざるへし、素より暴動のためニ御威力を望ミ奉る  
理ニ而は無之、西板等の如き暴拳を防抑し玉ふ程の御威

力備ハざれハ、亦奸吏の耳目を明ケ、奸吏の權を殺ギ玉  
ふ事能ハざるへし、先其御下答御催促遊され方ニ就ても、  
大ニ死活の別可有之、某が愚考仕る処、毎日壯年輩の人  
入り替りくく手分ケ仕、大臣家より一統の參議家の  
私宅へ向ケ居催促ニ相成程ニ遊されざれハ、中々御急転  
も仕間敷歟と奉存候、誠恐謹言、

冊子原寸 縦二四・三種 横一七・三種 七枚

三吾 政体確立意見 (久光公?)

二冊

二一五〇一

一 近来之政体大藏省ヲ本ト為スニ似タリ、利ニ趨ルモノ  
多シ、蓋シ政ナル者ハ人心ヲ得ルヲ以テ本トス、大事  
ヲ為サントスル者、事ノ根本ヲ知ラスシテ可ナランヤ、  
若シ未タ一毫ノ事ヲ作シ得スシテ、先ツ百姓ヲ擾リ、  
人心ヲ失却スレハ、政府孤立、畢竟誰ト与ニ斯民ヲ護  
センヤ、

一人心ヲ得ルモ不正ノ心ヲ得ルニ非ス、正シキ心ヲ人間ノ本心トスレハ、必ス此ニ注目スヘシ、蓋人心ノ同ラサル其面ノ如シ、何必シモ人々ノ心ヲ得ンヤ、古人モ云フ、天下ノ心ヲ正セントスル者、先ツ我心ヲ正フスヘント、カシコクモ

主上春秋ニ富セラルレハ、進徳ノ功怠ラセ玉フ可ラス、故ニ今日ノ手ヲ下ス処、先慈祥篤実ノ人ヲシテ侍従タラシムニ若クナシ、善端ヲ起シ徳性ヲ養ヒ躁ヲ鎮メ邪ヲ消スル事、日ニ改リ月ニ化シ、言語ノ間ニ在ラサル者アリ、輕薄浮走阿諛、利ヲ貪ルノ士決テ近ク可ラス、

一 國ノ本ハ民ニアレハ、太政官ノ職務ハ勿論言ヲ待タス、專掌ノ局ヲ立サル可ラス、大藏省ハ出納ヲ掌ル而已ナレハ寮ト為シ、民部省ヲ建テ人民繁育ノ基ヲ起シ、然ル可キ欵、是即利ノアル処ナリ、今財賦ヲ督弁スルノ官有テ民ヲ仁スルノ官ナキ、可ナラン乎、

一 國ヲ治ムル者維持ノ法ヲ知ラサル可ラス、何ヲ以テ維持スルナレハ三綱是ナリ、近來自主獨立ノ說ヲ唱フル者アリテヨリ、協力同心、君ヲ尊ヒ上ヲ親ムノ風淪靡シ、一己目前ノ利ヲ見ル而已ニシテ、父老子ヲ教ヘ難ク、夫モ婦ヲ率ヒ難シ、恰モ疾風ノ枯葉ヲ吹クカ如シ、此際ニ於テ其道ヲ得ス、万一乱脈ノ極ニ至ル時ハ國誰ト与ニ立ン、

一 政ヲ為ス者、大ナル利害ナケレハ変革セス、然ラサレハ更ムルノ事未タ成ラスシテ、万民擾々スル而已、是本根ヲ知ラスシテ、瑣滓ノ事而已ヲ議スル弊ナリ、

一 万物ノ齊シカラサル処、即チ天地ノ理物各物ニ付テ可ナリ、禽獸草木ヲ見テモ知ルヘシ、夫レヲ強テ齊フセント欲スル、固ヨリ理ニ背ナリ、近來外國ノ風ヲ虛慕スルヨリシテ、彼ノ形樣ヲ以テ我ノ典礼ヲ變セントス、是ヲ以テ礼制服色ノ法乱レ、人々國制ノ何物タルヲ知

ラス、路上ノ人男女ノ別ヲ別タサルニ至ル、是レ齊セント欲シテ却テ乱ルナリ、此際一定ノ制ヲ立サル可ラス、

一学校ノ設アリト雖トモ、其規則徒ニ躁進ヲ導ク而已ニシテ反省ノ教ナシ、此処注意セサル可ラス、国家ノ安危、人身起滅ノ係ル処ナリ、

一人ノ上タル者、濫費ヲ省キ節儉ヲ示スヘシ、然ルニ即今

主上ノホタン 皇后ノカンサシ、外国ヨリ購ノ由新聞紙ニ見エタリ、是レ何等ノ御趣意ニヤ、畢竟主臣ノ者ハ知ラスシテ、工人共ヨリ為シタルニ似タレトモ、官人モ不明ノ罪逃レ難シ、其処置無ル可ラス、

冊子原寸 縦二四・四種 横一六・五種 八枚

二一五〇ノ二

一王政ノ主トスル処ハ、万民ヲシテ安堵セシムルニ在リ、然ルニ 御維新以来今日ニ至ルマテ、民心ノ安ンスルハ少クシテ、動搖擾乱スルノ御所置而已ナレハ、即今手ヲ下ス処、上下ノ情交通相孚シ、上ミ下ヲ疑ハス、下モ上ヲ信スルノ政道ヲ立サル可ラス、民心ノ定ラサル、即チ国本ノ動ナリ、

一目今外国交際日々ニ盛ナリ、就テハ軍事第一ノ急務ナリ、廉恥ノ風壞レシヨリ禄ヲ食ムノ士奮発ノ志ナク、兵勢ヲ起スニ縁ナシ、義ヲ以本トシタル兵ニ非レハ兵勢何時カ強ニ至ラン、其終リ虚設ニ近シ、他日国家ノ用ニ立ツヘキヤ、宜シキヲ得ルノ処置ナカル可ラス、当時ノ兵勢ヲ視ニ、御維新最初藩兵ノ強弱ト優劣如何ヤ、固ヨリ兵用ニ供スルノ士族ニテモ、鼓舞ノ方法ナクハ懈怠退廢ニ至リ易シ、況ヤ新募無頼ノ徒ニシテ、給分ノ多少ヲ比較シ動搖ヲ生スルノ族ヲ、国家ノ為ニ

身体ヲ抛ノ時ニ当リ寸分ノ用ヲ得ンヤ、

一 外国ノ負債莫大ニシテ 皇國ノ貢稅數箇年分ヲ尽スト雖モ償フ能ハスト聞ク、是レ第一危急ノ憂ナリ、其方ヲ立スンハ極リ國家ヲ有ツ能ハス、然レトモ負債ノ多少ハ、万民ヲシテ之ヲ知ラシメス、僅ニ數輩ノ官員而已之レヲ知レハ、向來償却ノ目途既ニ立ヤ否ヲ知ラスト雖モ、万一施設ノ方其宜キヲ得サル時ハ悔モ及フ無し、願クハ此時ニ当リ万民ヲシテ之ヲ知ラシメ、自己ノ負債ト心得、國ニ勤メ家ニ儉シ、無益ヲ省キ有益ヲ興シ、其ノ本ヲ務メ其ノ末ヲ抑エ、上下協力、全國同心シテ之ヲ償ヘン、古人財ヲ生スルノ道ヲ云フニ、國ニ遊民無ク、朝ニ倅位無ク、農時ヲ奪ハス、入ルヲ量テ出ヲ為セハ財恒ニ足ルト、是レ財ヲ生スルノ定論ト云フヘシ、

冊子原寸 縦一四・四種 横一六・五種 三枚

### 三三一 探偵書控

井上馨ノ罪狀

〔表紙〕  
「探偵書扣」

元大藏大輔井上馨勤務中私曲ノ条件、風聞ノ低其概略ヲ挙ルコト如左、

一 昨年同人義大藏少輔奉職中、海運橋通商司邸内ヲ百六拾六円式歩ニテ願下ケ願ハ大藏省營繕司江出シ書 面ノ通私下ニナリシナリ 家宅六百三拾壹円老歩ニテ取締ヒ移住致候由此費三ツ井ヨ、然リ出ルト云 然ル処一昨度通商司被廢、追テ三ツ井組御用取扱所ニ相成、其後右組為替方御用盛ニ取扱候ニ付、家作大造ニ相營候訳ニテ、三ツ井ヨリ井上ノ邸宅買入度趣及相談候処、早速致承諾、然ルニ其意ニ任セ候上ハ、望通り代邸結構差出シ可申トノ事ニテ、乃チ三ツ井ヨリ浜町大川端江老万円計リノ入費ニテ營繕致シ為引移候由ニテ、私曲ノ取沙汰不少、且ツ省中ニテモ自然物議生シ



候ヨリ、同人義思慮致候哉、無間茂右家宅ヲ紀州旧知  
 事江壳却致シ代価七千五百円ナリト云、其後更ニ居ヲ移転セントセ  
 シハ旧品川泉邸ニ候処、是又役威ヲ以テ取向候仕方有  
 之候由、牟田口品川泉大参事井上ノ狡黠ヲ知り承服不  
 致、当時竈河岸ニ住居致居候事竈河岸家宅宮橋之義ハ專、  
 岡田平藏周旋致セシ由  
 一 元南部藩大坂蔵屋敷ハ過書町ニ有之、右屋舖詰之役員  
 取扱ノ義ハ、南部表鹿角郡尾去ル沢ニテ掘出セシ銅ニ  
 有之、右蔵屋敷用達ハ、北久太郎町近江屋半左衛門事  
 森本長之助ニテ、鉦山仕入金ハ同人一手ニテ引受用便  
 罷在候、然ルニ元南部藩下ノ豪商鍵屋茂兵衛事村井茂  
 兵衛ナル者生糸魚粕諸物運送渡世、大坂、  
 如案橋ニテハ古着渡世ナリ、同藩用達ニ有之  
 ヲリ、右長之助ヨリ相談ノ上、鉦山仕入金トシテ、陸  
 中山本江年々三万円計リ送り遣シ仕入致シ候ニ付、掘  
 出セシ銅ハ悉皆大坂江積登セ、長之助手元ニテ壳却致  
 シ、右歩合ヲ年々無異乱藩江相納候筈ニテ、以後取引  
 致来候処、茂兵衛義ハ南部表ヨリ年々三万円ツ、古着  
 仕入ノ為メ、大坂江為登金有之趣ニ付、右金ハ大坂ニ

テ長之助ヨリ為替致シ可申ニ付、南部表ニ於テ右員數  
 丈ケ銅山許江相渡與度段、長之助ヨリ頼談ニ及ヒ、茂  
 兵衛モ手数相省ケ候義ニ付早速致承諾、右約束之通為  
 替遣シ候中、南部藩次第ニ不如意ニ相成、大坂蔵屋敷  
 詰ノ役員共、一時融通ノ為メ、長之助江ハ無沙汰ニテ、  
 右積登セノ銅ヲ外々江壳却致シ、都テ長之助江渡方不  
 致ヨリ、自然為替ノ道相絶ヘ、茂兵衛ヨリ山本江仕入  
 金不致態と見合居候処、銅鉦掛ノ役員共ヨリ申聞候ニ  
 ハ、長之助ト引合ノ儀ハ姑ク差置、山本仕入金相滞候  
 時ハ、三千人ノ人夫乍チ及餓死候ニ付、兼而約条之通  
 仕入金可致、長之助江ハ大坂詰合ノ役方ヨリ談判可致  
 トノ事ニ有之、且茂兵衛義ハ藩ノ用達モ致居候事故、  
 不得止山本江ノ仕入金致シ、三ヶ年分束テ八万円計リ  
 相成、其他大坂ニテ蔵屋敷江調達金八万円程有之、且  
 前文銅坑江仕入金追々相嵩、凡九万円計ニ相成候所、  
 左右方ニテ銖同鋪モ返濟方不致當時長之助義ハ負債、  
 為身代償シ候由、此時茂  
 兵衛ハ在阪ニ有之処、南部表店支配人沢田忠兵衛相考

候ニハ、此懸リニテハ年々仕入金致候計ニテ、主家不  
相立ニ付、寧ロ銅山ヲ買下ケ、自佩ニ商売致候方可然  
トノ見込ニテ、戊辰ノ冬願下ケ致シ、爾後益盛大ニ掘  
出シ、凡老ケ年七十万斤ヨリ八十万斤位 此代金当今相場  
ニテハ、凡十二  
万円計山本仕入金ハ一モ有之、然ルニ戊辰ノ歳兵馬恫惚ノ  
際ニ於テモ、三千人余ノ人夫鉞坑江入レ、己巳ノ違作  
モ 此時ノ米、石ニ付十兩ヨリ十不撓掘出候得共、米穀高価ニ  
モ二兩位、石高凡五千五百石位 有之故ニ引合ニ不相成、四万円位モ損失ニ及候由、然  
ルニ南部藩一時

朝敵ト相成、追々謝罪ノ道相立、転国ノ上七拾万円ノ  
罰金差出候場合ニ、大坂詰合役員ヨリ英商ヲールト江  
相談ニ及、拾八万円借財致シ、南部表江懸合ニ及シ処、  
外国人ヨリ借財致候テハ後日ノ困難難計ニ付、先ツ違  
約致ス方可然トノ藩論ニテ、大坂表江懸合ニ相成、此  
時茂兵衛義ハ引受人ニ而奥印致、既ニ金子受取証書取  
替シ候跡ニテ 此時茂兵衛義病氣平臥ノ処、強テ藏屋舖江連  
行、後難不掛旨申聞、權威ヲ以奥印為致候由、 致  
シ方無之故ニ、右借入高ノ内拾貳万円分茂兵衛江預リ

具度段、藏屋舖詰ノ役員ヨリ相談有之ニ付、茂兵衛ヨ  
リ申出候ニハ、二月三月ニテハ大金ノ事故迎モ扱ヒ  
出来不申ニ付、来十二月迄ノ事ニ候得ハ、拾八万円ノ  
利足丈ケハ付ケ差上ケ可申トノ答致シ候処、夫ニテ可  
然トノ事ニテ預リ置キ、夫々同人手配ヲ以テ借シ付ケ  
置候処、間モナク右金額早々藏屋舖ヨリ返シ可申トノ  
違シ有之候へ共、兼テ約定致有之通りニ無之而ハ実ニ  
困却ノ趣、茂兵衛ヨリ申述ルト雖トモ、一切不聞入ニ  
付、不得止三万円余差戻シ、其後又三ヶ月モ経テ七万  
円余差戻シ、残而老万九千円余ニ相成候由ノ処、右ヲ  
ールトヨリ借シハ己巳ノ秋ナリ、茂兵衛預リシハ同年  
十月ナリ、返納ノ懸合ニ及シハ同十二月ナリ、三万円  
余返セシモ同月ナリ、七万円余返セシハ庚午ノ春ナリ、  
右同年南部旧大参事東次郎出坂致シ、茂兵衛ヲ藏屋舖  
江呼出シ申聞候ニハ、此度ヲールト江為返金、其方ノ  
家産引当ニテ、大藏省ヨリ拾五万円拜借願済ニ相成候  
ニ付、奥印可致トノ談判有之候処、茂兵衛ヨリ相断ル

ト雖トモ、都テ不聞入、押テ茂兵衛宅江家来ヲ以印形  
 取ニ遣シ、遂ニ權威ヲ以テ調印為致、夫ヨリ二郎東京  
(東次郎)  
 江罷越、右ヲ引当トシテ大蔵省ヨリ拾五万円拝借、返  
 納ノ義ハ拾五ケ年賦ト相定メ候処、右年限中外ニ返納  
 ノ手段無之ヨリ、更ニ茂兵衛所持セシ銅山ヲ貸與度旨  
 強テ相談ニ及ヒ、是又茂兵衛不得止承諾致候由、然ル  
 ニ其節支配人沢田忠兵衛、藩ヨリノ仕方如何トモ不条  
 理故、茂兵衛江相談ノ為態々登坂ノ処、同所ノ成行承  
 ヲリ憤懣ニ難堪、終ニ大坂出張、彈正台江直訴ニ及候  
藥少巡察掛  
 ナリト云  
 其後南部藩益困迫ニテ大蔵省江返納不相調  
 ニ付、同省ヨリ未九月十九日茂兵衛家産封印付ニ相成、  
 其頃彈正台被廢民部省聽訟課ニテ取調中、同省亦被廢  
 候ヨリ大蔵省扱ニ相成、壬申三月忠兵衛呼出シ一応聞  
 料ノ上、川村十等出仕ヨリ達ノ趣ハ、南部藩拝借金ニ  
 付兩度奥印セシハ、全ク旧藩權威ヲ以為致候義明諒ニ  
 付、此上ハ国許ニ引取共不苦旨申聞、然ルニ南部藩ヨ  
 リ貸下ケノ三万六千円余ハ、早速返納可致トノ事ニ

有之、忠兵衛ヨリ申出候ハ、主人茂兵衛ヨリ藩江調達  
 金七万四千貳百円余有之ニ付、此中ヲ以御差引被下度  
 段申立候処、川村ヨリ再ヒ申聞候ニハ、右返納ノ分ハ  
 速ニ可相納、茂兵衛ヨリノ貸金ハ追テ沙汰ニ可及、且  
 先達而所持之銅山御買揚ノ義願出候ニ付、是ヲ以全額  
 金返納可致、右山ノ義ハ既ニ岡田平蔵ヨリ願出有之、  
 右金ニ差引可致トノ演説ニ付忠兵衛ヨリ申出候ハ、鉞  
 山銅坑差上ケ之義ハ未年以來茂兵衛家産封印付ニ相成  
 候故、山許三千人余ノ稼人夫難取統故ニ、不得止御省  
 江相願候事ニテ、即今ニ至候テハ米穀下直ニ相成、多  
 分ノ利益モ相見江、然シ戊辰戰爭中引続キ、又己巳之  
 違作米穀高直ノ時節迎モ胆沢県江御払米願立、度々ノ  
 難場ヲモ取統、殊ニ前件藩債引当ニ致候義も御水解ニ  
 相成候上ハ、是非共右山永統致度心底ニ付何分御免被  
 仰付、負債ノ義ハ七ケ年賦ヲ以納可致旨相願候処、  
 許容無之、五ケ年又ハ三ケ年ト相縮メ、再三願出ルト  
 雖トモ、更ニ許容無之ヨリ最早哀訴ノ致方モ無之、然

ル上ハ鉦坑差上ケ可申と御請致候由、然ルニ此川村某ハ井上馨ノ眷顧ヲ受候者ニテ、此時川村ヨリ相達候ニハ、四月上旬爰許発足、陸中鹿角郡江岡田平藏同道ニテ罷下リ候ニ付、其方ハ早々帰国ノ上何時引渡候而モ差支無之様致置可申トノ事ニ付、乃忠兵衛帰国致シ山本取纏相待居候処、如先達出張相成候ニ付、川村ノ指揮ニ随ヒ、銅山并諸器械共悉皆岡田平藏ニ引渡候由、尤右平藏ニハ此山ヲ十五ヶ年賦ニテ願濟ニ相成シ由大蔵省江引渡セシハ、右鉦山并諸器械付凡六万五千円計ニテ、右ノ内茂兵衛返金拾弍万円ノ内、残卷万九千円并為替会社ニテ銅山引当トシテ借リ入ニ及金卷万四千円、胆沢県米代九千弍百円余、其外諸借財、束テ凡六万五千円計リ、右為替会社ハ利立ニ有之故、時々茂兵衛ヨリ催促ニ參リ候得共、平藏ヨリ払込不申ニ付、茂兵衛ヨリ大蔵省江申出候而も埒明不申趣、胆沢県モ同断ナルヨシ、此平藏ハ井上ノ親愛不一方、生産ハ秋田県管下ノ者ニテ、幼年ノ節品川町裏河岸九番地所釘鉄物渡世岡田平作方ニ奉公罷在、其節平作ノ見込有之趣ヲ以養子ニ被貫、以來家業ニカヲ尽シ所々出店致シ、横浜ニテハ海岸通ニテ諸器売込店大坂ニテハ内平野町、神戸等ニモ有之、元來商才有之モノニテ、横浜開港以來初テ外国人江蚕種

紙ヲ売込利益ヲ得、十ヶ年前子年大阪唐物町商人布屋吉次郎ト手組、手広ニ交易可致約定ニ而出坂致候処、攘夷論ノ者聞付殺害致シ、首級ヲ浪華橋ニ懸ケ斬姦罰文差添有之、右ハ全ク平藏ニアラス、手代ト間違シナリ、此時平藏ハ西町奉行松平大隅守取次佐藤三郎岩代國白川ノト申者ヲ頼ミ隠シ貫ヒ、一時危難ヲ逃レ、月ヲ經テ同所ヲ立出テ函館江奔リ潜伏罷在候中、次第ニ開化ノ時節ニ至リ、交易盛ニ相成ルヨリ当地江罷リ帰リ、右之通り所々出店致シ、井上ヨリ不一方愛遇ヲ受候由ニテ、既ニ當時造幣權頭益田孝徳義ハ岡田平藏ノ手代中屋徳兵衛ト申者ニテ、井上ノ引廻ニテ出身致シ候故、同人ノ手足ト相成私曲ヲ助ケシ者ナリ、將又前書佐藤三郎ハ、維新以來平藏ノ手代ニ相成、当今ハ陸中ノ鉦山江罷越諸事扱方致候尾去ル沢山引受代人ハ概本ト云者ナリ、昨年ノ利益高凡三万五千円余ノ趣、右ノ内ニ三五厘ハ井上所得ニ相成候由、鉦山益金ノ内、年ニ三五厘ツ、井上江入候取極ニ有之候趣、右ノニ役ヲ止メラレテモ、南部ノ銅山ト三ツ井ノパンク有之故カマワヌト云タル由、三ツ井パンクノ立方ハ井上

ト直相談ノ事ニ有之故巨細相分り不申、右銅坑ハ村井茂兵衛所持セシ由緒有之、斯迄願立シ事故、是ニ産ヲ得サスコソ宜ナリ、

一 大坂堂島米相場重立人磯野小右衛門井上妾ノ男子ヲ小右衛門ニ預ケ有之由、或ハ養子ニナリシトノ説アリナル者、大坂ニテ元山口藩蔵仲仕ニ有之、

先年旧幕府ヨリ同藩江兵ヲ差向ケ候砌、山口江参り居リ、維新以來大阪江帰リ候得共、矢張山口県商籍ニ入リ有之候、然処井上親愛不一方、右小右衛門昨夏上京致シ井上江頼込候ニハ、難波御蔵ニ困米爾米入札相

成候処、此度大坂中見込有之者江売払候而、取扱ニ預リ度趣及頼談候処、乃承引致シ井上云、見込有之者ト云フテモ分ル間敷ト尋ネシニ、小右衛門答ニ、見込有之者ト云ハ私ナリト云タル由早速出納寮江井上ヨリ下知致候意味ハ、大坂ニテ是迄米穀入札私ニ致来候処、出張

所ノ胥吏ニ狡黠ナル者有之、間々秘機ヲ洩シ相場合ニ関シ候事有之、此度御僉議振ヲ以入札私ヲ止メ、其地見込有之者ニ売渡シ可申とノ差図有之ニ付、直様出納寮ヨリ大坂出張所江及掛合、右封状大坂着ニ不相成前

ニ、市民共此度ハ是迄ノ振合と違ヒ、変ナル米ノ出方ニ相成ル趣風説致シ、中ニハ小右衛門江意脈ヲ通セシモノハ、何欵東京ヨリ御差図ハ無之欵トテ出張官員江裏問ヒニ来リシ者モ有之、此説ニテ大坂・堺・神戸・

下ノ関迄一時ニ相場下落致シ、大坂ニテ不自由ナル上ニ弥増不融通ニ相成、然ルニ此以前ヨリ井上ノ存意ヲ以一粒モ不売払大坂出張ノ節差、図致シ置シナリ、難波御蔵ニ困シ石高五拾万石ニ及ヘリ、大坂府ヨリ頼ニ御出シ方無之テハ衆

庶難儀ニ及ヒ可申と掛合有之ト雖トモ総テ不出、右ノ風説ニテ下落セシユヘ、持貯ヘシモノハ猶不出、右機密相洩レ云々風説セシハ、全ク井上ヨリ小右衛門江申聞候ニ、其方望通り出納寮江下知致シ、同寮ヨリ大坂出張所江差図ニ及ヒシ事故安心致スヘクトノ事ニテ、

小右衛門ヨリ直様宿元江書ヲ飛シ候ヨリ洩レ候事ノ由大坂出張官員共不服ニテ暫時持殺シ事ヲ不果、此時出張所詰権頭長谷川方省山口県婦省中ニ有之、同人婦坂ノ上ノ嘶ニ下ノ関ニテ米相場俄ニ下落致シ、其子細承

リ候へハ、此度大坂難波御藏米大造御売出シ相成候風  
説有之、既ニ新聞ニモ記載有之ヲ船中ニテ見聞セント  
ノ事、其後四五日ヲ経テ、方省ノ論ニ此度ハ本寮差図  
通り見込有之者江売リ捌可然、其見込有之者ト申ハ旧  
県ノ商ニテ小右衛門ナリト云、此時方省ニハ井上ト小  
右衛門云々ノ内情ハ既ニ聞込有之由、乃寸刻ヲ争ヒ五  
万石ヲ三ヶ月平均相場相立小右衛門江払下ケ候処、大  
坂ニテ不売払即日西京江為積登老万円余ノ利益ヲ得ル  
ニ至ル、大坂市中ニ於テハ実ニ偏頗ノ弘方ナリ、入札  
コソ真ニ公平ナリ、若相場直安ニ有之時ハ不売シテ可  
然トノ誹謗モ有之、其後大坂出張所ヨリ本寮江申越候  
ニハ、是迄米相場之義出張所ヨリ機密洩候様本省ニテ  
取沙汰有之候得共、此度ハ全ク御差図振リ披見不致、中  
々奸商共擾立相場合ニ関シ候、是全ク東京ヨリ洩候事  
ニテ可有之、事実突留メ申越有之度旨掛合越候処、日ヲ  
経テ曖昧ノ答到リシ由ナリ、尤方省ハ洩レ候内情ハ承  
知致シ居候得共、為不知前段之通り本寮ヨリ掛合ニ及

シナラン、是等モ全ク井上ノ私曲ニ出シモノナル可シ、  
一大藏大輔井上馨ノ母病死セシニ、門外ノ入費三ツ井取  
賄ヒ、門内ノ入費ハ岡田平藏・田中平吉取賄候ヨシ、  
門外ハ墓所始メ埋葬等ナリ、門内ハ棺槨初メ祭典具或  
ハ賓客ノ入費等ナリ、

一横浜南仲通三丁目糸屋平八事田中平八ナル者、弁天通  
二丁目ニ蚕種紙并生糸売込店、相生町四丁目質店、堺  
町蒸氣積込運送店有之、生国ハ信州伊奈郡飯田桜町商  
田中屋平助ト云者ノ悴ニテ、横浜開港以來生糸商売ノ  
為メ罷出、洋銀相場江手出シ致シ、多分ノ損毛ニ相成、  
借財嵩テ進退ニ迫リ一時身隠レ致シ、再ヒ洋銀相場江  
携リ、次第ニ取付キ十ヶ年前ヨリ一昨年迄ニ前書ノ通  
盛ニ相成候、生得奸ナル者ニテ働キハ有之、同処商社  
頭取相勤盛ニ致候故、仲間合ニ取引少々不筋有之テモ  
人々苦情ハ不申立、自然勢ニ乘リ慢心致居候処、昨夏  
以來多分ノ損毛相立苦心ナレトモ、他見ヲ飾リ益手広  
ニ手出シ致シ候様為見懸ケシナリ、昨秋ヨリ肩ヲ並フ

ル富豪ノ者ハ自然付会致サス、故ニ平八心中苦慮罷在候由、此平八ヨリ表ハドル相場下落致候ニ付買込可申、

一回漕会社此度規則立替候、右ハ井上并ニ陸奥宗光・前島密三名ノ私曲有之趣、

乃チ十万円拝借致度趣井上江申出、依テ大蔵省ヨリ右員数ノ通り借シ与へ、其後益ドル相場下落致候故、損

紀之国屋万蔵事岩橋万蔵ナル者、紀州ノ者ニテ回漕会社頭取ナリ、宗光之レヲ親愛ス、

毛ニ相成シ趣是全ク損毛ニアラス、井上ト手組シ事歟、

一井上先達テ美麗ノ馬車ヲ米国公使(テロロンク)ヨリ被贈候

此トル相場買込惣体機變ノ金銀出納は大蔵卿輔直持ノ

由、右子細ハテロンクヨリ、旧藩々ノ外国負債ヲ早々

由、尤出納寮掛リハ長谷川権頭一人ニ任セ有之、大小

払込呉度段ヲ依頼セシ事有之、乃チ相贈候モノニテ大

丞ニテモ決シテ不知、ドル相場買込ム表ニテ執レノ処

輔職掌上ノ事ニテ、謝礼可受謂レ無之全ク賄賂ニ相当

江遣候哉、幾月ニテモ無利足ニテ借シ与へ候事、間々

可申、

有之候事、

一亞米利加商人アメイチト手組商法致居候由、此金大蔵

一柳橋芸妓常吉ヲ受出シ井上ノ妾ニ致シ候、妾宅相拵候

省ドル相場売買金ヲ以テ致セシトノ風聞有之、尤糸屋

入費并為引候出金ハ一切岡田平蔵ヨリ致シ、四季ノ衣

平八ニ操引為致居候トノ事、

類等モ右平蔵ヨリ拵へ遣シ、一切井上ヨリ算用致シ不

一大坂・神戸商民并長州ノ商民江井上ノ差図ニテ、千・

申、当時自宅江引入候得共、今以衣類等ハ一切平蔵ヨ

二千・三千円位ヲドルノ下落セントキ買込ムヘシト云

リ送リシ由、右常吉亡父ハ神田金沢町商ニテ元柳橋七

フテ、出納寮ノ金ヲ兼テ貸シ与へコレアリ、尤限月無

番地ニ借店罷在雜業致候処、当時母もとト申者一人ニ

之由、

相成シ故、平蔵方江送籍致シ養育致居候事、

一爰ニ買物セントセシニ岡田平蔵ニ頼ミシハ、手許ニ余

金百五拾円アリ、是ヲ以横浜ニテ洋食器械ヲ買求メ呉  
度ト依頼ス、乃平藏ヨリ美器ヲ七百円位ニテ買求メ、  
先ツ是ヲ遣ヒ料ニ被成置度ト云フテ贈リシヨシ、爾後  
小野善助江頼シニ、平藏ヨリ百五十円位ニテ洋食品ヲ  
取調ヘ来リシニ、斯ク心配致呉候故彼ニハ最早難頼、  
爰ニ四十円アリ、是ニテテール・イス相求メ呉候様、  
決シテ平藏杯ノ様ナル事ノナキ様致呉度ト云、善助亦  
四百円余ノ品ヲ買求メ、平藏同断ノ事ノ由、大坂出張  
中モ賄賂三千円余ト云風聞有之ナリ、

一 租税頭陸奥宗光ノ妾ニセシ小かね、新橋辺歌妓ノ節宗  
光愛慕スト云トモ不肯故ニ、云々井上江依頼セシニ同  
人引受、乃岡平ニ此度モ憤発致シ是非取向ケ呉度段懇  
談ニ及、岡平承諾致シ、金ヲ投シ右小かね并ニ家族引  
受取計シナリ、是皆平藏ノ入費ノ由、右小かねヲ井上  
ノ養女トシテ宗光江為引越候事、

一 昨秋井上御暇相願熱海入湯ノ節、旅宿江足柄県権令柏  
木忠俊為尋問度々罷越候得共、スベテ面会不致、後ニ

忠俊、井上ノ滞留中博奕ノ盛ナリシヲ聞キ、面会セサ  
ルモ尤ナリト嘶セシ風説有之、

一 熱海滞留中取調御用向有之趣ニテ、大録一人、給仕一  
人往復共省ヨリ旅費ヲ給シ呼寄セシ由、此時検査寮ニ  
テ公私混同ニテ不都合トノ議論一旦相立候得共、当時  
全權ノ差図故、別ニ論セサル方可然トノ事ニテ旅費相  
渡シ、右兩人熱海江参リ候由、此時省中紛々物議有之  
候トノ風説ナリ、

一 熱海入湯ニ随從セシモ岡田平藏ナリ、其節ノ入費モ平  
藏一切取賄シ由、

一 神奈川県管下農庄右衛門所持致セシ伊勢山ノ地所ヲ昨  
年秋井上買求メ、山城屋和助江命シ造営致ス筈ニテ、  
既ニ和助引受積リ為入候処、美麗ニ營、門前迄馬車道  
付ケ凡八千円位ニ見積リ、其大工ハ横浜境町鹿島岩藏  
と申者ニテ山城屋江立入致シ居、右積之義ニ付間取広  
狭直段ノ高下ニ至ル迄、和助ノ取極メ自宅ヲ造ル同様  
ニ有之、此入費モ一切山城屋ヨリ致ス筈ノ風説有之、



是和助死後ノ義ニ付相分兼候、

一 一月上旬頃ノ事ニ有之哉、ドル相場騰貴致候ニ付テハ、大蔵省ヨリ三ツ井・小野・田中平八等ヲ呼出シ、此頃トル相場六拾四匁余ニ登候故、何トカ下落致候様工夫致シ呉度段内沙汰致シ候ニ付、三ツ井・小野ハ何トカ策ヲ以下落可為致ト心配罷在処、平八ハ同夜汽車ニ乗シ横浜江婦リ、手代ヲ以ドル六万円余買込シヨシ、此度澳國博覽会行有之事ヲ承知シ、且ツ心強ク買ヒシモ、井上ト手組シ故ノ事ト風説有之候、

一 先般澳國江米輸出ノ義ニ付、大坂米会社々長磯野小右衛門義金三万円余利益ヲ得候由、右ハ輸出之義前々ヨリ内密承知致シ居、米三万石余追々ニ買込貯蓄致シ置、当三月中大坂米所持ノ者江申入候ニハ、今般御用ニ付払米致候様公威ヲ触レ示ス、然処米所持之者難決申立不売者モ有之、或ハ申入高ノ半高位ニテ相断候者モ有之候得共、大坂江ハ前々ヨリ小右衛門所持之米三万石余モ有之候故、相場下直ニテ追々買シメ、凡取束ネ三

万石余買込ミ、其上ニテ前ノ貯蓄米三万石ヲ突然輸出致候ニ付、米価俄ニ騰貴致候機ニ乗シ、前書公威ヲ以テ買込シ米売出シ、右ニテ三万円余ノ利益ヲ得候由、右様米ヲ断然買込ミ候モ、全ク井上ト機密打合セ、諸事取工ミ候故ノ事ニ有之由、此小右衛門ハ一昨未年頃迄ハ毎々仕損シ、貧困ニテ纔カ百匁ノ金ニ差支候処、当節ニ至リ而ハ大造ナル身元ト相成リシ由、

一 今般金子受取、金銀貸借ヲ始、本年六月一日ヨリ証書相用候節ハ、印紙ヲ貼シ取引可致、依テ府県管下ニ於テ、適宜ノ場所江売捌処相立無差支様可致トノ布達有之、尤一町一軒宛有之可然トノ事故、当府下ハ六大区共小区毎ニ身元相応ノ者ヨリ、前後ヲ争ヒ出願ニ及候処、既ニ一大区五大区ハ三ツ井一手ニ大蔵省租稅寮ヨリ申付候ニ付、右区内ヨリ願出シ者ハ、実ニ偏頗ノ致シ方と怨望罷在候者不少、此義井上・陸奥ノ兩人江三ツ井ヨリ内情頼ミ込、斯不公平ノ所置ニ及ヒシ趣専ラ風説ス、陸奥當時ノ住所ハ深川万年橋東側三ツ井ノ別

莊ニ有之処此頃買受候趣、尤三ツ并代理致候番頭一名、同邸内江朝晩用聞ニ立入致シ、此度印紙ノ一件モ右番頭專ラ取扱居候事、

一 横浜江出張セシ時、商統会社ニテ折々飲食セシコト有之由、此仕払ハ同所商買歩合税金町会所積金ノ内ニテ臨時入費トシ仕払致候由、既ニ一ヶ年分町会所積金出入計算表ニモ、昨申年臨時仕払三千六百弍十七円永四拾壹文七分と有之候、

一 井上横浜江出張セシ時、旅宿ト致セシハ相生町割烹店福貴樓ナリ、此楼ニテ井上・陸奥宗光・田中平八・原善三郎 此善三郎ハ武州児玉郡後瀬村農太平倅ニテ、慶応元年三月、横濱江立越、生糸蚕種手広ニ商売致居候モノ等集會シ、遊樂ノ為メ博奕致シ、歌妓寅吉・小さん兩人ハ、兼テ井上・陸奥ノ知己ニ有之、是杯モ折ニ共々致セシ事モ有之由、

一 横浜福貴樓ノ主ハ齋藤亀次郎ト云者ナリ、此者先達而類焼致シ、当時伊勢崎町商社寄合場ニ仮住致居候、本年井上馨大坂出張前ニ同人家内召連、外ニ陸奥宗光・

波沢栄一・糸屋平八・岡田平蔵・古川市兵衛并ニ京市と云者、其余名前不分商人体ノモノ二人計、亀次郎方ニ泊致シ候節花合相催シ、右ノ内糸屋平吉(マ)ハ百五十円余打負候由、井上ハ五拾円位打勝候趣、其節東京より召連候歌妓ハ柳橋ノ蔦吉・かよ外二人、是皆爾来右組愛妓ナリ、当時博奕ハ花合セ流行致シ、惣体サイハ不用趣ナリ、

一 第一大区十三小区両国新柳町二番地升田屋事生稲源兵衛、此源兵衛義ハ同所元柳町ニ先年ヨリ住居罷在所、五ヶ年前辰年同人発起ニテ、大川端川岸地所新開地致シ、新柳町と名付ケ、百坪計願下ヶ俵初五郎ニ生稲ト云料理店為致、源兵衛ハ隣ニ隠居所補理居住ス、右源兵衛生得強欲ナル者ニテ、客筋ノ善悪ニ依リ隠宅ニ入ルト不入ト有リ、然ルニ井上馨・陸奥宗光・大江卓(朱)大藏省五等出仕・堤正巳・原善三郎・古川市兵衛・芳川頭正外ニ商人体ノ者両三人、紀州藩ノ節小参事會計懸相勤候津田辰造(朱)工部省大丞 杯度々源兵衛隠宅江罷越、川岸端二階十疊ノ座敷ニテ

花合セ賭勝負相催、其節ハ酌取女人モ不入深更迄も致候由、既ニ当二月廿一日ノ夜集会致相催候花札ハ、宗光家来宇都美某紀州ノ者ナリ、此者ニ申付和歌山ヨリ取寄候趣、風説ニハ爾来源兵衛ニ預ケ置有之趣、

一井上馨大藏大輔在職中、旧藩々負債償却ノ見込相立置、未タ発頭ニ不相及内、商家ノ者ニ手組、藩債証書多分ニ買込ミ、尤モ表向キハ証書ヲ引当ニ取り貸付候姿ニテ頗ル低価ニ買込ミ候聞有之、右取扱振リノ儀ハ、弘化ノ度ヨリ慶応三卯年迄ノ分ハ一割一万円ノ代、戊辰以後ノ分ハ二割五歩ヲ以テ買入レノ手筈ニ致、大坂商民辻

忠兵衛北浜町四丁目・雑賀弥三郎堂島浜通一丁目・小島平三郎同上・菊岡鶴寿都同上、中一丁目等周旋ヲ以テ同所豪商ノ中ヨリ、専ラ戊辰以後ノ証書ヲ買込候由ニテ、右ノ内金主白山彦五郎義平野町一丁目、先年彦根・松江・福岡・笹山・平戸・豊津ノ旧諸藩江金高凡五万八千円余貸付有之処、去十月頃山本善兵衛江戸堀一丁目久蔵父ト申者世話方ヲ以テ、右五万八千円余ノ証書九通ヲ一割ノ割合ニテ五千八百円ニ右

忠兵衛江壳渡シ、内三千円ハ新貨幣ニテ請取り、残ル二千八百円ハ忠兵衛ヨリ預リ手形請取有之、尤忠兵衛買入方請合ハ、二割五歩ノ定メニ有之候処、彦五郎ノ分ハ一割ヲ以テ買入候故、忠兵衛手前ヘハ一割五歩ノ

所務致候趣、自然井上ノ手ニ遣候者ニ相聞ヘ、以後買入方ノ義相断候ヨリ、専ラ弥三郎・平三郎兩人ヨリ世話方致シ候由、将又金主ノ内橋本熊三郎谷町通一丁目儀ハ旧秋田藩江百拾兩計貸付有之処、今二月下旬頃鶴寿都周旋ヲ以テ、前書弥三郎・平三郎江右証書ヲ三十七円ニ買受ケ、平井次郎右衛門義江戸堀南一丁目旧山崎藩ヘ貸シ金高二千五百円、旧高槻藩江同二百四十九円、各証書二通宛ヲ以テ、惣計二千七百四十九兩ヲ二割五分ノ割ヲ以テ、六百八十七円一分計ニ鶴寿都周旋ヲ以テ買入レ候処、一体藩債ノ義ハ専ラ大坂豪商共ノ身代江関係致候ヨリ、諸説区々ニテ金主共ニ於テハ実ニ落力致候央、突然即銀ヲ以テ買入方致候ヨリ、孰レモ利路ニ迷ヒ見切ヲ以テ前書ノ通壳渡候ニ付、多分ノ損失相成候由、

然ルニ井上馨金穀全権ノ職ニテ、右等奸術ヲ行ヒ候義、  
実ニ意ノ低ニ相成候訳ニテ、同人職掌上ニ於テ尤如何  
敷取沙汰有之候事、

一 滋賀県下大津并和歌山県・兵庫県右三ヶ所ニ於テ、去  
ル申歳正米收納ノ内置米致有之分ヲ、先達而品川町住  
居岡田平蔵江大蔵省ヨリ御払ニ相成、右は同省三等出  
仕陸奥宗光・前島密・井上馨三名前書平蔵ト合仕之趣  
風評有之、和歌山県置米ノ内三万六千八百石岡田平蔵  
江払下候ニ付、渡方取計候様右県出張所江大蔵省ヨリ  
御達有之<sup>六月</sup>中ニ依テ、直チニ本県江懸合候処、北島権令  
御請不致、県下置米ノ義ハ管下ノ者江御払下被仰付度、  
元来当地ハ国内ニテ登候米穀ニ而ハ人民ノ飯米ニ不引  
足、故ニ他管下ノ者へ御払相成テハ自然価モ騰貴致  
シ、諸民困難不少、卒御僉議ヲ以管下ノ者江御払米  
相成度段申立候処、同省ヨリノ御指令ニハ、既ニ岡田  
平蔵江御払下相成上は難被及御僉議旨、此段早々本県  
江可相達トノ趣ナリ、其翌日平蔵より和歌山表江立越

候ニ付、無差支様御取扱ニ預リ度趣、出張所江申出候  
由、然ルニ和歌山表ニ於テハ右ノ風聞有之故ニ、米価  
沸騰且貫属ノ物議不少処、大阪ニ詰合居候平蔵ノ手代  
共ハ和歌山表江立越、同所駿河町紀三井寺屋武右衛門  
方ニ罷在<sup>七月</sup>下旬、県官立合ノ上夫々相改メ米回シ方致候  
処、欠モ不立趣ニテ受取、直様積出シノ手順相立候、  
尤此頃和歌山表米相場ハ四円五十銭ヨリ六七十銭位ノ  
由、大阪・兵庫等ノ相場は平蔵買下ケ候相場ヨリ一円  
余モ高直ノ趣、故ニ和歌山ニテハ不売払積出シ致候ニ  
付、同所ノ相場モ引上リ、且人氣ニ関シ、士卒江ハ八  
月十日渡リ石代金は申年收納畑米・小物成直段、石ニ  
付三円四十三銭二厘三毛ニテ被渡候趣<sup>當時ノ相場ハ石ニ付</sup>  
<sup>十銭位、畑收納ハ三円四十三銭二厘三毛、土石ニ積リ三十四円五十</sup>  
<sup>銭三厘、當時正米石ニ付四円六十銭、十石ニ付四十六円、差引十二円</sup>  
<sup>六十七銭七厘、正米</sup>  
買入候ニハ不足ナリ、如是士卒江ハ畑小物成ニテ被渡、大  
ニ正米ト相違スルハ、如何ニモ了解難致趣ニテ、既ニ  
士族中ヨリ県庁江哀訴致候趣、右ハ平蔵名目ニテ払下  
致候得共、其実ハ陸奥・前島・井上三名ノ商法ニ有之

趣相聞候事、

明治六年

冊子原寸 縦二七・五櫃 横一九・七櫃 三〇枚

三三三 旧越後村松藩蒲生重章ヨリ久光公へノ建言

公ノ諫疏ヲ喜ビテ

〔封筒〕

島津明公閣下

蒲生重章

再拜

御直聞是祈

〔封筒ウラ〕

五月吉日謹書

緘

封

宿所俎橋側

緘

〔付紙〕

旧越後村松藩

当分東京府貫屬

上

島津老公閣下

五月某日、布衣蒲生重章謹齋沐上書□島津老公閣下、章聞、

古之所謂大臣者以道事君、守正不回、毅然立□□朝面爭廷論以排擯、夫雷同固祿位之徒而必有為也、是以天下之安危社稷之存亡、一倚乎斯人之言論矣、然而方今天下之士大夫奄々無氣節、逢迎希□□旨不聞、復有一人、毅然敢面爭廷論天下之大計者也、頃者忽聞、□閣下不勝憂國之至誠、抗疏以言、天下之士大夫所籍口而不敢言者、天下有志之士伝誦、以為鳳鳴朝陽、章亦嘗於世上窃見之、其所条列皆方今之急務、矣天下之安危社稷之存亡之所係者也、乃躍然奮起曰、古之所謂大臣必有為者、非即斯人而誰哉、日延頸遙想望其風采、而以不得見為恨矣、近者忽又聞、□閣下庶徵既已在東京、乃又躍然奮起曰、吾恨積矣、然而貴賤懸絕、無由遽仰□高風惘然不知所為、既而得今藤某手書云、我□老公上京子苟有意見則不憚忌諱可以獻言、章得是書欣躍不自勝、遂決意作一書敢以獻左右□閣下、倘憐蟻虻之微衷不棄樗櫟之散材、清問之余、使賜之座語以吐胸中所鬱蓄、且得親聽靈鳳之一鳴、則章何榮光如之、章聞之、孔子曰、未見顏色而言、謂之賢、

是以今雖有今藤某之愆惡、不敢多言、所謂天下之安危社稷之存亡之所係者、雖不能出乎□閣下諫疏之外、亦不雷同於今世士大夫紛々之說、而別自有持論在焉、惟□閣下所裁扱、章惶懼再拜、

冊子原寸 縦一六・五種

封筒原寸 縦二四種 横八・八種

横二四・二種 二枚

付紙原寸 縦一〇種 横 五種

三三三 東京理門原瑛空正ヨリ久光公へ

聖沢書

狂歌三十四首添

(包紙ウツ書)  
二天下之大事

瑛空正

ノ

ノ

二二五三ノ一

聖沢書

天下無道時無知者而皆愚也、国家政事不可正時、無勇士而皆不肖也、故利以暴作雖異端也、中立而私以欲惑雖塗炭也、害邪人欲之、私以而速不弁、驕哉強兮、国儀折矢

忠信雖強哉狂兮、慙惑強者居之席、有盜心言洗、奪施惡制盛、而矢賢矢衆時則矢国害異募而国崩家覆、君民供為之雜国疾、如斯才智国破、佞姦者国魔人也、夫旧藩曰、暴人以勿為財、則仁信以為財也、過則勿懼改今也、

雨水の濁も今ハすみだ川

白魚となりてみめぐりの淵

忠信は国のたからで恐なし

士の慾心は賤しおそるゝ

諺の三千人ハ今おそし

あら／＼敷も味わいを知らし

皇国に仁義を触る吾ならバ

叡知を尽す信の英勇

吾は今君たり臣たり天子たり

隔てハするな国のさむらひ

此国を治る事ハ吾にあり

拳ねば知れぬ万国のため

諸公をバあつかふ事も期月而已

三歳語る夷どもまで

大海を吾手でふせぐ筆の先

五体州ともかきまハす腕

神風て掌しつまる大和学

三十ひと文字でわかる安国

利にすくる口そ險しき辨異生

寄もさわるも皆山師なり

虚に乗て我立欲の国くすし

天子を出しにあらす暴制

闇の世の愁も知らで遠慮なく

害異に募る心中のむし

皇国の滅る事もしらずして

利狡に工む心中のむし

姦しく理屈を付て血に染る

赤々なる程黒き闇の世

佞姦の魔どふが君に付まといひ

ほこりて国に崇りおぞ作

狂なる哉儀を作者ハ朝敵で

仁作者ハ氣違という

慾ゆへに惡制盛て止となし

儀士賢人がなかりセバなり

孔子めか力たらざる事いわで

時にあはずとにげる一言

吾は今時にあへんと謂ぬそよ

信有人に出合すと謂

惡とても吾目の前に有時ハ

必あわす性は善なり

追々に儀のくすれたる代も末で

衆士の及所でハなし

忠信が真にあらバ島津公

吾あとおしをたのむ近道

身一ツの吾病中で金ハなし

物がたらんで事が長引

長引と人のなんぎハ増れ共

不人情なら是非に及ばず

狄国の欲の政事に人へなし

治国は忠の人を以て為

忠信の一ある時は隣あり

亦隣あり人心の靈

国の為儀を作祖士の賢人へ

国常天照人武三代

仁潤の神たる吾は普衆の祖

今四度目の儀をおこす賢

治の法と富る金とが服にあり

山と道得る大聖の徳

大敵もかの借金も恐なよ

吾にまかせよ自在天神

元師(師)の力を以て是悲もなく

好まぬ役にす、む吾服

京橋南一丁目葉鋪笠原隠居

理門原琢空正

島津君

文書原寸 縦二四・七種 横一六一・七種

二二五三〇二

闇の世の道なき里にぬきん出て

臟府(腑)を見するかわず合戦

身をおしみ皆寄おしみまけおしみ

恥をいとふて私しの慾

憚るも遠慮もいらぬ君の為

恐てするな国の忠信

文書原寸 縦二四・七種 包紙原寸 縦 三四種

横 一七種 横 一四・五種

三三 浜松県土族新見夔蔵ヨリ久光公へ

紙幣廃棄。新銭鑄造論

詩一首添

黒

窃有嘆息 皇国之諸民、紙幣行故、余改革其



弊害、献与奇策於

島津從二位久光侯、欲救除衆人之惱為其策也、始從壹錢

至於拾錢、及製造其新錢而有又玄之秘訣、謹

而賦一絶、以請拜謁於

明君、有許容則僕景福、又天下兆民之幸福也、恕諾之、

愁害三更独不眠 丹心姦々恰如燃

掃除紙幣安民計 献与

明公化鑄錢 伏而呈乞

正斧

島津久光侯足下 左右侍史

愛趣荻扱拜稿(愚)

文書原寸 縦一三八・五種 横五一・六種

三臺 無名氏ノ詠三神功皇后紀一

予詠神功皇后紀、至其征三韓、未嘗不对泰而慨也、嗚呼

皇后雖驗明神武、豈非女子々々、而是時有身、其何以能征

三韓、夫三韓之為地、凶書無可以接、行人無可以通、雲

波冥漫、舟揖脆弱、將欲指点何方、跋涉何海、而証其有

國、矧熊襲反乱、積年不平、常為一方之患、忍熊・靡阪

二皇子内懷疑懼、党与繁延、見其秘大行皇帝之喪、為無

火之殞斂、可以察時艱、稼穀空乏、別無貨幣之便、弓刀

頑弊、別無屯兵之利、而皇后断然決算、結束戎裝、不顧

其佗者、唯深信神教海外有國耳矣、而當時大臣若武内宿

禰・中臣烏賊津・大伴武日・物部胆咋、大三輪大友主皆

從、無復一大臣居守者也、師出而三韓降、從此爾來、邦土

日治、文教日新、上下又安、蓋皇后聖德、底有神教、々

々所原、抑存安民、未有武光外国而内地不服、仁蓋四海

而同氣不悅者也、縱令累代責任諸臣輔翌我列帝、遵奉之

々々々、而又遵奉之、擴充之々々々、而又擴充之、雖日

建立、帝神道於一大地球上、親和結合以為一團丸、未為

不可也、夫物不能常靜、不進則退、事不能不變、不伸則

縮、厥終、智藏瘝在、三韓一反一服、靡常者、幾百年矣、

官置館釜山、羈縻之令对馬島載在朝鮮地理志者又幾百年

矣、今上皇帝即位以來傲慢無礼、拒絕我帝命、不接我帝

使者、八年矣、迄於今日、至砲擊我帝章之軍艦、予之請

躬治其罪、或有議以金穀之不足者、或有論以內地未和者、有虞鄂羅之拔援者、有慮支那之後救者、如此而不沃遷延時月、彼將擊我、弘安四年襲來蒙古先鋒、豈非彼兵乎、先則制人、後則見制於人、兵者間拙速、未聞巧之久、好髻須男子能無倣於皇后乎、

讀神功皇后紀

文書原寸 縦二七・五釐 横四〇・五釐 二枚

三三 佐賀県小田村梓ヨリ久光公へ

詩一首

臨発有感、恭賦奉皇、

從二位島津老公閣下

関東雄偉地 霸氣已銷沈

世運幾隆替 山河無古今

佐賀県下小城

小田村梓

再拜稽首

文書原寸 縦一六・七釐 横二八・四釐

三三 東京日日新聞第一百五十六号所載「日本観」

ニ付テノ外人ノ投書

新聞抜抄評論

東京日々新聞第一百五十六号中ノ投書ニ、頃日歐洲人ノ一話ヲ得タリ、曰ク、余日本ニ来リテ在留スル茲二年アリ、往々和文ヲ学ヒ略其一班ヲ解シ、今日其新聞紙ヲ閱スルニ、日本人ノ奇ヲ好ミ本ヲ忘ル、其輕薄ナルコト夥シ、就中堂々タル神州ナリトシテ此国ヲ尊ビタルモ、今日其国教ヲシテ益明且大ナランコトニ注意セズシテ、動モスレハ我耶蘇教ヲ信奉シ、之ヲ国教トナサント欲スル者アリ、或ハ言靈ノ国ト自称セシ者モ、其語言ヲシテ一定ノ法ヲ立ズシテ、却テ我文典ニ拘泥シテ、歐洲ノ文字ヲ以テ其低国用ニ供セントシテ、復洋書ヲ日本ノ国語ニ訳シテ読本ヲ制スルノ意アラサル者ナリ、其他衣服ヨリ飲食ヨリ日用百般ノ諸器具、万世不朽ノ制度、皆之ヲ舶来ニ仰キ、外人ニ擬シ、所謂取人之長補我之短ノ語ニ反シ、其国ヲ自暴自棄シ外国ニ面媚口諂スルヤ知ラズ、独立国

ノ容儀ヲ失ヒ欧米諸國ノ屬國ニ陥ルモノナリ、甚シキニ至テハ、皇統連綿タル万世不朽ノ君主國ニシテ、共和政治ヲ主張セル者アリ、或ハ其國體ヲ知ラスシテ、自由貿易ヲ善トシテ保護勸業ノ術ヲ誹ル者アリ、而シテ其此等ノ説ヲ唱フル者ハ、大概文字ヲ知り洋文ヲ解シ、自ラ文明開化ノ人ト称スル者ニ出テ、其要旨タル敬神愛國ノ情ニ於テハ、却テ不開化ノ人民ニ固着シテ、其為ス所野蕃ニ屬スト雖モ、其志ハ最モ賞スヘキ者、玆ニ在テ彼ニアラズ、夫レ人ノ文学ニ従事スルヤ、元來其國ヲ富シ其兵ヲ強クシ、不羈獨立タラシメン事ヲ欲スルニ非ズヤ、然ルニ却テ外國ニ依頼シ我國法ヲ蔑如スル、其罪大ニ無學ノ人ニ劣レリ、如斯ナル者ハ寧ロ學ナキニ如カズ、今足下余ニ就テ洋學ニ従事スルト雖モ、基本ヲ務メテ末ニ趨ルナク、所謂日本ノ日本タル所以ヲ弁別シテ後、外國ノ所長ヲ取り、自國ノ所短ヲ補ヒ、益々皇國ヲシテ万国ノ龜鑑タラシムルヲ要スベシト、嗚呼此語ヤ、方今輕薄子弟ノ砭針ニシテ我等ノ藥石ナリ、其反覆丁寧、人ニ示ス

ノ意至テ深切ナリ、殊ニ外國人ニシテ此語アリ、況ヤ皇國ノ人トシテ此ニ注意セザルヘケンヤ、因テ之ヲ概記シテ貴社ニ投スル者ニコソ、

愛國志士識

評者曰、右篇中、耶蘇教ヲ奉シテ之ヲ國教トセント欲スト云ヒ、其國ヲ自暴自棄シ外國ニ面媚口諂ト云ヒ、万世不朽ノ君主國ニシテ、共和政治ヲ主張スト云、敬神愛國ノ情ニ於テハ、却テ不開化ノ人民ニ在リト云、外國ニ依頼シテ、我國ヲ蔑如スト云、其他言々句々、精覈剴切、方今ノ時弊ニ的中セザルナシ、嗚呼外國人ニシテ吾邦ノ世態ヲ洞識ス、其眼光巨燭ノ如シ、開化ノ諸君子、何ヲ以テ之レニ対ルヤ、嗚呼外國人ニシテ吾邦ヲ愛惜スル、其レ斯ノ如ク深切ナリ、其警諭豈啻ニ輕薄子弟ノミナラン、方今ノ殷鑑ト謂ハザル可ンヤ、冀ハ当路ノ諸賢公モ、亦能ク日本ノ日本タル所以ヲ反省セラレ、國教明大ノ偉略アラン事ヲ、

又曰、吾邦ニテ耶蘇教ヲ信奉スルノ説、各國ニハ疾ヨ

リ傳播シテ、彼国人ノ誹笑セラル、説モ、新聞中ニ假見エシカトモ、ソハ姑ク措キ、各国留学ノ生徒中ニモ其事ヲ憂慮シテ、国元エ贈ラレシ書翰ナトニモ往々相見ユ、因テ筆次其一ニテ左ニ挙テ、国体ヲ度外ニスル洋学諸先生ノ覽ニ備フ、

日々新聞第百五十五号ニ、英国倫敦在留ノ士ヨリ、或官員エ来書ノ写トアル其書中ニ曰ク、但教門自在ノ權ハ各国民ノ所同、天下公議ノ所有、雖我國詰リ不得不与其權、是又時勢不得已、挙トハ乍申我邦ノ今日ニ在テ其尤所宜加意者、所謂西教者大非從來仏教之比、其弊害之至大可懼、其謂之何乎、蓋西洋之於西教、開辟以來積弊相承根固枝繁以至今日之太甚、然而猶不堪其弊、些有識見者必從事於抑制僅而勝之、(頭注)「時近ハ近時ノ転調歟」「ビスフル」排教之舉亦可以証矣、何況如我邦、從來未曾受其弊、今而一旦入之以踏西洋千余年前之覆轍、(徹カ)取天下有識者之嗤笑、豈非不智之太甚乎、故当今之時、教門自在之舉不得不務加(頭注)「□延字而不分」意、而□延焉、以俟法律定時、蓋当路有識苟体此意、則

豈無処之之術乎、伏冀高明之垂意焉云々以下略、

愚曩歳、四方ニ西教ノ窃ニ流布スルヲ伝聞シ、後世皇国ノ紊乱此ニ萌孽センコトヲ深ク憂懼シ、若シ一度許サセラレ公行ニ及ハ、千古不拔ノ禍原ニシテ、神州御国脈ノ断否ニ關係仕ル一大重事ナリト建言セシカ、其節毫モ御採用ニハナラズシテ、益今日ノ切迫ニ至ル、痛歎尚余リアルナリ、文中ニ積弊相承至今日之太甚不堪其弊、些有識見者從事抑制、僅而勝之云々有ルヲ以テ熟考スレハ、彼国ニモ英識ノ士ハ、此教宗ノ患害ヲ洞察シテ苦慮スルヲ視ルニ足ル、次語ニ取天下有識者嗤笑ノ語、尤モ深ク玩味セラルベキ也、又

郵便報知新聞第廿八号中ニ、在英華族從五位川鰭(河)実文君ヨリ某方エ来信ノ抄トアリ、曰、

頃日承ルニ、御国ニテハ教部省興立以來、教導職トカ申者ニ専ラ浮屠氏御採用ハ勿論、オキナ基督教モ御施行ニ相成候トノ風聞当地迄モ響キ、是ハ如何ナル事ニ候ヤ、小生杯ノ少シモ關係スル所ニ非レトモ、既ニ当府龍動ニテハ専

ラ宗教廢示ノ評議アリ、其実ハ是迄種々國政ニモ係ル弊害俶々生セシヨリ、斯ル公議モ出タルニテ、必十年ノ後ニハ一人トテモ宗教ヲ信仰スル者ハナク、衆人一致シテ國恩ニ報スルトキハ、開化モ又一層進歩シテ富國強兵トナラン云々以下略、

評者曰、上件ノ二君ハ其身外國ニ在テ、洋学一片ノ精神ナレトモ、西教ノ大害アルヲ眼前ニ見聞セシヨリ懇々申贈ラレタルハ、愛國ノ志シ厚ク忠誠ノ士ト称セザランヤ、然ルニ独リ怪ムハ静岡県ノ儒士中村某ノ作文ナリトカ、擬泰西人、上日本皇帝書ト題名セシ写本ヲ客秋友人ノ宅ニテ一覽シ断腸ニ堪ヘス、不覚憤罵ノ語ヲ発セシコトアリ、今春新聞雜誌ヲ讀ミシニ、不図彼ノ奏聞ノ擬書ト泰西人ノ弁駁セントヲ併セ載テアルヲ一閱セシニ、其説極テ明瞭切実、是ニ於テ胸襟爽快、然レトモ窃ニ想フニ、中村氏ノ弁駁セラレシハ愉快ナレトモ、亦一大國辱ニ非サラシヤ、如何トナレハ儒官ニシテ斯ル狂妄ノ文ヲ作シ、畏クモ 皇帝ヲ誣蔑シ人

民ヲ眩惑シ、暗ニ耶蘇教ヲ公行セシメント謀ル、或人曰、之レハ全ク一時ノ遊戲ニシテ文ヲ舞セシ迄ナリト、予言フ、古人曰、戲言出於思卜、作者ノ中心以テ洞察スヘシ、然ルニ吾邦ニ於テ誰一人之ヲ討論スル者ナキ而已ナラズ、却テ之ヲ伝呼稱賛シ、剩ヘ新聞紙ニ刻ミ、海外迄伝ヘ、遂ニ彼國人ニ痛ク弁駁セラレシハ、豈ニ吾邦人ナキニ非スヤ、慨歎余リ有ルニ非スヤ、方今洋学ニ従事スル者ハ、殊更此泰西人ノ弁駁書ヲ熟読玩味シテ、彼宗教ハ開化補助スルノ具ニ非スシテ、大ナル國家ノ患害タルヲ能々了会シ、和魂ヲ失セス、一層愛國ノ志ヲ奮起シ、庶幾ハ庶人ニモ論說シ諄々乎シテ、海内ニ普ク告布セシメンコトヲ、譬ヘ微力ニテ其事及バザルモ本州ノ忠士タル、天下後世ニ對シテ恥ナカルベシ、因テ煩ヲ厭ハス、両氏ノ全文ヲ左ニ謄写シテ、以テ大方賢明ノ高論ヲ仰ク 全文ハ今別紙トナス、再按ニ、前件川鐮君ノ書中ニ、是マテ種々國政ニモ係ル弊害俶生セシヨリ、斯ル公議モ出タル云々ヲ推テ察レハ、文明開

化ノ魁首・英雄国ヲ以テ万国ニ崇称セラレシ英国ナレハ、又各国ニ先チ大賢道眼ノ士出テ、彼教宗多少ノ患害アルヲ洞視シテ、廃宗ノ大公議ヲ起サレシナラン、去レハ吾邦ニ於テハ幸ヒ未タ公布ニ及ハザレハ、先ツ外国人ニ懇切ニ説諭シテ、以テ断然ト拒絕センニ何ノ憚ル処カ之レ有ラン、伏冀ハ遠大ノ睿志ヲ奮興シ、赫々ノ天眼ヲ開カセラレ、一大神教ヲ建設セラレテ以テ、上ハ 至尊ヨリ下万民ニ至ル迄、悉皆此ノ神教ヲ奉シテ、億兆ノ方嚮ヲ定メ万力ヲ一ニセハ、国土ノ富強ニ至ルハ言ヲ待サル所ナリ、抑国土開闢ノ始ヨリ帝王ノ一系ニ在ル者、五大洲中独吾邦ノミ、又其他ニ在ルヲ聞カス、蓋シ本州ノ 皇統聯綿トシテ万古不<sub>レ</sub>易所以ノモノハ、全ク神伝ニシテ敬神ノ厚キニ因ル、然ラハ其神伝ヲ奉シテ以テ国教トナシ、諄々乎シテ各国ニ示サバ、各国モ亦自ラ信ヲ興シ、遂ニハ吾神教ヲ欽仰敬奉スルニ至ランコト疑ナカル可シ

神教ニ付テハ別ニ愚説アレトモ、忌懼ノ恐レナキニ非レハ、效ニ略ス

冊子原寸 縦一九・一極 横二三・七極 九枚

### 三六 湊川神社ヨリ政府ヘノ建言

国体ヲ失ハス人オラ登用スル等ノ件

一 国体ヲ失可ラス、

伏テ以ミルニ、自古帝王宇内ニ君臨シ、紀ヲ握リ天ヲ御シ、業ヲ創メ統ヲ垂ルニ、封建アリ、郡県アリ、或ハ共和政治アリ、以テ国体ヲ作ス、其得失成敗各由ル所有リ、謹テ案スルニ、我

皇国

天孫降臨以降

皇統一継、万古一日之如シ、神典ニ曰、上ハ

天神之孫、下ハ万神之胤、国土ヲ闢キ万物ヲ化シ、民ヲシテ教ルニ孝敬ヲ以テシ、祭政隆治之紀綱、四表ニ光被ス、

神祖之垂訓、豈慎サル可ン哉、蓋シ今ノ時ニ膺リ取捨抑

揚、大同小異ノ弁ヲ待タス、新ニ僻シ奇ヲ好ミ、情古  
 今ヲ照ラサス、理彼我ヲ顧ス、邦家ノ大典ヲ廢シ忠  
 孝大義ヲ紛タス可ラス、夫レ法令ハ国體ニ由ツテ革リ、  
 風俗ハ法令ニ由テ興ル、彼ノ漢洋ノ如キ強盜大賊互ニ  
 相噬搏、勝テハ則天子ヲ下シテ臣トシ、負ケテハ則臣  
 子ヲ尊テ天子トシ、云ク、命ヲ上玄ニ受クト、冊立与  
 奪敢テ憚ル処ナク、天下ハ一人ノ天下ニ非ラス、天下  
 ノ人ノ天下ナリ、嗟可于夫是レヲ我ニ施シ、浮薄ヲ勸メ、  
 嬌奢修ヲ競ヒ、之レヲ指陳シテ文明ト謂ヒ開化ト称シ、  
 爾后其風俗進歩得意之極ニ至ツテ、果シテ如何哉、伏  
 テ願ハ明鑑ヲ賜エ、

一人材ヲ扱可シ、

維新以降、海内奇傑ノ士廟堂及ヒ府県ニ奉仕シ、野ニ  
 遺賢無ク、盛運更張、隆治文明之大政、期シテ応ニ至  
 ルヘシ、俯仰シテ其鴻徳ノ光被ヲ待ツコト爰ニ数年、  
 然レトモ大綱擘ラス、士民怨嗟ノ声絶エサル者ハ、抑  
 撰扱精カラサル乎、或ハ又材能ノ適任ナラサルニ由ル

乎、夫人材ヲ扱ヒ賢俊ヲ揚ル者ハ、廟謨ノ大典、百福  
 之宗也、故ニ明君賢相上ニ在、慎テ士ヲ扱ヒ賢ヲ求ル  
 ヲ務メ、誠信政ヲ施シ、徳沢民ニ及シ、業ヲ勉メ土ニ  
 安シ、万物熙々各其終ヲ楽ムヘシ、蓋歴代之興亡ヲ熟  
 考スルニ、党多而進ント欲スル者ハ其美ヲ明カニ談シ、  
 党少而退ケント欲ル者ハ其過ヲ明カニ議ス、是以群臣  
 私門ヲ立各相比周シテ壅蔽ス、故ニ庸劣官ニ安シ、爵  
 禄ヲ食リ、畜財ヲ主トシ、私家ヲ營ミ、權威ヲ修シ、  
 孜々トシテ公事ヲ務メス、或ハ又其智ヲ懐キ、其能ヲ  
 藏シ、邦家ニ危機アリ、猶敢テ節ヲ尽サス、容々然ト  
 シテ世ト浮沈シ、左右觀望スルニ至ル、是亡國ノ兆ト  
 ス、今ヤ

朝廷府県、在来奇傑ノ士ヲ揚ケ、之レニ任スルニ大權  
 ヲ以テシ、之レヲ尊フニ重爵ヲ以テシ、之レヲ厚スル  
 ニ高禄ヲ以テス、然レトモ恐クハ惟目前ノ責ヲ塞キ、  
 凡公務ヲ奉スル、譬ハ己ノ一家ヲ經營スルカ如ク、又  
 士庶人ヲ馭スル、己之子弟ヲ御スルカ如ク懇切用意ノ

實際有ルコト無く、唯世ト浮沈シ左右傍觀スル者ノ如シ、由是觀此素ヨリ撰択シテ而登揚セサル者ニ似タリ、古人云ク、朝無賢才、猶鴻鵠之無羽翼也、雖有千里望不能致其意之所欲至、故ニ政ハ誠実ヲ貴ヒ、民心ヲ得ルヲ務メ、補佐ハ多キヲ務メスシテ、賢俊ヲ得ルヲ務ムト云、伏乞、明鑑ヲ賜エ、

一諸省之官員ヲ省ク可シ、

謹テ案スルニ、古語ニ云ク、吏不務多而務得賢俊、古今草創之明君、孜孜揚賢才、挾有能、致全治、夫明鏡ハ形ヲ照ラス所以ナリ、往古ハ今ヲ鑑ル所以ナリ、今ヤ

朝廷府県官員ノ多キ事実ニ於テ過当トス、而其事務ノ繁雜言ニ勝可ラス、抑政ハ易簡ヲ尊ヒ煩苛ヲ惡ム、愚年秀曾テ県官ニ奉職シ、又大藏省ニ出仕在職中、親ク其風彩ヲ目撃シ、嗚呼以為寬哉、初テ

朝廷ノ大度有ルヲ知ル、然而事ニ堪ヘ職ヲ職トスル者大率三分ノ一ニシテ、其二分ハ連日全ク間暇無事、与ニ

書見談話ヲ以テ一日ヲ空ス、而偶事務ノ如キ、専ラ屑末ノ小事煩ハシテ其功無く、此レ凡テ府県長官專斷スルニ足ル可シ、嗟呼俸給ノ冗費支エスト謂、亦宜ナリ、蓋刀筆ノ任其職ニ勝ル時ハ、則人少ニシテ事治ル、其職ニ勝エサル時ハ、則人多シテ事紛ル、故ニ政ヲ致スノ本ハ、有能ヲ仕ヒ有功ヲ祿シ、務メテ官員ヲ省キ、且ツ私恩ヲ施シ、或ハ比周シテ不能ヲ祿シ、紛更事ヲ生スルノ憂ヲ除ク可シ、夫レ能者少シト雖事亦足、不能者多シト雖亦奚為乎、宜ク明鑑ヲ賜エ、

一府県ノ制度ヲ一定スヘシ、

伏テ以ミルニ、制度ハ帝王四海ヲ維持スルノ大体ナリ、故ニ制度号令ヲ建ルハ、宜ク先ツ国体ヲ弁スルニ在、夫国体ハ制度ノ由テ興ル処、然テ制度定則国体亦正シ、国体整ヒ、制度正則權衡誠ニ懸リ、政綱真ニ揚ル、士民家業ニ安シ、天下至治ヲ致ス可シ、是以古ノ明君賢相必先ツ制度ノ大体ヲ建テ、純乎シテ号令ヲ下シ、民ヲ富シ兵ヲ強シ、然后四海ノ大權ヲ掌握シ、人



民ヲシテ自由ノ權ヲ得セシメ、而テ此レヲ保護奨励スルニ至ル、謹テ熟覽スルニ、維新以降三府六十余県、制度ノ大体惟一ナル者ハ独貢賦耳、其他制度号令ノ万機中庸無ク、各主令ノ欲スル処ニ出テ、一ハ苛酷、一ハ遲緩、或ハ職ニ供リ、或ハ傍觀シ、上ノ為ニ計ラス、下ノ為ニ利セス、故ニ府県鄉村人心惑乱、怨言途ニ充チ、動スレハ不廷ノ煽動ヲ起ス、熟思スルニ、人材ヲ扱サルト制度ノ建本莫然ナルニ由ル乎、凡天下ヲ治ル者、溺人ヲ救カ如ク生民ヲ全育セシメ、徳ヲ布キ恵ヲ施シ万民ヲ安利スル所以ヲ尽セハ、則海内必ス定ル、忠孝上ニ事ル所以ヲ知レハ、則人心必ス和ス、故ニ吏ト為テ民ヲ御スルヲ知ルモノハ法度ヲ奉シテ以民ヲ利シ、吏ト為テ民ヲ御スルヲ知ラサル者ハ、法ヲ枉ケテ以テ民ヲ侵ス、此レ悉ク怨ノ由テ生スル処ナリ、是以善ク國ヲ治ント欲スル者ハ、人材ヲ扱ヒ制度ヲ定ム、云ク、政有三而已、一曰因民、二曰扱人、三曰從時、聖君布徳施惠非求報於百姓也、郊望締嘗非求於報鬼神

也、有陰徳者必有陽報、有隱行者必有照名、伏乞、明鑑ヲ賜エ、

一租稅ヲ輕クシ人民ヲ富ス可シ、

管子云、人君以百姓為天、百姓与之則安、輔之則強、非之則危、民怨其上不遂亡者未之有也、伏テ以ミルニ、國ヲ治之道ハ民ヲ愛シテ之レヲ和セシメ、之レヲ利シテ富シメ、之レヲ教エ之レヲ導キ、布令信ヲ尽シテ、然テ言ヲ食シメス、与ヘテ奪コト勿、成サシメテ敗ルコト勿、樂シメテ苦シムルコト勿、喜シメテ怒ラシムルコト勿レ、是治國之建本政權之大体ナリ、凡怨ヲ士民ニ醸サシメ、然賦斂重者夫之ヲ奪者也、故ニ云ク、賦斂重者此猶饑人自其肉、肉尽必死、人君賦斂不已、百姓既弊、其君亦亡、是所謂地ヲ得ルノ富タルヲ知テ、而其民ノ用ヒラレサルヲ忘ル、人情安則各生ヲ樂ミ、痛則皆乱ヲ思<sup>(患)</sup>、此世ノ通常、鑑ミサルヘケンヤ、古人云、福生有基、禍生有胎、伏冀ハ世ノ誹謗ヲ察シ、切言ヲ聴キ、天下ノ口ヲ開カシメ、忠諫ノ路ヲ広クシ、

而至治之鴻沢治則盛運、天地ト与ニ無窮、天下幸甚シ、  
敢言戰慄之至ニ任エス、宜ク明鑑ヲ賜エ、

一 軍政ヲ變更ス可シ、

凡兵ハ主兵ヲ貴テ客兵ヲ賤シ、屯田ヲ是トシテ奔命ヲ  
非ス、今ヤ全国ノ鎮台分管交番来往、素ヨリ洋制、其  
理無キニ非ラス、然レトモ是其一端ニ僻スルニ似タリ、  
夫レ

皇漢洋共ニ土異ニ国異ナリト雖、其理致深奥ニ至テハ  
皆一ナリ、特ニ

皇国ノ如キハ、所謂国体異ニ制亦異ナルノ然ラシムル  
有テ、交番往来、最無益トス、由テ鎮台分管所在、其  
府県ノ士族ヲ役使シテ可ナリ、抑又任ニ堪ルノ可否ニ  
於テハ、士族ト平民ト其得失瞭然トシテ分、(案議)何秦儀ノ  
弁ヲ待タンヤ、而軍務ノ冗費七ト三トノ如シ、而今ノ  
時ニ兵制ヲ變更シ人心ヲ繫スンハ、恐クハ不日意外ノ  
变故ヲ醸サン乎、伏テ乞、明鑑ヲ賜エ、

一 士氣ヲ振起セシム可シ、

古語云、上事化殖則太夫鄙、太夫鄙則士庶人盜ス、上  
之變、下猶風之靡草、故為上者、明貴德而賤利、以道  
下、伏テ以ミルニ、

皇国

天孫降臨ノ盛運ニ膺リ、君臣ノ分初テ定リ、中葉ニ及ニ  
及テ、武門武士ノ稱、之レヲ古ニ比スレハ頗ル失典ト  
ス、然レトモ維新爾后華士族ノ称号ヲ恭ス、而今三民  
ノ中、風俗頽敗、道義ヲ消滅スル者ハ唯士耳、蓋疲弊  
ノ然ラシムル処ナリ、抑戊辰ノ役、揆乱反正、身ヲ致  
シテ以テ皇運ヲ更張スル者、偏ニ是レ士氣ノ奮勵ニ由  
ル、思惟スルニ、數百歲座食ノ報少シト云ヘカラス、  
然テ今時ニ至リ、座食ヲ賤シ、且ツ之レヲシテ窮迫セ  
シムル者、恐クハ至当ノ議ニ非サル乎、孔子曰、富之  
既富、乃教之、此治国之本也、土存則国存、土亡則国  
亡、越々武夫、公侯干城、国家胡可不務愛士乎、伏乞、  
明鑑ヲ賜エ、

一 政令誠実ニ出ツ可シ、

伝云、治國而數更法者、不法法、以其所善為法者也、故令出而亂、々則更為法、是以其法令數更也、伏テ以ミルニ、邦家ノ安危、生靈ノ存亡、實ニ此政令ノ利害得失ニ由ル、故ニ政令一出、四海ノ中之レヲ喜則安ク、喜ハサレハ則危シ、危ケレハ則天下乱ル、抑士祿奉還云々ノ令ノ如キ、窮士授産方法ニ於テ、素ヨリ深仁鴻沢之大政ニ出ルヲ知ル、然レトモ大凡士ハ旧習祿ヲ与エテ金ヲ与エス、以質朴ナラシム、故ニ智愚ト無ク、十ノ八九ハ文武ニ生人シ、慧黠ノ材ヲ備ルコト稀レニシテ、唯微祿ヲ守ツテ窮命ヲ繫キ、赤心國ニ報スルヲ知ル耳、故ニ今俄然トシテ此ノ令ヲ下シ、其欲スル処ノ金ヲ与ル、其欲心知ルヘシ、然譬ハ歳入五年之全格金ヲ賜ト雖、生産之方法又十ノ八九ハ成功シ難シトス、忽チ破産、遂ニ天下ノ窮民トナル、是疑ヲ容レサル処、由テ慧黠ノ者恐クハ云ン、政廷詐術ヲ構エ、初メハ祿ヲ減少シ、又祿稅ヲ收斂シ、今又重ネテ歳入五年ノ全格金ヲ投シ、一時ノ歡喜ヲ与エ、吾カ一生ノ活路ヲ奪

ヒ、路頭ニ餓死セシメントス、死ハ一路ナリ、欲スル処ヲ恣ニシテ死セント、剛復暴戻、國乱輟ヘカラス、是吏府庫ヲ充タスノ富タルヲ知ツテ、士民ノ用ヒラレサルヲ知ラス、蓋シ下ヲ御スルノ情、惟誠信ヲ尽スニ在リ、上信アラサレハ下忠ナラス、信アラス忠ナラス、上下相和セス、然則令スト雖而從ハス、不信之言、無誠之令、徳ヲ敗リ身ヲ危ス、古語曰、上不信則無以使下、下不信則無以事上、信之為道大矣、夫朝廷之虧失、以為如日月之蝕、人皆見之慎サルヘケンヤ、冀ハ明鑑ヲ賜エ、

一輪出入之制限ヲ立ツヘシ、

語云、失之毫釐差以千里、是故治國家、貴建本而重立始、今ヤ各國互市貿易之時ニ至リ、人心日開化、風俗月奢、靡奇機之玩物、精密之珍品眼ヲ照ラシ、耳ニ轟ク、而我有用ノ実物ヲ輸シテ不用ノ珍玩ヲ納レ、我有限ノ産物ヲ投シテ彼レカ無限ノ巧機ニ易、其利害得失如何哉、夫牛羊ヲ牧スルヲ勸メスシテ毛布ヲ着ルヲ許

シ、農耕ヲ勸ルヲ勤メスシテ米穀ノ輸出ヲ許ス、以為  
治國ノ建本有ルヲ知ラス、凡天地之物ヲ生成スル限有  
リ、上下ノ財力涯リ有リ、顧スンハ有ルヘカラス、蓋  
シ國製ノ算板構造堅剛、而其術ノ如キ縱黃迅速、尤精  
微ヲ窮メテ無類トス、然シテ石板石筆ヲ以テ洋算ヲ研  
究セシム、彼我ノ術、得失有ツテ然ラシムル乎、未タ  
敢テ其所以ヲ窺ヒ知り難シ、特ニ板筆ノ破壞シ易キ、  
不利ノ甚シキ者トス、然レトモ牽強シテ之此レヲ勉学  
セシム、且一歳板筆ノ輸入幾若干、是レヲ以テ此レヲ  
推スニ、其類似勝テ算ヘ難シトス、凡國本定リ民富ミ、  
事熟シテ然后玩好ノ奇僻アルハ、深ク尤ムルニ足ラス、  
今創業疲弊ノ時ヲ察セス、輸出入ノ制限無キ其利害得  
失愚年秀之未タ解セサル処ナリ、伏テ冀ハ明鑑ヲ賜エ、  
一有名無実ノ弊害ヲ除クヘシ、  
古人云、智而用私、不如愚而用公、故巧偽不如拙誠、  
夫文明之徳、開化ノ沢タルヤ、上ハ國體ノ基本ヲ建、  
下ハ人民之方向ヲ知ラシメ、賢才ヲ揚ケ、有能ヲ択ヒ、

國ヲ富シ、兵ヲ強シ、風俗醇美ニシテ、内ニハ外客ニ  
接シテ國光ヲ示シ、外ニハ各國ニ航シテ國命ヲ辱メス、  
之レヲ文明開化綱紀更張、隆治進歩之盛運ト云ヘシ、  
今ヤ然ラス、凡事内ヲ治メスシテ其外ヲ治メ、小節ヲ  
飾ツテ大綱ヲ揚ケス、夕ニ令シテ朝ニ変シ、其令スル  
処施ス処ノ實際多ハ大同小異、此ノ如シハ士民恐クハ  
朝旨ノ所在ヲ信シ難シトス、苟モ令シテ而從サルハ、令  
信無キカ故ナリ、

曰、人民塗炭ノ苦ヲ救ヒ、其方向ヲ知ラシメン、又  
曰、綱紀ヲ更張シ、祭政一致ノ治ニ復セント、然レトモ  
維新爾來德沢未洽カラス、賦歛繁興リ、新法煩ク建ツ、  
故ニ都府ノ豪商分散顛覆、怨望民間ニ沸瀾シ、叱罵府  
県ニ喧シ、至神之未化セサル処乎、法令ノ誠信ナラサ  
ル乎、又或ハ官吏主令之不肖ナル乎、古人云、四海ノ  
内喜之則畜也、不喜則讎也、又云、義士不欺心、仁人  
不害生、上不信、下不忠、伏冀ハ明鑑ヲ賜エ、

愚不肖年秀誠惶誠頓首頓首謹テ白、

近者、愚見鄙意ヲ度ラス、建言スル処ノ封事十則、知  
 敵威ヲ暴犯ス、罪赦ス可ラス、然レトモ曾テ聞ク、  
 賢明補相、閣下広ク箴諫ノ路ヲ開キ、誹謗ヲ察シ、切  
 言ヲ聽キ、善ニ從コト流ルカ如シト、誠ニ是天下ノ幸  
 甚、隆治盛運ノ秋ト云可シ、古語ニ云、不願国患此世  
 之大賊也、故ニ今深く治乱ヲ慮リ得失ヲ考エ愚見暗識  
 ヲ録シテ以献ス、伏冀ハ区々之赤心ヲ憐ムヘシ、不肖  
 年秀頓首頓首謹テ白、年秀維新爾來、都府諸県ヲ周覽  
 シ、親シク父老ヲ訪問ス、皆憂心アリ、頃又屢京撰ニ  
 往来ス、至ル処皆斯ノ如シ、特ニ坂府ノ富戸残破、日  
 窮蹙ニ就ク、誠ニ憐ムヘキナリ、夫浪華ハ海内之豊土、  
 然テ疲弊斯ノ如シ、此ヲ以テ之レヲ推スニ天下大率皆  
 然リ、此恐クハ新法ヲ建テ、常税之外科名ヲ設ケ、間  
 稅収斂甚シク、民業ヲ束縛スルニ由ル之所以乎、窃ニ  
 案スルニ 我邦旧制限アリ、故ニ財産亦相隨、今ヤ初  
 メテ新ニ旧制限ヲ解キ而直チニ賦斂層加ス、疲弊ノ民

豈此レニ堪ルノ理アルヘキヤ、夫王者之政ハ宜シク賢  
 オヲ揚ケテ以民ヲ愛シ、重祿ヲ掛テ以有能ヲ使、故ニ  
 官府ノ事業尽ク治リ、士民ノ方向悉ク定リ、業ヲ勉メ  
 財ヲ殖シ、而開国ノ基礎巍々トシテ建ツ、蓋シ土木構  
 營ノ如キ其疎漏必ス永年ヲ保タス、府県制度ノ如キ猥  
 雜維持スルコト難シ、且ツ士民怨望、異日不測ノ变故  
 ヲ生セハ、何ヲ以テカ人心ヲ繫カン、如何トナレハ則  
 凡人意ニ之レヲ含ム未ナリ、顔色ニ浮フ未ナリ、口舌  
 ニ罵ル猶未ナリ、其手足ヲ動スニ至ツテハ、則血汗ヲ  
 見スンハ已ム可ラス、目今人心已ニ反覆殆乱ヲ好ミ、  
 頃日賊徒ノ蜂起ヲ賀シテ、官軍ノ勝利ヲ嘖ス、不肖年  
 秀誠惶誠頓首々々謹テ白、宜ク賢材ヲ択ヒ有能ヲ使  
 ヒ、稅斂ヲ薄シ民ヲ憐ミ、人心ヲ繫キ、而テ制限ヲ建  
 テ、士ハ農ニ歸スルヲ許シテ商ヲ許サス、農ハ農ヲ守  
 ツテ商ヲ許サス、都府浮食ノ遊民ヲ歸農セシメ、耕植  
 ヲ勸メテ虚美ヲ禁シ、土木ヲ休シテ冗費ヲ省キ、機械  
 ヲ建テ人カヲ補ヒ、精密ヲ開テ輸入品ヲ減シ、牛羊ヲ

牧シ、鉦山ヲ開キ、国体ヲ強シ風俗ヲ整紀綱ヲ存スヘシ、古人云、国家之所以存亡者在道德之浅深、而不在乎強与弱、歴教之所以長短者在風俗之厚薄、而不在乎富与貧、

賢明閣下、広ク耳目ヲ開キ、万方ヲ洞察シ、流俗ニ固溺セス、以テ維新之盛運ヲ留持センコトヲ乞耳、然サレハ、則教歳ナラスシテ世界三大変革有ルヘシ、此ノ時ニ至リ、東洋ニ独立シ、四海ヲ維持シテ旧業ヲ衛ルコト誠ニ難シトス、恭ク明鑑ヲ賜エ、年秀大願ノ至ニ堪エサルナリ、蓋建言スル処、無識虚飾、以テ罪有トセハ、謹テ律ヲ奉シ、縦令身首所ヲ異ニスト雖、敢テ辞セサルナリ、年秀府伏斧鉞ノ誅ヲ待ツ、至戦至慄敢死、

冊子原寸 縦二四・八種 横一六・三種 一四枚

三三三 佐田白茅ノ時務策

貴賤ノ別ヲ明ニシ互ニ婚ヲ通セサル事

(包紙ウラ書)  
「時務策」

妄議

乍恐

皇統一系、万古不易ハ実ニ至大至重之大典ニシテ、率浜皆、其永統ヲ仰望セサル者ナシ、今其人民ノ望ニ応シ之ヲ永統セント欲セハ、貴賤之分ヲ大ニ明スルニ在リ、若貴賤之分ヲ明セサレハ、数十年之後叛賊起ラスト言ヘカラス、又 皇統ヲ妨スト言ヘカラス、真ニ怕ルヘシ、真ニ戒ムヘシ、一日貴賤之別ヲ糾シ、平民ハ 皇族ト婚娶ヲ許サス、士族ハ其兵職ヲ尽サシメテ之ヲ廢セス、四族井然區別セハ、姦佞モ之ヲ乱ス能ハス、狂暴モ之ヲ犯ス能ハス、各其分ニ安シ其外ヲ願ハス、 皇統必永統スヘシ、又三章御誓文ヘ 皇族ニアラサレハ 皇統ヲ継クヘカラスト確然揭示有之、永以 皇位禪讓之券証トセ、千万世孰之ヲ動カスアランヤ、

(素一郎)  
佐田白茅

文書原寸 縦二二・八種 包紙原寸 縦二四種

横三一・三種 横一八種

三〇 佐賀県土族小田村梓ヨリ政府へノ上書

万世不易ノ国基確立ニ就テ

(案統)  
「鄙案」

窃ニ恭ク方今之形勢ヲ觀察シ、 皇国之安危ヲ顧慮スル

ニ

朝廷人ヲ誤テ綱紀張ス、 外夷驕テ

皇威墮ツ、 封侯廢シテ土気衰へ、 貴賤紊レテ国風変シ、

官刑輕シテ貨財竭キ、 課税聚歛シテ朝野号泣ス、 其余脱

刀服制百度之施令、 一トシテ

祖宗之遺法ニ奉遵スル者無シ、 実ニ皆

朝廷人ヲ誤ルヨリ綱紀張ス、 国基立サル者ナリ、 上ハ

皇上国家、 下ハ万姓之為ニ流涕、 長太息黙止為コト能サ

ル者ナリ、 未タ曾テ有サルノ 輿運、 未タ曾テアラサル

ノ外夷驕恣凌轢之際ニ逢イ、 大義人心ヲ正シテ、 側陋之

匹夫モ家ヲ忘レ、 身ヲ潔ク

皇上国家之為ニ命ヲ奉シ、 国基ヲ興シ

皇威ヲ振作スルノ時ナリ、 即チ

朝廷ハ

祖宗ノ 朝廷、 万姓ハ

祖宗ノ子孫ナリ、 固ヨリ支那外夷之天下ヲ官府スル者之

如キ非ス、

朝廷ハ天下之宗家、 万姓ハ其支族、

皇系一統、 天下ヲ家スルノ体定

祖宗以來敵患ノ 遺勲ヲ維持シテ万世之方趣ヲ決スル、

果シテ今其時ナリ、 人ヲ誤テ 皇国之危急ヲ速キ、 恐ナ

カラ

皇上ノ 天位ヲ安シ奉ルコト能ハス、 左右諸卿其人ナリ、

機枢之官位ヲ以テ叨リニ外夷ニ佞諛スル耳、 即チ窃盜ヲ

導ヒテ室ニ入レ、 国賊ヲ應テ境ヲ侵サシム者之如シ、 曾

テ宝国ハ盜賊之有ト成サル者非ス、 一旦王倫・秦檜之徒、

朝ニ立チ權ヲ握リ、 胡馬蹂躪、 社稷傾覆ス、 況ヤ今之外

夷ハ、 金元遼ト同日ニ語ル可ラサル者ヲヤ、 陰謀秘術、

常ニ人国ヲ衽席之上ニ盜マント欲スル者、 而シテ恬然阿

諛、彼之心服中ニ陥ル、固ヨリ純忠粹武、能扞禦スル能ハサル者カ、盛衰廢舉人ニ在、速ニ其人ヲ黜ケテ其人ヲ舉スンハ有ヘカラス、謹テ惟ルニ、今

皇上睿哲、仁武隆興昌運之際、政権一ニ帰シ、而シテ左右一二之臣卿、戊辰一時揆乱反正之戦功ヲ以テ其位其官ニ備ル、百度維新綱紀更張、上ハ

祖宗之遺業ヲ継キ

皇上ヲ輔翼シ、万世不朽之基礎ヲ立、子孫継体之遺緒ヲ開ク、慎謹豁達、国家ヲ体任シ、忠直実敬

皇上ヲ輔翼スル者ニ非スンハ拳コト能ス、固ヨリ臣卿ハ国家之柱石、万世之標準スル者ナリ、其人無ケレハ其位欠ク、今ヤ綱紀張ス、外夷内ニ逼リ 皇国之危急且タニ有リ、

皇上之聡明ヲ壅蔽シ

祖宗之遺法ヲ猥リニ改易シ、国体ノ廢興ヲ顧ミス、東征之功ニ驕リ、秀捷敏弁一時之才、臣卿固ヨリ其人ニ非ス、徒ラニ并立、大業之暴説ヲ持シ、専ラ外夷ニ阿諛シテ彼

之政体ニ摹擬ス、枢機之政権モ外夷より聞サルハナシ、経綸布置之巨細、一トシテ彼ノ下風ニ仰サル者ハナシ、恐ナカラ、政令之廢舉

宸慮ニ出ルモノナシ、左右一二擅ニ 朝權ヲ挾テ私威ヲ張ルノ耳、名ハ独立之形ニシテ実ハ外夷版属之勢自ラ顯明タリ、之レヲ譬ルニ衆斧ヲ以テ大木ヲ斫カ如シ、終ニ顛仆セサル者ナシ、恐ナカラ万国卓越万古不易之

皇統、彼之詐術詭計ニ煽惑セラレ、今日民財ヲ剝キ、明日士氣ヲ拔キ、罷軟委靡之極ニ乘リ、共和政治ヲ議シ、人民ヲ奴隸スルニ至スンハ、彼ノ狼心狐智止ヘカラス、実ニ臣卿国ヲ誤リ、君ヲ売ル之姦佞、自ラ明較朗著タリ、小臣窃ニ疑可キ者アリ、

一ニ臣卿私ニ外夷ヲ私室ニ招キ、酣歌醉舞スル之耳ナラス、 朝政ヲ陰ニ詭議スル有リ、是レ政権ヲ恣ニスル、其レ疑可キ者ナリ、

二ニ家室衣服、叨リニ外夷之服製營度ニ改作ス、固ヨリ臣卿之ナス可キ者ニ非ス、是レ法度ヲ破ル、其レ疑可キ



者ナリ、

三ニ

皇上之服・御輦蹕

祖宗之典章ニ準守セス、若シ

宸慮ニ出レハ、忠諫直諍、何ソ啓沃セサル者、乃チ私意ニ出ル、知可シ、是レ枢機之官位ヲ蔑ス、其レ疑ヘキモノナリ、

四ニ東征之功勞ヲ以テ來歴登庸ヲ詳カニセス、猥リニ官位ニ服シ、私ニ私店ヲ開キ市利ヲ網ス、官刑蔽ナラス、是レ溺官買位、其レ疑ヘキ者ナリ、

五ニ審ニ国土賦財ヲ計ラス、負債年ニ積テ阜岳之如シ、面アタリ国家之大患ナリ、其債財返償スル至テハ、土地人民ヲ割与スルノ議、臣卿平常為所ヲ察スレハ、民ヲ忘レ國ヲ危シ、一日之官俸温飽ニ沈湎シテ余生ヲ送り、苟安ヲ偷ム者、是レ國ヲ危シ位ヲ偷ム、其レ大ニ疑ヘキ者ナリ、

六ニ政体国俗、尽ク外夷之暴政淫俗ニ変改ス、乃チ唯政

体錯淆スルノミナラス、恐ナカラ、不易

皇統、終ハ豈ニ議スル者アランヤ、而シテ開化之速ナサルヲ望テ、却テ密計陰姦、或ハ深ク察セサル者アラン、是レ

祖宗ヲ忘レ君ヲ売ル大姦、其レ大ニ疑ヘキ者ナリ、是レ即チ概見スル所之者、能極劾窮鞠スレハ、此之如キノミアラス、先ツ

祖宗之遺業ヲ廢棄シ、皇上之聡明ヲ煽惑シ、外夷ヲ雇備スル、天地万姓之共ニ憤怒切齒スル所ナリ、敢テ小臣之私議ニ非ス、今

朝廷新ニ其人ヲ得テ国体ヲ匡扶シ、百度ヲ挽回シ、皇国之基礎ヲ定メ、皇国不朽ノ敵愾ヲ立ル大機運也、初ニ議スル者ハ、即チ國ヲ誤リ君ヲ売ル之大典刑ヲ明晰標示シテ、正セスンハアルヘカラス、之レ朝野之士民ヲシテ、皇国敵愾之旨ヲ教示スルノ機鑰ナリ、而シテ皇綱ヲ大ニ張り、大政挽回スル第一之要件ナリ、臣卿已ニ黜罰ニ処シテヨリ、彼モ罪惡無キニ非ス、之レ実ニ国家

之大難、輕妄ヲ謹ミ、能大勢大略ヲ審察シテ、礼節実敬ヲ重シ、徐ニ之レヲ議シテ速ニ解送スヘキ者也、封建・外交・服制・学法・選挙・租税・讞獄・兵備等之諸政、此ニ於テ諮議施行スル可キ者ナリ、然トモ若シ

朝廷今速ニ典刑ヲ正セスンハ万姓ノ方趣ヲ決シ、綱紀ヲ確定シ、万世久安之大基礎ニ於テ、小臣末タ鄙側ニ沈黙シテ道路ニ朽死スルモ、決シテ遺憾無キ者ニハ有サルナリ、

佐賀県小城徴臣

小田村梓誠惶頓首

再拜

冊子原寸 縦二四・八櫃 横一七・二櫃 七枚

三二 政教ノ根本ハ小学教育ニ在ルノ論 筆者不明  
政教行ハル、ト否トハ小学校ニ有、試ニ大意ヲ記  
皇国ハ神教、漢ハ孔子、西洋ハ耶穌ヲ主トス、皆適宜  
ナレトモ長短有モ必然也、兼用シテ全備スベシ、和学  
ト称スル者、多古事記ニ紛紜シテ奇妙陰妖、日用政教

ニハ無用ノ弁、寸益無、現然タル確証ヲ撰テ本主ト成  
ベシ、漢ノ文ヲ取テ固有細目ナキ五倫五常ヲ明ニシテ、  
日用離ルベカラサル教トスベシ、本末ヲ失、周公孔子  
ノ道ヨリ尊ハ無ト云、文ニ流レテ柔弱トナルハ戒ベシ、  
孔子ノ道ニモ悖戻ス、西洋君父ハカリトシ、五倫ヲ後  
ニスルハ人倫ヲ破ル、深戒ベシ、交益和親ハ今ノ實用  
手近学ヲ主トスルハ、順序ニ逆ヒ商法ニハ要ナレトモ、  
迂闊ノ弊ヲ矯ニハ習テ改ベシ、皆弊習ニ流レテ先師ノ  
意ニ背キ人作私意ニ近ク、内ハ家ヲ整ニタラス、外ハ  
天下ヲ治役員ニ備ルニ遠シ、政教ニ途トナリ、甚シキ  
ハ神儒仏耶穌混交シ、主トスル処ヲ知ラズ、故ニ天性  
固有ノ適宜ヲ考、確証明正、四民上下異議ナク、信仰  
有ヲ以政教学則ノ根軸トスベシ、恭ク惟ミレハ  
天祖日神ノ遺法タル宝鏡ハ  
伊勢大神宮、宝劍ハ  
熱田ノ宮ニ鎮座シ給ヒ、其連綿タル  
皇統君臨シテ今ニ動かカス、是人力ニ非、天意ト云ベシ、

人々戸々尊崇スル処ニシテ

日天ニ等シク、其二器学則トスルニタル、嚴然タル実形、亦何ヲカ求メ何ヲカ疑ハシ、五倫五常モ固有ノ天性、実形ニシテ細目ナシ、物有ハ則有名無ルベカラズ、彼ニ借モ何ノ害カ有シ、四民又同シ、分限ヲ知、入ヲ量テ出スヲ制スル儉道ハ日用ノ要教、交易和親ハ今ノ実用、人々都テ覚悟スベキ政教学則有ベシ、和漢西洋兼用シ本末ヲ明ニスルハ古代ヨリノ神教也、今西洋盛ナルヲ見、本ヲ忘彼ニ習ハ輕重顛倒、

天祖天孫ノ意ニ背固有ノ国体ヲ失ウ、迷乱ノ至恐戒ベシ、

一教師ハ民政ニ云如副戸長ヲ兼、老幼ヲ教導シ訴訟取捌ヲ兼ベシ、此人撰大事也、聴訟局説教ノ類廃スベシ、

一小学校終日ハ長シ、小民ハ六七歳ヨリ子守・薪取・草切等ノコト有、長ケレハ屈託シ親々モ手支、教師モ暇ナシ、

一漢字限ナク多シ、今海内ノ学広大ナレハ、文字ノ上ニ

心ヲ勞スレハ精心ヲ費ス、有用ノ書ハカナヲ付タン、賢愚ノ大益トナリ、追々力モ付ベシ、

一中大ノ学校モ忠孝智仁勇ヲ推窮ルヲ主トシ、実学ヲ要トスベシ、下土モ中ニハ変ズベシ、上ニハ移ラズ、人モ同シ、見込ノ人ハ<sup>(後)</sup>被出シ、官費モツイヤシ終日トモスベシ、並テ教ユルハ勞シテ益ナシ、小学ヲ能吞込ハ通例ノ人才ハ夫ニテ足ベシ、

一手習ニ等ヲ立ベシ、タトヘバ伊呂波ヲ能吞込<sup>(券)</sup>覚エ、人名村名米銀寸尺ノ手近ヲ習ヲ始トシ、次ニ請取証卷ノ類、次ハ口上書手紙ト順序ヲ立、用達便利ヲ主トシ、貧福ト人才トニテ教ニ多少ヲ定メ、算モ小民ハ九々ノ声ニテスムベシ、失費少ナク有用ヲ要トスレハ、一二年ニテ覚ユル物ナリ、

一婦人ニハ家之盛衰、子ノ賢愚、女ノ善惡ニヨル女訓有ベシ、

不敬不恭ヲ顧ス、謹テ正直ノ意ヲ述

夫学ハ古今忠孝ヲ主本トス、政教亦同シ、恭シク惟ミ

レハ、

天祖天孫ノ遺教光明正大ニシテ、天下ヲ治メ家ヲ整、人々戸々遵奉スルニタル事古典ニ明ナリ、今ノ政教ハ專西洋共和ノ事ニ順ヒ習ハ、其道天地間ノ正教ナリトモ、本ヲ捨テ彼ヲ取ハ不忠不孝ニシテ、現在ノ君父ヲ不足トシテ、他ノ君父ニ奉事スルニ非ス乎、在廷之人心ニ問、公平ニ熟思シテ心ニ快哉、

天祖已来、在天ノ靈好悪スル処何レニ有ン、必定止ヲ得サル情実有コト有ン、然レトモ上ノ好所、下コレニ習ハ必然ノ理、上ニ忠孝ノ行無レハ、学校周備教法至善ナリトモ行ハル、理ナシ、速ニ勇決果斷、悔悟スルニ非レハ犬羊ノ国トナラン、是学校ノ專要急務ナルベシ、恐惶敢言、

#### 小学校教道ノ規則大意

皇國八日ノ本、太陽發出スル生々之始、人身ニ比スレハ頭首也、君主也、四民ニスレハ土也、故ニ氣候順正地靈ニシテ、五穀ヲ始物トシテ生ぜサル無、皆上品ニ

シテ衣食住ニタル、交易無シテ不足ナシ、人傑ニシテ忠孝智仁勇ノ特備、義ヲ重クシ死ヲ輕クス、学習ニ出來サル無、人中靈妙ノ質ト云ベシ、故ニ君臨スル始祖皇太神宮ハ日神ニシテ百王一姓、連綿トシテ天壤ト窮無、海内無双、世界ノ王ト云トモ孰カ争ハン、是人力ニ非、天理ト云ベシ、誠ニ現然タル至尊ニ非スヤ、故ニ上ハ体ヲ

天日ニ同ジクシ、下ハ靈ヲ宝鏡ニ留メ、子孫吾ヲ見ル如クセヨト云ハ、則

伊勢太神宮也、加ルニ宝劍ヲ以スルハ、則

熱田ノ宮ニシテ、今ニ至迄人々戸々尊崇スル所也、加之生ヲ厚シ、用ヲ利スル五穀ヲ始、(承)采繭・居宅・医薬・祈禱ノ事ニ至迄、悉皆遺訓余沢ナラサル無、今ノ世ニ至迄人々安居、飢寒ノ患ナキハ其洪恩ト知ベシ、又此土ニ生ル、人ハ皆

天祖并草創ノ輔翼タル神々ノ子孫ニ非ルナシ、然レハ敬神、皇統ヲ尊崇スルハ、本ニ報シ忠孝ヲ全スル上下

四民要々之心得也、故ニ朝起出ルヨリ、先盥漱

天祖氏神ヲ拜シ、衣食住ニ付、其洪恩ヲ忘ル、コト勿レ、又海内ニ冠タル神州ニ出生スルヲ怡樂ムベシ、

一宝鏡ハ日神ノ遺形ニシテ則日輪ノスガタ、其徳ハ万物ヲ生々スル仁、其器タル内暗クシテ外明也、大智トスベシ、又学也、人道ノ教ニスレハ、仁愛ヲ本トシテ私欲私心ヲ除、天性傑出スル固有ノ心鏡ヲ正直清明ニ磨ケハ、善惡邪正陰ル、無分明ナリ、人ノ善有已コレ有トシ我短ヲ補ヒ、智仁ノ二ツヲ講明セヨトノ神教ト知ベシ、

一宝劍ハ殺伐ノ器、惡ヲ懲善ニ進ムル兵機ニシテ、勇武兵備也、又義也、恩威ノ兩輪一ヲ欠可ラス、是国体尊嚴威海外ニ耀、小国ト雖外国恐伏スル要教、一身ノ教ニスレハ、生ヲ捨義ヲ取忠孝ヲ全シ、我国ヲ貴ヒ彼ヲ賤シミ、善ニ組シ惡ヲ憎、勇決果斷、恐臆ノ行ナキ固有ノ天性ヲ守リ実行ニ勇ベシ、右神ヲ敬ヒ智仁勇ノ三ツヲ国体政教ノ根軸ト知ベシ、

敬神ハ本ニ報スル忠孝ノ事、智ハ本末輕重ヲ明ニスルノ学、仁ハ農ヲ勸ムルヲ主トシ、勇ハ武ヲ耀スノ教ニシテ、皆上古ヨリ現在ノ証跡、古典ニ載所ニシテ、明正光著、寸分ノ疑無、彼カ代々姓ヲ替、中古ノ人作ニ等シキ教ト日ヲ同シテ語ルベカラス、決テ異教ニ移ルノ理ナシ、能々注意スベシ、

但此意ニテ和学ニ長スル人ニ、文章ヲ綴教ノ規則土台トスベシ、

一五倫五常ハ漢土ノ教ナレトモ、我ニモ固有ノ実形有テ細目ナシ、漢名ヲ借ニ非レハ教ノ道立ス、日用離ルベカラサル日用ノ要教也、彼ニ習害無、故ニ小学四書ノ内ヲ拔萃シ、我国ニ迂闊無用成ハ除、簡易ニシテ日用実行トナル様ニ規則ヲ定メ、善行ハ別ニ我国ノ忠孝貞烈ノ古人ヲ撰詩ニカユルニ歌ヲ以シ、士農工商モ同ジク本業ヲ明記シ、分限ヲシリ入ヲ量リ出スヲ制スル儉約ノ教、交易和親ノ事、大意ノ要務ヲ記シ、又草木鳥獸ノ名、或ハ要々之字ヲカルタトシ、知ヲ開漢字ニ力

付様ノ事モ然ルベシ、何サマ上下四民賢愚、人道ノ大綱ヲ知り、腹ニ入テ日用ニ益有ヲ小学校ノ教規則トスベシ、必多端繁雜、実行ニ疎キハ害有テ益ナシ、中大ノ学校ハ全部ノ書又ハ天性長スル一事ヲ專ニシ、或ハ好ニ任テオヲ育シ、上才ニハ正大光明ノ学ナルコト論ナシ、皆実学ナルベシ、

右大綱領也、致教ニ論スル如、百戸ニ副戸長、教師ヲ兼、老幼一枚ニ教導シ、年ニ給米二十俵内外ヲ扶与シ、子弟ヨリハ志次第礼物ヲ与ユベシ、又千戸或二千戸ニ頭取ヲ立、教師・生徒ノ精不精ヲ検査シ、日用現業ニ益有ヲ主トシ、老幼一枚ニ教導スベシ、

一農ニ時ヲ授ケ耕作之道ヲ教ユルハ善政要法也、政教ノ本仁政賞罰富国強兵、忠孝ヲ行根軸也、天地間ノ万物、皆一理ヲ備エテ生養ノ助ニ非ザル無、衣食住ノ品ナラサル無コト勿論ニシテ、人生ノ事此三ツノ利害損徳ヲ

窮理スルノ外ナラズ、其内暫モ無テ叶ハス物ハ五穀ニシテ國ノ本タル所以也、然ルニ後世位ニ有者、下情ニ疎ク、本末ヲ失ヒ、農ニ任テ教エズ、農モ其道ヲ学バズ、窮理スルコト無、誠ニ大ナル闕政ト云ベシ、夫人ノ天地間ニ有ルヤ、中ニ居テ天地ノ心ヲ知り、政務ヲ行ヒ、天地人ヲ調和スル事万物ノ靈ト云、三才トスル所以也、中ニモ農ハ晴雨寒暑ヲ考量、四時之氣候、陰陽ノ二ツヲ過不足無様ニ心ヲ用ルヲ要トス、窮理之急務、目前之損益、日用カグ可<sup>(マ)</sup>ラサル学ニ非スヤ、此道ニ師無コトアヤシムベシ、歴ノ用モ此一事ヲ要トス、筑前一國、一段ニ稻一抱出来増ヲ量ルニ五万俵内外也、天下ニ積ラハ莫大ノ事ニシテ、何ノ利益カ是ニ益シ、余ノ利益ハ我ニ益有ハ彼ニ害アリ、農政勸農ハ如何程行届共四民ニ害無、至極ノ利政此上ナシ、一段ニ二把三把ハ、其道ヲツクサハ袋ノ物ヲ取ニ均シ、試テ知ベシ、故ニ其道ニ志シ有人ヲ撰テ村々農師ヲ立ルヲ農政ノ始トスベシ、其教法略ス別ニ記ス、

一地券証檢地ハ要務ナリ、然トモ極テ大事件ニシテ其人

ヲ得ルコト堅シ、其人ヲ得ザレハ公平ヲ誤リ永久弊害

ヲ生ス、急クベカラス、寛ナル可ラス、古人土等ヲ定

ムル神ナリ、後世ノ及所ニ非ス、地理ニ巧者ナル人才

ヲ撰、公平ニ檢地シ稅ヲ定ベシ、何サマ仁政ヨリスル

ト云コト、民心ニ入り信ズル様ニシテ手ヲ下スベシ、

永久之大事熟評アラマホシ、扱善法人才備ル共役組凶

ケレハ政教行届カズ、古来ヨリ左右ノ手トシテ二人十

指トシテ十人ナラテハ治乱共使事カタシト、実然リ、

故ニ五ヲ以組、十ヲ以一組トスル事宜シキカ、成可ハ

少ナルニ益アリ、試ニ左ニ記ス、

一 県戸數十万戸見テ大積リ

一 拾万戸ニ県令一人、十万戸ニ区长十人、則十大区也正

二人、ゴン四人  
ノ長、ゴン八人

一大区役割

一 区长一人但一区ノ戸長以下ノ人撰ヲ始、都テ  
事ヲ密督ス、戸長十人ノ長也

○ 戸長十人内正戸長二人千戸ノ稅ヲ收納シ、公役ノコトヲ司ル  
ゴン八人 副戸長十人ノ長也

○ 副戸長百人内正副戸長二十人但百戸小学校教師ノ訴訟取捌兼  
動

ゴン 八十人 保長十人ノ長

○ 保長千人内正保二百人但十戸ノ稅納ヲ一封ニシテ副戸長ニ納  
ム、吉凶賞罰互ニ助合異教博奕ヲ吟味  
シ、一致一和 精不精ヲ要務トス

○ 五長二千人但五長ニシテ保長ヲ助クベシ

一 夫使ハ別ニ立、区长戸長ヨリ割付、保長ヨリ現出夫ヲ

書出スベシ、

但十人組ヲ始、定数ヨリ少ノ多寡ハ、適宜ニ從給ヲ

増損スベシ、

右役割要トスル処ハ、從來ノ庄屋今ノ副戸長ハ、一村

或ハ二三ヶ村請持米銀ヲ出入スル故多端ニシテ、教諭

布告ヨミ聞せ行届ス、上下ノ意貫徹セス私欲多シ、脇

ヨリシレ兼テマガリヨシ、是ノ弊害甚シ、故ニ保長十

戸限リニ取集ムレハ、脇ヨリモシレマガリ出来ズ、副

戸長ハ教師トシテ老幼一枚ニ教道スルヲ勤トシ、米銀

ハ取次計トスレハ、行届カネハ勤タ、ズ、訴訟モ下情

分明ニシテ公平ナルノ理也、十戸ニテ友吟味スレハ、

異教博奕盜心モカクル、コトナシ、戸長モ保長ヨリ納

ルヲ取集ル迄ニテ算勘モサマテ入ラス、私モシニクシ、平常ハ閑暇多シ、副戸長ノ能否モ心ヲ用コト出来テ政教ノ事行届ベシ、然ラハ聴訟局モ入ラズ、説教モ廃スベシ、説教ニテ異教ヲ防グハ手ヲ以水ヲ防ニヒトシ、然レトモ副戸長ノ撰尤大事也、士族ノ内、従来之神主又ハ出家杯ノ内ヨリ人撰スルコトヨカルベシ、

一 区长以下ノ月給多ニ益有レ共、右之通トセハ減少シテヨシ、副戸長ハ手習モ教ユレハ礼物モ有ベシ、何サマ雑税ノ数ヲ厳正ニ定メ、臨時ナキ様規則ヲ定ベシ、是民政ノ要也、

一世ニ治乱盛衰有、民ニ貧福有ハ天理ニシテ常也、農ヲ平均スルハ仁政ノ始也、然レトモ一等ニ平均スルハ難事也、中古民ヲ上中下三等トス、是実ハ平均ニシテ現在ノ実形也、然ラサレハ賞罰公平ナラズ、扱民ハ國ノ本、四民ノ長ニシテ、人ノ生命ヲ職業トスル故也、然ルニ凶年ニ税ヲ不納スレハ日雇取ニ等シ、恥ベシ、教導スベシ、故ニ凶年ノ為糧物ヲ丈夫ニ囲、凶年非常共、

正税公役少モ手支ナク納メ勤ヲ以誠ノ百姓トシ、大御宝トスベシ、今然ラズ改正スベシ、国三年ノ儲<sup>タリハ</sup>無レハ、國ソノ國ニ非ト云、一年ナカルベケン乎、是ヲ教導ニハ、我持抱ノ田畠ニ出来ル丈ノ物ヲ余分ニ囲ハスルニ有、上中下遊民トノ等ヲ明白ニシテ恥ヲシリ競進ム様ニスルヲ要トス、タトヘバ

一 田畠百石已上持抱候者上等也

但田畠ハ不足シテモ囲穀同様ナレハ上等ニ準ス、一同五十石以上中等也

但上ニ同シ、

一 五石以上下等也

但上ニ同シ、

右不足ノ者ハ遊民、々々ハ晝ヲ禁シ衣類モ格別ニ等ヲ分ツベシ、又上中下ノ囲穀ニ札ヲ渡シ、何村百姓何某ト金銀朱ト色ヲ定、面目有様ニ有タシ、又<sup>(歌)</sup>吹数或ハ何俵已上<sup>(歌)</sup>括適宜有ベシ、高ハ少ニシテ力ノ及易キ方然ルベシ、十俵已上ヲ百姓ト極ル、宜シキカ、



一 右田穀ハ公私ノ物ニシテ、上ヨリモ凶年非常ノ外ハ決して採用ナク、私ノコトモ家ノ存亡凶年ノ外ハ狼ニ取用ルヲ禁シ、惣テ凶年非常之節ハ田穀無共貧福相応米銀ヲ収納シ、或ハ借り用ルハ定道ニシテ常也、故ニ其備手当ト大信ヲ示シ疑惑無ヲ要ス、

一 凶年非常ノ備ナカルベカラス、上ニテ田エハ入替虫干ノ手数入、役員庫モナカルベカラス、村ニテ田エハ役人私スル先蹤多シ、又民モ出スヲ嫌故ニ宅田ニシクコトナシ、此事行届ケハ大非常ノ急有共恐ル、ニタラス、講究熟評アラマホシ、

一 古ヨリ弊政ヲ改正スルハ至極難事也、然ニ今ノ政体巧ニシテ術多、手ヲモキ足ヲタチ、漸々改リ沸騰スルニ至ラス、至極ノ術ト云ベシ、然ルニ其弊信ヲ失ヒ上下利ヲ争、収歛ノ政トナリ行四民安堵セス、人望ツクルニ近シ、言ニシノビサルコト而已、故ニ仁政便利モ跡ニテ取ノ工夫ト見テ怡バス、仰願クハ大信ヲ布告シ人氣一新スルニ非レハ、行末ノ災害、國ノ存亡ニ關係ス

ベシ、此マ、ニテハ公私ノ変量リ知ベカラス、恐惶ノ至ト云ベシ、

#### 山地ヲ開拓スル見込

旧秋月五万石、現四万石余ニシテ公私ノ失費ニ困窮スル久シ、或旅人宿屋ノ主ニ語テ曰、山林地味能水多シ、五万石ハ山計ニテ十分ナルベシト云々、其仕法ヲ聞ス、依テ其道ヲ求事二十余年、少シク其道ヲ得タル如シ、唯見聞書見ノ上ニ非ス、種植開拓自身ニ手ヲ卸シ、一己ニ信スル而已、古書ニ用木千株ヲ培養スレハ十年ノ後其富千戸侯ニ益ト云ヲ目的トシ研究シタル也、

一 不用之官林ヲ撰、五坪ニ用木一本ト積ハ五千坪二千本也、是ヲ培養スレハ十年ノ後一家ノ産業立事疑無、其種類多端、土地ニ合ト否ト有記等暇有ラズ、中ニ成功モ速ニ人心モ勞セス、老若男女モ志ヲ立レハ出来易、又深山平原地味モ嫌ハズ成長シ、利益モ速成ハ栗・茶・櫻ノ三品也、サマテ開拓ニモ及ハズ、焼野芥畠ニ

馴タル百姓ニ頼、粟・蕎<sup>ソウ</sup>・芋ノ類ヲ作ラスレハ、年ニ寄テハ過分ノ取実有故、一割位ハ税ヲ取テモ恰テ作ルベシ、其跡ニ右之三品ヲ実蒔ニスレハ、竹ペラ位ニテモ出来易ク、跡ノ手入モ根ザラエ草取計ニテ苦勞薄シ、粟拾<sup>ヒ</sup>・茶<sup>チヤ</sup>ツミ・養サンハ男女老幼ニテスミ、山求代モ十円ノ内立木ノマ、渡サハ、小屋掛鎌ノ失費モ十分成ベシ、粟ハ三年ニシテ実ヲムスヒ、十年ノ後ハ五升モナル物故、千本ニテハ五十石ヲ得ル、余品押テ知ベシ、間ニ茶ヲ植レハ、是モ三年ニテツミ取ベシ、粟ハ干テ粉トシ、味噌豆ノ替トナリ味美シ、其余食料トナスベシ、此二品ニテモ過分ノ利也、其外高利ノ品多シ、略シテ記サズ、養蚕ハ元開祖ノ遺教ニシテ尤養ベシ、然トモ桑ハ地ヲ嫌テ惡地ニハ成長セズ、良田ニハ成長スレトモ田畠ヲ費シ代価モ高直ニシテ多クハ飼ニクシ、樗ハ深山惡地モ嫌ハス能成長ス、多カウコト易シ、生木飼ト宿ガヒトノ二ツ有、多ケレハ手入行届カズ、先一万坪ヲ三ツニ割、三千坪余充ヲ一年ノ飼

高トシテ二年越ニ養ウベシ、良田美地ヲ費ニ及バス、過分ノ利益也、一人ニテ五十円ト見レハ秋月士族五百戸ニテモ二万五千円也、右ハ山地開拓ノ大意ナリ、愚意ハ華士族ヲ援助トスルニ有リ、其仕法左ニ記ス、一華士族ノ録<sup>録</sup>ハ天下第一之大費也、是ヲ扱ハ治乱ニ關係スルノ難事ニシテ又拾置ベカラズ、故ニ山地平原無用ノ地ヲ開拓シ用木ヲ仕立、山マイ・桑マイヲ養ヒ、國産ヲ生育スルヲ華士族ノ専務トシ、素餐トナラズ、天理ニ背遊民ニ非、逸惰ヲ勤勞トシ柔弱ヲ剛健トシ、永末面扶持ヲ与エ士族ヲ廢セス、仁恵ヲ施シ勇義氣節ヲ養、兵備ノ土基トシ國<sup>ヤ</sup>増、治乱共ニ華士族ヲ有用トシ、方向生産一定シ、人氣一新憤起勉勵せハ、十年内外ニハ誠ノ干城トナリ成功ヲ見ルベシ、然ト雖因循固陋ノ心ヨリ見レハ大難事トモ言ベシ、唯願クハ勇決シテ人氣競向様ニスルコト急要也、

華族俸祿ノ多少ハ敢テ議スベキニ非ス、タトエテ左ニ記ス、

一旧地ニ復シ、俸禄半高ノ面扶持ヲ渡シ、旧士ノ隊長トスベシ、外ニ山地ヲ渡スベシ、隊長ハ門閥ニ非ス、其任ニタエスハ平士トナスベシ、

但千俵取者ニハ家内一人ニ付五十俵、十人ナラハ五百俵、隊長ニハ別ニ給米ヲ渡スベシ、

華族ハ祖先世ニ大功勞有子孫、大名トナリ榮耀ヲ極ルコト數百年、今ハ余沢ツクルカ、纔ニ祭ヲ存スルコト天理ナルカ、然レトモ至仁ノコトニ非、依テ已後永久面扶持ヲ渡シ隊長トス、故ニ祖先身命ヲ捨シ志ヲ繼文武ノ業ヲ學、山地ヲ開拓スルノ主トナリ、憤起シテ切蹙スベシ、此法則ニ背隊士親マズ、人望ヲ失ヒ遊惰ノ事有ラハ刑典有アリ、必怠ルコトナカレ、

一士族ニモ面扶持<sup>持</sup>山地ヲ渡シ世録トスベシ、百俵ノ者ニハ一人前十俵、十人ニハ百俵、上中下三等又ハ五等ニシテ平均シ、兵ノ多少ヲ極ムベシ、

但藩々從來ノ平均不同有、公平ニ改平均スベシ、士族モ祖先ノ功勞ニ依世録四民上等トナリ衣食住ニ安

ンス、然ルニ文武ノ職業花形ニ流レ、柔弱遊惰、士トスルニタラス、廢スベシ、然レトモ仁惠ニ非ス、故ニ面扶持山地ヲ永久扶与ス、故ニ我國勇義ノ

神教ヲ守リ、文武ノ実学ヲ勤、余暇山地ヲ開拓シ、身体ヲ練寒暑ニ晒シ誠ノ干城トナリ、國産ヲ育テ、家産ノ助トスベシ、婦人ハ養蚕胎教ヲ勤テ怠ルコト勿レ、一兵ハ偽道也、陰陽奇正虚実アリテ一樣ナラス、故ニ騎

歩長兵短兵無レハ全備セス、然レトモ兵ノ強弱ハ忠孝ヲ本トシ、勇義一心、上下親、廉恥ノ兵ニ非レハ大非常誠ノ干城トスルニタラス、氣節備ルトモ身体強健ナラサレハ、寒暑ニタエ、山川ヲ昇降シ、艱苦ニタエス、此三ツハ一ヲカクベカラズ、氣節勇義短兵ノ長枝ヲ欲せハ、華士族ヲ世録トシ、胎内ヨリ國恩ニ浴シ、隊長ト士族ト親睦スルニ非レハ一心同体トナラス、火術ノ一ツハ急速ニモ熟習スベシ、鎗劍ニ至テハ平常熟練ナケレハ我物トナラズ、然レハ華士族ハ決テ廢スベカラズ、身体強壯ヲ欲せハ、山地開拓險路ヲ昇降スルカ耕

作カ、耕作ハ四時寸暇ナシ、故ニ養蚕・用木ヲ仕立ルヨシ、商法スレハ利ニ奔リ義心ヲ削ス、士族ノ帰商ハ禁スベシ、是華士族ヲ廃せず、世録面扶持ヲ与、家産ノ助ニ山地ヲ開拓スルノ大意也、兵ヲ備ルルノ失費、莫大ナルヲ補助スルノ意ニシテ、船卒ハ交易ヲ以失費ヲ補ウベシ、外国ノ情体ヲ探ルヲ兼勤トスベシ、

當時ノ形勢、台湾・支那・朝鮮・魯西亞ノ大患目前ニ有、加ルニ異教ノ恐レアリ、其余各国ノ情量ルベカラズ、兵備ノ事至急ノ要務ニシテ、今ノ鎮台火術而已ニシテ、我長スル短兵ナク奇正備ラス、氣節ナシ、危乎、又國ニ節ノ儉ナシ、今万一異人暴行ノ事有ラハ、席ノ如卷テ来ラハ何ヲ以防ガン乎、タトヒ城地險難有共守兵ナシ、有リ共統一スル者ナシ、鎮台有共往来ニホン走シテ義守ノ心薄シ、頼トスルニタラズ、又従来ノ封建ハ土地兵力兼有シ、漢ノ藩鎮ニ似テ政教一ナラズ、害有、今華族古土ニ復シ、旧

士ヲ惣督シ県令ヲ兼ルトモ何ノ害カ有シ、我國俗皇統ヲ尊崇スルノ心術明白ナレハ、万々一不義ノ事有共、忽踏潰スコト疑無、夫等ハ小少ノ患ニシテ恐惶スルニ余有ハ、  
皇國ノ存亡ニ非ス乎、速ニ四民安堵、方向一定、  
国体確乎タラン事ヲ渴望スル而已、

横帳原寸 縦一七・五種 横四九・五種 五枚

三三 宮崎県士族稻津濟ヨリ久光公ヘノ建言

時弊改革論

〔表紙〕  
〔卷〕  
『警省說』 改革策 八較論

謹上	風俗	立国体	服制
選挙	正風俗	貴賤	
建言	学制	省冗費	兵制
兵制	省冗官	交易	
理財	改学制	租税出納	
国体	举人材	學術	

改兵制

言路洞開

開物産

法令

宮崎県土族  
稲津済

」

謹白ス、凡ソ国ヲ治メ政ヲ布ク、事ニ先後アリ、時ニ緩急アリ、其別ヲ知ラサレハ、治ヲ欲シテ却テ乱レ、益ヲ凶テ却テ損ス、方今天下ノ形勢ヲ熟察スル、殆ト之ニ類スル者アリ、故ニ今其弊ノ発見シテ、警戒スヘキ者六条ヲ陳シ、之ヲ警省。説ト名ク、雖然警シテ之ヲ革メサレハ、其乱ト損トヲ免ル、能ハス、故ニ其变革ノ方法八条ヲ陳シ、之ヲ革。弊。策ト名ツク、警ト革トハ、其利害得失ヲ比較シ、深思シテ遠慮セサレハ、其治ト益トヲ討度スヘカラス、故ニ其利害得失ヲ詳論シ、之ヲ八条ニ分チ、名ケテ八。較。論ト云、此六警八革八較ノ説ハ、大抵時世ト背馳シ、政体ト齟齬シ、世ノ所謂固陋ナル者ナリ、今ヤ日新月异、事モ往古ト同シカラス、情モ昔日ニ殊ナル者アリ、故ニ悉ク之ヲ用ヒテ、今日ノ施設ヲナサント欲スルニ非

ス、願フ所ハ、在上ノ君子、治ヲ図リ、弊ヲ革スルノ際ニ当リ、事ノ先後緩急ヲ深思シ、其利害得失ヲ熟考シ、彼此照会シテ、之カ按排ヲナシ、蚩々ノ民ヲ安シ玉ハンコトヲ、

○警省説

○国体

我カ国体ハ、万世一系、六洲広シト雖トモ、建国多シト雖トモ、其法独リ我ニ存シテ、彼ニ無キ所ナリ、高履周発ヲシテ、皇国ニ生セシムルモ、決シテ南巢牧野ノ功ヲ逞マシクスル能ハス、豈尊フヘキニ非スヤ、今之ヲ人身ニ譬ル、天皇ハ頭目ナリ、大臣ハ手ナリ、百官有司ハ足ナリ、之ヲ草木ニ喩ル、政府ハ幹ナリ、人民ハ枝ナリ、此体立テ、然ル後国是モ亦定ル、維新以来、政府銳意治ヲ図リ、我カ固有ノ制度ヲ変更シ、広ク西洋各国ノ政治ヲ取り、以テ之ヲ我ニ施シ、国威ヲ張り、富強ヲ計ラント欲ス、於是乎民権ヲ主張スルノ論起ル、是猶頭目手足本根枝葉ヲシテ、其位置作用ヲ易ユルカ如シ、而其

体ヲ移シ、其根ヲ動カサスト云モ、我ハ信スル能ハサルナリ、今ヤ政令上ニ繁クシテ、千改万革、趨向下ニ煩ニシテ、左迷右惑、輕薄ノ徒、洋法ニ惑溺シ、己カ無識ヲ省ミス、共和政治ヲ無上ノ良法ト称シ、我カ二千有余年一系連綿ノ 皇統ヲ、一朝ニ移動セシメント欲シ、或ハ民權ヲ主張シ、放縱恣慢、輕シク国憲ヲ犯シ、傲然トシテ上下貴賤ノ分ヲ紊リ、政府ヲ蔑侮スルニ至ル、此皆政府ノ方向、其目的ヲ失スルヨリ起ル、今日ノ形勢ヲ察スルニ、施設举措、唯洋人ノ使令ニ之レ從フ、国威ヲ張ルノ効何クニカ在ル、加之国帑困乏、人民疲弊、軍備未タ全カラス、義氣大ニ消耗ス、之レヲ富強ト云フヘキヤ、今ニシテ反省セサレハ、我カ至貴ノ国体モ、必ス變シテ共和政治トナリ、徒ラニ頭目手足其位置ヲ易ユルノミナラス、終ニ其全体ヲ斃スニ至ラントス、豈警省スヘキニ非スヤ、在上ノ君子、無識ノ言ニ惑フナク、確乎不拔ノ体ヲ立テ玉フヘキナリ、

○風俗

維新以來、開明ヲ主トシ、自主自由ヲ唱ヘシヨリ、人々礼義廉恥ヲ遺棄シ、浮華輕薄、放縱自適ヲ以テ、其道ヲ得ルトナシ、華士族、争フテ猥褻無賴ノ行ヲナシ、農工商、競テ傲慢不法ノ事ヲナシ、自ラ不羈ノ民ト称シ、父子相争、主僕相欺キ、寒熱ヲ以テ去就ヲ殊ニシ、只利ニ之レ趨ル、夫レ脅肩諂笑、朱門ニ奔走シ、權要ニ親近シ、僅ニ一官一職ヲ得レハ、揚々自得、内ハ数妾ヲ買ヒ、外ハ花柳ヲ折リ、或ハ利ヲ營シテ貨殖シ、或ハ慾ヲ極メテ奢侈、曾テ職務ノ何事タルヲ知ラサル、此官、員、華、士ノ風ナリ、己カ財力ヲ特<sup>(侍)</sup>ミ、貧ヲ陵キ、乏ヲ轢シ、親旧相救ヒ、孤寡相愍ムノ道ヲ知ラス、僭侈之レ好ミ、訴訟之レ樂ミ、苟モ己レヲ利シテ、人ノ禍ヒヲ顧ミス、曾テ人情ノ何物タルヲ知ラサル、此富豪者ノ風ナリ、己カ四肢ヲ怠リ、他人ノ財ヲ騙シ、一時ノ急ヲ免カル、モ、終ニ数月ノ支ヲナス能ハス、詐欺百万、策尽キ術極マリ、終ニ家屋什器ヲ典売スルモ、其十カ一ヲ償フ能ハス、而靦然恥チス、妻兒相謀リ、色ヲ売り淫ヲ鬻キ、曾テ羞恥恩義

ノ何物タルヲ知ザル、此レ貧困者ノ風ナリ、嗚呼政教一  
 タヒ変シテ、上下貴賤雜然別ナク、衣服冠履紛然制ナク、  
 乞丐ニシテ王公ニ擬シ、奴隸ニシテ君主ニ僭ス、於是乎、  
 途ニ乘輿ニ逢テ帽ヲ脱セス、拜ヲナサ、ルニ至ル、風  
 俗ノ衰替、ソレ之ヲ何トカ云ハン、今ニシテ之カ処ヲナ  
 サ、ル、化シテ禽獸トナラサルハ保ツヘカラサルナリ、  
 豈警省スヘキニ非スヤ、在上ノ君子、速カニ名教ヲ明カ  
 ニシ、義務ヲ知ラシメ、敦厚ノ俗ヲ興スヘキナリ、

○選舉

楚王細腰ヲ好メハ、宮中餓婦多シ、好尚ノ弊恐ルヘシ、  
 今日 朝廷ノ洋法ヲ慕フハ、猶楚王ノ細腰ナリ、故ニ官  
 位ヲ請求スルノ徒、務テ西洋ヲ慕フヲ以テ容悅ヲ取ル、  
 是以官省選抜スル所、概ネ西洋ヲ慕倣スル者、其中偶々  
 志ヲ同セサル者アルモ、其官位俸給ヲ得ルニ至テハ、又  
 之ヲ失フヲ患ヘ、枉テ同僚ニ雷同シ、其素志ヲ失ヒ、終  
 ニ一個ノ洋癖ニ化ス、悲ムベキナリ、且ツ今日官省府県  
 ニ登用スル所ノ者、第一ニハ、維新ノ際、皇室ニ微勞

繼續アル者、其功ヲ賞スルニ、官ヲ以ス、第二ニハ、諸  
 長官、其故人旧識ヲ憐ミ、之ヲ私スルニ官ヲ以テス、然  
 ラサレハ、諂佞ノ徒、請謁頻煩、以テ官位ヲ哀求スル者、  
 此輩ハ、皆長官ヲ以テ財主トシ、官位ヲ以テ奇貨トシ、  
 官省ヲ以テ救院トスル者、而其才ヲ選ハス、其能ヲ問ハ  
 ス、之ヲ万民保護ノ地ニ置ク、其任ニ堪ヘサル論ナキナ  
 リ、且夫 皇國ハ、五畿、八道、三府、六十県、其國ハ  
 七十余國、其民ハ三千五百万人、而人材独リ薩長肥土ニ  
 多クシテ、其他ニ乏キノ理ナシ、試ニ見ヨ、今官省ノ中、  
 上ミハ勅授ヨリ、下ハ奏判ニ至ルマテ、薩長肥土ノ人、  
 十ノ七八、是亦弊ノ尤大ナル者ナリ、是皆選舉ノ方法備  
 ハラサルヨリ起ル、夫レ選舉公ナラサレハ、独リ人民ノ  
 不服ヲ生スルノミナラス、事亦從テ挙ラス、終ニ國ヲ辱  
 シメ、民ヲ困メ、誹笑ヲ海外ニ招クニ至ル、豈警省スヘ  
 キニ非スヤ、在上ノ君子、宜ク猛省シテ、其淘汰黜陟ヲ  
 ナシ、古今ヲ斟酌シテ、選舉ノ事ヲ慎マサルヘカラス、

○学制

学校ハ礼義ノ出ル所、人材ノ生スル所、之カ制ヲ立テ、  
之カ法ヲ設クル、慎マサルヘカラス、今ノ制タル、京ニ  
大学ヲ置キ、府県ニ中学小学ヲ設ケ、出入規アリ、授業  
則アリ、子弟ヲ教育スルハ、洋書ヲ主トシ、彼カ言語文  
字ヨリ、経世・医国・天文・地理・航海・測量凡百ノ技  
芸ニ至マテ、教授セサルナキナリ、独リ我カ綱常彝倫ノ  
学ニ至ツテハ、其長ヲ棄テ講セス、夫レ綱常彝倫ノ教明  
カナラスシテ、其他千枝万能、其妙ヲ極ムト雖トモ、我  
ニ於テ亦用ユル所ナキナリ、且夫黄口少年ヲシテ、彼蟹  
行書ヲ写シ、彼馱舌語ヲ学ヒ、徒ラニ地球ヲ弄シ、九々  
ノ数ヲ誦セシムルモ、我カ日用ノ文字ニ暗ク、我カ必用  
(頭註ニアリ、先「至当々々」)  
ノ世話ニ疎ク、其君父ニ事ルノ道ヲ知ラス、其身ノ尊卑  
貴賤ヲ弁セス、偶々日用世話ノ一端ヲ教授スルモ、亦唯  
衆小兒ヲ机前ニ列シ、異口同誦數回ニシテ止ム、其拔群  
ノ兒子ヲ得ル、万々難シ、且ツ其業ノ少ク進ムヤ、只利  
ヲ之レ唱ヘ、我ヲ賤ミ、彼ヲ貴ヒ、本ヲ忘レ、末ヲ逐ヒ、  
彼カ至貴ノ性ヲ変シテ、彼カ怪猾ノ習ニ染ミ、終ニ仁義

忠孝礼義廉恥ノ何物タルヲ知ラス、君臣父子ヲシテ、彼  
行路ノ人ニ同シカラシム、是皆學術ノ弊ナリ、此術ヲ以  
テ子弟ヲ教育シ、他日之ヲ国家ノ用ニ供スル、風ヲ乱リ、  
俗ヲ敗リ、国ヲ誤リ、民ヲ困メ、到ラサル所ナリ、所謂  
其害浩水猛獸ヨリ甚シキ者ナリ、其弊已ニ今日ニ顕ハル、  
豈警省スヘキニ非スヤ、在上ノ君子、速カニ先王ノ成制  
ニ則トリ、長ヲ取り短ヲ補フノ道ヲ節シ、嚴制ヲ設ケ、  
此弊ヲ防カサルヘカラス、

### ○兵制

本邦唐家ノ兵制ニ效ヒ、士農工商ノ分ヲ定メ、沿習ノ久  
キ、兵事ハ士ノ常職トナリ、他ノ三民ニ關係ナシトスル  
數十年前、故ニ市井工商ノ子弟ニ、行伍座作ノ法ヲ教習  
スルモ、其素養スル所、皆伶俐狡獪ノ事、故ニ死生ノ際  
ニ至リ、其狼<sup>(敏)</sup>推テ知ルヘシ、士ニ至テハ、身ヲ国事ニ  
殉シ、尸ヲ馬革ニ包ムハ、元ヨリ甘ンシテ自カラ許ス所、  
故ニ事ニ臨テ、農商ニ比スレハ、其剛臆同日ノ論ニアラ  
ス、其得失、智者ヲ待タスシテ知ルナリ、今西洋各国ノ



兵ヲ制スル、之ヲ全国ニ賦シ、其年齒ヲ限り、其俸給ヲ定メ、截然制アリ、確然法アリ、我カ古制ト一般、然ルニ今之ニ模倣シ、此法ヲ施行セント欲スル、我カ士類、已ニ兵役ノ俸ヲ太平無事ノ日ニ食ミ、他ノ三民モ、亦之ヲ怪マサル者年アリ、而今俄カニ兵ヲ農商ニ徵シ、士類ヲシテ座視傍觀、其祿ヲ素養セシムル、彼必ス云ン、士ハ何為ノ者ソ、座カラ其祿ヲ食ミ、我徒ヲシテ、此職外辛苦ノ事ヲナサシム、怨望咨嗟、自ラ其手足ヲ傷ケ、其身体ヲ破リ、只役ヲ免カル、ノ策ヲナス、今現ニ其弊ヲ見ル、嗚呼此徒ヲシテ、砲声地ニ震シ、銃丸雨下ノ場ニ驅ル、其倒戈セサルハ幸ナリ、安ソ其逃走セサルヲ保タシヤ、彼士タル者亦曰、鷹ヲ養フ、其ノ撃ツヲ欲シ、犬ヲ養フ、其吠ヲ欲ス、我徒ハ犬鷹ノ職ナリ、今其用ヲナス、朝廷何ヲ為サント欲スル、必ス我祿ヲ奪ヒ、我身ヲ農商ニシ、我カ妻子ヲ凍餒セシメントス、故ニ洵々疑懼、農ニ婦シ、商ニ就キ、事亦成ラス、終ニ其所ヲ失フ者幾百千人、其嘯集賊トナリ、朝廷ノ患ヲナサ、ル者幸

ナリ、今之レニ一年ノ凶荒ヲ加ヘハ、其暴行ヲナサ、ルモ、亦期スヘカラサルナリ、今富強ヲ謀ルノ秋ニシテ、士ハ自ラ士、農商ハ自ラ農商、井然階アリ、判然分アリ、各其本職ヲ勉勵セシメハ、人各其所ヲ得テ、兵備必ス全ク、軍資必ス余リアラン、何ヲ苦ンテ此憤々ノ事ヲナシテ、天下ヲ騒動セシメ玉フヤ、目今海陸兩軍ノ備、未タ全カラス、徵募ノ兵、未タ服役ヲ好マス、經費度ナク、器械乏少、豈警省スヘキニ非スヤ、在上ノ君子、宜ク其制ヲ革メ、華士族ニ基本職ヲ務メシメ、虚費ヲ省キ、実備ヲ敵ニシ玉フヘキナリ、

○理財

理財ノ道他ナシ、生ト用トヲ度テ、之カ運用ヲナスノミ、海外貿易ノ盛ナリシヨリ、我カ物産ヲ開キ、我カ国用ヲ充テント欲シ、上下脇力脇、百方計慮、鉱山石炭ヲ開掘シ、蚕茶牧畜天下ニ流行シ、仙台南部ノ良絹、今ハ薩隅ノ地ニ産シ、宇治信楽ノ名茶、今ハ加越ノ土ニ出シ、英仏ノ牛モ、総房ニ得ヘク、琉球ノ豚モ、阿土ニ求ムヘク、国

ノ風土ヲ問ハス、業ノ巧拙ヲ選ハス、東西南、地ト人ト  
ノ力ヲ尽シ、其地ヲ券ニシ、其租ヲ稅ニシ、一草一木、  
枯骨斃獸モ、其稅則ヲ漏ル、能ハス、普天ノ下、卒土ノ  
浜、稅物ニ非サルナキ、其法至密ト云ヘシ、宜ク物産ハ  
山ノ如ク、黄金ハ土ノ如クナルヘキナリ、然ルニ国用上  
ニ乏ク、人民下ニ困ム者、処置其宜キヲ失ヒ、生用未タ  
其度ヲ得サルニ非スヤ、今ハ都下見ル所ヲ以テ之ヲ論ス  
ル、官省ハ盛大異様ノ厦屋ヲ構シ、無用ノ財ヲ費シ、無  
用ノ官ヲ設ケ、市街ハ煉瓦數層ノ巨店ヲ築キ、無用ノ玩  
弄器物ヲ鬻キ、就中内国所産ノ物品甚タ少ク、海外輸入  
ノ物品十ノ八九ニ居ル、人心ノ趨向異ナル所ヨリ、時好  
モ亦從テ變シ、新ニ惑ヒ奇ニ迷ヒ、百度更改、其費勝テ  
計ルヘカラス、紛々擾々、虚飾ヲ事トシ、実利ヲ失ヒ、  
終ニ我カ奇貨ヲ捨テ居ラス、遠洋万里ノ客商ニ、其利ヲ  
専ラニスルヲ得セシム、加之金穀ノ權、悉ク之ヲ会社ニ  
委シ、猾商其私智ヲ振ヒ、内国ノ利害、自家ノ有無ヲ量  
ラス、小利ヲ争ヒ、衆人ヲ困ム、一時其貪心ヲ逞シクス

ルモ、其策尽キ智極マルニ至ツテハ、独リ其損害ヲ受ル  
ノミナラス、上ハ政府ヲ煩ハシ、下ハ天下ヲ災ス、此皆  
衆人ノ親ク見聞スル所ナリ、然ルニ政府其轍ヲ改メ、敢  
テ一步ヲ退カサル者、蓋シ大利益ヲ、數十年ノ後ニ期セ  
ント欲スルナリ、其意善ナラサルニ非スト雖トモ、今日  
ノ勢ヲ察スル、遠大ノ利、興スニ及ハスシテ、困乏ノ害、  
將ニ目前ニ迫ラントス、豈警省スヘキニ非スヤ、在上ノ  
君子、宜ク不急ノ務ヲ止メ、物産ヲ流通シ、貨幣ヲ融通  
セシムルノ策ヲ施スヘキナリ、

#### 右六警

#### ○革弊策

#### ○举人材

維新以來、閥閥ヲ廢シ、旧弊ヲ除キ、言路ヲ開キ、人材  
ヲ拔キ、廣ク欧米諸州ノ長ヲ取り、以テ我カ短ヲ補ヒ、  
国ヲ富マシ、兵ヲ強クシ、皇威ヲ万邦ニ耀サント欲シ、  
深思長慮至ラサルナキナリ、而国是未タ定マラス、風俗  
頹敗、政令屢々變シ、人心下ニ和セス、国力日ニ疲弊シ、

四方時ニ騷擾スル者、何ソヤ、法ヲ立ル敵ナラサルニ非サルナリ、政ヲナス務メサルニ非サルナリ、蓋シ其事ヲ執リ、其責ニ任スル者、人情世態ヲ凶ラス、固有ノ良法美制モ、合セテ之ヲ廃棄シ、事ノ先後緩急ヲ弁セス、只旧ヲ革メ新ヲ興スヲ以テ開明トナシ、揚々自得スルヨリ、遂ニ今日ノ形勢ヲ醸成ス、国家ノ危キ、火ヲ積薪ノ下ニ置クカ如シ、今之カ処ヲナサント欲スル、先ツ其大弊大害ヲ除カサルヘカラス、雖然其弊害ヲ除カント欲スル、情ヲ棄テ義ヲ執リ、断然事ヲ誤リ職ヲ辱ムル者ヲ黜ケ、其他ヲシテ、各其実効ヲ奏セシメサルヲ得ス、然ラサレハ、大有為ノ人アリト雖トモ、其事担括扞格、決シテ行ハルヘカラサルナリ、故ニ今日天下ヲ維持スルノ策ハ、別ニ人材ヲ妙選シ、更ラニ其責ニ任スルヲ以テ、着手第一ノ急務トス、

○立国体

国体ハ万世一系、政治ハ立君独裁、万古不易ノ良法、天地ト并ヒ立チ、決シテ變更スヘカラサルナリ、今ヤ皇

威古ニ復シ、百度更始ノ時、聖上宜ク銳意治ヲ図リ玉フヘキナリ、然ルニ春秋鼎盛、維新以来、政ヲ二三大臣ニ委シ、今日ニ至リ、未タ日々政府ニ臨ミ、万機ヲ聽玉フ事ナシ、内国人民ハ沿習ニ押レ、怪ム者ナシト雖トモ、外人ヨリ之ヲ見ル、我カ国体政治ノ何物タルヲ知ラス、終ニ紛々誹議ヲ生ス、亦恥ツヘキノ至ナリ、伏願クハ聖上、日ニ政府ニ臨ミ、大臣ト謀リ、万機ヲ親裁シ玉フヘキナリ、況ヤ今上ハ中興ノ英主、凡ソ法ヲ立ツル、之ヲ万世ニ垂ルヘキナリ、然ルニ政ヲ二三大臣ニ委シ、空シク手ヲ九重ノ内ニ束ネ、之ヲ後世ニ伝ヘ、良法トナスベケンヤ、俚語ニ云、学フヨリ狎ル、ニ加カスト、今ヤ日々政府ニ臨ミ、万機ノ政ヲ聽キ玉ハ、日月ヲ積ミ、自然ニ治国安民ノ聖知ヲ開キ玉ハン、然ル則独裁ノ実、今日ニ挙リ、他日大權下ニ移ルノ弊ナク、人民安堵、外国ノ侮モ、亦從テ止ム、是国体ヲ立ツルノ一大要務ナリ、且ツ君心ノ非ヲ格スハ、大臣ノ職掌、宜ク徳望衆ニ超ヘ、篤行慎重ナル者ヲ選ミ、之ヲ宮内侍從ノ職ニ置キ、拾遺

補闕ノ功ヲ奏セシメ、聖徳ヲ陶鎔シ玉フヘキナリ、

○正風俗

風俗ハ、敦厚朴实ナルヲ要ス、洋学ノ東漸セシヨリ、世人滔々新奇ニ趨リ、実行ヲ勉メス、今日ニ至リ、其弊極マル、凡ソ百事、我カ私ニ便ナルヲ以テ自主トス、我カ意ニ適スルヲ以テ自由トス、自主自由ノ説、一タヒ出テ、風俗頹敗、礼義廉恥、蕩然地ヲ払フ、是亦天下ノ大變ナリ、宜ク敲ニ制度ヲ設ケ、浮薄ノ風ヲ戒メ、敦厚ノ俗ヲ興スヘキナリ、其方法ハ、學術ヲ正スヨリ善キハナシ、學術正シテ、浮薄ノ風止ム、浮薄止テ、敦厚ノ俗興ル、敦厚興テ、礼義廉恥ノ道明カニ、人々令ヲ奉シ、禁ヲ守リ、其上ヲ畏敬スルヲ知ル、且ツ貴賤ノ分ヲ明カニシ、宮室衣服ノ制ヲ定メ、其法ヲ確立スル等ノ事、風俗ヲ正スノ要務タリ、人心ヲ肅整シ、威儀ヲ糾正スルハ、彈正台ヲ置クヲ以テ良法トス、宜ク熟慮シ玉フヘキナリ、

○省冗費

方今百度更始ノ秋、我カ限り有ルノ租税ヲ以テ、官省府

県ノ庁用、及ヒ土木營繕ノ入費、其他限り無キ臨時ノ費用ニ給スル、用度ノ不足、智者ヲ待スシテ知ルナリ、故ニ一ツ已ムヲ得サルノ事アル、之ヲ外国ニ借ラサルヲ得ス、之ヲ人民ニ歛メサルヲ得ス、負債収歛ノ説上ニ行レテ、怨嗟ノ声下ニ盈チ、人心怨叛シ、乱ヲ思フノ心生ス、古人云、収歛ノ臣有ランヨリ、寧ロ盜臣アレト、宜ヘサル哉、今之カ策ヲナス、如何シテ可ナラン、曰冗費ヲ省クナリ、不急ノ務ヲ止ルナリ、土木營繕ヲ節スルナリ、奢侈華麗ヲ禁スルナリ、無用ノ玩器玩物ヲ廢スルナリ、此數は省ヒテ、国用給スヘク、国家保ツヘキナリ、且ツ外国交際ノ密ナリシヨリ、貨財不足ナレハ、則チ曰、之ヲ欧米諸州ニ借ラン、米穀不足ナレハ、則曰ク、之ヲ欧米諸國ニ仰カン、嗚呼宇宙間第一ノ沃土ヲ有シ、外国(特)ヲ特ミ以テ国計ヲ立ツ、會計ノ責ニ任スル者、假令ヒ外人ニ恥チサルモ、独リ己カ心ニ恥チサランヤ、今日ノ際、此弊ヲ革メサル、彼洋人愈陵嶮、將サニ不測ノ禍ヲ生セントス、然ルニ世ノ文明開化ヲ唱ユルノ徒、債ヲ外国ニ

負フヲ以テ、弊害ナシトスルノ説ヲ主張ス、是レ何ノ心ソヤ、

○省冗官

官ヲ省クハ、事ヲ省クニ加ス、<sup>(如カ)</sup>事ヲ省クハ静清算欲ナルニ加ス、方今官省ヲ設ケ、官員ヲ置クハ、人民ヲ安堵シ、其便ヲ得セシメント欲スルナリ、今ヤ諸省府県、其責メニ任スル者、一時ノ功名ヲ貪リ、人民ノ困難ヲ顧ミス、百端事ヲ改メ、千緒業ヲ初メ、国家ヲシテ多事ナラシム、所謂天下固ト無事、小人攪<sup>カキミダス</sup>之モノナリ、故ニ員愈置テ、事愈劇、事愈劇ニシテ、功愈孳ラス、是皆功名ヲ貪リ、寡欲ナル能ハサルヨリ起ルニ非スヤ、既ニ寡欲ナル能ハス、故ニ事ヲ省キ員ヲ省ク能ハス、是以各省府県、官員甚タ多ク、人民其弊ニ堪ヘス、政府モ其費用ニ困ムニ至ル、今ニシテ其制限ヲ定メ、冗員ヲ淘汰セスンハ、其患齋小人僥倖ノ門ヲ開クノミナラス、正人君子、登進ノ路ヲ塞キ、国家益困弊、人民愈怨嗟、終ニ外国ノ誹笑ヲ招クニ至ラン、在上ノ君子、痛ク注意シ玉フヘキナリ、

○改学制

文学ノ道ハ、修身・齐家・治国平天下ノ外ニ出テス、故ニ子弟ヲ教育スルハ、先ツ修身ヲ基礎トシ、忠信・孝悌・礼義・廉恥ノ氣ヲ養フヲ以テ要務トス、夫漢籍ノ我ニ入ルヤ、我カ音訓ヲ付訳シテ之ヲ学ヒ、国家ヲ治ムルノ要法トシ、仏書ノ我ニ入ルヤ、同ク其音訓ヲ和訳シテ、数千年ノ盛大ヲ致ス、況ヤ仏書ハ、後漢ノ明帝初テ之ヲ西域ニ求メ、以来今日ニ至ルマテ、幾千年ナリヤ、而其間身毒ノ蕃字ヲ訳スル者六十人ニ滿タス、而仏書ノ理ヲ極メ法ヲ講スル者、皇漢共ニ西域ノ上ニ出ツ、未タ其元書ヲ解セスシテ、其用ヲ失ヒシヲ聞カス、故ニ彼西洋各国文字ノ如キモ、悉ク訳書ヲ以テ学ハシムベシ、必ス其原書ヲ教授スルヲ用ヒズ、尤学校中、別ニ洋学科ヲ設ケ、生徒ノ員ヲ限り、各国ノ言語文字ヲ講習セシメ、翻訳々官等ノ求メニ供シ、国家交際ノ便ヲ計ルベシ、且ツ方今諸省使等ニ設クル、兵工勸業開拓等ノ学校ノ如キ、悉ク文部ノ所轄ニ歸セシムベシ、府県ノ中小二学ノ如キ

モ、其大小ニ応シ、別ニ洋学ノ生員ヲ限り、其原書ヲ学  
〔眞註ニテリ、卷「論的切」  
ハシムベシ、洋学生ヲ命スルノ外、一切彼蠻行書ヲ読ム  
ヲ禁スベシ、學術ハ治國ノ根本ナレハ、速カニ其制ヲ改  
メ、少年子弟ヲ誤マル事ナカレ、

### ○改兵制

徵募ノ兵制ヲ廢シ、更ニ華士族ヲ以テ兵隊ヲ編制スヘシ、  
凡 皇國華士族ノ祿、剝削ノ余ト雖トモ、猶之ヲ概算ス  
ル、五百万石ニ下ラス、五十石ニ兵士一人ヲ出セハ、現  
兵十万人ヲ得ヘシ、之ヲ陸軍常備兵トシ、其衣服飲食ヲ  
自費トシ、器械彈藥ヲ官給スル、今日陸軍ノ歲額ヲ減ス  
ルニ足ル、今陸軍歲額八百万円ノ内、官員給器械費ヲ除  
クノ外ハ、悉ク之ヲ海軍資ニ転スル、海軍歲額必ス四五  
百万円ニ至ラン、其半ヲ以テ軍艦ヲ購求セハ、歲ニ二三  
隻ヲ得ベシ、其余ヲ以テ官員兵卒ノ給俸、艦具修繕ノ用  
ニ充ル、数年ヲ出テス、海軍モ亦全備ヲ期スベシ、尤海  
軍兵卒ハ、沿海諸島ヨリ、四民ノ内強壯ノ者ヲ徵出スヘ  
シ、衣服飲食等、悉ク官給トス、陸軍ト其法ヲ異ニスル

ハ、深意アレハナリ、宜ク熟考シ玉フヘキナリ、又維新  
以來、華士族ハ戸位素殮ノ説起テ、祿稅徵兵家祿奉還等  
ノ令ヲ施行ス、之レ全ク華士ヲ活用スルノ法ヲ得サルヨ  
リ起ル、宜ク三思シ玉フヘキナリ、

### ○開物産

外国互市ノ開クルヤ、我カ固有ノ物産ヲ繁殖スルノ法ヲ  
設ケサルヘカラス、雖然彼ト我トノ分ヲ知ラサレハ、物  
産開クヘカラサルナリ、彼ハ五大洲ヲ徧禿シ、其産出ノ  
物品ヲ融通ス、我ハ我カ一島ヲ守リ、彼ニ輸出スル者、  
只茶・糸・蚕卵紙ヲ以テ、互市第一ノ要品トナシ、其他  
漆器・陶器等ノ外、彼ニ適スルノ品物実ニ少シ、故ニ互  
市ノ度ヲ察スル、彼カ輸入常ニ多ク、我ノ輸出常ニ少シ、  
彼カ輸入ノ品多ケレハ、我産出物ヲ圧塞スルノ弊ヲ生ス、  
何トナレハ、我カ産出物品ヲ消費融通スルヲ妨ケ、且ツ  
其価ヒヲ低減セシムレハナリ、連年蚕卵・生糸・茶葉ノ  
損失スル其証ナリ、故ニ物産ヲ開カント欲スル、先ツ之  
ヲ消費スルノ道ヲ開カサルヘカラス、消費ノ道開クル、

物産ハ令セスシテ繁殖スルナリ、且ツ西洋輸入ノ物品、無用ノ玩器半ハニ過ク、宜ク有用無用ノ別ヲナシ、我カ商賈舶来無用ノ物品ヲ鬻ク者ハ、其稅ヲ重クシ、有用ノ物品ハ其稅ヲ輕クスヘシ、稅ノ輕重、其度ヲ得レハ、舶来無用ノ物品、市ニ集マラス、地券稅ハ、之ヲ都府人煙稠密ノ地ニ用ユル、便ト雖トモ、僻遠荒蕪ノ地ニ用ユレハ、不便ナル者多ク、且ツ國計ノ損害ヲ醸ス、宜ク其得失ヲ熟考シ玉フヘシ、凡ソ經濟ハ、無用ノ用ト、無益ノ益ヲ知ラサルヘカラス、無用ノ用ハ大用ナリ、無益ノ益ハ大益ナリ、所謂民ヲナシ由ラシムヘク、知ラシムヘカラサル者也、

右八革

○八較論

○學術ノ事

上ノ好ム所、下之ヨリ甚キ者アリ、今我カ先王ノ學ヲ棄テ、專ラ洋學ヲ主トシ、上ハ天子ヨリ、下ハ庶人ニ至リ、心醉セサル者ナシ、其弊害實ニ大ナリ、戊辰以來、

今日ニ至リ、僅ニ六七年ノミ、而ソノ間、農商士類ノ諸県ニ蜂起暴動スル、殆ト百ヶ所、是皆仁義忠孝ノ教ヲ欠キ、利ヲ重ンスル洋學ヲ主トスルニ非スヤ、苟モ廉恥節義ヲ知ラハ、何ソ如斯ノ劇ニ至ランヤ、且ツ彼義ヲ輕シ利ヲ重スルノ學ヲ主トスル、百官有司モ、終ニ民ト利ヲ争ヒ、貨殖ノ策ヲナスニ至ル、百官有司ニシテ、民ト利ヲ争フ、利ノ為メニ法ヲ設ケ、天下ニ先シ、預メ私利ヲ營ムノ術ヲナス、是以百害從テ起リ、奸商競ヒ出テ、終ニ之ヲ制スル能ハサルニ至ル、豈國家ノ治安ナルヲ得ンヤ、今巷說ヲ聞クニ、百官有司、商法ヲ營ムモノ甚タ多ク、且ツ窃カニ財主トナリ、分銖ノ息ヲ貪ル、故ニ貸借ノ便ヲ計リ、身代限ノ裁判ヲ設ケ、本年一月ヨリ今日ニ至リ、東京府中ニ裁判ヲ乞者、三万余人ニ及フト、其実否ハ詳カニセスト雖トモ、人民ノ内債マテ、苛細ニ之ヲ治メント欲スル、所謂察々ノ政ニテ、民ヲ安スル道ニアラス、我カ皇國ハ西洋ト其情ヲ異ニシ、水至清ナレハ魚住マスト云如ク、從容緩和ヲ主トシテコソ、人民ノ保

護モ行キ届キ、安堵セシナリ、故ニ我カ學術ハ、仁義忠孝ヲ教ヘシ、漢籍コソ適用ナリ、昔シ延喜天曆ノ至治モ、漢籍ノ功ニ非スヤ、今文明開化ヲ唱ユル妄人ヨリハ、之ヲ固陋頑愚ト嘲笑スルトモ、今実地上ニ施シテ、国内疲弊、人民怨嗟スルモノ、洋学ノ弊ニアラスヤ、且ツ洋学ヲ主トシ、現ニ国家ノ大損害ヲ醸ス所以ハ、今天下ニ五万三千七百六十余ノ小学校ヲ設ケン、而毎校ニ生徒百人ト算シ、其洋書・石盤・石筆・鉛筆・洋紙・墨汁等ノ費、毎歳一人ニ付平均五円金トスレハ、其惣計二千六百八十八万円ナリ、是皆海外ニ出ツルノ金数ナリ、若シ此費ヲ転シテ、我固有ノ書籍・和算・和紙・和筆・墨等ヲ用ユル、内国ニ益スル金数二千六百八十八万円ナリ、此内外出入ノ差ヲ合算スル、一歳ニ五千三百七十六万円ナリ、此五千三百余万ノ損害ハ、皆洋学ヨリ起ルニ非スヤ、況ヤ洋行生徒ノ費用、文部購求ノ洋書・器械、及ヒ教師雇ヒノ給俸等ヲ合算セハ、洋学ノ為メ、海外ニ出ツル金円、其数億万ニ及フヘシ、故ニ洋学ヲ主トスル、啻ニ風ヲ乱

リ俗ヲ敗ルノミナラス、大ニ国家ヲ疲弊セシムルノ道ナリ、且ツ彼カ祖トスル所ノ耶蘇書中ニ、六科ノ学則ヲ設ク、曰文学、曰理学、曰医学、曰法学、曰教学、曰道学、此六科ヲ以テ、耶蘇学ノ始終ヲナス、故ニ今日外国教師ヨリ伝ユル所ハ、即チ耶蘇ノ則ナリ、フルヘツキ名ノ如キモノ、即チ耶蘇ノ教徒ニシテ、彼カ教授スル學術ハ、其本意悉ク耶蘇ヲ弘ムルヲ主トス、而生徒ノ無識、素ヨリ其教ノ邪正ヲ弁スル能ハス、篤ク其教ヲ信シ、知ラスノ其則ニ従フ、然ルニ政府ハ、耶蘇害ナク、恐れ、ニ足ラスト為スヤ、古ヨリ彼カ教ヲ布クノ地、一ツトシテ彼カ奪ハサルナシ、近クハ呂宋ノ禍ヲ見スヤ、我カ肥前浦上ノ徒ノ如キ、若シ耶蘇國ト兵端ヲ開カハ、必ス戈ヲ倒マニシテ、彼ヲ助ケ我ヲ伐ツモノナリ、豈畏レサルヘケンヤ、故ニ學術ヲ改メサレハ、国家終ニ保ツヘカラサルナリ、

### ○服制ノ事

人ノ世ニ在ルヤ、衣食住ノ三者、上ハ天子ヨリ、下ハ



庶人ニ至リ、一日モ無カルヘカラサルナリ、今衣ノ一事ヲ説ク、他ノ二ツノ者、推テ知ルベシ、夫レ綿ト蚕トヲ産スル者農ナリ、之ヲ織リ之ヲ染ムル者工ナリ、之ヲ互市交易スル者商ナリ、而之ヲ服シ之ヲ用ユル者、上ハ天子ヨリ、下ハ士農工商ナリ、故ニ毎歲国内ニ産スルノ綿蚕ヲ、毎歲之ヲ用ヒ尽シテコソ、国家ノ用度モ、人民ノ融通モ、其便ヲ得ルナリ、然ルニ戊辰以来、洋服ヲ用ユルノ風起リ、今日ニ至テハ、礼服迄モ洋製ト変シ、上ハ天子ヨリ、下ハ僕隸輿阜ニ至ルマテ、羅紗モヘルノ類ヲ服ス、之カ為メニ、我カ国産ノ、呉服アトシテフルヤ太物古着ノ類ニ至ルマテ、頓ニ之ヲ用ユルノ道閉塞セリ、是以西洋ニ輸出スル貨幣ト、国内ニ閉塞スル貨幣トヲ、合算スレハ、一歳ノ損害、一億万円以上ニ及フヘシ、七八年前ハ、羅紗類ハ、袋物等ニ用ユルノミニテ、仮令羽織等ニ用ユル者アルモ、王侯貴人ノ外ニハ、之レナキ程ニ貴キ者ナリシニ、今ハ百官有司ヨリ数万ノ兵卒巡查、及ヒ郵便使役ノ者ニ至ルマテ、常服ニ用ヒ、且ツ冠帽・手袋・足袋・

メリヤス・下着・股引等ニ至リ、皆洋品ニ非ルナキ、其費幾千万金ナリヤ、此皆服制ヲ変セシヨリ起ルノ損害ナリ、然ルニ我カ国産ノ物品、彼カ輸入ノ毛布等ニ匹敵シテ、輸出スル者有ル、彼幾百万噸ノ物品ヲ舶載シ来ルモ、憂ルニ足ルコトナシ、今我カ彼レニ輸出シテ、国益ヲ計リ、費ヲ補フノ物品、何物カアル、皇国第一ノ名産タル、茶糸スラ、連年ノ損失ヲ生ス、況ヤ今茲横浜ニテハ、夥多ノ蚕卵紙ヲ焚棄ス、該地ノ新聞ニハ、仮令之ヲ売却スルモ、天保一錢ノ価ナキ卵紙アリト云ヘリ、果シテ然ラハ、何ヲ目的トシテ、全国人民ニ洋服セシメ玉フヤ、速カニ之ヲ改メサレハ、国帑困乏、必ス国ヲ斃スニ至ラン、国ハ斃ストモ、洋服ハ改メラレヌト云政事ハ、アルマシキ事ナリ、且ツ我国ノ服制ハ、神代ヨリ闊袖長袴タリ、何ヲ以テ之ヲ知ル、神代卷ニ云、天照太神、結髮為髻、縛裳為袴ト、裳ハ衣ノ裔ナリ、此レ太神征伐ノ時ニ臨ミ、長裔ニテハ不便ナル故、之ヲ纏縛シテ、袴トナシ玉フナリ、此我国、神代ヨリ結髮長裔ノ確証ナ

り、又 景行帝紀中ニ、衣中劔ヲ帶セシ事ヲ載ス、衣中ニ劔ヲ帶スレハ、決テ今ノ洋服ノ如ク、鈕ヲ以テ襟ヲ止メタル制ニアラス、必ス左右ヨリ合セ服スル制ナルヘシ、衣既ニ長シ、故ニ衣身モ必寛ク、袖モ必ス闊カルベシ、我ト彼トハ、人身風土異ナル故、自カラ服制モ、長短広狭ノ別ナカルヘカラス、其証ハ、洋人ハ短慮性急、且其土地多ク寒シ、故ニ其性ト土トニ応シ、衣服モ自カラ短狭ナリ、国人ハ洋人ニ比スレハ、優游緩和ナリ、故ニ衣服モ自カラ寛闊ナラサルヲ得ス、此レ天然ノ法ナリ、故ニ我カ人民洋服ヲ服スレハ、本然ノ品格ヲ失ヒ、動作モ亦便ナラス、仮令出游ニ之ヲ用ユルモ、其家居無事ノ日ニ、洋服ヲ用ユル者ナシ、百人中、一ツモ闊袖長齋ヲ用ヒサル者ナキハ、此レ自然ニ出ルニ非スヤ、平民ハ措テ論セス、今 天子百官、其容貌莊嚴ナラサレハ、人ノ畏敬ヲ失フ、所謂自ラ侮テ、人之ヲ侮ル者ナリ、凡ソ人ノ輕侮ト尊敬トハ、必ス衣冠ト頭髮トニアリ、 天皇ヲシテ至尊ト云モ、今斷髮裸体ニシテ、平民ト席ヲ同セハ、

此一个ノ匹夫平民ノミ、誰カ其至尊タルヲ弁センヤ、若シ田夫野人ヲシテ、天子ノ衣冠ヲ服シ、之ヲ廟堂ノ上ニ立タシムル、人見テ必ス威嚴ノ天子ト認メン、故ニ天子ノ至尊モ、独リ玉体ニ具ハルニ非ス、又衣冠ノ制ニ得ルモノ多シ、今木下藤吉ヲシテ、奴隸ノ服ヲ服シ、奴隸ノ髮ヲ結ヒ、其威容ヲ逞マシクスルモ、焉ソ大閹ノ尊威アラシヤ、彼レ其大閹ノ服ヲ服シ、大閹ノ冠ヲ冠シテコソ、其尊威ヲ振ヒシナリ、故ニ人ノ尊威ハ、衣冠ニ在ル事知ルヘシ、今 天皇ハ億兆ノ主、其衣冠ヲ正クセサレハ、焉ソ侮リヲ億兆ニ取り玉ハサルヲ得シヤ、 天皇ノ尊威一タヒ衰ヘ、侮リヲ下ニ取ル、法令必ス行ハレス、天下必ス敗乱ス、衣冠頭髮ハ、治国安民ノ基ヒスル所、豈猥ニ之ヲ更革スヘケンヤ、今ヤ 主上ヲ初メ奉リ、百官有司ニ至リ、一朝ニシテ彼斷髮窄袖ノ洋俗ニ變シ、曩日マテハ、天顏ヲ拝スレハ、双眼ヲ盲スルト云程ニ、尊カリシ 至尊モ、今ハ市井ノ蔭カゲ口ニテハ、 天子主上ト申上ルモノモナク、天公・禁公ナト唱ヘ、又皇后ヲ、禁公ノ

嫁ナト唱ユルヨシ、此皆百代ノ衣冠ヲ廢シ、西洋新製ノ胡服ニ変シ、尊威ノ落ち下ラセ玉フニ非スヤ、夫レ洋服ハ、我カ襦袢股引ト、一般ノミ、襦袢股引ハ、我カ田夫野人ノ、山野ニ奔走スルノ服ナリ、田夫野人モ、平居ニハ此服ヲ用ユル者ナシ、今田野ノ服ニ模擬スルノ服ヲ服シ玉フ、其尊威ノ落ち下ラセ玉フハ宜ナル哉、今之カ弁解ヲナスニ、仮令ヒ三尺ノ嘴ヲ張り、懸河ノ弁ヲ振フモ、實地見ル所ニ、法令行ハレス、人民蜂起、県庁ヲ鬧カシ、県吏ヲ傷ケ、近クハ鞏轂ノ下、人民ノ朝政ヲ誹議スルモノ、幾万人アリヤ、此畏敬ノ道立タサル顯証ニ非スヤ、予ヲ以テ洋服ヲ用ユルノ害ヲ論スル、其不可ナル者六アリ、一ニハ、百代ノ衣冠ヲ廢棄シ、百代ノ先帝ニ孝道ヲ欠キ玉フ、二ニハ、民ノ敬心ヲ失ヒ、法令行ハレス、三ニハ、国財ヲ靡費シ、外国ヲ富マス、四ニハ、内国ノ布帛ヲ売買スルノ道ヲ塞キ、国民ヲ困ム、五ニハ、国民ニ紡績織染ノ工業ヲ失ハシム、六ニハ、我良布帛ヲ棄テ、彼カ劣毛布ヲ用ヒ、損益ノ道ヲ知ラス、

○貴賤ノ事

地球上ニ并列スル国々ハ、各其固有ノ俗アリテ、西洋ノ如キハ、貴賤ノ別ナクシテ、国モ治マルヘケレトモ、我カ 皇國ノ如キハ、貴賤ノ別判然明カナラサレハ、国家一日モ保ツヘカラス、貴賤ノ別ハ、治國ノ根本ヲ堅クシ、造費倍殖ノ法ヲ興ス、治國ノ本トハ、人民上ミヲ畏敬シテ、法令ヲ遵守スルナリ、畏敬遵守ノ本ハ、貴賤ノ別ヲ立ルニアリ、貴賤ノ別ハ、官位俸給ノ厚薄ニ応シテ、其制ヲ嚴ニシ、其儀ヲ明カニスルナリ、今ヤ大臣參議ノ顯官モ、時ニ依リテハ、独行無僕、平民ニ齊キ行粧ナキニ非ス、所謂白龍ノ魚服ニテ、路人之レニ唐突シテ、其名ヲ聞キ、始テ顯官タルヲ知ル、此皆貴賤ノ別ナキヨリ、畏敬ノ道ヲ失スルナリ、凡ソ民ヲ畏敬セシムルニ三術アリ、道德ナリ、尊爵ナリ、兵力ナリ、澆季ノ今日ニ當リ、道德ヲ以テ畏敬ヲ取ル、甚タ難ク、兵力ヲ以テスレハ、暴虐苛刻ニテ、民ヲ服スルノ道ニアラス、故ニ今日畏敬ヲ取ルハ、貴賤ノ別ヲ立ツルヨリ善キハナシ、曩日徳川

氏ノ政ヲナスヤ、天子ノ御撫物奉幣使、將軍家ノ茶壺等ニ、威權ノアルヲ見テ、大ニ之ヲ誹議セシ事ナリシカ、今日ヨリ之ヲ思ヘハ、亦治國ノ一端ナリシ、此皆上ミヲ畏敬スル心ヨリ、其敬ノ器物ニ及ヒシナリ、半行ノ書翰一葉ノ短冊モ、御書御染筆ト云ヘハ、同室ニモ置カサル様ニ尊敬シテコソ、法令モ守リ、鎮撫モ行キ届キシナリ、斯ク貴キヲ畏敬スルハ、我カ固有ノ風習ナリ、故ニ貴族ニテ上位ニアレハ、仮令材識尋常ノ人タリトモ、下之ヲ重シ、卑賤ヨリ上位ニ昇レハ、卓越ノ人物ニテモ、下之ヲ輕侮ス、此貴賤ノ別ハ、我カ固有ノ俗タル所以ナリ、維新以來、屢暴動ノ諸県ニ起ルモ、畏敬ノ道立タサルニ由ル、今ヤ一時平穩ノ形アレトモ、之レニ加ユルニ大凶年ヲ以テセハ、四方ノ騷擾恐ルヘキナリ、造費倍殖トハ、貴賤ノ別ヲ上下百階ニモ立ルトキハ、物品ヲ造ルト用ユルトノ道ヲ開キ、彼此融通消費シテ、繁殖ノ大ヲナスナリ、何トナレハ、貴賤ノ別ヲ立ルトキハ、衣食住日用ノ事、総テ其等級ニ応セサルヲ得ス、故ニ五百円ノ俸アレ

ハ、五百円ノ衣食住ヲナシ、五十円ノ俸ハ、五十円、五百円ノ俸ハ、五百円ト、各其分ニ応スル衣食住ヲナス、是以テ物品消費ノ道立テ、造ルト用ユルトノ融通ヲ得テ、日用諸品ノ盛大ヲナスニ至ル、夫レ冠婚葬祭ノ四大礼ヨリ、平日人ニ接シ家ニ居ルノ事ニ至リ、貴賤ノ等級、百階ニ分ル、故、至貴ノ衣食住ハ、至賤ノ衣食住ニ百倍セサルヲ得ス、是レ驕奢ニセヨト云ニ非ス、各己カ分限ニ応スルナリ、斯ク貴賤ノ別ヲ立ツレハ、貧富ノ別モ、自然百級ナラサルヲ得ス、猶裏店ニ住スル貧商ト、三ツ井・鴻ノ池ノ豪商ト、百段ノ違ヒアル如シ、此貧富ニ随テ、衣食住ノ別、亦貴賤ノ別ト同シ、故ニ貴賤ノ別ヲ立ツルハ、虚飾ニ非ス、全ク天下ヲ富マス大商法ナリ、徳川氏ノ初政ハ、戦争ノ余ニテ、人民モ今日ニ比スレハ、百分ノ一ナルヘシ、然ルニ大ニ貴賤ノ別ヲ定メ、天朝ニハ公卿百官アリ、幕府ニハ簾下八万騎アリ、諸國ニ三百ノ侯伯アリ、諸藩ニ数百万ノ士卒アリ、而千階万別ノ位階等級ヲ定メ、加之天下ノ神官・僧侶・医師・画工・盲目ノ類

ニ至ルマテ、悉ク貴賤ノ等ヲ別チ、又從テ貧富ノ別アリ、其分ニ応シ、相造リ相費シ、天下ノ盛富ヲ極ム、此荒蕪ノ武蔵野ヲ變シテ、今日ノ東京トナシタル所以ナリ、今ハ西洋ノ治ニ效ヒ、民權トカ自主トカ唱へ、一朝ニ貴賤ノ別ヲ乱リ、貧富ノ分モ又從テ滅ヒ、百万石ノ華族モ、一个ノ士族モ、衣食住ヲ同クシ、鴻池・三井モ、裏店ノ貧商モ、衣食住ヲ同ス、嗚呼慶長寛永ノ間ハ、今日ノ人口百分一ニテ、貴賤ノ分ヲ立テ、大坂江戸ノ繁盛ヲ起シ、今日ハ百倍ノ人民ヲ有シ、貴賤ノ別ヲ滅シ、国家ノ衰弊ヲ招ク、是レ何ノ心ソヤ、且ツ貴賤ノ別ヲ明カニセサレハ、驕奢ノ風ヲ禁スヘカラス、戊辰以前ハ、列藩ノ百姓ハ、傘・下駄モ、免許無ケレハ、妄ニ用ヲ禁シ、絹布ハ勿論、木綿タリトモ、品ニヨリ用ユルヲ許サス、辺境ノ民ハ、草履草鞋ノ外ハ、用ヒスシテ、質素ナリシニ、近來其制ヲ弛ヘシヨリ、羅紗縮緬等ノ衣服ヲ用ヒ、三円ノ洋傘、五円ノ洋靴、或ハ十円二十円ノ時辰儀ヲ携へ、傲然王侯貴人ニモ劣ラヌ風ヲ学フ、今日ノ景況ニテハ、三

年ヲ出テス、溝壑ニ転スルニ至ラン、今ニシテ貴賤ノ分ヲ立テ、驕奢ノ風ヲ禁セスンハ、国家ヲ何ノ地ニ置カンヤ、

○兵制ノ事

兵ハ國家至重ノ事ナレハ、容易ニ之ヲ処置シ難シ、先ツ其利害得失ヲ深思スヘシ、若シ西洋兵制ヲ以テ、悉ク之ヲ我ニ用ユル、其害甚タ大ナリ、夫レ強兵ハ、富国ヨリ生ス、国用欠乏シテ、兵ノ強キハ、古ヨリアリシコトナシ、故ニ富国強兵ト、次第シテ云ナリ、然ルニ今我カ長短得失ヲ選ハス、悉ク洋製ヲ用ユル、其器械・衣服・飲食・俸給等ニ至ルマテ、悉ク彼ニ求メ、彼ニ依ラサルヲ得ス、今兵卒一人ノ費タリトモ、悉ク洋品ヲ用ユル、其費夥シ、況ヤ数十万ノ兵卒、悉ク洋品ヲ用ユルニ於テヤ、加之彼カ新發明出ル毎ニ、我カ小島限り有ルノ用度ヲ以テ、之ヲ購求スル、国用必ス尽キ、我カ国土ヲ典當スルモ、其費ヲ償フ能ハサルニ至ラン、此我レ未タ一戦ヲ試ミス、徒ラニ器械制度ノ為メニ、国土ヲ失フニ至ル、

此長短得失ヲ問ハサルベカラサル所以ナリ、帝範ニ云、  
良匠無棄材、明王無棄士ト、夫レ之ヲ用ユルニ、其道ヲ  
以テスレハ、天下棄ツヘキノ材ナク、其道ヲ以テセサレ  
ハ、天下用ユヘキノ事ナシ、今天下ニ旧藩ノ華士族アリ、  
之ヲ農商ニ帰スル、大害ヲ生ス、之ヲ用ユル、宜ク其道  
ヲ以スヘシ、何トナレハ、方今農民ノ戸口繁殖シ、之レ  
ニ賦予スル田地モ、猶足ラサルヲ苦ム、今之レニ加ルニ、  
百万ノ士族ヲ以テス、何ヲ以テ其田地ヲ賦予スルヤ、假  
令之レニ賦予スルノ田地アルモ、華士ニシテ耕耘ノ業ニ  
堪ユル者、十中一ナシ、之ヲ商ニ帰センカ、商亦已ニ往  
時ニ千百倍ス、今亦之レニ加ルニ百万ノ士族ヲ以テセハ、  
売ル者千ニシテ、買フ者一ナク、商モ亦行ハルヘカラス、  
故ニ華士ヲ農商ニ帰スルハ、独リ之ヲ倒スノミナラス、  
旧農商ヲ合セテ、之ヲ倒スノ道ナリ、故ニ華士族ハ、其  
本職ヲ守ラシメ、之ヲ兵ニ編スルニ加カス、此即チ華士  
ニ給スル、五百万石ノ禄ヲ活用シ、旧農商ノ業ヲ保護ス  
(頭註ニアリ、先「確論」ス)  
ルノ良策ナリ、且ツ兵事ハ、士ノ長スル所、事ニ臨テ其

用ヲナスハ、農商ト同日ノ論ニアラス、今華士ヲ棄テ、  
用ヒス、兵ヲ農商ニ募ル、此レ五百万石ノ家禄ハ、泥土  
ノ中ニ投スルニ同シ、今之ヲ剝奪センカ、華士其恒産ヲ  
失ヒ、天下皆佐賀ニ類スルノ暴動ヲ醸シ、国家ノ大難ヲ  
ナスニ至ラン、此レ皆之ヲ用ユルノ道ヲ得サルヨリ起ル、  
郡県ノ制、四民ノ分ヲ立テ難シト雖トモ、今朝廷七百年  
來、武家ニ奪ハレシ政權ヲ、一朝ニ挽回シ玉フ事ナレハ、  
決シテ法ヲ以テ人ヲ治メ難シ、故ニ人ニ依テ法ヲ設ケサ  
ルヲ得ス、法ヲ以テ人ヲ治ル、譬ヘハ藥ヲ先ニシテ、病  
ヲ知ラサルカ如シ、病豈治スルヲ得ンヤ、人ニ依テ法ヲ  
設ル、猶病ニ応シテ藥ヲ投スルカ如シ、藥豈適セサラン  
ヤ、我カ国數百年ノ沿習ニテ、士ト云ヘハ、如何ナル情  
弱者ニテモ、国事ニ身ヲ委スル者ト覚悟シ、忠ニ義ニ、  
百年ノ身ヲ斃シ、過ニ失ニ、至痛ノ腹ヲ屠ル、是亦農商  
ニナキ所ノ事ナリ、曩キニ奥羽ノ役ニ、戦功ヲ奏シ、  
皇威ヲ挽回セシモ、士族ノ功ニアラスヤ、今農商ヲシテ、  
五七年間ノ期限ヲ定メ、兵役ニ從カハシムルモ、終身此

業ヲ専ラニスル者ニ非ス、之ヲ始終ヲ貫ク士族ニ比スレハ、其剛臆強弱、固ヨリ瞭然タリ、故ニ強兵ヲ欲スル、華士ヲ用ユルニ加クハナシ、且ツ心氣ヲ鍛ヒ、胆力ヲ強クシ、義氣ヲ養ヒ、廉恥ヲ知ルハ、劍ヲ帶ルニ在リ、劍ハ我カ国 神代ヨリ、固有ノ兵器ニテ、天ヨリ我ニ賦予スル所ナリ、之ヲ廃スレハ、義氣胆力廉恥モ、又從テ廃ス、今脱刀シテ、天下ノ華士族、義氣廉恥ヲ失フ、其明驗ニアラスヤ、義氣胆力廉恥ナクシテ、兵ノ強キハ、古ヨリ決シテナキ所ナリ、此ニ論セサルヲ得サル一事アリ、近日無識ノ徒、脱刀論ニ云、太平ニ刀ヲ帶スル、殺氣ヲ生シ、辻斬等ノ所行アリ、大ニ宜シカラスト、是亦思ハサルノ論ナリ、世ノ治乱興廢ト、人ノ仁暴義不義ハ、政教ハ得失ニ関シ、帯刀ニ依ラス、徳川氏ハ帯刀シテ、二百年ノ昇平ヲ致シ、孝仁ハ帯刀セサルモ、十年ト無事ナル日ナシ、又我カ脱刀ノ風行ハレシヨリ、諸県ニ暴動殺傷ノナキニアラス、且ツ辻斬等ノ事稀ニアリトテ、全国ノ政ヲ論スヘカラス、辻切り果シ合ヒハ、一人ト一人

ノ事ノミ、一人二人ノ暴行ヲ以テ、一郡一国ノ乱ニ比スレハ、政事ノ恥トハスヘカラス、且ツ天下ノ広キ、人民ノ多キ、一点ノ疵ナキ事ハ、神聖ノ世ニモアルヘカラス、昔シ秦ハ、天下ノ兵器ヲ消シテ、二代目ニ陳勝ノ乱起ル、隋ハ、天下ノ鉄又矚刃ノ類マテ禁シタレトモ、二代目ニ竇建徳ノ兵起ル、故ニ天下ノ兵器ハ、刀ノミニ非ラス、竹槍木刀ニテモ世ヲ乱リ、人ヲ殺スノ具ハ、足ルモノナリ、何ソ天下ノ治乱、一ツノ帯刀ニ関センヤ、

交易ノ事

外国ト交易モ、彼我ノ別ヲ知ラサレハ、莫大ノ損害ヲ生シ、国家敗亡ニ至ル、何トナレハ、彼ト我トノ別ハ、天淵隔絶セリ、別トハ何ソ、国ノ貧富ナリ、商ノ巧拙ナリ、産物ノ多少ナリ、物価ノ昂低ナリ、通商ノ広狭ナリ、此五別ヲ知ラサルヘカラス、第一国ノ貧富トハ、彼カ一商ノ富モ、殆ト我カ全国ノ富ニ敵スル者アリ、況ヤ彼カ全国ノ富ヲヤ、故ニ彼ト交易スル、譬ヘハ我カ一等ノ貧商ト、三井・鴻ノ池ノ豪商ト、事ヲ同クスルカ如シ、焉ソ

庄セラレサルヲ得ンヤ、第二商ノ巧拙トハ、我ハ初字ノ  
碁打ノ如ク、彼ハ本因坊ノ如シ、焉ソ勝敗ヲ争ベケンヤ、  
第三、物産ノ多少トハ、我カ物産ハ、天造多ク、一歳ニ  
産スル一回、彼カ物品ハ、人工多シ、日二月ニ製出ス、  
一年ノ多少ヲ算スルモ、我ハ一ツニシテ、彼ハ万ニ過ク、  
其利タル、同日ノ論ニ非ス、第四、物価ノ昂低トハ、彼  
カ製作ノ品物、一ツニシテ其価百金二百金ニ至ル、我カ  
産出ノ品、彼ニ敵スル物アリヤ、第五、通商ノ広狭トハ、  
彼カ五大洲ヲ徧売スルト、我カ一島ヲ守ルト、猶扇ノ地  
紙ト、其枢トノ如シ、豈畏ルヘキニ非スヤ、然ルニ我カ  
微力ヲ以テ、彼カ盛大ニ模倣シ、轍道・電線・煉瓦等百  
般ノ大挙ヲナシ、近来ニ至リ、都下市街ニ瓦斯灯ヲ設立  
ス、此皆國ヲ疲ラシ、民ヲ困ムルノ事ノミ、且ツ鉄ハ、  
我カ必用ノ要器、我カ三千五百万ノ民、鉄ニ非サレハ其  
生ヲ遂クル能ハス、日用ノ鍋釜ヨリ、農具工具等、百工  
ノ職、一トシテ鉄ノ用ヒサルモノナシ、鉄ノ用タル、実  
ニ大ナリ、鉄ハ草木ニ異ナリ、一回之ヲ掘レハ、再生ス

ル者ニ非ス、然ルニ西洋多鉄ノ國ニ抗衡シ、轍道・鉄橋・  
鉄垣・鉄灯等ノ大挙ヲナシ、鉄ヲ妄費スル、其弊目前ニ  
顯ハレサルモ、五七十年ノ後、人民必ス日用ノ具ヲ欠ク  
ニ至ラン、天下ノ政ヲナシ、目前ノ事ヲ計リ、後世ヲ患  
ヘサル、斯民ヲ如何センヤ、且ツ瓦斯灯ヲ都下ニ設クル  
目前ニ一ツノ大害ヲ生ス、今東京ニ蠟燭球灯ヲ製シ、活  
計ヲナス者、幾千人ナルヤ、瓦斯灯一タヒ満街ニ徧キ、  
此數千人ノ活路、一時ニ塞ル、且ツ活路ニ塞カルノミナ  
ラス、又其瓦斯ノ税ヲ出スニ至ル、其害タル、豈小々ナ  
ランヤ、曩キニハ横浜瓦斯灯ヲ落成シテ、交易ノ衰微一  
時ニ生シ、家ヲ典シ、戸ヲ閉ツル者許多、今又府下ニ瓦  
(頭註ニアリ、先「瓦斯灯種サルモ已ニ売家多キナリ、マシテ彼我ノ分ヲ知ラサル  
スヲ設ク、瓦斯灯ノ四辺ニ赫耀スルノ日、又典売ノ家多  
愚人ノ号ヲ免レズ」)キラ見ンノミ、斯ク我カ国力ヲ計ラス、非常ノ大挙ヲナ  
シ、衰弊ヲ招クモノ、彼我ノ分ヲ知ラサルニ非スヤ、

#### ○租税出納ノ事

牛馬ノ負担スル荷物ハ、犬猫ノ能ク負フ所ニアラサルナ  
リ、外国富強人民ノ出ス所ノ百税ヲ、我カ疲瘠人民ニ負



ハシメント欲スル、其堪ニル能ハサル論ナキナリ、然ル  
(頭註ニアリ、先「此數語租稅ノ書ヲ言及スト云シ」)  
 ニ今彼ノ百稅法ヲ以テ、俄カニ我カ国民ニ施ス、豈疲瘠  
 ニ一増ノ疲瘠ヲ重ヌルニ非スヤ、此亦彼我ノ分ヲ知ラサ  
 ルヘカラス、西洋ノ重稅ナル所以ハ、彼ハ氣候寒ク、土  
 地惡ク、百穀ノ繁茂セサルヲ以テ、田租ヲ主トセス、他  
 ノ物品諸稅ヲ以テ、國用ニ充ツ、此レ西洋ノ商ヲ重スル  
 所以ナリ、我カ國ハ、土地肥饒、百穀草木ノ繁茂スル、  
 世界ニ冠タリ、故ニ田租ヲ以テ國計ヲ立テ、國用ヲ弁ス、  
 此レ我カ農ヲ重スル所以ナリ、故ニ諸雜稅ヲ收ムト雖ト  
 モ、田租ノ十カ一ニ及ハス、現ニ一昨壬申年、天下租稅  
 ノ差ヲ見ルニ、雜稅ハ五百萬円ニシテ、田租ハ四千萬円  
 ニ超ヘタリ、該年ノ米価、一石ニ一円七十五錢余ニ低減  
 セシモ、田租ノ雜稅ヨリ多キ、八倍ス、若シ米価ヲシテ、  
 諸物価ニ準シ、騰貴セシメハ、田租ノ惣計、一億萬円ヲ  
 超ユヘシ、故ニ田租ヲ雜稅ニ比較スレハ、其多キコト二  
 三十倍ス、是故ニ我カ國益ヲ計ルハ、田租ノ位ヲ進ムル  
 ヲ以テ、第一ノ良法トス、今此疲弊セシ人民ニ、諸稅ノ

目ヲ加増シテ、一層ノ疲弊ヲ重ネ、不服ノ民心ニ、一倍  
 ノ不服ヲ抱カシメンヨリ、寧ロ諸稅ヲ弛ヘ、田租ノ位ヲ  
 進ムルニ加カンヤ、田租ノ位ヲ進ムルトハ、租ヲ重クシ  
 テ、民ヲ困ムル事ニ非ス、所謂賦ヲ民ニ加ヘスシテ、國  
 自カラ富ノ術ナリ、其法ハ、只米価ヲ貴クスルニアリ、  
 米価ヲ貴クスルハ、之ヲ消費スルノ道ヲ開クナリ、且洋  
 品ヲ用ユルノ制度ヲ立テ、金銀貨ノ外國ニ流出スルヲ防  
 クヘシ、我カ國ハ、實ニ東海中ノ一小島、其金銀貨モ亦  
 限リアリ、昨癸酉年、海外ヘ輸出ノ超過、凡ソ八百萬円  
 ニ及ヘリ、其他洋人雇ヒノ俸給、洋行人ノ費用、飛脚船  
 ノ運賃等ヲ合算セハ、一歳ノ超過、金一千万以上ニ及フ  
 ヘシ、一年毎ニ一千万ヲ過出スル、十年ニ一億萬ナリ、  
 加之國債ノ子金成シ崩シノ返金、或ハ征台事件ノ如キ、  
 臨時ノ費用ヲ算スル、又一千万円ニ下ラス、況ヤ三府五  
 十余県ノ諸商、洋産ノ物品ヲ購求スルノ數モ、亦六七百  
 萬金ニ至ルヘシ、是皆我カ貨幣ノ、海外ニ流出スルモノ  
 ナリ、加之鐵道、煉瓦製造所、瓦斯灯、造幣寮、病院、

藥品、器械等ノ出費、幾千万ナリヤ、而我ヨリ彼ニ輸出シテ、大補益ヲナスハ、茶・糸・蚕卵紙等ヲ第一トス、其茶・糸・蚕卵ノ為メニ、内国民ノ損失ヲ受ケ、其所ヲ失フ者、現ニ幾万人ヲ生スルヤ、斯ク年々損失ヲ受ケ、身代ヲ失フ者、皆外国ノ物品我ニ輻湊シ、我カ産物売却ノ道ヲ閉塞シ、貨幣只外国ニ出ルノミニテ、我レニ入ルノ道ナキニ由ル、嗚呼税ヲ内国ニ責メ、実貨ヲ外国ニ輸予ス、此弊ヲ改メスンハ、我カ全国ハ、終ニ外国ノ為メニ、身代限リトナルコト、小野善ト一轍ナルヘシ、豈畏ルヘキニ非スヤ、

○言路洞開ノ事

古ヨリ明君賢相并ヒ起ルノ世ハ、言路通セサルナキナリ、堯舜ノ諫鼓・謗木・湯武ノ司過戒非ノ如キ、皆己カ非ヲ知り、己カ過ヲ求メント欲ス、己ヲ誹謗スルノ言スラ、且ツ之ヲ求メ之ヲ聴ク、況ヤ国家ヲ裨益スルノ善言ニ於（頭註ニアリ、先）「此条殊ニ大確論」テヲヤ、言路ヲ開クトハ、草莽匹夫ノ言ト雖トモ、直チニ之ヲ 天皇陛下ニ達スル事ニテ、大臣・參議ノミニ達

スル事ニアラス、今左院ヲ設ケ、建言ヲ受クルノ法ヲ立ツルモ、是ニテ言路ヲ開クトハ言フヘカラス、何トナレハ、人民ノ露版封事ニモセヨ、直チニ之ヲ 天皇ニ奉シ、天皇親ク之ヲ読ミ玉ヒ、畢テ再ヒ之ヲ左院ニ下シ、衆議セシメテ、是非得失ヲ決定シ、而後之ヲ大臣參議ニ白シ、再ヒ施行ノ得失ヲ議シ、其取捨ヲナシ、其登用ヲナシテコソ、言路ヲ開キ、裨益ヲ求ムト云ヘシ、夫レ政ヲ行フハ、万国ニ亘リ、古今ニ照シ、私曲ヲ去リ、公平ナラサルヘカラス、我ニ於テハ、彈正台諫議ノ職ヲ設ケ、政府ノ得失邪正ヲ監察シ、直チニ之ヲ 天皇ニ奏シ、其黜陟賞罰ヲナシテコソ、政モ公平ナルヘシ、之ヲ譬ルニ、政府ハ 天皇ノ手足、彈正諫議ハ 天皇ノ耳目、互ニ相糾シ相救テ、私曲行ハレス、平正ノ政挙カル、西洋各国ニテハ、上下二院ノ議院ヲ置キ、互ニ相糾救スルノ法ヲ設ケ、政府ヲ保護シ、其政ヲ公平ナラシム、我カ政府、此法ヲ設ケ、此職ヲ置カス、仮令百官有司ニ、非違過失アルモ、之ヲ 天子ニ奏スル者ナシ、已ニ之ヲ奏スル者ナ

キ、天子モ亦何ニ由テ之カ賞罰黜陟ヲナシ玉フヤ、百官有司モ、同ク人間ニアラスヤ、人間ニシテ世ニ居ル、誰カ其過失ナキヲ保タンヤ、今司法省ノ如キハ、訟告ノ罪ハ、糾正スルノ權アレトモ、其未タ訟告セサルノ隱罪ヲ、糾察スルノ職ニアラス、夫レ百官有司ハ、天下億兆ヲ糾正スルノ本根ナリ、本根ニシテ、己カ過失ヲ糾正スルノ設ケナキ、之レ己カ過失ハ、之ヲ高閣ニ架シテ問ハス、独リ他ノ過失ヲ糾正セント欲スルナリ、之ヲ公平ト云ヘキヤ、今彈正諫議ノ職ヲ置ク事ナクンハ、宜ク言路ヲ開キ、輿論衆議ヲ取り、其裨益ヲ求メ、其過失ヲ聴キ玉フヘキナリ、

○法令ノ事

今ノ法令タル、之ヲ外国ニ用ユル、其害ナキヲ知ラスト雖トモ、我ニ用ユル、其害ヲナス者少カラス、今其一二(頭註ニアリ、朱)「至ヨク」ヲ挙ク、和奸律ヲ廢スル如キ、天下国家ヲ乱ルノ法ナリ、今天下ニ、寡婦ノ一家ヲ立ツル者、幾万人ナルヤ、寡婦ニシテ家ヲ治ル、貞節ニシテ其行ヒ正シカラサレハ、家

ヲ治ル能ハサルナリ、若シ寡婦ニシテ、恣ニ奸夫ヲ延キ、其行ヲ汚カス、其子モ亦内行修マラス、娼妓ニ溺レ、処女ヲ援キ、家業ヲ怠リ、家産ヲ傾ケ、其母之ヲ制スル能ハス、或ハ婢僕相通シ、或ハ婢ハ密夫ヲ延キ、僕ハ密妾ヲ納レ、一家敗乱スルモ、其主婦之ヲ禁スル能ハス、凡ソ世ノ行ヲ敗リ法ヲ乱ル、淫ヨリ甚シキ者ナシ、之カ敵制ヲ立ツルモ、猶其違犯ヲ保ツ能ハス、況ヤ今和奸ヲ罰スルノ法ヲ廢ス、其淫乱醜行ヲ勸メスト雖トモ、日二月ニ、寡婦処女ノ節操ヲ守ル者、十中一ナシ、自今猶廉恥ノ旧習ヲ存シタルモ、十年ノ後ニ至ル、寡婦ニシテ家ヲ治メ、処女ニシテ身ヲ守ル、一人ナキニ至ラン、是レ亡家破産ノ法ニアラスヤ、夫レ西洋耶穌ヲ信スル国ノ如キ、只生ヲ貴ヒ、死ヲ賤ミ、女ヲ重シ、男ヲ輕ス、故ニ耶穌ノ教ハ、父母祖先ノ祭祀ヲ禁シ、父母夫モ、死後之ヲ追慕スルヲ許サス、是以テ寡婦ハ、亡夫ヲ追慕、貞操ヲ守ルヲ惡ム、是彼カ、寡婦ニ、和奸ノ罰ナキ所以ナリ、我カ国ノ如キハ、父母夫死スト雖トモ、如在ノ敬ヲ尽シ、

追慕祭祀ノ礼ヲ厚クス、故ニ和奸モ禁セサルヲ得ス、故ニ洋律モ、悉ク之ヲ我ニ用ユル、大害ヲ醸ス、又人民私債ヲ裁判スルニ、代言人ヲ許スヨリ、奸計詐謀競ヒ起リ、数年間、打棄置キタル負債マテ、尾ニ羽ヲ付テ、公裁ヲ仰キ、僅カ一歳ニシテ、東京府下ニ三万有余ノ身代限ヲナスト、果シテ然ラハ、天下ノ諸県ヲ合セ、身代限ノ民、幾万人ニ及ヒシヤ、斯ク身家ヲ滅スルノ法ヲ設クル、斯民ヲ如何セントス、戊辰以前ハ、各藩ノ留守居ト称セシ者ナト、娼妓ヲ携ヘ、舟行野游ヲナス輩モアリシニ、国政ヲ執ル官員ニテ、妓樓娼家ニ投宿シ、歌妓舞娼ヲ伴ヒ、公然游歩スルヲ見ス、若此禁ヲ犯セハ、免官ハ勿論、終身士林ニ齒<sup>カ</sup>ヒセサルニ至ル者アリ、今ハ政府ノ顯官ニテ、花柳ノ街ニ投宿シ、謂ハレサル醜行ヲナス人モ、之レアルヤニ巷評スルモノアリ、或ハ官員ノ商法ヲ營ミ、節義廉恥ヲ破ルノ行ヒアルハ、嚴禁セサルヘカラス、仮令之カ禁ヲ設ケ、律上ニ載スルモ、之ヲ罰シ、之ヲ罪セサル律ナキニ同シ、国ニシテ法ナキ、又治マルヘカラサルナ

リ、

〔<sup>卷</sup>全篇立論正確切ニ時弊ニ中ル、〕

冊子原寸 縦二五種 横一七・二種 三〇枚

三三 三浦忠明ヨリ久光公ヘノ上表

皇道ノ大本タル敬神、尚武、愛民ヲ以テ国体

ノ確立ヲ乞フ

乞立国体表

重国体卓然特立者 皇道之大本也、而其所重者何也、曰敬神也、尚武也、愛民也、上世之治在斯三者矣、窃惟三韓臣伏来、百济始貢漢籍、則一崇儒教、尋献仏書、則亦累信仏法、近世洋虜来致書、則亦方信之、而惑之溺之漸背馳大道、而惟小径之事淳風日泯苛政輒盛畢失 国体、可勝嘆哉、此無它當時不能用賢明、而任用非其人也、今一興大議、召天下之賢良集海内之豪俊、本於上世之治道、挾於海外之所長、反覆討論以立神武之 国体、定不拔之 国是、期於亘万世不可易者、而後施諸天下、則 国威赫

赫民皆皇徳之尊、而信大道之明、

平三浦忠明 謹識

文書原寸 縦四六・三種 横六四・八種

三函 井上頼国ヨリ久光公へノ建白

祭政一致ノ実施ニ就テ

〔表紙〕  
〔一上〕

御一新以来、祭政一致ノ令符屢々下ルト雖モ、天下ノ有志、其実ノ行ハレサルヲ憂フルハ方法・施設宜ヲ得サルカ為歎、今管見ヲ述ヘンニ、先神祇官ヲ旧復シ、祀典ヲ盛挙シ、教部・文部ヲ是ニ隸シ、神字ヲ復興シ、国文ヲ定メ、稽古照今シテ令式格律ハ更ナリ、民法ヲモ撰ハシメテ国体ニ依テ之ヲ行フノ国是ヲ定ムルヲ急務トス、而シテ小教院、小学校ハ更ナリ、各村産土神社ニ教会ヲ立テ、氏子ヲシテ悉ク本教ノ旨趣ヲ知ラシムヘシ、教法数流ナル時ハ、一律ヲ以テ糾ス事ヲ得ヘ

カラズ、是教ト律ト不可離ノ謂ナリ、然シテ教院ニ於テハ最初本教ヲ知ラシメ、其人何ノ芸ニ長ズベキヲ鑑定シ、相応ノ課ヘ本院ノ添書ヲ以テ相送ルトキハ、徒ニ人材ヲ繫縛セズシテ速ニ人材ヲ成育シ、且先入主トナリ、凡百ノ行事、

敬神

尊皇ノ意ニ出サルナク、各自ソノ長所ヲ以テ国家ニ報セバ、祭政一致、富強充実、

皇輝ヲ宇宙ニ光被セシメン事難シトスヘカラス、是レ無稽ノ妄言ニアラズ、歴世

聖皇ノ天下ヲ統御シ玉ヒシ宝訓ヲ、当時ニ参互折衷シテ演述スル処ニ候間、何卒上件被相行候様御尽力被成下度、只管奉懇祈候、泣血叩首百拜、誠惶謹言、

井上頼国〇〔黒「頼国」〕

從二位島津殿

閣下

冊子原寸 縦二七・五種 横一九・五種 四枚

三 村上政信ヨリ政府ヘノ建言

封建制復旧其他ノ件

(案紙)  
「草稿」

村上政信」

一 漸々西洋ノ風俗ニ化セラレ、万国ニ冠タル御国体消滅、乍恐

至尊ノ玉体ヨリ 御冠服ニ至ル迄西洋ノ方法 御採用

御変製御座候得共、彼レノ国風上下礼節無之醜風ハ、速カニ復古 御改正被遊、随而一般従前ノ官服・礼服

相用候様 御布令有之度奉存候、就テハ海陸軍ヲ除クノ外、渾ヘテ洋服・帽子 御禁断、便利ナル毛織雨衣

靴ノ類ハ用捨随意タルヘキ欵、椅子ハ洋人応接ノ時ノミ相用可然トモ奉存候、

一 四民上下混雜無之様、華士族惣髮、農商半髮、勿論斬

髮制禁被 仰出候様奉存候、

一 華士族共、平常外出大小帯刀、襠高袴着用、平民襠高

袴禁止、平袴着用勝手タルヘキ旨 御布告有之様奉存候、

一 華士族平民、其分限ヲ越ヘ縁組制禁、尤女子ノ嫁姫ハ其次第二ヨリ許容然ルヘキカ共奉存候、

一 華士族ノ外乗馬禁止ノ様奉存候、

一 平民馬車ニ乗候事制禁、尤華士族同車ニ候ヘハ不苦共奉存候、

一 華族ハ、太政官ノ御支配ニ御改正有之候様奉存候、

一 士族商業免許ニ付、公然ト諸商売相営ミ候者数多有之、上下混同、士風ヲ乱シ候間、商業得意望願ノ者ヘハ本

資金給リ家禄返上、平民籍ニ加入被 仰付、又士分願ノ者ハ商売廃業可致旨被 仰出候様奉存候、

一 今般禄高奉還願候者、身分ハ無禄ノ士族ト心得居候共、無高ニテ農商ノ業体ヲナス、活計相立候理無之、不

都合ノ次第ニ付何レモ農商ノ内ヘ入籍致スヘク 御布令有之候様奉存候、

一 府県共学校御取建ニ相成候ハ最モ美事トハ乍申西洋ノ

学則ニ倣ヒ、幼稚ノ男女ニ人倫ノ根元タル忠孝節義ノ道ヲモ教ヘス、品物ノ名称・世界ノ形勢・究理ノ説等ヲ専務ニ主張シ教育ナス事、彼レノ利ニ走ル弊風ヲ学フ階梯ト可相成ニ付、学則御变革、聖賢ノ書ヨリ礼義ノ道ヲ教導致シ、順序ニ随ヒ、末ニハ窮理ノ説ニモ至リ候様 御改正可有之奉存候、

一法律ヲ省キ、刑罰ヲ寛フシ、治獄ヲ廃スル時ハ太平ノ風興ル共申候処、外国ニ倣ヒ漸々司法盛大ニ相成、法律多端、万事御変制ノ内、贖罪ノ法ハ貧福利ヲ異ニシテ法一ナラス、万民心服不仕、又訴状答書共書記料御取上ケニ相成事、乍恐賤劣ノ儀、御改正苛ヲ為サ、ル寛、繁碎ヲ為サ、ル簡ヲ御採用可有之奉存候、

一近年租税金納ニ相成候ニ付、愚民ハ金ヲ得ルヲ専務ト心得、稼穡ノ道ニ怠リ、奸利ニノミ走り、自然田畑荒蕪ニ至リ、宿積無之故、荒年ニハ必ス饑寒ヲ免カレス、将タ勸農ノ道ノ障礙トモ相成候間、従前ノ通一般米納被 仰付候様奉存候、

一大陰曆ヲハ万民ノ情願ニ随ヒ、大陰曆ニ御復古御座候様奉存候、

一大陰曆御採用ノ後ハ、五節句従前ノ通可被 仰出、就テハ諸官省其他、日曜日ニ模擬スル一六休暇ハ御廃シニ相成、五節句終日、朔望午後半日休暇可然欵、勿論暑中休暇ヲ給リ候儀等ハ有之間舖事共奉存候、尤海陸軍身体ヲ勞シ候分ハ、一般ノ例共相違有之可然欵共奉存候、

一時計ニ随ヒ、昼夜平等ニ時鐘ヲ報シ候ハ、琴地ニ膠スル譬ヘニ近ク、四時昼夜長短ヲ不論活用無之儀ニ付、前々ノ通御回復之様奉存候、

一近來貸金ノ儀ニ付高利ノ分ハ少シモ御構ヒ無之、返済遲滞金主出訴ノ節ハ返金并ニ入費差出ス様嚴重ニ命セラレ、身代限リニ相成者数多有之候、借主違約返金不致ハ落途ニ候得共、困窮ノ族ヲ高利借財ノ為メニ産業ヲ破リ、妻子離散ニ及ヒ候ハ愍然ノ次第、就テハ高利御制禁一ヶ月二十五金ニ付壹分利金ノ余ハ公訴御採用

無之、且前利礼金ハ兼而御禁止ノ所、当節専ラ行ハレ候ニ付右違令ノ分ハ公裁ニ不相成、相对実意ヲ以テ濟方致シ候様敵誦被 仰出候時ニハ、巨万ノ貧民御救助急ニ周ネキ 御仁慈ニ可有之、亦心得違ノ者外国人ヨリ借財、他邦ヘ無益ノ利金差遣ス防キ共可相成奉存候、

一御一新以来、貫属幼年ノ者、小舍人并ニ給仕等ニ召仕ハレ、窮迫ノ者ニ於テ難有御仁恵ニ有之候、併少年ノ者繁勤ニ付文筆其他芸術修行ノ暇無之、休日ニハ多分遊戯ノ所業ニ日ヲ送り、且ツ己レニ給ル俸金有之ニ付父母ノ訓誡ヲモ不用、自由ニ散財ナシ、成長ノ後必ス無能放蕩ノ者ニ可相成、右等ノ遠慮有之、父母ハ奉職ヲ願ハス候得共、凡俗ハ一時活計ノ助ケニ相成故、勤仕ヲ願ヒ、其子ノ終身ヲ過マツニ至ルヘキ儀ニ付、向後旧幕府坊主ニ齊シク、貫属ノ内年輩ノ者御召仕可然奉存候、

一旧幕府ノ節ヨリ国益ト称ヘ、新規ノ儀ヲ建白シ、税ヲ増スヲ功業トナシ来リ、当節ニ至リ倍々盛ニ相成、万

民ノ患害ヲ不厭、一時ノ利ヲ御国益ト申立、就テハ其事件取扱ノ宦ニ進ム事ヲ願ヒ民心離散ノ後患ヲ不願類ヒ数多有之候ニ付、諸省属部ノ内微細御探索ヲ遂サセラレ、有益ノ事ノミ御採用有之候様奉存候、

一太政官并ニ諸省府県ニ至ル迄、有名無実ノ官員多分ニ有之、其才力ニ当ラサル過分ノ月俸給り候ニ付、遊蕩奢侈ニ無益ノ散財ヲナシ、不正ノ行状有之故、衆人ノ嘲リヲ受、乍恐終ニハ 政府ノ不明ヲ誹謗致シ候間、一層人才御精選、諸宦省属部一課ニ付長タル者一名、或ハ二名、其他ハ下等ノ月給ニテ奉職被 仰付候様奉存候、

一小禄困窮ノ士族、四季ノ給り物年尾一季ニ御変革ニ付難渋ノ者不少、市井商業迄衰微、細民一般苦情ヲ述、漸々盜賊多分ニ相成候ニ付、速カニ御回復是迄之通四度ニ禄高給り候様奉存候、

一近来裸体ハ申スニ不及、短カキ衣服ニテ手足ヲ顯シ候迄モ罰金ノ御沙汰有之ニ付、卑賤力ヲ業サヲ家業ト致



シ候者、炎暑ノ節困難苦情ヲ述へ、夫レカ為ニ十分ノ  
職業致シ兼、又ハ病発ノ者モ有之、愍然ノ儀ニ付居室  
ノ内道路共陰部ヲ覆フノ外、衣服ノ類少シク身ヲ纏ヒ  
候へハ違式ノ罰ニ所セラレマシキ旨、御仁慈ノ御布  
告有之度奉存候、

一 今般邏卒町兵共巡查ニ御変換、等級ニヨリ屯所ノ外ニ  
借宅居住、是迄禁止ノ酒御免シニ相成候ニ付、酔興遊  
惰行状不正、職務ニ怠ル族不少、宿料民費ノ憂モ有之  
旁以不可然儀、速カニ従前ノ通タルヘク、将タ輕便ノ  
様ニハ候得共、洋服目印等有之ニ付一目瞭然、昼夜共  
奸徒不良ノ者、其行過キ候ヲ見テ惡業働キ候ニ付、多  
分ハ其期ニ後レ候、元來昼ハ頻リニ勉強、巡邏ニ不及  
休息致シ居、夜中ヲ緊要トシテ、平服目立サル様忍ヒ  
廻リ候方実功ヲ可奏ニ付、御改正ノ様奉存候、  
一 租税ヲ薄フスルハ聖代仁政ノ基礎ニ付、先般被 仰出  
候禄税并ニ証券印紙ヲ始メ、微細ニ御穿鑿可相成丈ケ  
御廢シ御減シニ相成、万民御仁恵ヲ奉戴仕候様奉存候、

就テハ急務ニ非ル建築營繕等、惣テ休業、亦有名無実  
ニ齊シキ宦員ハ免職、且一般ノ月給ヲ減シ、万事儉素  
ニ被為成候ハ、省税ノ儀モ困難ニ有之間舖ト奉存候、  
一 封建ハ帝王天理ニ順ヒ天心ヲ承ケ、天下ノ大端大本ヲ  
公ニシ、根本有之故ニ上下弁シ、民志定リ、風俗美ニ  
シテ治メ安ク乱レ難シ共申シ候ニ付、不容易儀ニハ候  
得共万民ノ冀フニ任セ、旧幕府ノ弊風ハ御改革、封建  
ノ御政典ニ御回復御座候様奉存候、

冊子原寸 縦二七・五釐 横一九・二釐 八枚

三矣 齊藤貞藏(簡) ヨリ久光公へ 詩二十首

二二六六ノ一

(包紙ウツ書)  
一奉呈詩二首并引

齊藤簡

九拜

奉呈

島津二位公閣下詩二首并引

頃日窃聞衆多之臣中或眩惑当世誤認国是却不想悖戾、

閣下之建言為洋夷之属国如掛鏡之真意凡為虚偽不堪深憂

之至也、因請希若左右亦有是当世之臣僚則簡愚窃与其

人面論曲論以欲剖判

閣下生涯之尽忠赤精与当今之買国不忠幾多之臣民明知遵

奉国是一途鼎重社稷而不目視当跡之姦滑耳

旧国東京雖異居 正論何別建言書

若憚当世非愆是 赫々誠忠総贖虚

又

皇統憂<sup>(感)</sup>警社稷臣 邦疲從事滑姦紳

膏将人爵思

朝政 盍計權衡買国真

齊藤簡

九拜

文書原寸 縦二〇・七種 包紙原寸 縦 二七種

横四八・五種 横三二・二種

二一六六ノ二

(包紙ウツ書)  
上

齊藤貞藏

再拜

〔朱〕

千年快復悉

君為 此言太陷君不知

或是君輕社稷重 夫当今世捨

君誰 右

恭奉呈

三位公之左右并引且引者議詮重層劣文冗意數十行如今略

之胡渡鳴欲供

電眼耳

(朱) 齊藤簡謹稿  
□□再拜

文書原寸 縦二〇・五種 横三六・八種

〔朱〕

累卵

皇邦存滅関 挽回幸有望西寰

来期聞近怡難寐 屈指堪遲一日間 右

奉胆望

三位公出京并引

客冬十一月、旧薩藩之名士和田某者有建言之事来于

東京親聞見廟堂一般之洋溺悉皆土棄論滅

先皇之德行法言法服加之時行洋朔他総無不洋法驚愕慨歎

言於使德憑

三位公出京一月間必發程矣、西帰後殆其明鑒簡有疾不

堪出行令友人石沢氏探索其風采云、当月下旬来月上

旬之發程然前隊已着到于浪華且東京中借因州旧邸外

一邸宮繕焉、其怡不可堪言也、回賦一詩遺想耳、

棠陰老樵齊藤簡拜稿

〔米〕  
□ □

文書原寸 縦一〇・五種 横三三・三種

七十余齡趙老臣 從容自薦外功新

提要心事專住久 滿腹衆揚冠絶人 右

賛趙充国

文書原寸 縦一〇・五種 横九・六種

客年心疾這年眩 皇国傾亡遮眼前

策溢多方恢復道 無人爵故殆狂顛 右

病臥瀨意

文書原寸 縦一〇・五種 包紙原寸 縦二四・八種

横 八・三種 横 一七・三種

二二六六ノ三

〔包紙ウツ書〕  
「奉賀燕詩」

齊藤簡九拜

〔米〕  
□ □

飛龍一自上京天 々下風雲剪後先

善政仰高千緒美 謹窺雀躍抃群賢 右

奉賀

從二位公昇于台閣

齊藤簡九拜



文書原寸 縦一五・三種 横二一・七種

包紙原寸 縦二・五種 横一八・三種

二一六六ノ四

「<sup>(包紙ウラ書)</sup>上」

老脚購奉謁浜第 將窺大政挽回機

欲維朽索千斤力 当世捨

君還有誰

又

后土昊天近莫神 招

君再恐汚紅塵

休言官爵非攸覓 既說孔聖待倆人

右

從二位公再令 勅使召之聞即到焉、因謁其邸奉呈之其左

右

齊藤簡九拜

文書原寸 縦一五・五種 横二六・五種

未遇謝安出濟時 蒼生何日展愁眉

貪狼爭走城門路 鸞鳥或棲庭樹枝

前代衣冠空傲棄 旧都桜橋就傷萎

此間莫遂煙霞志 泰斗儼然人所推

謹上

支城老公閣下 新宮簡稽首再拜

文書原寸 縦二・八種 包紙原寸 縦二八・三種

横二・八種 横二〇・三種

二一六六ノ五

「<sup>(包紙ウラ書)</sup>上」

閣下

齊藤簡

再拜」

在職難行辭職倍 忠雄前建衆呼快

坐視

邦滅喰言邇 一怒蓋清

君側哉

其二

休憂匱国力強兵 孟軻非災正義明

十數賢俊扶

閣下 將傾大厦不堪擊

孟軻曰、城郭不全兵甲不多非国之災也、田野不辟貨

財不聚非国之害也、上無礼下無学云々亡無日、

其三

欲治敵政秀賢期

閣下仁忠天地知

高氏九州(地)蚤報恨

祖公小島速輝威

能推不忍之怒意 大牧不忍之愛思

如是四民担子至 矣(俟)須兵力動旌旗

其四

雖時難止動旌旗 奸賊攘除

皇統丕

真政能強安外内 明公忠国施無涯

其五

仁慈天爵宁朝堂 忠厚九人但輔相

殊有旧藩俊哲夥 無為垂拱息蒼生

右恭

奉于

島津二位公

閣下

齊藤簡謹呈

再拜

文書原寸 縦二・三程 横九六程

公登人爵兼天爵

皇国寰中無二身

子賦簡愚小天爵 忠腸治道不讓人

又

弊事滿眸建白多 不庸不詰莫如何

閣下辞表將西去 一謁無慚辱喝呵

奉呈

齊藤簡  
九拜

左相公

閣下

文書原寸 縦二・五種 横四七種

数千万債勿堪贖 兆億民困蘇息明

自恥王佐天爵小 知懲陷落舌頭耕 右

自遣

齊藤簡拝稿

文書原寸 縦二・五種 横一五・五種

王佐忠勇静恭徵 何係警庁審問憎

敝政妬嫌連累就 暫嗟

閣下欠股肱

右

嗟拘止中山子干警視庁兼奉想像

閣下之憐矜

齊藤簡謹呈  
再拜

文書原寸 縦二・五種 横二九・六種

建言君道得心艱 却在苟且茶飯間

導入輕々賢至域 丁寧反覆匹嫌頑 右

書

聖主薰陶建言書之後而欲使左右

誦 奏者不鑒忌其反覆煩文于

齊藤簡  
再按

文書原寸 縦一〇・八種 包紙原寸 縦 二七種

横 二七種 横三七・五種

三卷 伊藤博文ヨリ三条相国へ

明日猿江へ御供可申上義、一応懸合見候処、別紙之通ニ

返答仕候ニ付明日之処ハ御延引奉願置度、却而御不興にてハ不都合ニ付四五日相過候上、尚亦可申上候、御一覽濟此假<sup>(利通)</sup>大久保卿へ御廻奉願上候、同氏も朝之内なれハ御同伴之つもりと過刻申参候、此段申上添候、拜具、

一月一日

三条公閣下

伊藤博文

文書原寸 縦一八・二種 横六五・五種

三六 山階宮晃親王より島津久光公へ

年賀状

〔封紙ウツ書〕  
「島津二位様

玉案下

晃

フ

〔墨引〕  
二

春寒熾盛折角御自愛奉祈入候也、

新春之瑞氣不可有際限、益御安全御超歳奉大賀候、晃無事乍憚御放念可被下候、抑此二品粗納と失敬恐縮仕候へ

共、如吉例年玉之印迄ニ進上仕候、御笑納被下候ハ、畏入奉存候、尚期永之時候、以上、  
敬白、

一月四日

文書原寸 縦一七種 横四九・三種

三六 伊東長辭ヨリ島津久光公へ

年賀状

〔封筒〕  
「島津久光卿

閣下

伊東長辭

〔封筒ウラ〕  
フ

〔封紙ウツ書〕  
「拝呈」

新年之御慶都鄙一樣芽出度申取候、先以倍御機嫌能可成御超歳珍重御儀奉賀候、弊家無異伏旧頑健罷在候間、乍憚

御休意冀候、昨鳥ハ不存寄御使千田政秀子被遣御年賀被仰下奉拜謝候、早々参上賀詞可申上処、所勞有之、

朝拜不參仕候次第、右故向上仕候も延引可仕、誠以恐入候間、乍大略先以書中年賀謹て申上候、右ニ付不腆之至ニ候得共、忝種御文具之内ト被為加下候得は、本懐之至と呈晋仕候ニ付、御莞存冀候、不日全癒次第參上可仕候條、其節を相期閣筆仕候也、

一月四日

長辭

謹言、

久光公台下

文書原寸

縦一四・四種

封筒原寸

縦一四・四種

横六一・二種

横 四・八種

三吉 在京川畑伊右衛門ヨリ山田宗一郎へ

久光公帰国ノ件

(包紙ウラ書)

山田宗一郎殿

川畑伊右衛門

平靜

○(愚)

鹿兒島県ニ而自東京

┌

早々起筆御用恐入申候へとも懐しく貴君之御噂折々申上度計り御座候も忌諱之文面も御座候、御読之後ハ火中奉願候、

新年之御祝儀申上候、爾来不得貴意候処、弥御壯健ニ而被成御超歳御座御目出度御儀奉存候、次ニ私ニも旧冬十一月十八日京出仕今迄嘗沼御分邸御長屋へ罷居申候間、<sup>(カ)</sup>恐惶御禰念所仰也、御立前ニは参礼仕候処、種々之預御地走其上御高談承り難有奉存深々奉厚謝候、然は、<sup>(留)</sup>從二位様御事も益御機嫌能被遊御滯立恐悦之至奉存候、

然処去十二月廿五日式部寮より御用召ニ而御参内被遊候処、内閣顧問御拜命ニ而御結構成御儀奉存御祝儀奉申上候得共、同年御評議節参議被仰付、昨日迄ニ而譬而申サハ右大臣之次内大臣之場ニハ相当り候得は、天下内外之御政事要路御關係之御職掌とも不被相伺、依之公を初邸中一統天下有志輩中之心ニ落す朝官之姦謀不屈千万と奮激ニ堪す、不平之心ヲ抱き居申候ハ、尚是迄之間公之御心ヲ受、邸中一統之吟味も御座候、いつ迄御滯京被



遊候而も埒外故、世上兎角此上ハ御病氣御願立御帰巢被遊候より外ニ手段も有御座間敷と恐察仕計御座候、不遠内正姦曲直之勝負も相分り可申候付、私共ニも御帰巢之御供と決心仕居申候間、御待居可被下候、此三日方ニハ板垣・西郷一味同心之徒党大挙して上京、朝鮮征討拒絶之姦徒ヲ除とやらの風評専有之、暴ヲ以暴ニかへ奸ヲ以奸ヲ払ふ之國賊ともから伸之天下擾乱ハ疑ひなく誠ニ苦々敷世の中ニ御座候、此節楠公・孔明の如キ賢明之從二位公ヲ撰政要路之場へ

御登庸有之は板垣・西郷之奸物も眼ヲ覚して屈伏、天下も無事ニ相治リ可申候得は、岩倉卿ヲ初參議辺大久保なとも誠ニ至愚なる計ニ而、小智ニ明く大智ニ暗くとやらニ而狐仕候も妖が頭れ尾が見得而雲ヲ見すバ濟ましと相考申次第、東京之形勢御遥察可被下候、当月十日過キハ何分相分り可申候付、追々此一左右可申者御待居可被下候、若哉其内天下之柄權ヲ御握リ被遊候御重職ともへ御転官候ハ、必ス／＼先生ニも御上京御進可申上候、此節

野村新八殿帰巢被致候付、巨細御聞取可被下候、何斗も埒不明ザル世之中歎息慷慨、三志輩中之腸、天心も知り玉ハザルヤト天を怨ミ人ヲ怨ミ罷在計ニ御座候、先は此之段、且御厚礼御為可申上一筆如斯御座候、恐惶謹言、

戊一月五日

川畑伊右衛門

篤行

山田宗一郎様

文書原寸 縦一六〇 包紙原寸 縦一九・五〇

横二九〇

横二六・五〇

三七 城井寿章ヨリ久光公へノ建白

公ノ進退ニ就テ

蜜々奉言上鄙策

前日 内閣顧問ニ被為任候而より天下の人々一同に抃喜して、大旱ニ雨を得、疾病の者の医ニ逢て再び蘇息する心地して、商は市ニ賀し、農ハ野に慶べり、就而ハ兼而御建言の件々も日ならず御施行ニ可相成とは奉存候へ共、

客春以来今日まで一事も 御採用ニ相成しを見ざれば、是亦窃ニ疑惑せざるを得ず、今般 内閣江御出仕被遊候上は、猶又再三被仰立候而、一日も早く 御施行ニ相成候様懇願冀望し奉る所ニ御座候、然りと雖とも其先著之急務は、正姦を弁別して之れを黜陟淘汰するを以て、著手の始とする儀ハ去夏中より兼而言上し奉る所にて、孔子の魯国ニ在而相事を撰行す也、七日にして正少卯を誅せしハ万世為政ものゝ龜鑑と奉存候、自古君子小人ハ兩立せざるものにて一君子進めば群小随て貶黜せられ、一小人進めば衆賢また讒擠せらるゝ事は勢の必ず至る所に於て、今日 閣下 朝に被為進候ハ、群小を掃除被遊候ハすバ必ず群小の 閣下を擠陥する事、亦是れ必然の勢也、今章謹而三策を画して採択に備ふ、

一姦淫と窃盜とは人の醜行也、之れを犯すものと雖とも其本心には醜とし愧る所也、一人之れを許而衆人広坐の間に於て面責せば、誰か赧然として顔色を失はざらん、廟堂に坐して大政を執るもの大姦巨猾といへとも、

其姦惡を許て面責せば必ず赧々然として慙愧すべし、今日当路大臣執政の醜行は姦淫窃盜に過る万々なり、其君を欺き国を売り、私利を營む罪状を許て、是れを御前に於て面責し、直に 奏聞して其罪を正し官位を削去らば、彼れ必ず恐懼失措すべし、若し其罪に承服せば死一等を減するも可也、若又承服せざれば、兼而兵を備へ置きて即時に誅戮を加べし、是れ昔者大織冠藤公の逆臣蘇我氏を誅せし先例も有之候へば、今日宜敷其故智を襲用すべし、是れを第一の上策とす、

一御恭謙遜讓を旨として、擅ニ兵器を宮中に備る事を嫌ハせるとも、天下の治らざる所以と人心の服さざる所以とハ、群小の国を售り君を欺きしニ由る所以とを懇々反覆縷述し、万一も

皇上覚悟し給ふ事も被為在候ハ、天下国家の大幸之れに過ざるなり、若又 御許容不被為在候時ハ断然と閣下を辞して、

朝命の反覆して適従する所を知らず、天下の人々方向

に迷はざるはなし、是畢竟当路の姦耶(邪)の

宸衷を矯るニ出るを以てなり、是故に以来は

朝命といへとも、一々遵奉しかたき所以を分疏して故

山ニ被為 帰候而、広く天下の名士を召募し、時を待

ち変を窺ひ、其罪惡の長ずる日ニ及んで之れを図るを

第二の中策とす、

一既ニ顧問ニ被為任候上ハ、君側ニ侍従して可否を献

替し、国事を賛成して鞠躬尽瘁で、万一の治平を庶幾

し、言の聴れず諫の用へられざるを待て辞闕掛冠(決)を第

三の下策とす、

右上策断然と 御賢慮を被為決候ハ、批政を改革し類

勢を挽回する事、掌を反が如クにて、陥溺之赤子再び蘇

息を得て、宗廟社稷も亦富山より安かるべし、果して

如此ならば、閣下之功烈偉業ハ彼の藤大織冠と美を千

古の上に媲と謂べし、寿章時事の孔棘を傍觀坐視するニ

忍びず、又々 釣敵を干瀆して恐懼戰慄の至リニ堪ざる

なり、死罪死罪、

甲戌一月初六

城井寿章頓首百拝

謹上

島津従二位公

閣下

冊子原寸 縦一八・三釐 横一三・二釐 六枚

三三三 伊達宗城卿より島津久光公へ

内閣顧問ノ拜命ヲ賀ス

「封紙ウツ書」

大簡大兄閣下

辱弟 弄籤

(朱「誠」)

①

「

拜啓愈御安全重齡奉賀候、陳は旧冬ハ以特

勅内閣顧問被蒙

仰、雀躍之至、至忠無比之閣下甚乍御苦勞、非常御尽力

ヲ以御補救候得は、朝野之幸甚此事ニ御座候条、懇ニ合

掌仕候、且其後は御契關申上候ニ付、九日十日之内御都

合可然日時被仰下候ハ、如例春嶽兄百拜趨尚心緒及縷  
述御一報可被下候、頓首、

一月初七

二伸、此雁過ル四日夕悴小松何辺にて打留候故、ふ  
るく候得共貢座下候、猶御聞留幸甚御座候也、

文書原寸 縦一七・三釐 横五二・八釐

〇三五 久光公辞職願

三条太政大臣ヨリ不許可ノ指令

三書 久光公辞職願書

去年十二月内閣顧問拜任被

仰付、別而難有仕合奉存、折角勉強精勤仕合御座候得共、  
從來愚昧頑固、且積年之病体逆モ存通相整不申、恐縮至  
極奉存候、依之何卒此涯免職被

仰付候様御執奏被成下度奉伏願候、誠恐敬白、

戌一月

文書原寸 縦一六・九釐 横二八釐

三五 小松濟治?ヨリ大久保利通へ?

再任官依頼

換舌

鄙翰奉謹啓候、時氣先以御満堂様愈御清穆可被為在奉謹  
賀候、其後ハ兎角拜趨モ不仕、実ハ閣下ニハ必公私御執  
掌、反テ御妨ト御遠慮仕リ、又ハ小生も連和勝ニテ旁午  
不本意御疎音ニ相至候次第、此段不惡御汲取被成降置度  
奉禱上候、扱痴情云々煩シクナル事奉申上、高聴ヲ穢候  
も如何ニモ恐入奉存候へ共、内情一通陳述仕候条、宜御  
垂憐被成下置度と御願候、則小生も当八日免職被仰渡、  
右ハ外務省中此せつ非常多夥之官員充チテ、何ザシ小生  
輩の苟モ奉務仕候様の明キナク、必竟右省江右様多員之  
官員必用トモ不存申候へは、官祿ノ為メ只尸衣素餐ニ名  
ヲ蒙候ハ甚遺憾ニ存シ、既二十一年中辞表ニテモ差出可

私儀

申乎ト存シ、一寸上野君マテ辭職仕度内話仕候<sup>(程度)</sup>停登御座候へ共、兼テ覚悟仕居候事ニ御座候、然ルニ段々友人等懇々説得致呉候ニハ、一昨年来外国御用御供仕候人々悉く帰朝来昇級転爵、各奉職被致居候ニ小生計リ只ニ昇級セザル而已ナラズ、独り免官候ハ必ス何ソ不容易次第有之事ト区々世評も多く、随テ自ラ身柄外見ニモ閑係致候間、是非何ント乎再勤之工風ト頻ニ申囁呉候、乍去小生性来己ノ節ヲ屈シ、色々他人ニ頼ル杯ハ何分得為シ兼、所謂世渡ニ拙キ者、別ケテ昇級転爵杯ノコトハ尚更ノコト也ト、敢テ独リ旧任ニ在ルヲ不平ナガラモ謹テ為國家勉励仕候積ニテ其辺ハ黙々打過居申候、然シ退テ考フル、元より各為國家十分力ヲ尽、今日之恩沢ニ酬候精神ハ人トシテ当然之事ニ御座候へ共、敢テ節ヲ高スル様ニテ御採用不被下候へハ仕方もなしトテ空く日月ヲ消却仕候場合ニハ決して有之間敷ト氣付、且ハ世間ニ噂も有之通り、何ざし不容易罪科ヲ犯候事ハ天地ニ誓ヒ決して覚無之、若シクハ帰朝後事務局出任奉命いたし、局長ト少々見込

相違之簾アツテ、其実ハ例の癖之不平もあり、殊ニハ兎角不快勝故勿々不勤罷かへり、夫故或ハ懶惰之簾ヲ被責候乎ト私ニ考居申候ノミ、実ハ先月中辭表ヲ差上候ト奉案迄仕候へ共、何ニカ政府江奉對、恐多くも大ナル不平にもある乎、但しハ軍官ヲ惡ミ、時之流行ニテ辭表ニテモ出シ、世上英傑ノ真似ニテモ仕候様ニテ、左も咲止千<sup>(笑)</sup>万故、態ト見合申候段ニ御座候、就テハ何卒小生微衷篤と御垂憐被成下、何トナク御使役被成下度、一昨年来日夜左右ニ御眷顧ヲ蒙居候へハ、小生之天賦も粗御察知被下置候半、相当之場処江ハ充テ被下置候ハ、実ニ世間江之面目、且ハ平生之素志モ貫キ、誠ニ難有仕合ニ奉存候、然ル上ハ是迄之懶惰ヲ悔ミ候テノコトニテ簡様ニ申上候事ナレハ、乍慮外閣下之御名望ニ閑係仕候様之過失ハ決して仕らぬ様十分謹慎ヲ加ヒ、粉骨勉強仕度所存ニ御座候条、第一応御見捨なく御救助之段呉々も御依頼申上候、かく申上ニクキ事ヲ遮テ厚顔ニ申上候モ、必竟平生之御眷愛ヲ甘候次第ニテ慙愧オモ忍ヒ縷々申上候ハ、

小生胸中如何是以御憫察被成下度、元より心緒万端筆舌ニ難尽事ニ候、只一通ノミ申上候事に御座候、再拜稽首、

第一月十五日認

小松濟治  
謹白

御一覽被成下候ハ、御投火被成下度、是又奉願上候、

文書原寸 縦一六・二釐 横一七八・五釐

### 三六 西郷隆盛ノ動靜探索

營所失火其他ノ件

当所ノ時情巷説ヲ以テ申上ルハ甚タ疑念ヲ生シ、却テ惑トナランコト必然ナレトモ、一々確証ヲ得テ後ニ申上ンハ却テ亦迂遠ナリ、故ニ承得タルヲ貴君方迄表呈ス、依テ何卒御推覧ヲ仰望ス、

一 營所失火ノ根由ハ不相分、然レトモ専ラ差火ナリトキク、右ノ失火前方ニモ兩度程火ノ起リタルヲ、其節ハ取消、亦其後去十二月七日ノ火ハ營所ノ者共スハヤ火起レリトテ飛出タルニ、早五ヶ所程火口有シ由、最同所格護金五万円位紛失セリトキク、

一 右ノ火起ルヤ否ヤ、兵卒共上ヲ下ヘト狼狽シ、或ハ銃ヲ携へ、或ハケツトヲ握リ、消方ハ捨置身構シテ右往左往ニ逃去、途中ニテ右ノ容子ヲ見テ、老骨亦激徒ハ或ハ罾リ、或ハ打擲シタル者モアリシニ、一言モイハスシテ早足ニ其場ヲ遁レ、実ニ頼可カラサル兵卒纒失火ニサヘ如此シ、況ヤ非常ノ時ニ於テヤ、此事ヲ以テ実場ノ用ニ不立コト鏡面ニ向フ如シ、

一 失火ノ翌日隊ヲ解、或ハ長官ノ者ハ免職セリト東京ニテハ聞及リ、然レトモ全ク左ニハ非ス、隊ハ屯所トスヘキ所モ差当ナキニヨリ一往開隊セリ、依テ只今ニテモ引上ノ節ハ直ニ相図ルノ由、長官ノ者ハ辞表ヲ出シ、在宿シテ御採用ヲ相待居ル由、最右ノ内ニハ当夜韓論輩ヨリ大ニ恥ンメラレタル者モ有シト聞、

一 失火ノ節ハ西郷直ニ 山下御邸ニ參拜セリト、是則人氣ヲトルノ策ナラン、

一 旧御木屋場跡エ一往風土記取調方相立居タルニ当分廃止ニテ、右ノ所エ此節韓論輩学校取立ノ由、當時營繕

相掛修甫中ナリ、最學校ノ資本ハ西郷初ノ賞典禄ノ内ヲ以テ相立、右ヲ惣括スル者ハ桐野・篠原兩人ナリトキク、然レトモ名ヲ学校ニシテ実ハ彼等ノ會議所トノ説アリ、

一十二月十四日比、桐野・篠原初軍曹以上三拾人余集會、盟約血判シタル由、西郷ハ不加トキク、

一西郷ハ右輩ノ集會等エモ陽ニハ關係セサル姿ナリ、然レトモ陰ニハ如何トモ不分明、

一西郷帰京ノ節、横浜ニ於テ板垣ト面會セシ由、然レトモ對話ノ声ナシ、故ニ不審ニ存シ、或諸生トヤラ茶煙草盆ノ用ニ事ヨセ風と右ノ座エ出シニ、双方矢立ヲ出シ筆談中ナリ、後ニ紙ヲ焼ノ匂アリ、故ニ談判済ノ上、終ニ焼捨タルナラン、機密ノ事ナルヘシ、

一土州ヨリ軍務エ出頭ノ旧三官ノ内、北村・吉村・岩崎名字ノ者、十二月十一日比当所旅人問屋エ相着、翌日桐野信作所相尋外出、夫ヨリ問屋エハ三日程止泊シテ同所相立、桐野所エ暫時滞在為致哉ニ聞及リ、

一土州板垣并品川某外ニ三名位同伴、近日着京ノ賦ノ由、其由縁ハ不知レトモ、韓論輩ヨリ伝聞ノ事ナレハ余事ニアラサル歟、

一貳百五拾人ノ連中モ紛々ニシテ殆ト三四ニ分レタル形、然トモ右ノ名目ハ顯然タリ、此ケ条ノ続ハ追々細詳後便ニ報知セン、

右は昨今見聞ノ次第ナリ、追々搜索中ナレトモ韓論輩ニ於テハ多端ニ關係シテ事ニ練レタル者共ナレハ容易ニ実ヲ得カタク、兼テ人エ接シ候モ謹慎ヲ先トシテ猥ニ言ヲ放タス、故ニ疎暴ノ挙動全クナシ、是畢竟大事ヲ懷テ事ナラン、其他追々可申上也、  
戊一月十七日

冊子原寸 縦二四・七釐 横一六・八釐 三枚

三三七 東京府権大属大伴兼武ヨリ左院ヘノ建白

岩倉右大臣遭難後ノ施政方針ニ付

(表紙) 「右大臣殿遭難ニ付建白」

右大臣殿御遭難ニ付建白

御一新以来言路御洞開遺賢無漏百事御諮問、開化日進之御政道実に奉敬服候、卑職共において何共可奉申上御失体ハ無之ニ付、是迄鉗口罷在候処、去ル十四日夕右大臣殿車駕に狼藉いたし候者有之、深被為触

宸怒御趣拜承仕、驚愕之至に勝不申候、右等ハ古今衰世之末路ニ有之候事にて、かゝる隆運勃興之御治世ニは決シテ有間敷事に奉存候、右大臣殿只御一人之御恥辱のみならず、被為対外国候而も不容易御国辱と可申坎、実ニ以奉恐入候、側カに聞く、旧年ハ於廟堂朝鮮国御処置之儀ニ付、彼是異論を生し、参議職四五輩免職に相成候由、夫朝鮮事件ハ国家之一大重件、参議ハ

朝廷之大重職、其御処分方并に免職之儀、素より不一方事に御座候得は、左右ハ勿論尽ク是を遠邇に謀り、又是(付箋)大意可然候、惟一時を士民に問ひ、和議共同之上にて、夫々御所決可然事に

委之爾等ニ可有之可有御座哉、然るに一時於其席可否御決定参議免職被仰出候而は、乍恐

聖上ハ未だ御若年に被為渡候は事の決議ハ偏に右大臣殿御専断之様風評仕候、右事件而已ならず、御政道之得失を議する者都而怨嗟を右大臣殿に期候儀ハ、全右大臣殿御一人之御処分ニは有之間敷候得共、御政道未だ十分之御行届にも至り兼、百事御欠典勝より上下否塞ヲ生し、不測の災を醸候事に立至候事と被察申候、猶又此上深く御勘考無之候而は、遂に共化政治を醸し、無持(勿)体も三千年之

神器を蔑如仕候族有之間敷と難申、右ニ付爾後之処ハ前文申上候通、事の大ハ尽ク是を遠邇に謀り、又是を士民に問ひ、言可者多則行之、言不可者多則止之、是非善悪共に天下と共に謀之、黜陟賞罰又天下と共に決之(に脱カ)、天下と共に動き、天下と共に静り、天下と共に進み、天下と共に御退被遊候ハ、誰か一人を怨み可申坎、又誰カ廟謀を誇り可申坎、且又於日本橋辺古人之非誇木に倣ひ、非誇



(頭注ニテアリ)「集議院にてハ事員ノマツ」に相渡り、出訴人之不并理に可有之候  
局御取設被成、苟も怨嗟ある者ハ直様同局へ罷出、御訴  
問、非謗局之方可然哉、尤日々太政官大属之類ニ人位ツ、受付として出張有之度事」  
申候様仕度、於レ官司法省大議官立会ニテ言者之情実御

太政官  
御詰合中



洞察有之、仮令何様不当之愚論を申出候而も丁寧に御論  
解有之、民情安堵いたし候様御按撫被遊、又一人の官員

当府権大属大伴兼武別冊之通建白いたし度旨申出候間、  
任其意御廻申上候也、

を怨み候者有之節ハ、大政大臣より十五等迄、右之手続  
を以怨人被怨人対決被致、集議之上是非共御定め、夫々

一月十五日 東京府知事大久保一翁印  
左院御中

御処分被為在候半ハ、士民共愉快に奉存、今般之様狼藉  
抔いたし候族ハ、万一ニも有御座間敷哉、伏願クハ、

冊子原寸 縦三〇種 横二二種 六枚

聖上御年せめて三十二被為成候迄之処、猶更御勘考有之、

三六 堤右京大夫ヨリ島津中将公へ

百事御共議御決定被為在候様仕度、只大臣御一人ニテ天  
下之怨嗟を御惹キ被成候様之事無之候様被成、又非謗局

(封紙ウツ書) 年首ノ御祝儀  
「島津中将殿 堤右京大夫」

早々御取設有之、天下の人をして政道を怨嗟いたす者無  
之候様被為遊度、比段不顧賤劣、狂愚杞憂之余り建白仕  
候、若御笑覽被下候半ハ卑職何等之面白過之、  
(目之)

頓首百拝謹白、

新春之御慶芽出度申納候、愈御安福被成御越年珍重存候、  
年首之御祝儀為可申入蠶扇致進覽之候、於御笑留は千万  
大幸存候、仍如斯候也、敬白、

一月廿日

大伴兼武

正月廿五日

文書原寸(折紙) 縦一六・四種 横四四・三種

三六 岩倉右府ヨリ有栖川宮殿下へ

久光公辭職ノ件

今朝御懇書忝存候、昨日警保寮御出席、一体之様子御聞

取云云之始終何も令承知候、(川路利良)河路確乎担当之事、実ニ令

感銘候、

扱久光卿之事件、是亦何も承候、辞表不聞食ノ義ハ素リ

不待論事ニ候得とも抑小生ニ於而不解事万々也、右ハ庚

午年奉

勅鹿兒島下向之節、乍不及一世ノ大事ト百万尽力之末、

病氣ヲ以而御断ニ其替リ西郷云云ノ語ヲ以而御信用有之、

今日ニ至リ候所、帰 朝後承知致候へハ、西郷議異論言

上ノ義有之、頗ル不審不得止右始末尋問ニ而、終ニ氷解

被致候語承知致候、其以來国事ニ付懇々相語合候所、前

途為邦家、弊ル迄尽力トノ事迄承申聞候末其旧年月末拜

命被致候所、其後十二月廿八日 召も御断、早春条公邸

招キニも断ニ而入来ナク其後一度之応答も無之、突然被

及辞表候事、对

朝廷候而是不待論、小生ニ对シ候而も実ニ旨趣不相分事

也、御承知之通り、折角宮内卿補任ノ義及言上候所、上

ニモ政府根本云云之御沙汰有之、不得止御延引、亦かね

て御取調政体議官ノ事も折角草稿ナリ候得共条公格別之

見込ヲ以而言上、更ニ老人之顧問ニ被命候次第ヨリ彼是

御登用延引之義ニ而少しも等閑ニ被遊候事ハ決而無之、

粗々情実も御当人江申入置候事ニ候、元来久光卿、正直

一途之性ニも齟齬、如何ニも不審且遺憾千万之事ニ存候、

何様ニも行違ヒ之事可有之厚ク御注意被下度候、前条ニ

付而も五ヶ年前 勅使之御御沙汰ノ書類写入内見ニ候、

如此厚ク御沙汰之砌ハ奉命も無之、漸々四ヶ年目上京遜

返奉職半月も不出辞表之事、呉々所不安ニ候、

文書原寸 縦一五・七釐 横一三四釐

三〇 三瀨県土族古屋文作ヨリ久光公へノ建白

太陰曆頒布ノ件

(封筒)

三瀨県下土族

謹上

從三位島津公

閣下

二一八〇ノ一

(包紙ウツ書)  
「謹上」

古屋文作(黒「源」)  
誠恐誠惶頓首再拜

臣文作誠恐  
誠惶頓首再拜、

謹テ曆元ヲ考フルニ、大陽曆ハ推歩ノ術行届キ候得共、  
正帯下ノ国柄ハ風土季候及ヒ人情ニ適ヒ不申哉ト熟考仕  
候故、其一端緒ヲ申立候、既ニ新曆御頒布ノ際ニ固陋ノ  
愚見申上候段、恐懼ノ至ニ御座候得共、御一新ノ砌、蕪  
蕪ノ言モ御採扱被為在候被  
仰出モ有之、所謂大山ハ土壤ヲ残サス、大海ハ涓滴ヲ捨  
サルノ明時ニ際シ、存付候儀不申上候テハ、今以給禄ヲ

下シ賜リ、徒ニ素餐仕候天潢雨露ノ鴻恩ニ背馳仕候ニ付  
敢テ愚意ノ趣別紙ニ献進仕候、曩キニ臣文作東京ニ在住  
仕候節ヨリ、兼テ

閣下御名望側カニ欣慕罷在候処、明治元辰年爾來僻遠ノ  
地ニ罷在リ、殊ニ微賤ニテハ当御時世御事情モ相弁ヘ不  
申、建言方向ニモ迷ヒ、既ニ昨申年七月迄ニ、管見ノ献  
言封事兩度県下エ差出候得共、如何成行キ候哉、何等ノ  
御応答モ無之、仍テ兼テ欣慕仕候

閣下御当路ニ御参列ノ儀、拜聴仕候ニ付、微賤固陋ヲ忘  
レ、推テ電覽ニ備ヘ候、仰冀クハ寛広正大ノ  
尊慮ヲ以テ御採扱ヲ垂レ給シ事ヲ伏テ奉懇願候、臣文作  
誠恐誠惶頓首再拜謹白、

三瀨県下士族

明治七年七月

古屋文作(黒「源」)

謹上

從三位島津公

閣下